

県道丸亀詫間豊浜線（多度津西工区）緊急地方道路整備工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

## 西白方瓦谷遺跡

2012.2

香川県教育委員会

# 序文

本書は、県道工事に伴い発掘調査を実施した香川県仲多度郡多度津町の西白方瓦谷遺跡の報告を収録したものです。

弥生時代中期後葉から後期にかけての竪穴建物や7世紀頃の竪穴建物及び掘立柱建物が見つかりました。海岸に近い遺跡であり、網の錘である石錘や土錘、飯蛸壺が大量に出土しました。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 2 月  
香川県埋蔵文化財センター  
所長 藤好 史郎

サーヴェイ株式会社に委託して実施した。

11 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位m）である。

12 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 2010 年版』を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径 4mm 以上、「中」は 0.5mm 以上、「細」は 0.5mm 未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

13 弥生土器の年代観は、香川県教育委員会『旧練兵場遺跡』2011 を参考にした。

地図は国土地理院地形図を使用しました。

## 例言

1 本報告書は、県道丸亀詫間豊浜線(多度津西工区)緊急地方道路整備工事に伴い発掘調査を実施した、香川県仲多度郡多度津町西白方に所在する西白方瓦谷遺跡(にしらかたかわらだにいせき)の報告を収録した。

2 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体となり、香川県埋蔵文化財センターが調査担当として実施した。

3 発掘調査期間は、次のとおりである。

平成 19 年度

期間 平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日

担当 主任文化財専門員 西岡達哉、文化財専門員 山下平重、調査技術員 藤井菜穂子

平成 21 年度

期間 平成 21 年 10 月 1 日～11 月 30 日

担当 文化財専門員 森下友子、文化財専門員 木下晴一、調査技術員 木全加珠美

4 調査にあたって、次の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

香川県中讃土木事務所、地元自治会、地元水利組合

5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は、山下平重が担当した。

6 報告書で用いる座標系は国土座標第 1 系(世界測地系)で、方位の北は国土座標第 1 系による。また、標高は東京湾平均海面を基準とした。

7 遺構は次の略号により表示した。

S H 竪穴建物 S B 掘立柱建物 S P 柱穴跡 S K 土坑 S D 溝状遺構

S X その他の遺構 S R 自然河川跡

8 第 3 章遺構名の後の( )内の表記は、付図での遺構の位置する区画(20 m 四方)を示している。

9 石器実測図中、網掛けで表現している部分は摩滅痕を、輪郭線周りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損面は黒でつぶしている。石器石材は特に表記がない限りサヌカイトである。

10 本遺跡出土の金属器(耳環)の保存処理は株式会社吉田生物研究所に、金属器(帯金具)はパリノ・

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	周辺の遺跡	5
第3図	遺跡位置図(1:5000)	6
第4図	調査区割図(1:1000)	8
第5図	調査区グリッド割図(1:400)	9
第6図	1区調査区壁土層断面図	12
第7図	3区調査区壁土層断面図	13
第8図	4区調査区壁土層断面図	14
第9図	6～8区調査区壁土層断面図	15
第10図	9区調査区壁土層断面図	17
第11図	9～11区調査区壁土層断面図	19
第12図	12区調査区壁土層断面図	21
第13図	縄文土器1	23
第14図	縄文土器2	24
第15図	縄文以前の石器1	25
第16図	縄文以前の石器2	26
第17図	縄文以前の石器3	27
第18図	縄文以前の石器4	28
第19図	1区SH01平・断面図	30
第20図	1区SH01出土遺物	31
第21図	3区SH04平・断面図、出土遺物	32
第22図	6区SB02平・断面図	33
第23図	6区SB02出土遺物	34
第24図	3区SH01平・断面図、出土遺物	34
第25図	3区SH02平・断面図	35
第26図	3区SH02出土遺物	36
第27図	3区SH03平・断面図	36
第28図	7区SH09平・断面図	37
第29図	7区SH09出土遺物1	38
第30図	7区SH09出土遺物2	39
第31図	7区SH12平・断面図	39
第32図	8区SH02平・断面図、出土遺物1	40
第33図	8区SH02出土遺物2	41
第34図	8区SH04平・断面図、出土遺物1	42
第35図	8区SH04出土遺物2	43
第36図	8区SH12平・断面図、出土遺物	43
第37図	8区SH05平・断面図、出土遺物1	44
第38図	8区SH05出土遺物2	45
第39図	8区SH06平・断面図、出土遺物	46
第40図	8区SH07平・断面図、出土遺物1	47
第41図	8区SH07出土遺物2	48
第42図	8区SH13平・断面図、出土遺物	49
第43図	8区SH18平・断面図、出土遺物	50
第44図	8区SH19平・断面図、出土遺物	51
第45図	8区SH20平・断面図、出土遺物	51
第46図	12区SH01平・断面図、出土遺物	52
第47図	12区SH02平・断面図	53
第48図	12区SH02出土遺物1	54
第49図	12区SH02出土遺物2	55
第50図	12区SH03平・断面図、出土遺物1	56
第51図	12区SH03出土遺物2	57
第52図	8区SB02平・断面図	58
第53図	8区SB03平・断面図	58
第54図	8区SK02平・断面図、出土遺物	59
第55図	10区SK01平・断面図、出土遺物	59
第56図	10区東SK01平・断面図、出土遺物	60
第57図	12区SH03SK01平・断面図、出土遺物	60
第58図	8区SP59平・断面図、出土遺物	61
第59図	4区南端土器溜り平面図	62
第60図	4区南端土器溜り出土遺物1	63
第61図	4区南端土器溜り出土遺物2	64
第62図	4区南端土器溜り出土遺物3	65
第63図	4区南端土器溜り出土遺物4	66
第64図	4区南端土器溜り出土遺物5	67
第65図	10区SX02平・断面図	68
第66図	10区SX02出土遺物1	69
第67図	10区SX02出土遺物2	70
第68図	12区SX01平・断面図、出土遺物1	71
第69図	12区SX01出土遺物2	72
第70図	12区SX01出土遺物3	73
第71図	12区SX01出土遺物4	74
第72図	8区SD02平・断面図、出土遺物1	74
第73図	8区SD02出土遺物2	75
第74図	8区SD02出土遺物3	76
第75図	10区SD04平・断面図、出土遺物	76
第76図	10区SD05出土遺物	76
第77図	1区SD01平・断面図、出土遺物	77
第78図	1区SD02・03平・断面図	78
第79図	5区SD01平・断面図、出土遺物	79
第80図	6区SD03～06平・断面図、出土遺物	80
第81図	4区SH01平・断面図、出土遺物	81
第82図	7区竪穴建物群平面図、SD01平・断面図 及び出土遺物	82
第83図	7区SH01～03平・断面図、出土遺物	83
第84図	7区SH01出土遺物	84
第85図	7区SH05平・断面図、出土遺物	85
第86図	7区SH06平・断面図、出土遺物	86
第87図	7区SD04出土遺物	87
第88図	7区SH04平・断面図、出土遺物	87
第89図	8区SH03平・断面図、出土遺物	88
第90図	8区SH08平・断面図、出土遺物	89
第91図	8区SH09平・断面図、出土遺物	90
第92図	8区SH10平・断面図、出土遺物	90
第93図	8区SH11平・断面図、出土遺物	91
第94図	8区SH16平・断面図、出土遺物1	92
第95図	8区SH16出土遺物2	93
第96図	8区SH16出土遺物3	94
第97図	9区SH02平・断面図、出土遺物1	95
第98図	9区SH02出土遺物2	96
第99図	10区東SH01平・断面図	96
第100図	10区東SH01出土遺物	97
第101図	10区東SK02平・断面図、出土遺物	97
第102図	4区SB01平・断面図	98
第103図	4区SB02平・断面図、出土遺物	99
第104図	6区SB01平・断面図、出土遺物	100
第105図	7区SB01平・断面図	101
第106図	7区SB02平・断面図	102
第107図	7区SB02出土遺物	103
第108図	7区SB03平・断面図	104
第109図	7区SB04平・断面図	104
第110図	8区SB01平・断面図、出土遺物	105
第111図	10区SB01平・断面図	106

# 本文目次

## 第1章 調査に至る経緯と経過

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第3節	調査体制・整理体制	2

## 第2章 遺跡の立地と環境

第1節	地理的環境	4
第2節	歴史的環境	4

## 第3章 調査の成果

第1節	調査区の概要と層序	7
第2節	遺構と遺物	24
1	縄文時代以前	24
2	弥生時代中期後葉	29
3	弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭	29
4	古墳時代中期	77
5	7世紀代	81
6	奈良時代以降	116
7	時期不明の遺構	128
8	遺構外等出土の遺物	129

## 第4章 まとめ

1	遺構の変遷	137
2	石器について	138

11区完掘全景	東から
図版 15	
12区完掘全景	西から
1区西壁（南半）	東から
図版 16	
1区西壁	東から
1区北壁	南から
図版 17	
2区南壁	北から
3区東 北壁	南から
3区東 東壁	西から
図版 18	
4区南 西壁（南半）	東から
4区南 西壁（北半）	東から
図版 19	
5区東壁	西から
6区西壁	東から
6区東壁	西から
図版 20	
7区西壁	東から
8区東壁	西から
図版 21	
9区東 南壁	北から
9区東 トレンチ再掘削断面	北から
図版 22	
12区西壁	東から
12区北壁	南から
12区東壁	西から
図版 23	
1区 SH01 完掘	東から
1区 SH01（SK06）断面	北から
1区 SH01（SK06下）遺物出土状況	西から
3区 SH04SK05 遺物出土状況	東から
図版 24	
3区 SH04SP08 遺物出土状況	東から
6区 SB02 完掘	北から
6区 SB02-SP21 遺物出土状況	西から
6区 SD02 遺物出土状況	西から
図版 25	
3区 SH01、SK02・03 完掘	南から
3区 SH02 完掘	南から
3区 SH02 内 SP08 遺物出土状況	南から
3区 SH03 南北断面	東から
図版 26	
7区 SH09・12 完掘	東から
8区 SH02 断面	東から
8区 SH02 炉跡	北から
8区 SH02 土器出土状況	西から
図版 27	
8区 SH04 上層床面完掘	北西から
8区 SH04 炉断面	北から
8区 SH04 壁際出土炭化材	南西から
8区 SH12 床面検出	北から
図版 28	
8区 SH05 完掘	南から
8区 SH05 床面遺物出土状況	南から
8区 SH06 完掘	東から
8区 SH07 完掘	北から
図版 29	
8区 SH13 堆積状況（北半）	西から

8区 SH18 完掘	東から
8区 SH19 完掘	南から
12区 SH01 東西土層	北から
図版 30	
12区 SH01 完掘	西から
12区 SH02 完掘	西から
12区 SH02（307）石器出土状況	南から
12区 SH03 完掘	北から
図版 31	
8区 SK02 断面	南から
10区 SK01 遺物出土状況	北から
10区東 SK01 断面	東から
12区 SH03SK01 遺物出土状況	西から
図版 32	
8区 SP59 遺物出土状況	北から
4区南端土器溜り遺物出土状況	東から
12区 SX01 遺物出土状況	北西から
8区 SD02・12区 SD03 完掘	南から
図版 33	
8区 SD02 遺物出土状況	南から
12区 SD03 遺物出土上状況	西から
8区 SP25 遺物出土状況	北から
10区 SD04 遺物出土上状況	北から
図版 34	
1区 SD01 断面	東から
1区 SD01 遺物出土状況	西から
1区 SD01 遺物出土状況	東から
1区 SD02 断面	東から
図版 35	
5区 SD01 遺物出土状況	西から
6区 SD03～06 完掘	北から
6区 SD04・05 遺物出土状況	南から
4区 SH01 断面	西から
図版 36	
7区竪穴建物群	西から
7区 SD01 礫出土状況	南から
7区 SD01 断面	南から
7区 SH01 完掘	南から
図版 37	
7区 SH01・03 竈検出状況	南から
7区 SH01 竈炭化物検出状況	南から
7区 SH02 竈検出状況	東から
7区 SH02、SD05 断面	北から
図版 38	
7区 SH05 完掘（SH09～12）	南から
7区 SH06 完掘	南から
7区 SH06 竈炭化物検出状況	南から
7区 SH06 竈完掘	南から
図版 39	
7区 SH04 完掘	南から
7区 SH04 竈炭化物検出状況	南から
7区 SH04 竈断面	南から
8区 SH03 完掘	西から
図版 40	
8区 SH08 完掘	北から
8区 SH09・10 完掘	北から
8区 SH11 完掘	北から
8区 SH16 完掘	北から
図版 41	
8区 SH16 竈断面	西から

第112図	10区 SB02 平・断面図	107
第113図	10区 SA01 平・断面図	107
第114図	6区 SK02 平・断面図、出土遺物	108
第115図	7区 SK01 平・断面図、出土遺物 1	109
第116図	7区 SK01 出土遺物 2	110
第117図	7区 SK05 平・断面図、出土遺物	111
第118図	9区 SK01 平・断面図	111
第119図	9区 SK01 出土遺物	112
第120図	3区 SX02 平・断面図、出土遺物	114
第121図	9区 SX06 平・断面図、出土遺物	114
第122図	8区 SD06 出土遺物	114
第123図	10区西 SD02 出土遺物	114
第124図	7区 SH07・SX03 平・断面図、出土遺物 1	115
第125図	7区 SH07・SX03 出土遺物 2	116
第126図	8区 SX02 平・断面図、出土遺物	117
第127図	9区 SH01・SX01・SX02 平・断面図、出土遺物 1	118
第128図	9区 SH01・SX01・SX02 出土遺物 2	119
第129図	9区 SX03 出土遺物	119
第130図	土器集中遺構平面図	120
第131図	土器集中遺構出土遺物 1	121
第132図	土器集中遺構出土遺物 2	122
第133図	土器集中遺構出土遺物 3	123
第134図	土器集中遺構出土遺物 4	124

第135図	土器集中遺構出土遺物 5	125
第136図	3区 SP04 平・断面図、出土遺物	126
第137図	8区 SP 出土遺物	126
第138図	6区 SK05 平・断面図、出土遺物	126
第139図	9区西 SD01 出土遺物	126
第140図	8区 SX05 平・断面図、出土遺物	126
第141図	7区 SX04 出土遺物	126
第142図	11区包含層出土遺物	127
第143図	5区 SB01 平・断面図	128
第144図	2区 SK01 平・断面図、出土遺物	129
第145図	10区西 SK02 出土遺物	129
第146図	遺構外等出土の遺物 1	130
第147図	遺構外等出土の遺物 2	131
第148図	遺構外等出土の遺物 3	132
第149図	遺構外等出土の遺物 4	133
第150図	遺構外等出土の遺物 5	134
第151図	遺構外等出土の遺物 6	135
第152図	遺構外等出土の遺物 7	136
第153図	遺構変遷図 1	139
第154図	遺構変遷図 2	141
第155図	遺構変遷図 3	143
第156図	遺構変遷図 4	145

## 表目次

第1表	平成19年度発掘調査体制一覧表	2	第5表	土器観察表	147
第2表	平成21年度発掘調査体制一覧表	2	第6表	石器観察表	191
第3表	平成23年度整理作業体制一覧表	3	第7表	金属器観察表	196
第4表	石器組成表	138			

## 図版目次

図版 1	調査区全景	南から
図版 2	遺跡の遠景	東から
	調査前風景	東から
図版 3	調査区全景	西から
	調査終了写真	東から
図版 4	1区全景	東から
	1区完掘状況	東から
図版 5	2区全景	東から
	2区完掘状況	南から
図版 6	3区西全景	南から
	3区東全景	南東から
図版 7	4区北完掘状況	南から
	4区南完掘状況（西半）	南から

図版 8	4区南完掘状況（東半）	南から
	5区全景	西から
図版 9	6区西完掘状況	東から
	6区東完掘状況	西から
図版 10	7区完掘全景	東から
	8区完掘全景	真上から
図版 11	8区西半完掘全景	南から
	8区東半完掘全景	南から
図版 12	9区完掘全景	東から
	10区西完掘状況	西から
図版 13	10区西（西端）完掘状況	西から
	10区東（西半）完掘状況	東から
図版 14	10区東（東半）完掘状況	東から

8区 SH16 竈埋没状況 南から

10区 SH01 完掘 西から

10区 SH01 断面 北から

図版 42

9区 SH02 竈完掘 東から

10区 SH01 煙道完掘 東から

9区 SK02 断面 西から

9区 SX04 遺物出土状況 北から

図版 43

10区東 SH01 断面 東から

10区東 SK02 断面 東から

4区 SB01 完掘 西から

6区 SB01 完掘 南から

図版 44

6区 SB01SP04 ~ 06 断面 南から

8区 SB01 完掘 西から

6区 SK02 遺物出土状況 西から

7区 SK01 遺物出土状況 西から

図版 45

7区 SK05 断面 西から

9区 SK01 断面 西から

9区 SK01 中央土器溜り遺物出土状況 東から

3区 SX02 断面 東から

図版 46

9区 SX06 完掘 北から

7区 SX03 断面 南から

8区 SX02 完掘 南から

9区 SH01 完掘 北から

図版 47

7区南西部土器集中遺構遺物出土状況 東から

3区 SP04 遺物出土状況 南から

6区 SK05 遺物出土状況 南から

2区 SK01 断面 西から

図版 48 ~ 83

出土土器

図版 84 ~ 97

出土石器

図版 97

出土金属器

## 付図

付図 西白方瓦谷遺跡 遺構配置図（1：200）

### 第3節 調査体制・整理体制

発掘調査及び整理作業の体制は、次のとおりである。

第1表 平成19年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
<b>総括</b> 課長 鈴木 健司 課長補佐(総括) 武井 壽紀 <b>総務・生涯学習推進グループ</b> 副主幹 古田 泉 主任 林 照代 <b>文化財グループ</b> 課長補佐 藤好 史郎 文化財専門員 森 格也 文化財専門員 信里 芳紀	<b>総括</b> 所長 渡部 明夫 次長 廣瀬 常雄 <b>総務課</b> 総務課長 野口 孝一 主任 宮田久美子 主任 嶋田 和司 主任 古市 和子 <b>調査課</b> 調査課長 廣瀬 常雄 主任文化財専門員 西岡 達哉 文化財専門員 山下 平重 嘱託(土木) 高嶋 勝英 嘱託(調査技術員) 藤井菜穂子

第2表 平成21年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
<b>総括</b> 課長 春山 浩康 課長補佐(総括) 武井 壽紀 <b>総務・生涯学習推進グループ</b> 副主幹 香西としみ 主任 林 照代 <b>文化財グループ</b> 主幹(兼)課長補佐 藤好 史郎 主任文化財専門員 森 格也 文化財専門員 小野 秀幸	<b>総括</b> 所長 大山 眞充 次長 深谷 右 <b>総務課</b> 総務課長 深谷 右 副主幹 林 文夫 主任 宮田久美子 主任 古市 和子 主任 広瀬 健一 主任 安藤 正 <b>調査課</b> 調査課長 西岡 達哉 文化財専門員 森下 友子 文化財専門員 木下 晴一 嘱託(土木) 砂川 哲夫 嘱託(調査技術員) 木全加珠美

### 第1章 調査に至る経緯と経過

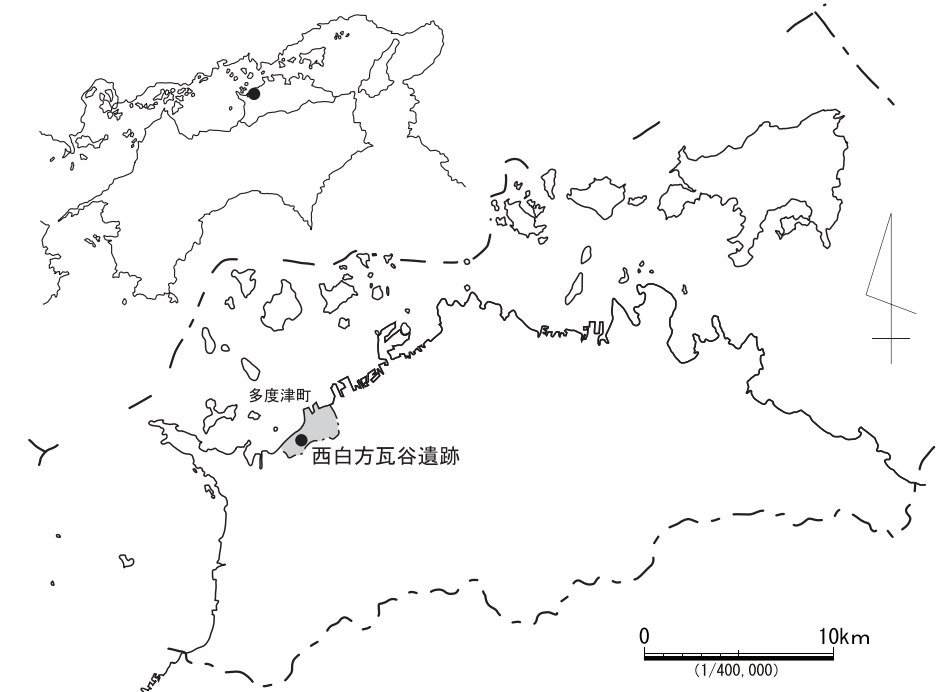
#### 第1節 調査に至る経緯

県道丸亀詫間豊浜線(多度津西工区)の道路整備(バイパス)計画に伴い、香川県教育委員会では、平成17年7月及び平成18年9月に試掘調査を実施した。調査の結果、調査対象地ほぼ全域で弥生時代及び古墳時代の竪穴建物を中心とした遺構を検出した。このため、第4図1～11区に当たる6,255㎡(平成19年度調査対象地)について、西白方瓦谷遺跡として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。用地取得の遅れに伴い、取り扱いが決定していなかった247㎡(12区)についても平成19年度の発掘調査の成果等から、保護措置必要とされた。

#### 第2節 調査の経過

発掘調査は、平成19年4月1日から平成20年1月31日と平成21年10月1日から同11月30日の期間に実施した。両期間をあわせて調査対象面積6,502㎡、出土遺物175箱(28リットル入り)である。

整理作業は、平成20年2月1日から同3月31日までは平成19年度出土品の接合作業を中心として基礎整理を実施し、平成23年4月1日から同7月31日までは本来的な体制で整理業務を実施した。



第1図 遺跡位置図

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

今回調査を行った西白方瓦谷遺跡は、南東は東北浦丘陵、南は黒藤山丘陵、西は経尾山、北は経尾山から東へ延びる御産盤山古墳の所在する尾根というように、東以外の三方を丘陵に囲まれている。遺跡の標高は、3～20m前後を測り、経尾山から東へ延びる尾根の末端部の南斜面に位置する。現在は海岸線から250m程度離れているが、既刊の報告書（註1）を参考にすれば、当時は、海岸線あるいは弘田川河口により近いものと考えられる。

遺跡は、標高2m前後の平地部から丘陵への変換点から始まり、西側の尾根南斜面に広がっている。

（註1）香川県教育委員会『県道丸亀多度津線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 中東遺跡2 奥白方中落遺跡 奥白方南原遺跡』2008

### 第2節 歴史的環境

この地区の歴史的環境については、近年既報告（註1）で記述されているので、ここでは今回の調査成果に関連する時期について記述する。

（註1）香川県教育委員会『県道丸亀多度津線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 中東遺跡2 奥白方中落遺跡 奥白方南原遺跡』2008

これまで、縄文時代以前の資料は、この地域では知られていなかったが、今回の調査で、旧石器と考えられる石器や縄文時代前期にまで遡る土器が出土した。とくに縄文時代中期後半の里木 式と考えられる資料が多い。

弥生時代の中期後葉の集落跡は、奥白方中落遺跡で検出されている。奥白方中落遺跡が平地部に存在するのに対し、当遺跡では丘陵尾根上に位置する。また、東北浦丘陵でかつて愛媛県に多いとされる緑泥片岩製の磨製石庖丁が出土したとされるが、当遺跡でも1穴の磨製石庖丁が出土している。これも県内に類例は多くない。

弥生時代後期～終末期には、船岡山で複合口縁壺の目立つ土器群が出土している。当遺跡の弥生時代後期後半以降の集落跡にも、複合口縁の土器が多く、おそらく対岸の岡山・広島県とのかかわりが考えられる。

古墳時代中期の古墳としては、県指定史跡盛土山古墳がある。県道建設に伴う範囲確認調査の結果、須恵質の円筒埴輪を含む5世紀後半代の円筒埴輪が出土している（註2）。立地や規模は異なるが、当遺跡の3基の古墳周溝と考えられる遺構からTK208型式の須恵器や遺構からではないが同時期と考えられる円筒埴輪が出土しており、盛土山古墳を中心とした5世紀後半の状況を考えるための一資料となる。

（註2）香川県教育委員会『県史跡盛土山古墳』1998

第3表 平成23年度整理事業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括	総括
課長 炭井 宏秋	所長 藤好 史郎
課長補佐（総括） 亀山 隆	次長 真鍋 正彦
総務・生涯学習推進グループ	総務課
副主幹 香西としみ	総務課長 真鍋 正彦
主任主事 丸山 千晶	副主幹 林 文夫
文化財グループ	主任 古市 和子
課長補佐 西岡 達哉	主任 中川 美江
主任文化財専門員 森下 英治	主任 高木 秀哉
文化財専門員 松本 和彦	主任 広瀬 健一
	資料普及課
	資料普及課長 森 格也
	文化財専門員 山下 平重

発掘作業に携わった方々は、次のとおりである。

調査補助員 井上加奈子 木下美千代

整理事業員 猪木原美恵子 工藤勇太

発掘作業員 荒木由美子 池田 務 井戸 等 岩井 真子 大西 久雄 岡崎 文

奥田 武 香川 慶一 香川真由子 久保 昭三 久保 文博 倉本 隆弘

黒川 真光 桑島 和茂 坂本 公男 佐野 信子 嶋宮 千恵 新池谷昭雄

鈴木 正博 高木 大輔 豊嶋 光治 西河 伸幸 林 悠香 樋口 恵子

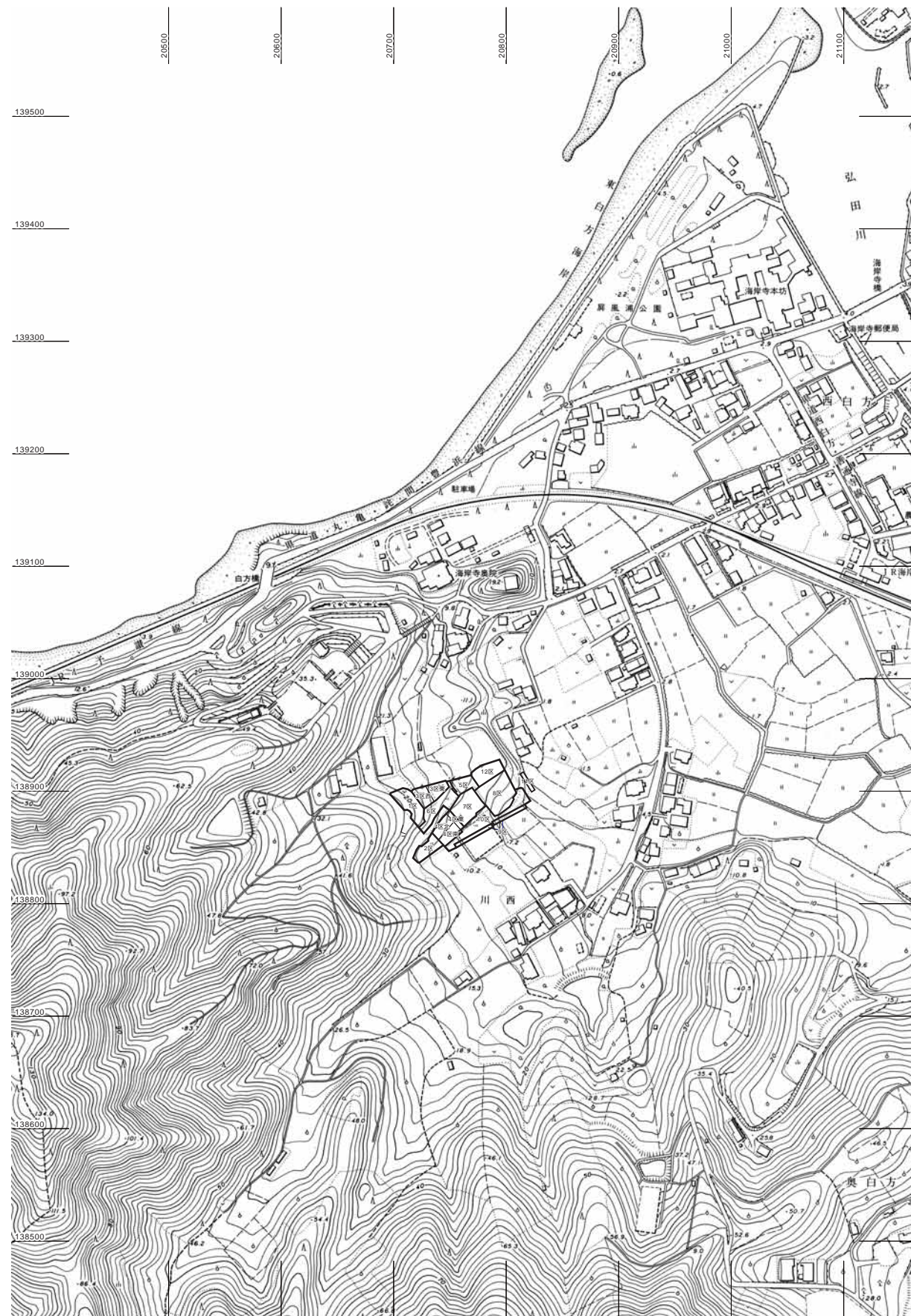
平井加寿美 堀田 勉 三谷 愛子 森安 悦美

整理事業に携わった方々は、次のとおりである。

今井 真紀 岡崎江伊子 香川 和子 川井 佐織 北濱 敦子 合田 安里

竹内 悦子 徳永 貴美 鳥谷真紀子

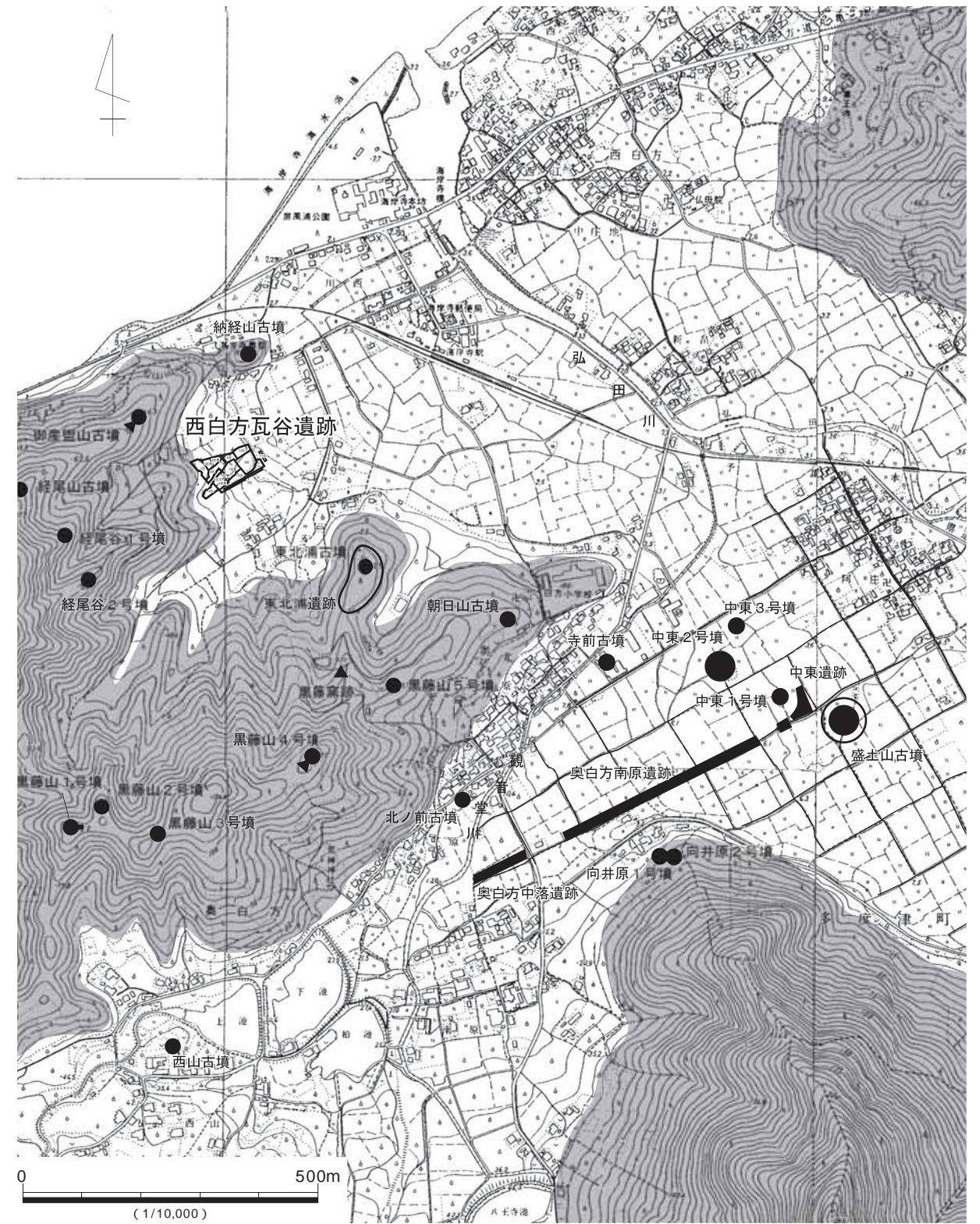




第3図 遺跡位置図(1:5000)

古墳時代後期のTK10型式の須恵器を焼成したとされる黒藤窯跡が、当遺跡の南の丘陵斜面に知られているが、今回の調査では、当該期の資料は出土していない。

7世紀代の集落跡は、当遺跡以外ではまだ発見されていない。出土遺物は飯蛸壺、土錘、石錘などの漁撈関係の遺物や製塩土器が多く、海浜部集落の様相を明らかにしたといえる。



第2図 周辺の遺跡

### 第3章 調査の成果

#### 第1節 調査区の概要と層序

調査地は、現状で段畑状になっていたため、段畑の平坦地に合わせるように、調査区を設定した(第4図)。平成19年度は、1～11区を設定し、平成21年度は12区を設定して調査を実施した。

調査区の壁面断面図は、作成した図面のうち、1、3、4、6、7、8、9、10、11、12区のもの掲載する。以下、各調査区ごとに報告する。

1区は、今回の調査地の中で、最も標高の高い部分で、調査区中央が尾根の稜線に当たる。基盤層は花崗岩及び花崗岩の風化した土壌である。部分的に花崗岩の岩脈が露出している。西壁断面図によれば、調査区ほぼ中央で、標高20m前後を測る調査地内最高点で、南北へと下っていく。調査区中央から南側は、表土直下基盤層となっている。北側は基盤層と表土の間に流水に伴う堆積層が見られ、北端では滞水堆積層に弥生中期末頃の土器が包含されている。北壁断面では、西半部では、流水堆積や遺物包含層がみられるものの、東半部では、段畑状の削平のためか、そのような土層は無い。

3区は、1区の東側で平坦面で1、2段下がったところの調査区である。調査区西側で標高16m前後、東側で14.5m前後である。西側北壁断面では、表土直下基盤層となっており、削平されているものと考えられる。東側北壁断面では東に向かうにつれ、花崗岩由来の再堆積層が厚くなり、段畑形成のための整地と考えられる。3区は、北端には北側への傾斜が見られず、南東部が斜面となっているため、1区から継続する尾根の稜線部は、この調査区では北側に外れていると考えられる。

4区は、1区から南へ平坦面で2段分下がったところの調査区である。標高10m前後で、北から南へ傾斜する。厚い造成土の堆積(1層)が見られる。

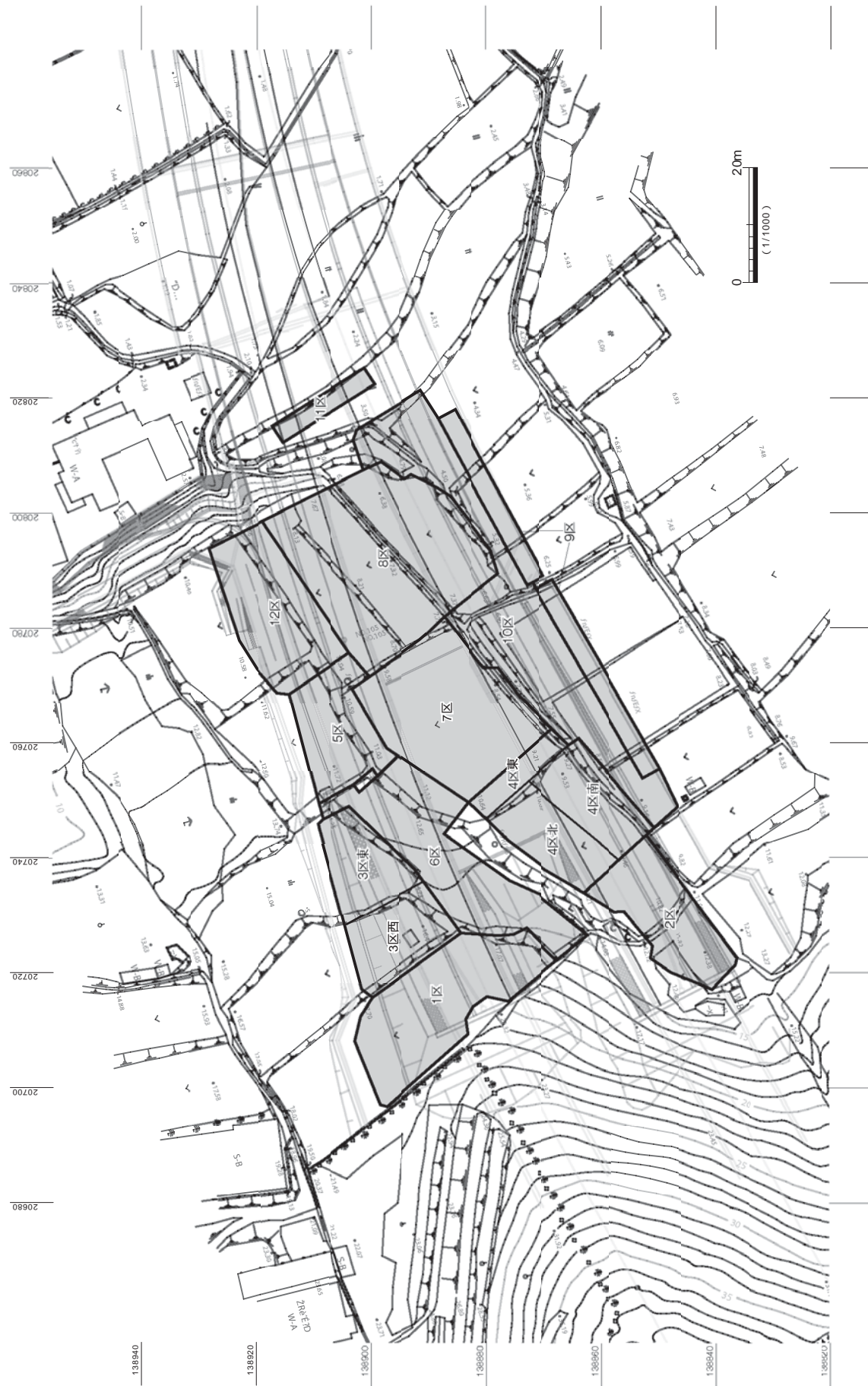
6区は、1・3区の南側で1段下がった平坦面で、標高13m前後である。東半部は西半部より1段下がっている。壁面断面図は東側調査区西壁で作成した。北から南への傾斜地である。南端は、段畑形成のため大きく削平されている。

7区は、6区の1段下の緩傾斜面で、標高は9m前後である。北半は表土直下基盤層となっているが、南半では遺物包含層の堆積が見られる。

8区は、12区の1段下の緩傾斜面で、標高は5～8m前後である。北半は表土下に1層の堆積が見られるだけの単純な堆積であるが、南半は遺物包含層を含む複数の土層堆積が見られる。なお、8区は丘陵末端に位置し、その東は大きく崖面上に削られている。

9区は、西側は表土直下基盤層となる単純な堆積であるが、中央付近から東側は、東に向かって落ち込み、低湿地及び流水堆積が見られる。この落ち込みは、11区に続くものと考えられる。9区の南側は水田の標高が高くなっていることから、南へ続くことは考えがたい。そのため、調査地の東側から9区の中央付近へ湾入するような平面の落ち込みと考えられる。発掘作業中は、流水堆積層から常時水が流れ出ていたことから、調査地西側の谷から2・10・9区(西半)を伏流した水が、9区東半以东で湧水として現れ、この湧水による下刻でこの落ち込みが形成された可能性が考えられる。標高は4～9m前後である。

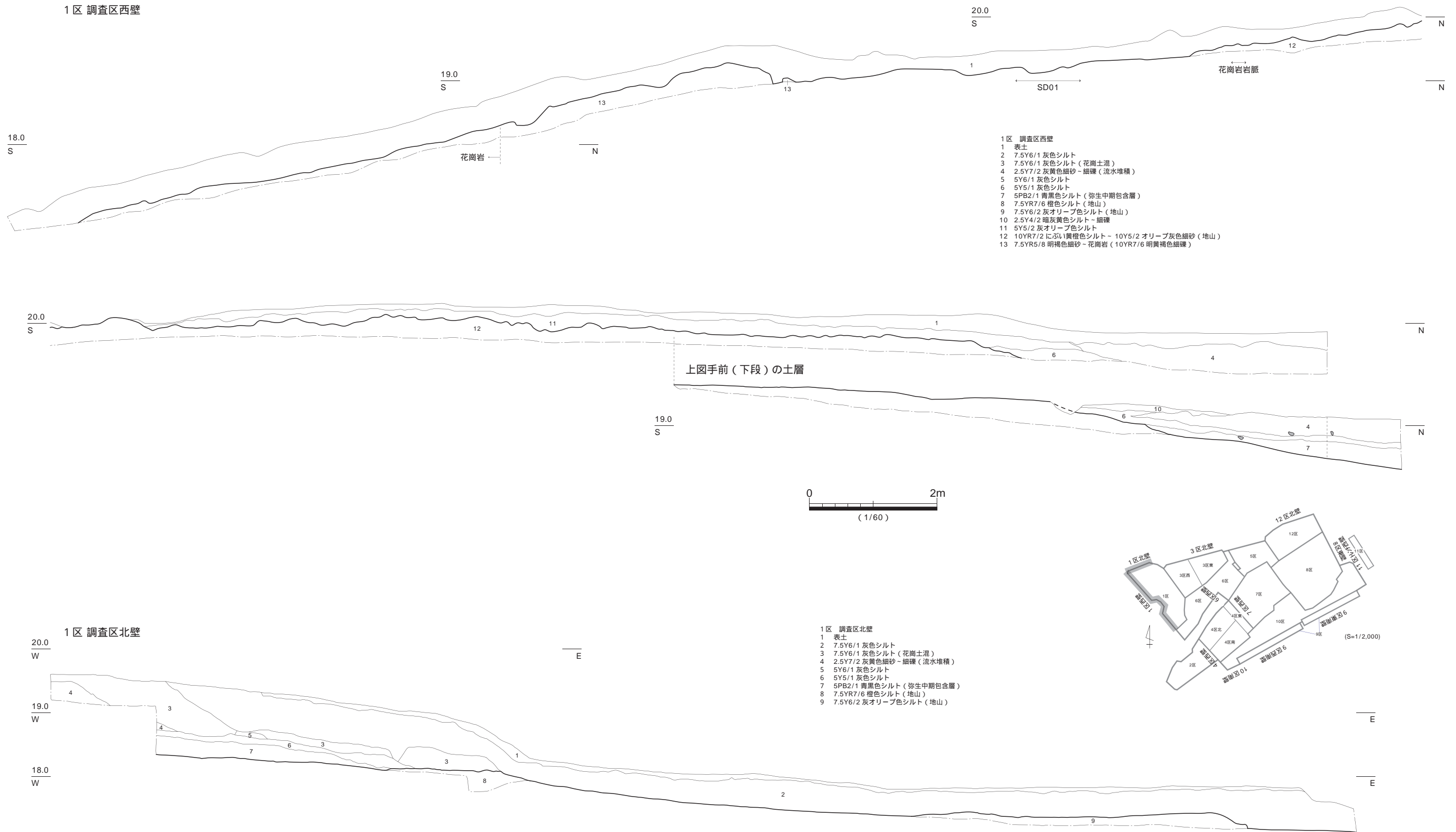
10区は、丘陵南側の平坦地である。10区及び9区の南側では、現在の水田面が調査区よりやや標高が高いことから、9・10区は小さい谷状の平坦地であると考えられる。標高は9m前後である。



第4図 調査区割図(1:1000)

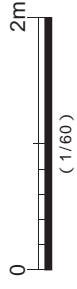
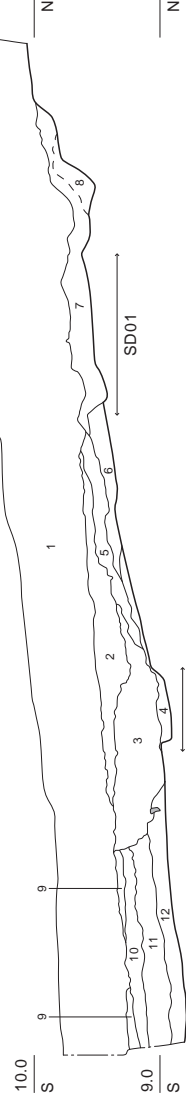


第5図 調査区グリッド割図(1:400)

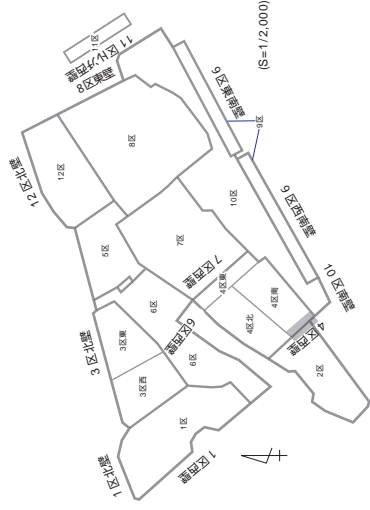


第6図 1区調査区壁土層断面図

4区調査区西壁



- 4区 調査区西壁
- 1 表土
  - 2 5Y7/2 灰白色シルト - 7.5YR5/2 灰褐色シルト
  - 3 5YR4/1 褐灰色シルト
  - 4 5Y6/1 灰色シルト - 細砂
  - 5 7.5Y6/1 灰色シルト
  - 6 5YR6/1 褐色シルト (Mn多)
  - 7 5YR6/1 褐色シルト (Mn多)
  - 8 10YR6/2 灰黄褐色シルト - 2.5YR/8 黄色風化礫ブロック含む
  - 9 5Y7/1 灰白色シルト
  - 10 7.5YR5/1 褐灰色シルト
  - 11 7.5YR4/1 褐灰色シルト
  - 12 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (白色細礫含む)

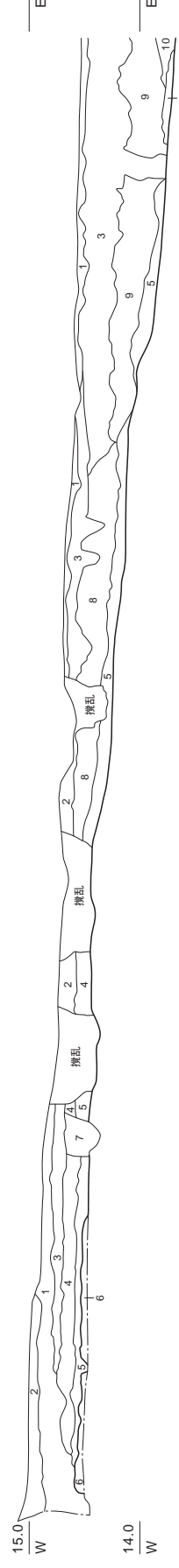


第8図 4区調査区壁土層断面図

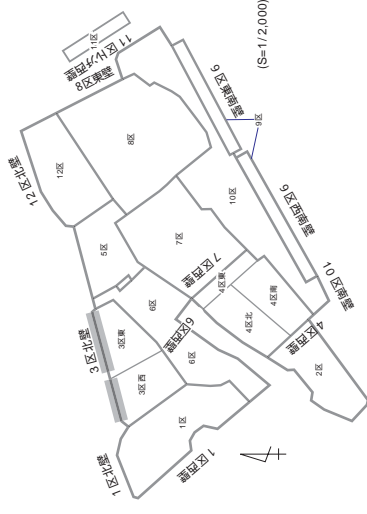
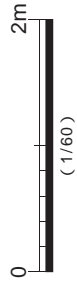
3区西調査区北壁



3区東調査区北壁



- 3区東 調査区北壁
- 1 表土
  - 2 花崗土 (推土)
  - 3 2.5Y4/1 黄灰色シルト (花崗岩細礫含む)
  - 4 5Y6/1 灰色シルト (花崗岩細礫含む)
  - 5 7.5YR6/3 にぶい褐色シルト
  - 6 7.5YR6/8 褐色細礫 (基盤層)
  - 7 1.3.4.6層の混合 (新しい溝)
  - 8 10YR6/6 明黄褐色シルト
  - 9 N4/0 灰色シルト - 花崗土 (6層) のブロック状堆積
  - 10 BR4/1 暗赤灰色シルト - 細礫
  - 11 2.5Y7/2 灰黄色シルト - 細礫
  - 12 7.5YR6/3 にぶい褐色細砂 - 細礫 (ラミナ状堆積)
  - 13 5Y7/1 灰白色シルト
  - 14 7.5Y7/1 灰白色シルト (白色粗砂含む)
  - 15 10YR7/8 黄褐色シルト
  - 16 7.5YR6/1 褐灰色シルト - 粗砂
  - 17 7.5YR6/1 褐灰色シルト - 粗砂
  - 18 10YR6/1 褐灰色シルト - 粗砂
  - 19 7.5YR5/2 灰褐色シルト - 粗砂
  - 20 7.5YR7/1 暗褐色シルト - 粗砂
  - 21 2.5Y7/2 灰黄色シルト - 粗砂

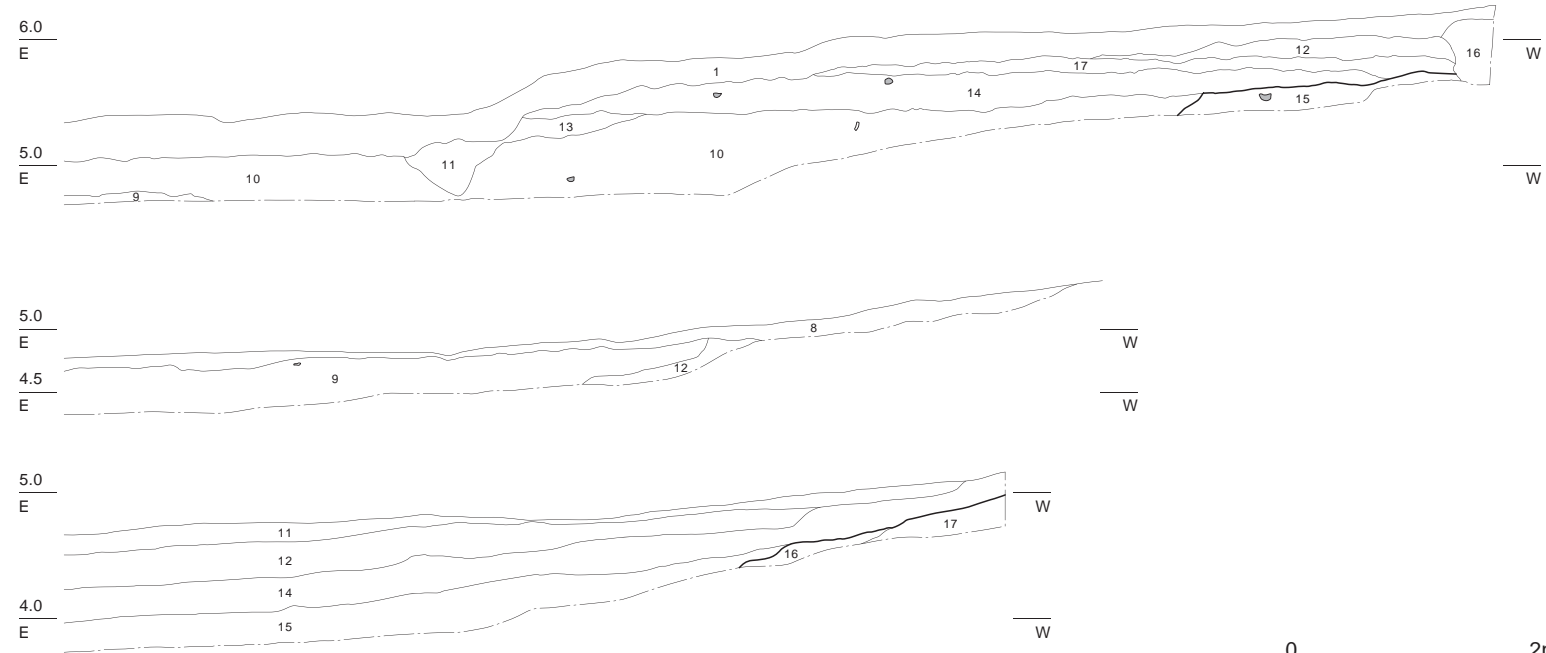
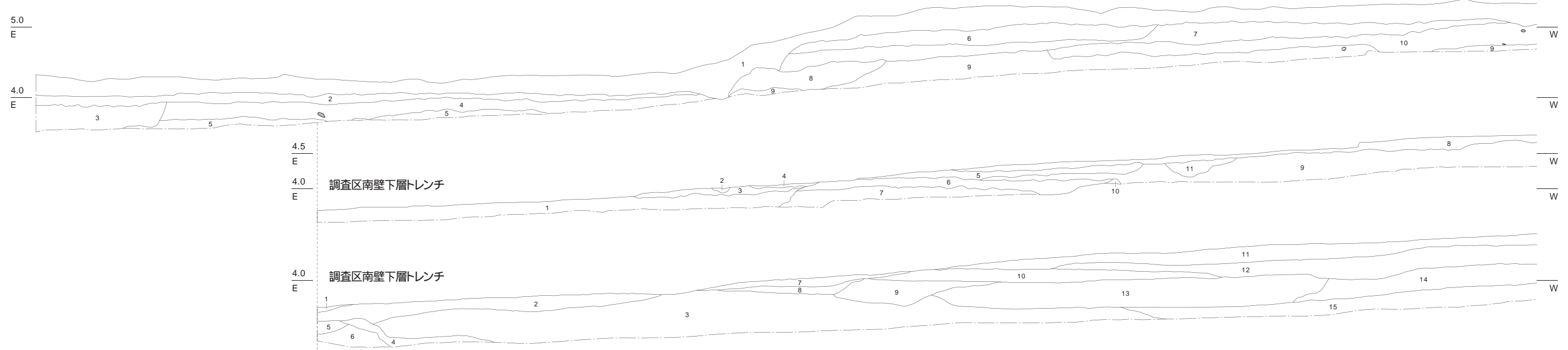


第7図 3区調査区壁土層断面図



第9図 6～8区調査区壁土層断面図

9区東 調査区南壁



9区東 調査区南壁

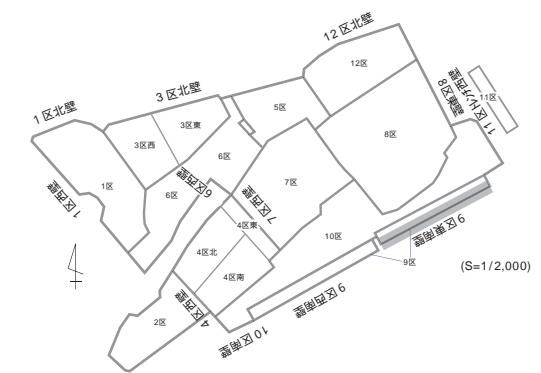
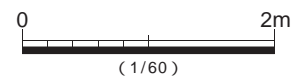
- 1 5B6/1 青灰色シルト (表土)
- 2 10Y7/1 灰白色シルト (白色細礫多)
- 3 10BG6/1 青灰色シルト (白色細礫多)
- 4 N4/0 灰色シルト
- 5 N7/0 灰白色シルト - 白色細礫
- 6 7.5YR5/2 灰褐色シルト (白色細礫含む)
- 7 7.5YR4/2 灰褐色シルト - 5B7/1 明青灰色シルト (白色細礫含む)
- 8 5P6/1 紫灰色シルトと N7/0 灰白色シルトのラミナ状堆積
- 9 7.5YR5/1 褐色シルト
- 10 5PB6/1 青灰色シルト (白色細礫含む)
- 11 5B6/1 青灰色シルト (白色細礫含む)
- 12 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 13 N7/0 灰白色シルト (白色細礫含む)
- 14 7.5YR4/2 灰褐色シルト - 細砂 (白色細礫含む)
- 15 5Y7/1 灰白色 - 5GY7/1 明オリブ灰色シルト - 細砂 (基盤層)
- 16 5Y4/1 灰色 - 10BG5/1 青灰色シルト (白色細礫含む)
- 17 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (白色細礫含む, 攪乱)

9区東 調査区南壁下層トレンチ

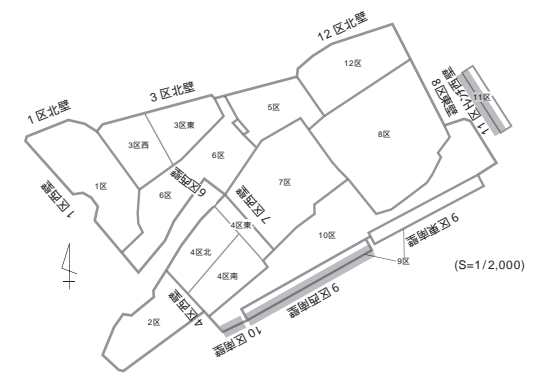
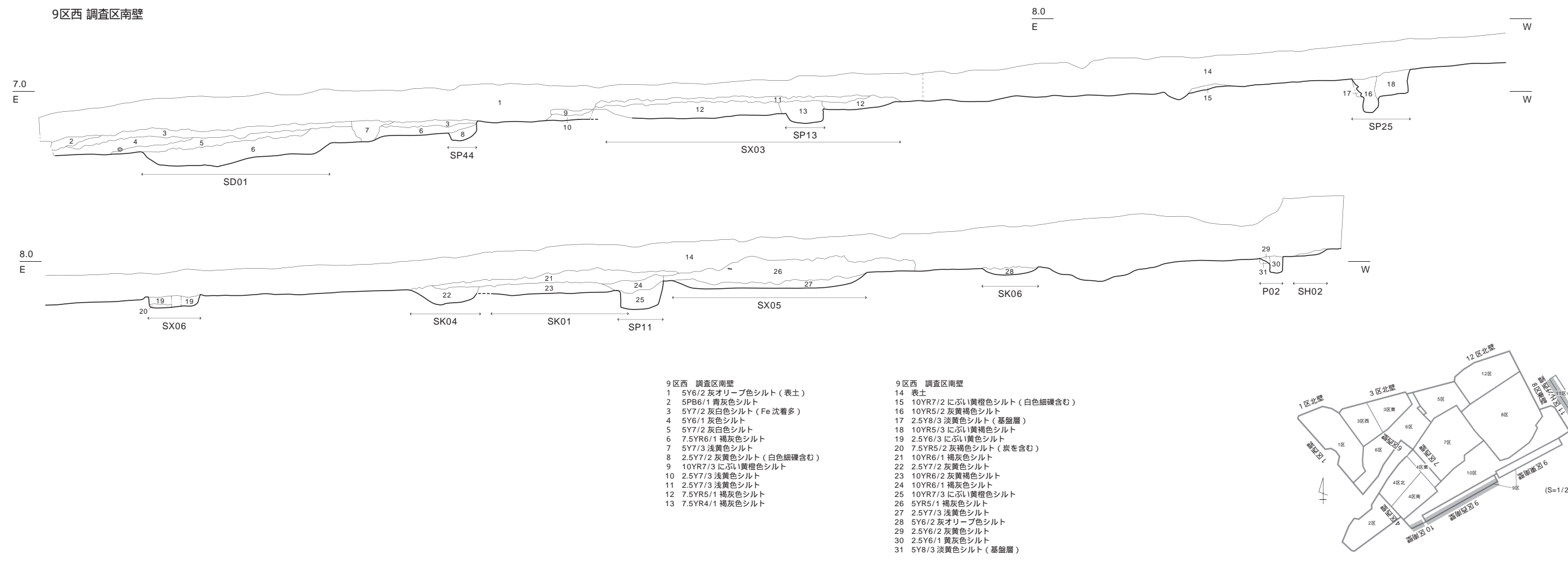
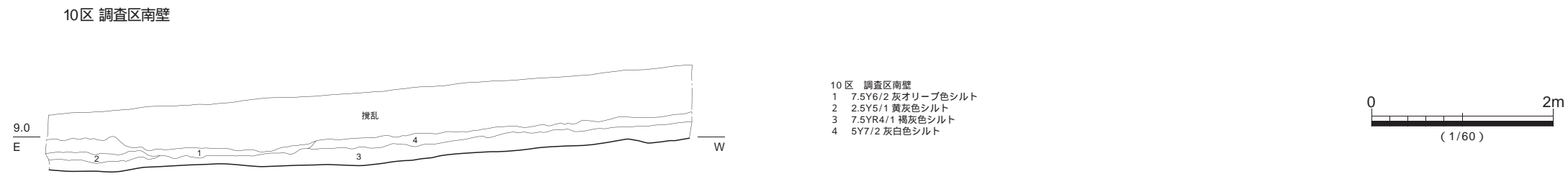
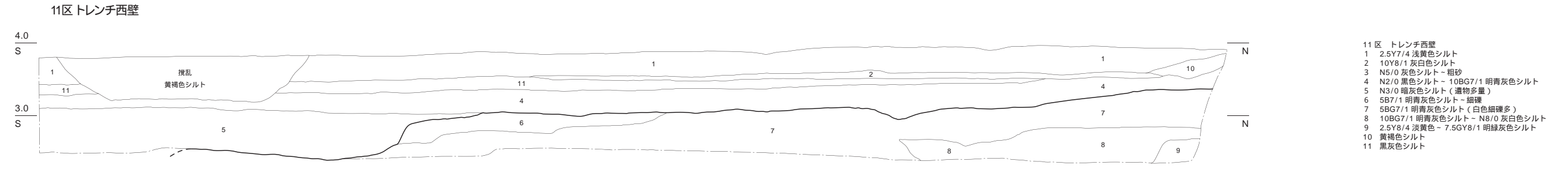
- 1 5PB5/1 青灰色シルト
- 2 2.5Y8/4 淡黄色粗砂 - 粗砂
- 3 7.5Y8/3 淡黄色粗砂 - N7/0 灰白色粗砂
- 4 N1.5/0 黒色シルト (Mn 集積)
- 5 5P4/1 暗紫灰色シルト
- 6 3層と同様
- 7 5PB4/1 暗青灰色シルト
- 8 5PB7/1 明青灰色シルト - 細砂
- 9 2.5YR4/3 にぶい赤褐色シルト
- 10 7.5Y8/1 灰白色シルト - 細砂
- 11 2.5YR5/2 灰赤色シルト
- 12 5P4/1 暗紫灰色シルト
- 13 4層と同じ
- 14 5PB3/1 暗青灰色シルト
- 15 5P4/1 暗紫灰色シルト
- 16 7.5Y8/2 灰白色粗砂 - 粗砂 (基盤層)
- 17 7.5YR5/1 褐色細砂 - 粗砂 (基盤層)

9区東 調査区南壁下層トレンチ

- 1 10YR7/1 灰白色細砂と N4/0 灰色シルトのラミナ状堆積
- 2 10Y8/1 灰白色シルト (現代攪乱)
- 3 N4/0 灰色シルト
- 4 7.5YR6/1 褐色シルト
- 5 N4/0 灰色シルト - 細砂 (Fe 沈着)
- 6 5B7/1 明青灰色シルト - 細砂
- 7 2.5YR3/2 暗赤褐色シルト (Mn 沈着)
- 8 7.5Y8/2 灰白色シルト - 2.5YR3/2 暗赤褐色シルト
- 9 2.5Y7/1 灰白色シルト (Mn 沈着多量, Mn 集積層)
- 10 2.5Y7/4 淡黄色シルト
- 11 5Y7/2 灰白色シルト
- 12 5Y7/2 灰白色粗砂 - N5/0 灰色シルト



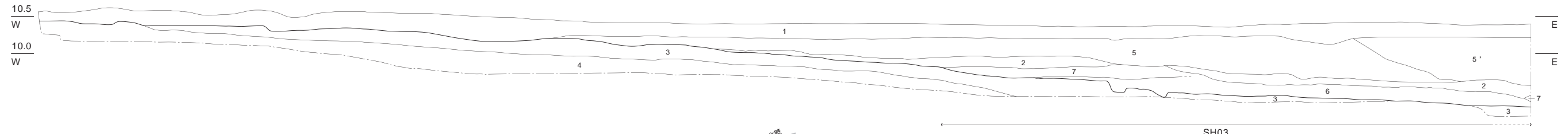
第 10 図 9区調査区壁土層断面図



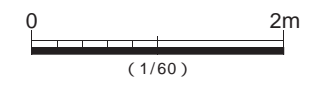
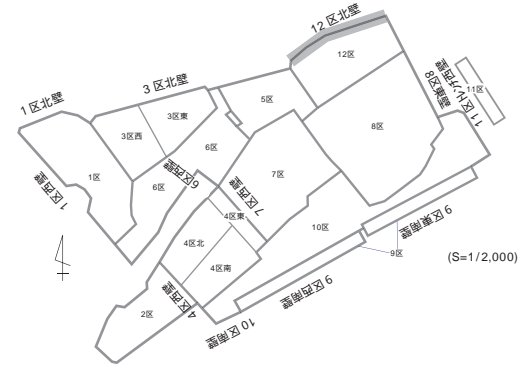
第 11 図 9 ~ 11 区調査区壁土層断面図



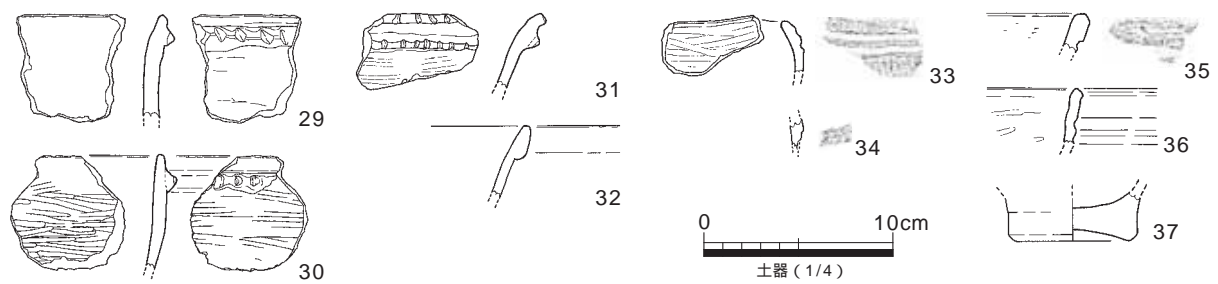
12区 調査区北壁



- 12区 調査区北壁
- 1 7.5YR3/1 黒褐色砂質土 (表土)
  - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 (小礫多量含む)
  - 3 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 (小礫多量含む)
  - 4 10YR7/8 黄褐色粘質土
  - 5 10YR7/8 黄褐色粘質土 (灰色ブロック少量混じる, 盛土)
  - 6 黄褐色と黒色ブロック混じり砂質土
  - 7 10YR3/2 黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
  - 8 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土



第 12 図 12 区調査区壁土層断面図



第14図 縄文土器2

11区は、丘陵端部から一段下の平坦面で、標高は4m前後である。西壁断面図(第11図)では、北半に丘陵の基盤層と見られる7層があるが、南では、遺物を包含する低湿地堆積層がある。この低湿地堆積層の最深部は、この調査区では把握できなかった。

12区は、丘陵尾根の稜線に近い平坦面から斜面である。北壁断面図では、西半は削平を受け、表土直下基盤層となっているが、東半はやや東へ傾斜し、造成土が見られる。標高は、10m前後である。

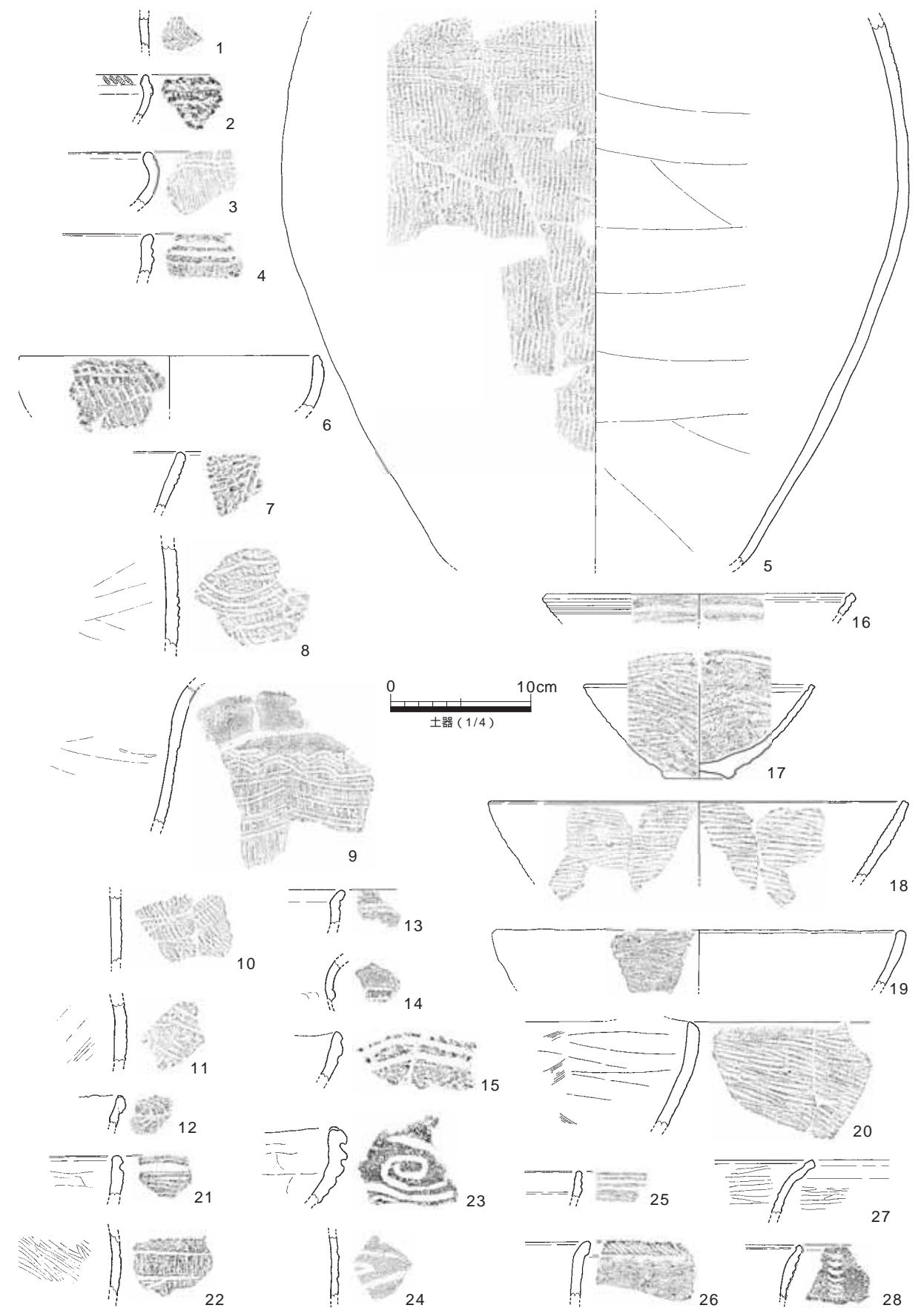
## 第2節 遺構と遺物

### 1 縄文時代以前(第13~18図)

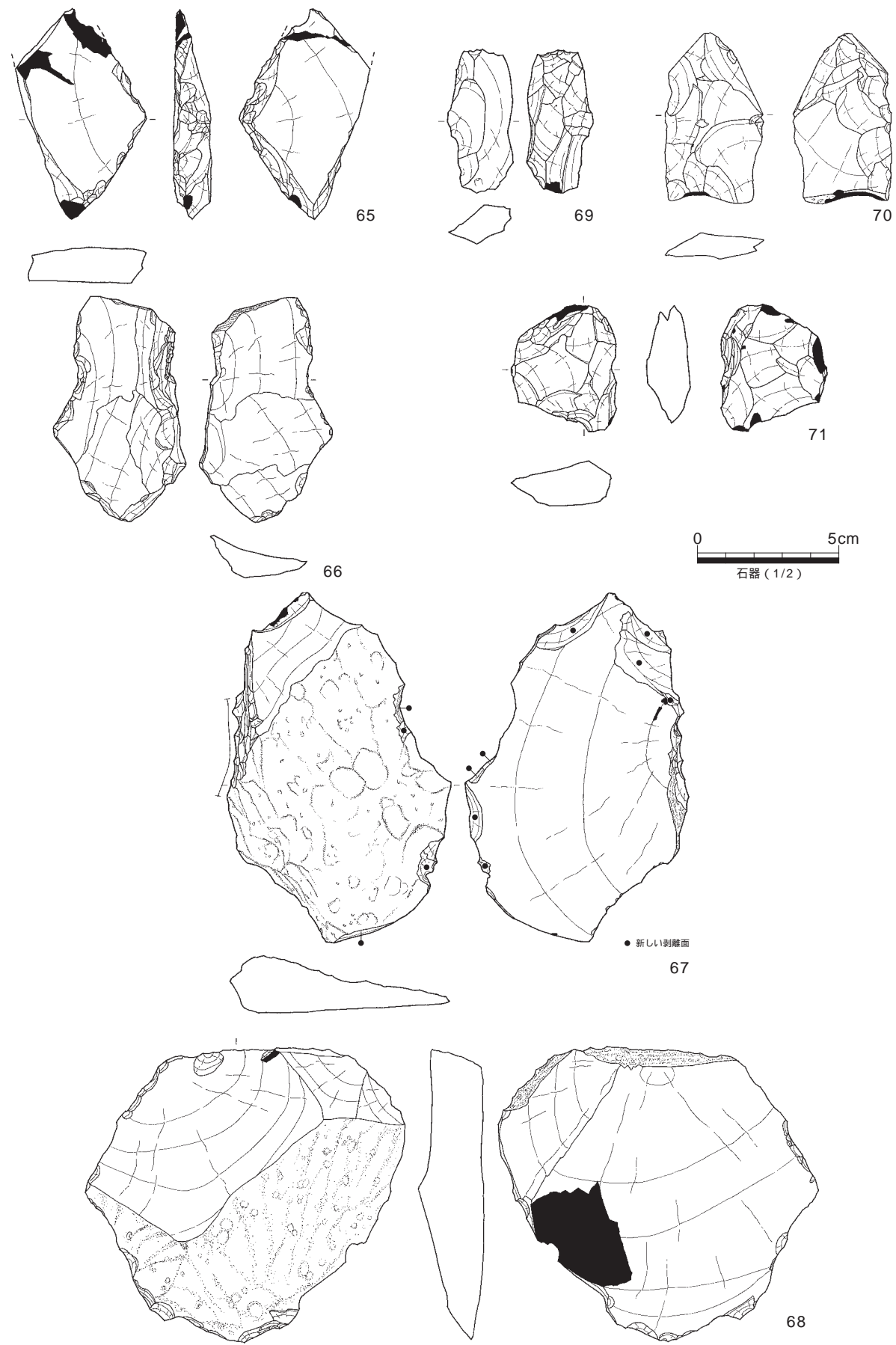
8区とその周辺からは、多数の縄文土器が出土しており、前期に遡る可能性のあるもの、中期後半の里木式の深鉢5や後晩期の土器が出土している。

1は前期前半羽島下層式土器と考えられる。2は、内面にRL縄文、外面はRL縄文施文後、凸帯上を半裁竹管による連続刺突したもので、前期末~中期初頭頃の時期が考えられる。3~11は撚糸文を地文とするもので、中期後半里木式土器と考えられる。5は、残存部最上部に半裁竹管による波状文、その下に波状ぎみの平行沈線文がある。12~14は、半裁竹管文が見られる。15は、2条の沈線をもつ波状口縁の浅鉢である。16~22は、地文に条痕文をもつ。17は、内面沈線中に2つの円形刺突文が見られる。23は、口縁に波状突起をもつ深鉢で、渦巻文が施されている。中期末の東海地方西部の林ノ峰貝塚の事例に類似する。24は、磨消縄文が施されており、後期前半と考えられる。25と26は、後期後葉と考えられる。27・28は、晩期前半の土器と考えられる。29~31は、凸帯文土器である。32は、弥生時代前期に下る深鉢と考えられる。33~37は、時期不明の土器である。33は、波状口縁と考えられ、外面はRL縄文施文後、結節状平行沈線文が施されている。34は、縄文土器かどうか疑問であるが、2列の竹管文が見られる。

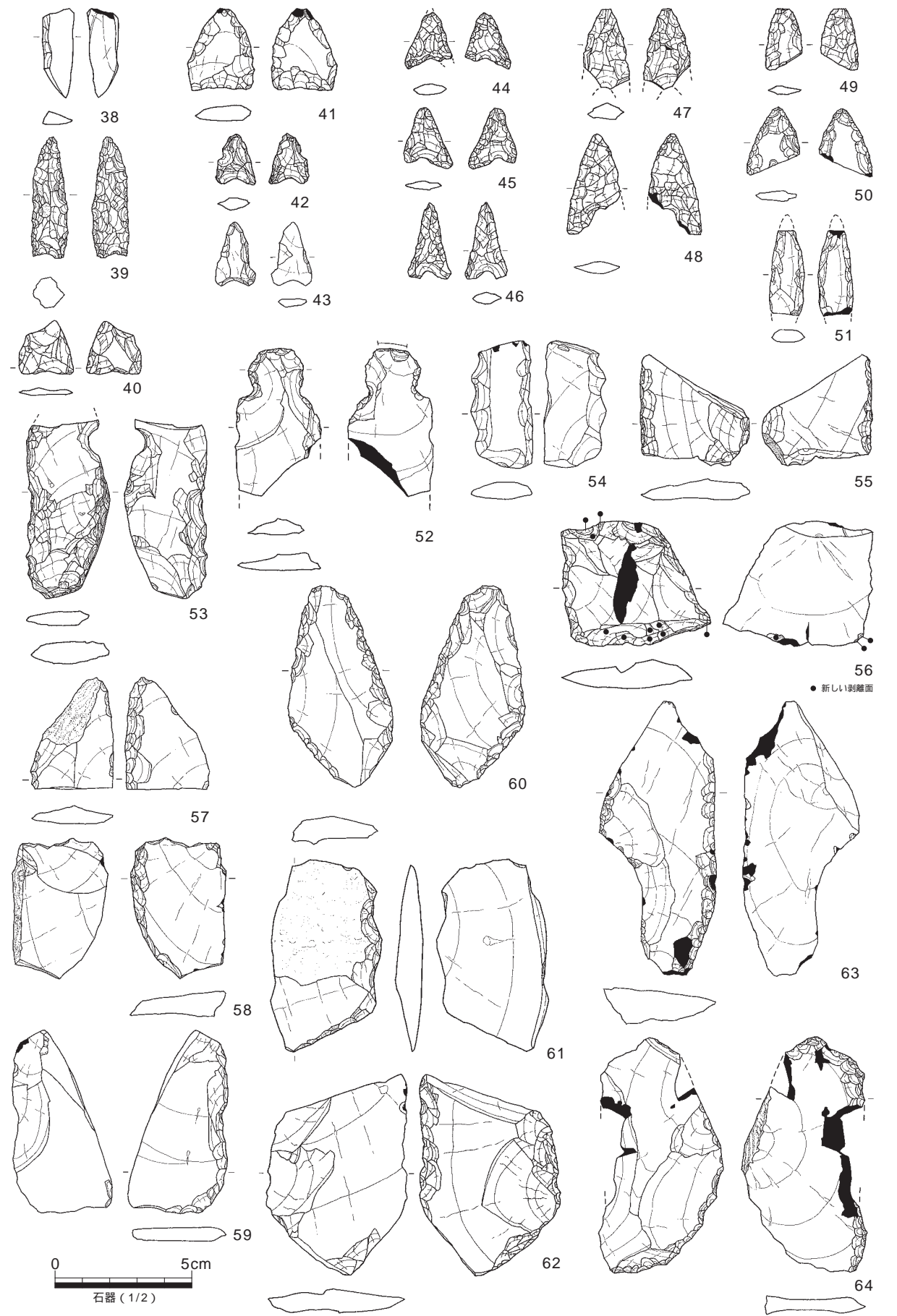
石器のうち、サヌカイト製の打製石器は風化が進んだものが多く、そのうち第15~18図は縄文時代以前のものと考えられる。38は風化が進んでおり、旧石器時代のナイフ形石器の可能性はある。39~51は石鏃である。39はチャート製、44はハリ質安山岩の石鏃である。52・53は、石匙である。54~64は、スクレイパーである。65~68は、剥片あるいは二次加工ある剥片である。69・70は、横長剥片石核である。71~77は石核で、77はハリ質安山岩製である。78~81は、楔状石核及びその削片である。82は、流紋岩製と考えられる打製石斧である。



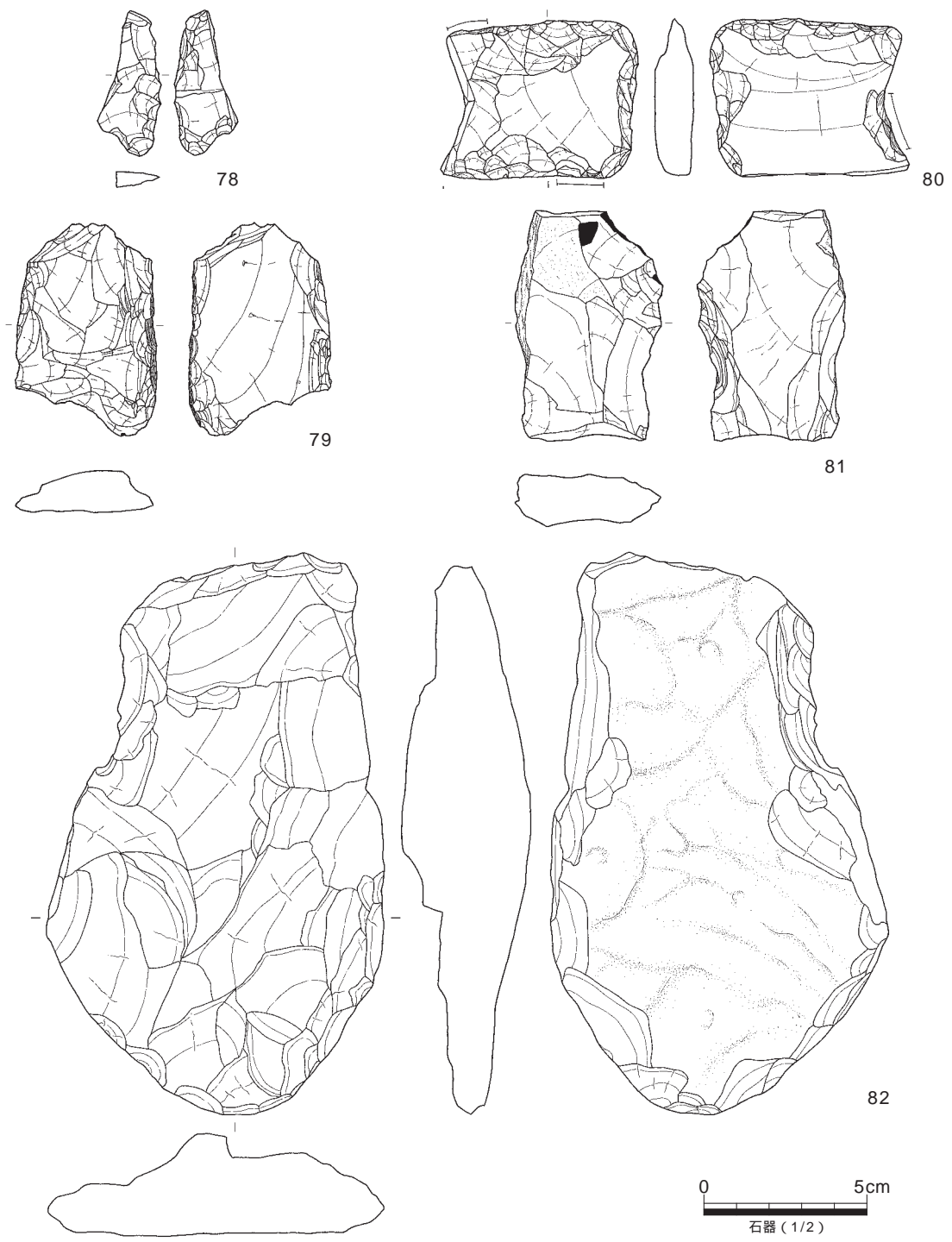
第13図 縄文土器1



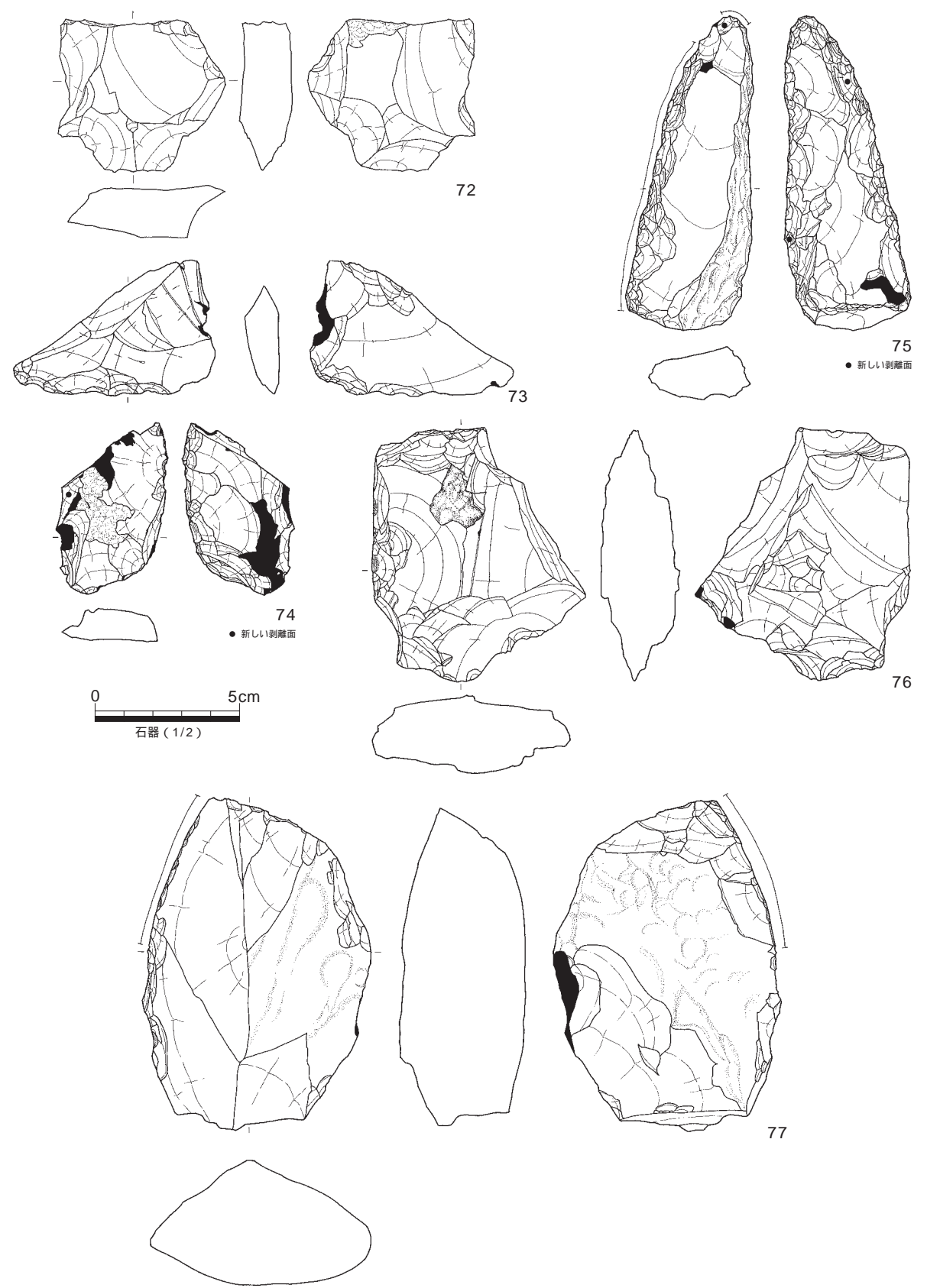
第 16 図 縄文以前の石器 2



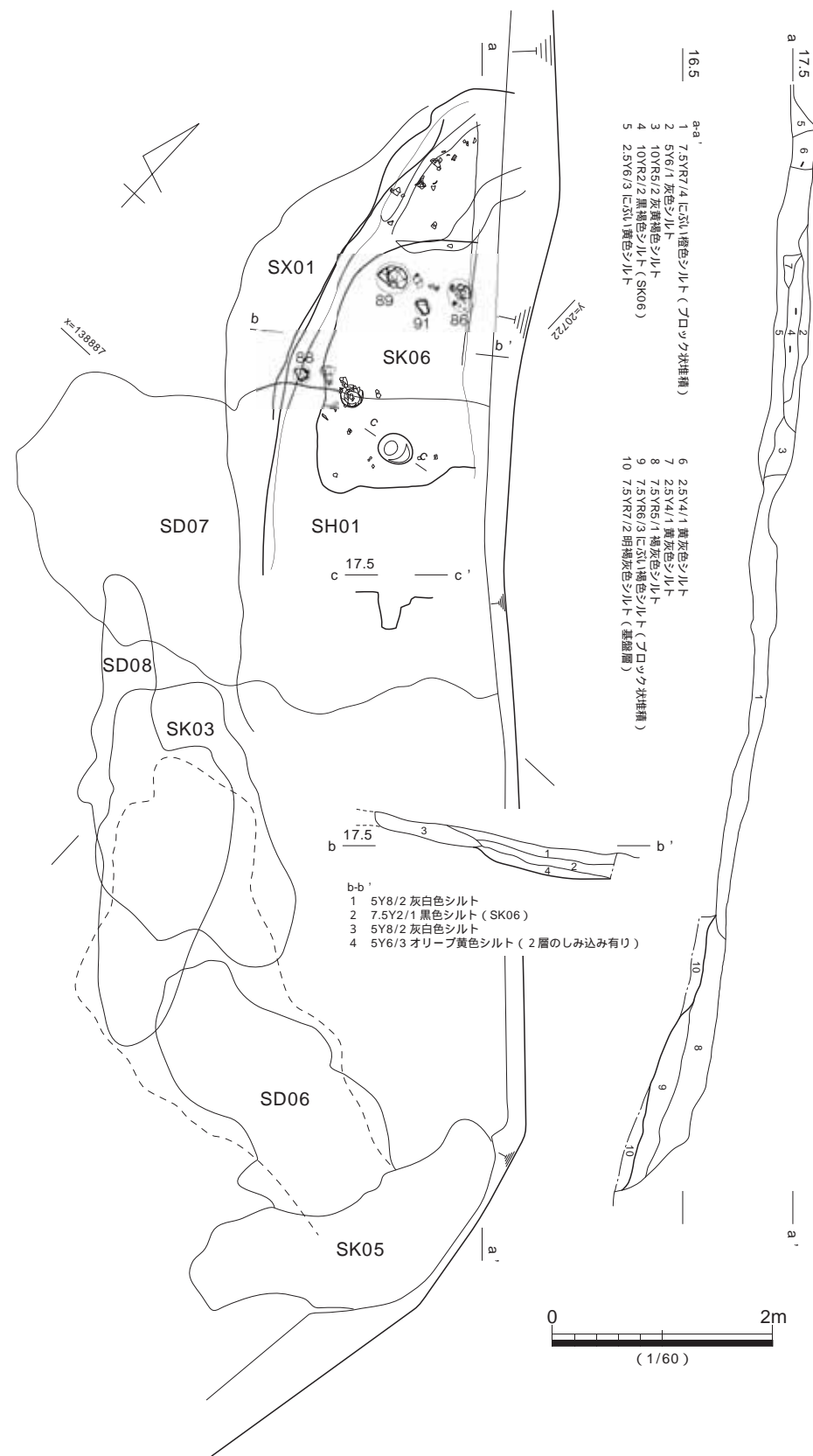
第 15 図 縄文以前の石器 1



第 18 図 縄文以前の石器 4



第 17 図 縄文以前の石器 3



第19図 1区 SH01 平・断面図

## 2 弥生時代中期後葉

遺構としては、1区で竪穴建物、6区で掘立柱建物が検出されている。また、1区の北端では当期の遺物包含層が存在する。

### 竪穴建物

#### 1区 SH01 (C3) (第19・20図)

発掘作業時には、1区SK06と別遺構と認識していたが、出土遺物や遺構の形状等から、同一遺構として報告する。上層として認識したSK06はSH01の埋土上部と考えられる。当遺構は、東部の大半が後世の段状の削平でなくなっており、また南部の大半も後世の削平により消失している。北端でベッド状遺構と考えられる段差及び壁溝を確認した。また柱穴は1穴を確認した。出土遺物は、土器83～89、石器90・91がある。土器85・87・89、砥石91は、床面直上で検出した。中期後葉の時期が考えられる。

#### 3区 SH04 (C3) (第21図)

竪穴建物の輪郭は不明であるが、柱穴3穴とSK05がその施設と考えられる。SK05からは92が上半部を据えられたような状況で出土した。また、SP08からは93が出土している。弥生中期後半新段階と考えられる。

### 掘立柱建物

#### 6区 SB02 (D3) (第22・23図)

柱穴3穴を確認した。桁行と考えられ、5.3mである。また、SD01、02は、SB02と同時期の弥生土器しか出土していないことから、SB02の周溝と考えられる。この建物の南側は、後世に崖状に削平されているため、残りの柱穴は残存していない。SP19からは遺物は出土していないが、SP21、23からは類似した弥生土器が出土している。94と95は、SP21から出土した。中期後半新段階のものと考えられる。

96～98は、SD02から出土した。99は、SP23から出土した石錐である。

## 3 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

当期の遺構は、竪穴建物、掘立柱建物、溝、ピットがある。また、土器が大量に一括出土した地点がある。

### 竪穴建物

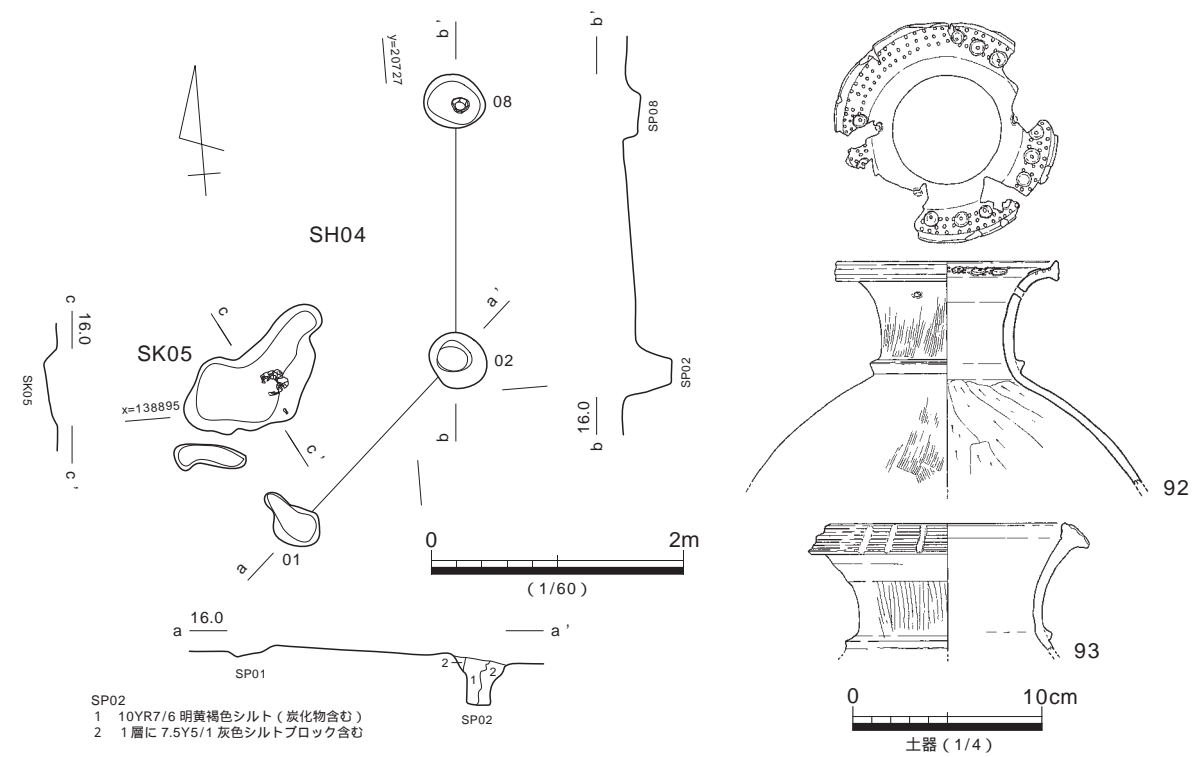
竪穴建物は、丘陵尾根稜線から少し下ったところから、谷底状の平地部分まで存在する。

#### 3区 SH01 (B4, C4) (第24図)

南半は、後世の削平により消失している。壁溝を検出したものの主柱穴は明確ではない。やや不整形な方形あるいは多角形を呈する。次のSH02より新しい。埋土から土器100～102が出土している。101と102は後期後半の時期が、100は終末期に下るものと考えられる。

#### 3区 SH02 (B4) (第25・26図)

平面形が円形の建物跡である。推定直径8.7mである。南東部の後世の削平により失われている。壁



第21図 3区SH04平・断面図、出土遺物

溝が2重になるため、建て増し等の可能性がある。主柱穴は、2つの組み合わせが考えられる。中央土坑は検出できなかった。一部不定形ながらベッド状遺構が残存している。上記のSH01より古い。土器103~105はベッド状遺構内側から、106はP08から出土した。高坏、深いタイプの鉢から後期後半古段階頃と考えられる。

3区SH03 (B3,B4) (第27図)

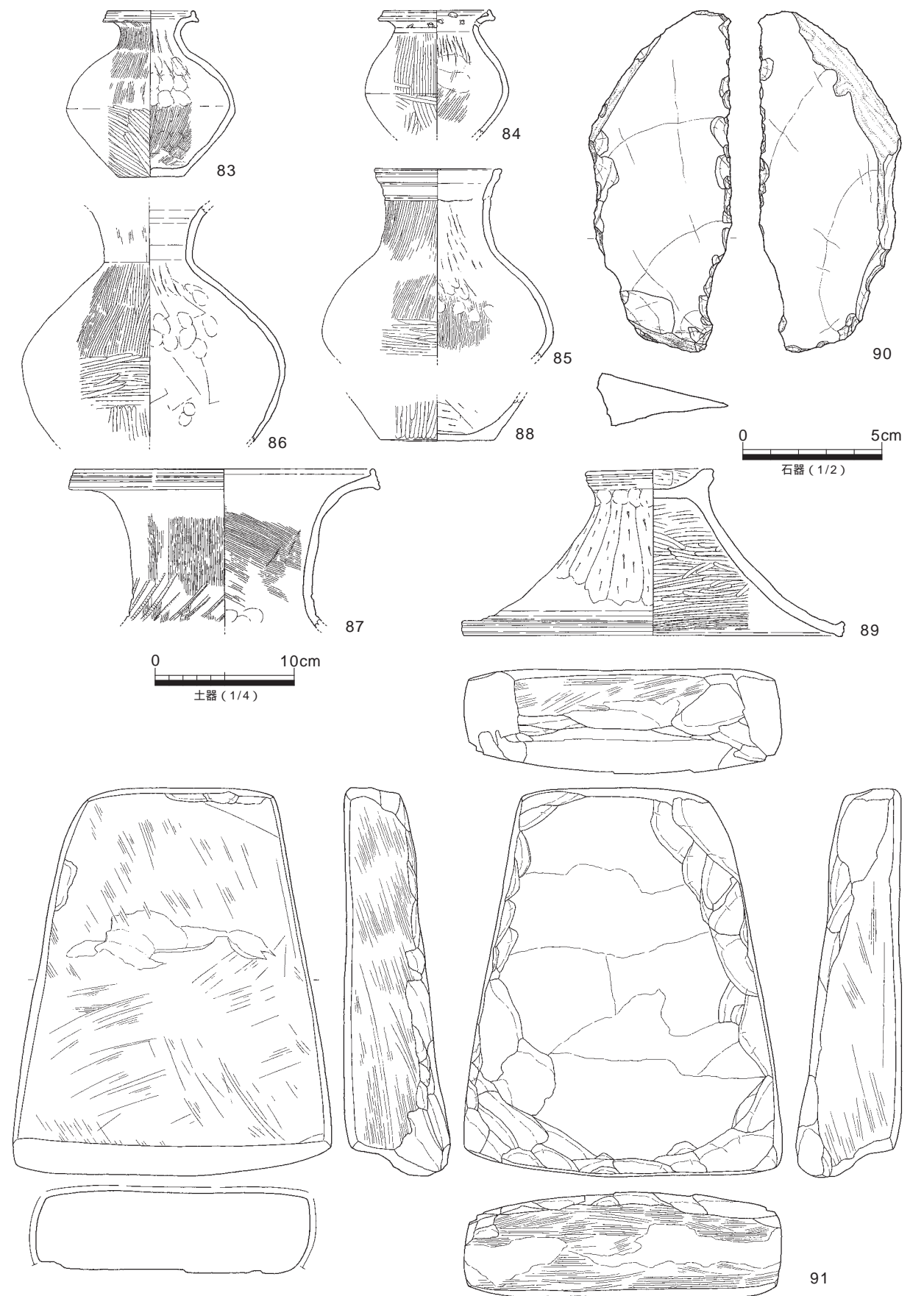
平面円形の建物跡と考えられる。位置から考えてSH01、SH02と新旧関係があると考えられる。残存状況は良くない。壁溝は検出されたが、主柱穴は明確ではない。図化可能な遺物は出土していない。

7区SH09 (C5,D5) (第28~30図)

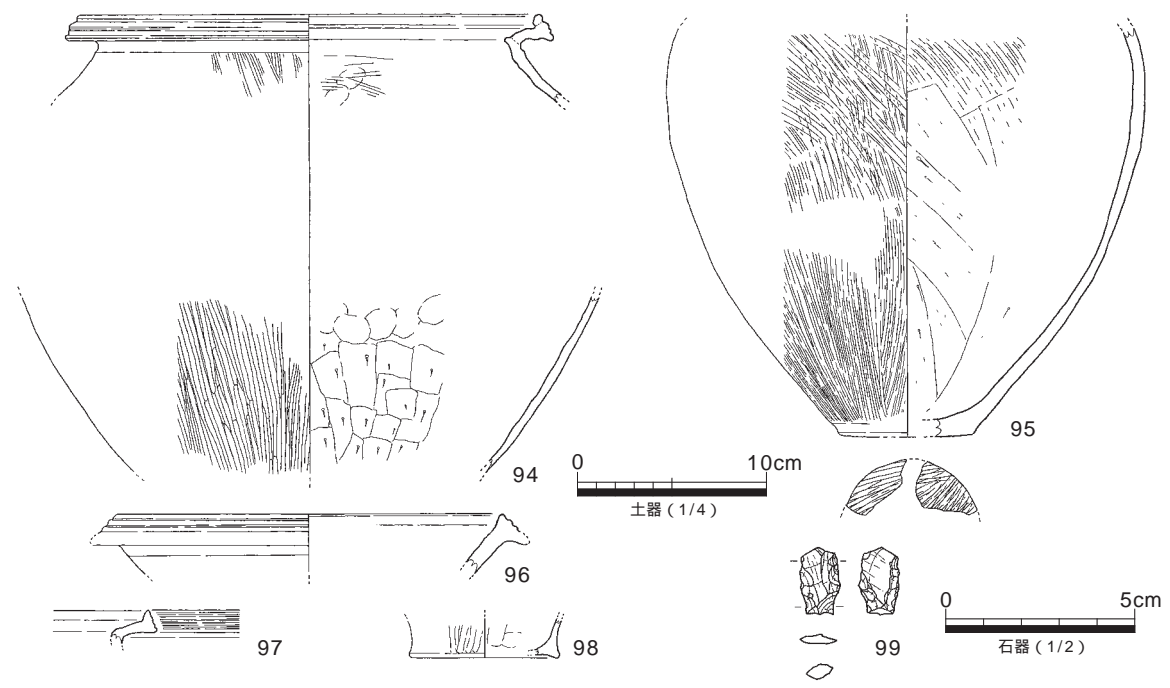
発掘作業時は、SH08、09、10、11として調査を実施した。ここではSH09として報告する。周溝SD06を持つ平面形が方形の竪穴建物である。周溝からは多量の土器が出土している。建物は、3重の壁溝を持つことから、3回程度の建て増し等があったものと考えられる。中央土坑がある。主柱穴は4つである。出土遺物は、107が建物理土から、他は、周溝からのものである。土器には時期差があり、後期後半新段階から古墳時代前期前半古段階までのものを含むと考えられる。132は土師質の棒状土錘で、混入品と考えられる。

7区SH12 (C5,D5) (第31図)

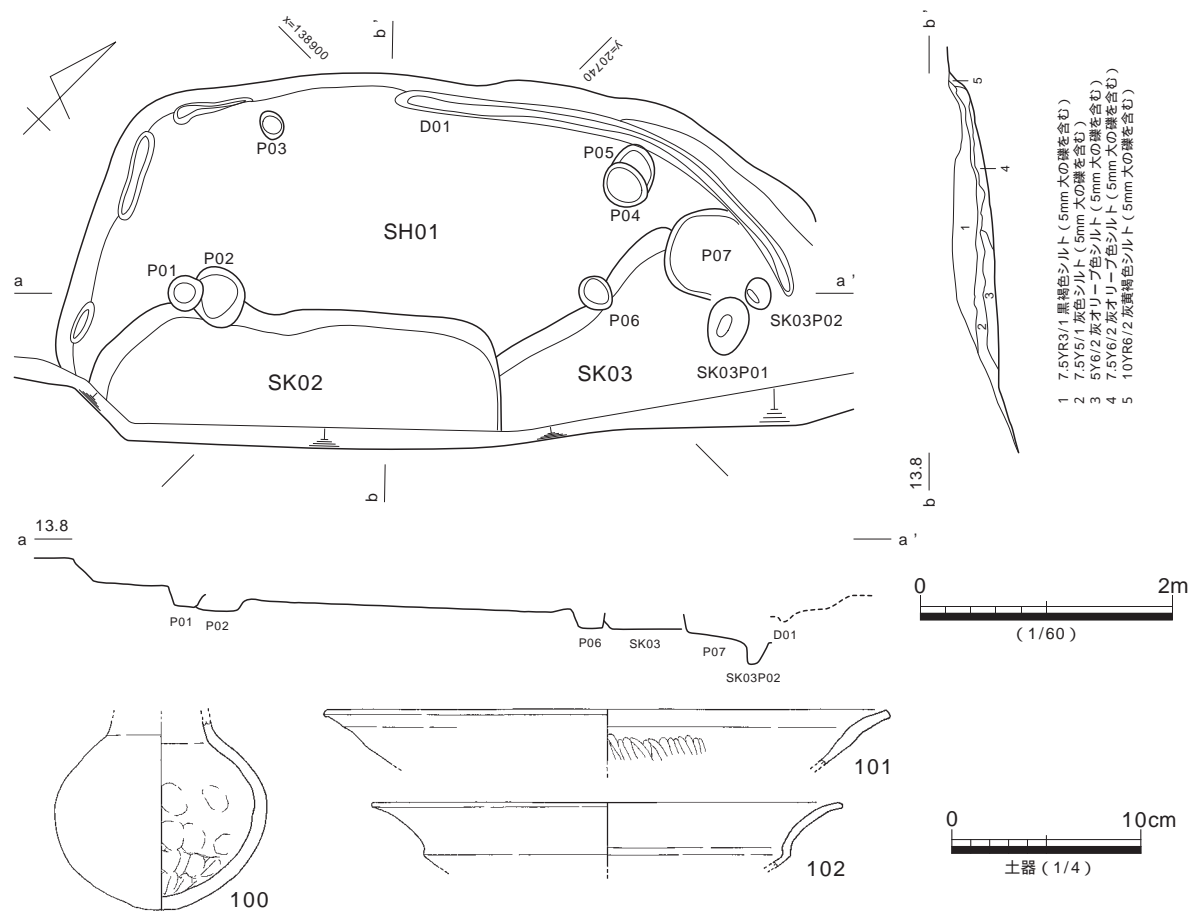
SH09より古い建物である。4主柱穴と考えられるが、P03は浅いため柱穴かどうか疑問が残る。



第20図 1区SH01出土遺物

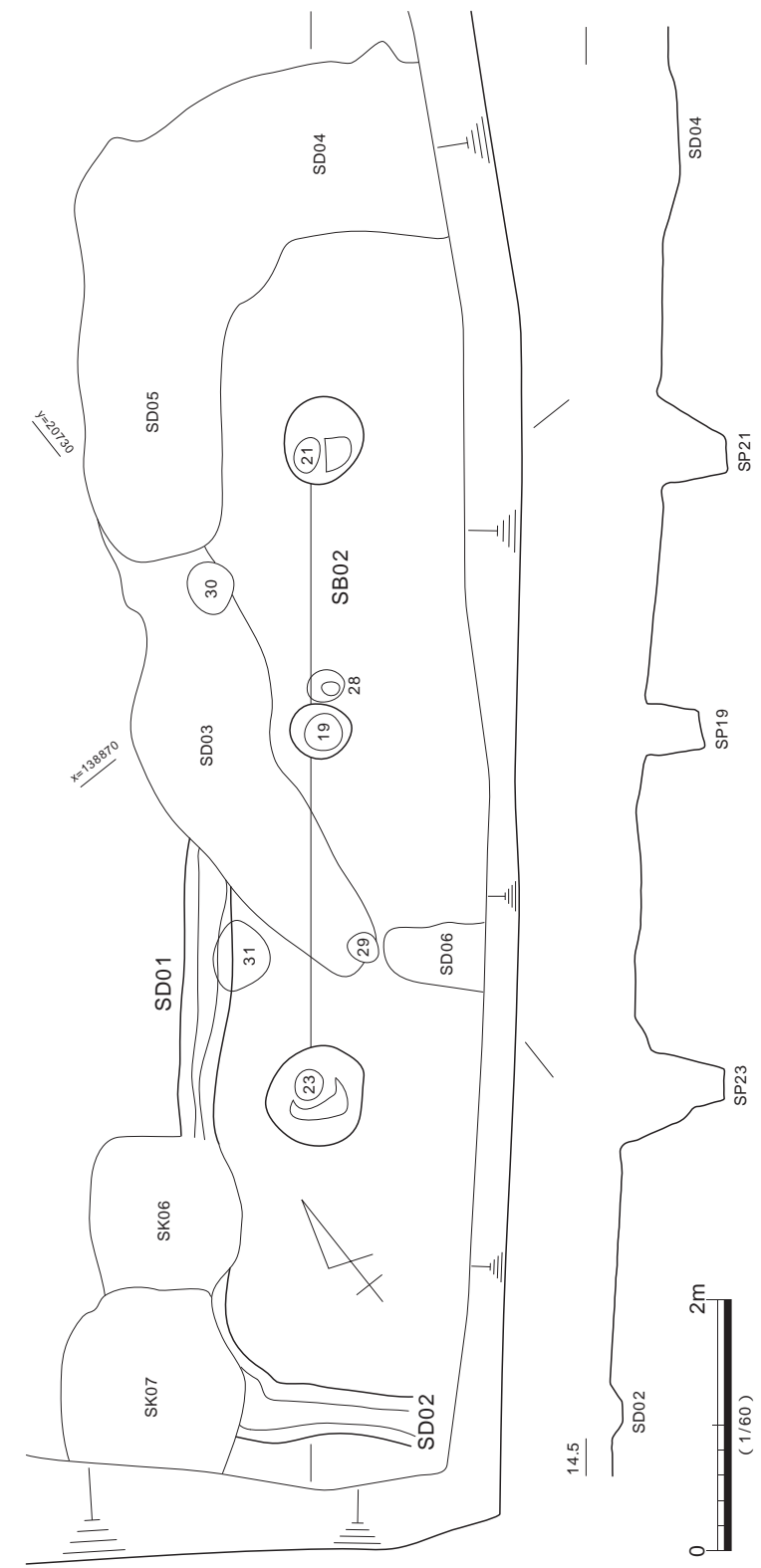


第23図 6区SB02出土遺物

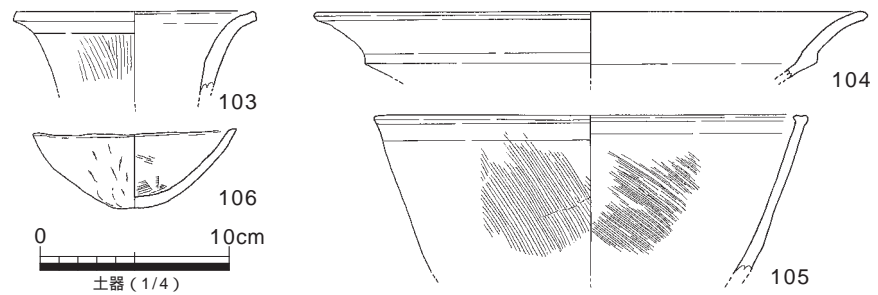


- 1 7.5YR3/1 黒褐色シルト (5mm 木の櫛を含む)
- 2 7.5Y5/1 灰色シルト (5mm 木の櫛を含む)
- 3 5Y6/2 灰オリーブ色シルト (5mm スの櫛を含む)
- 4 7.5Y6/2 灰オリーブ色シルト (5mm 木の櫛を含む)
- 5 10YR6/2 灰黄褐色シルト (5mm 木の櫛を含む)

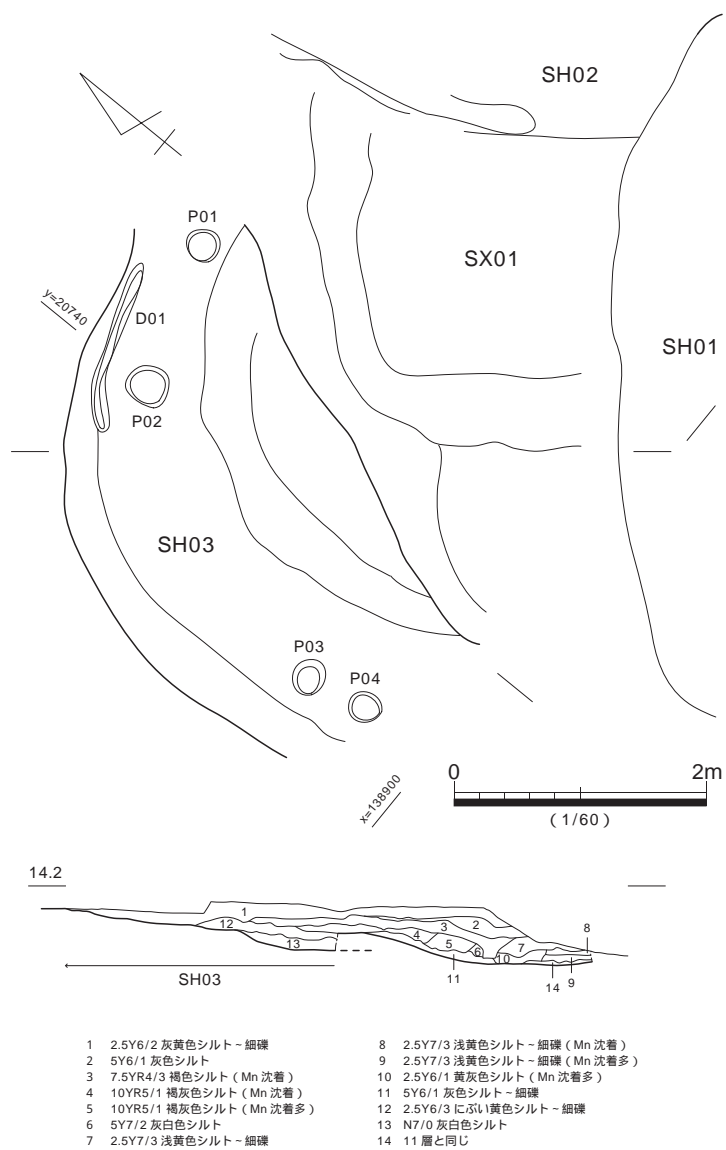
第24図 3区SH01平・断面図、出土遺物



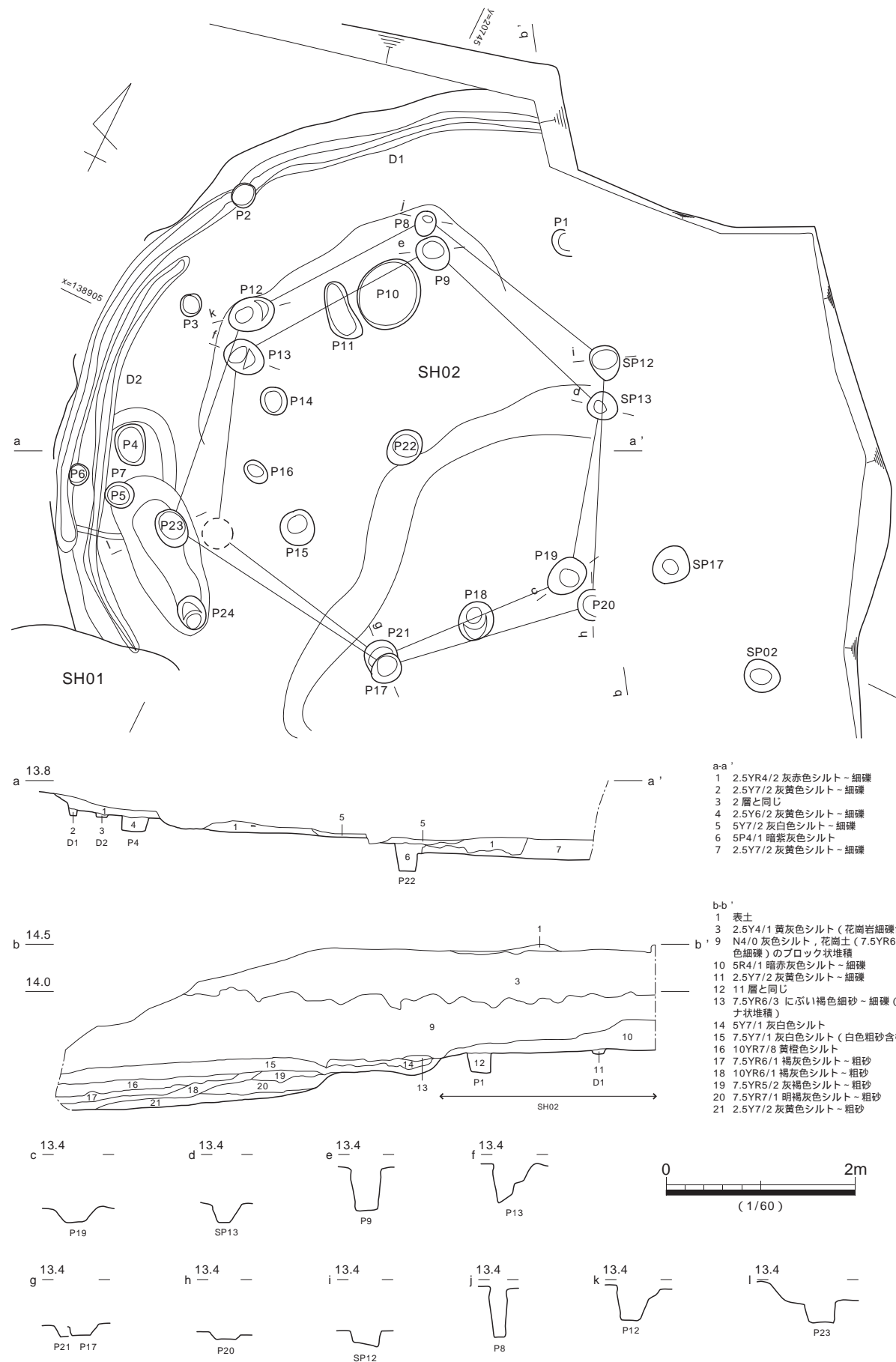
第22図 6区SB02平・断面図



第26図 3区 SH02 出土遺物

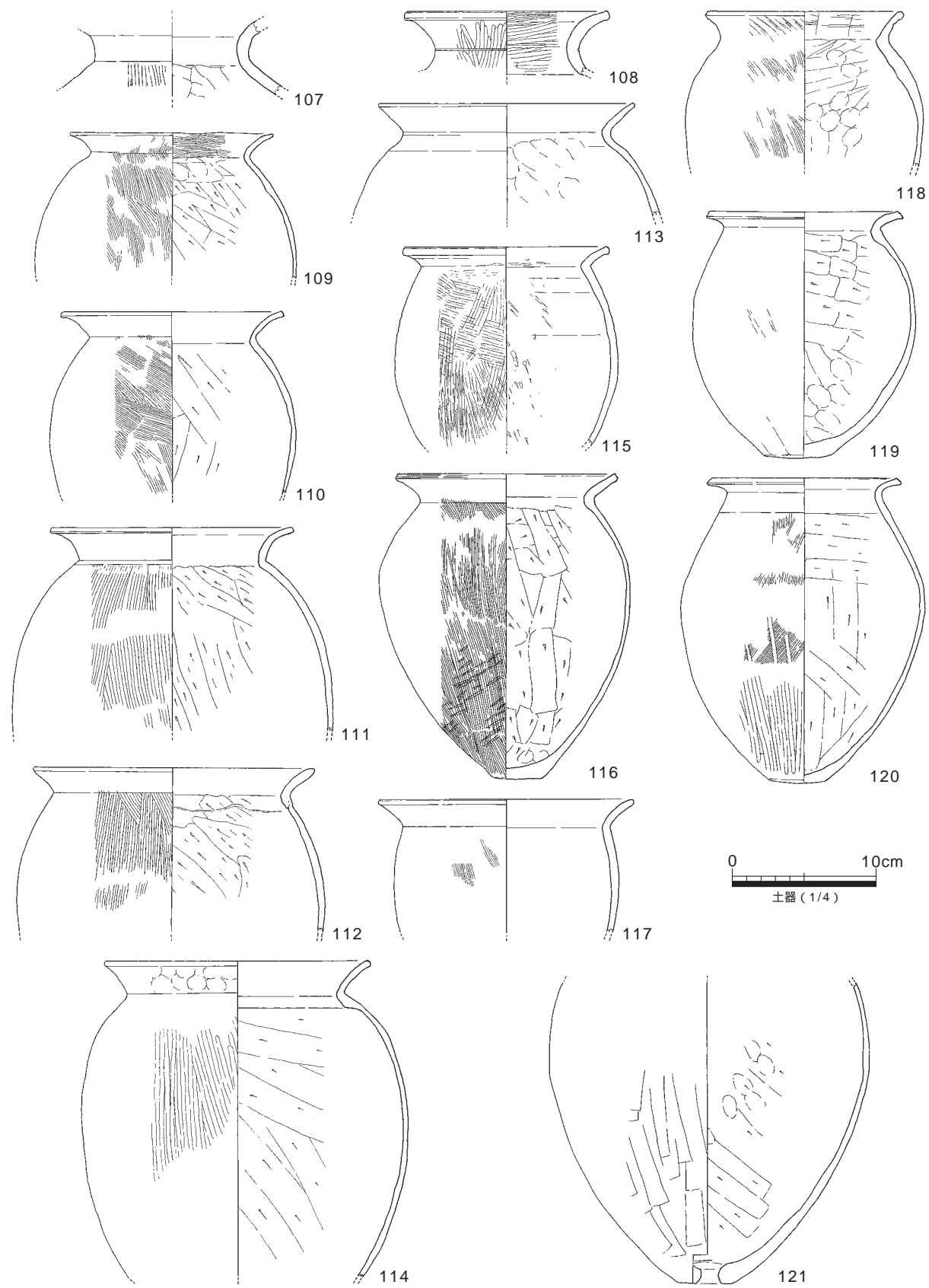


第27図 3区 SH03 平・断面図

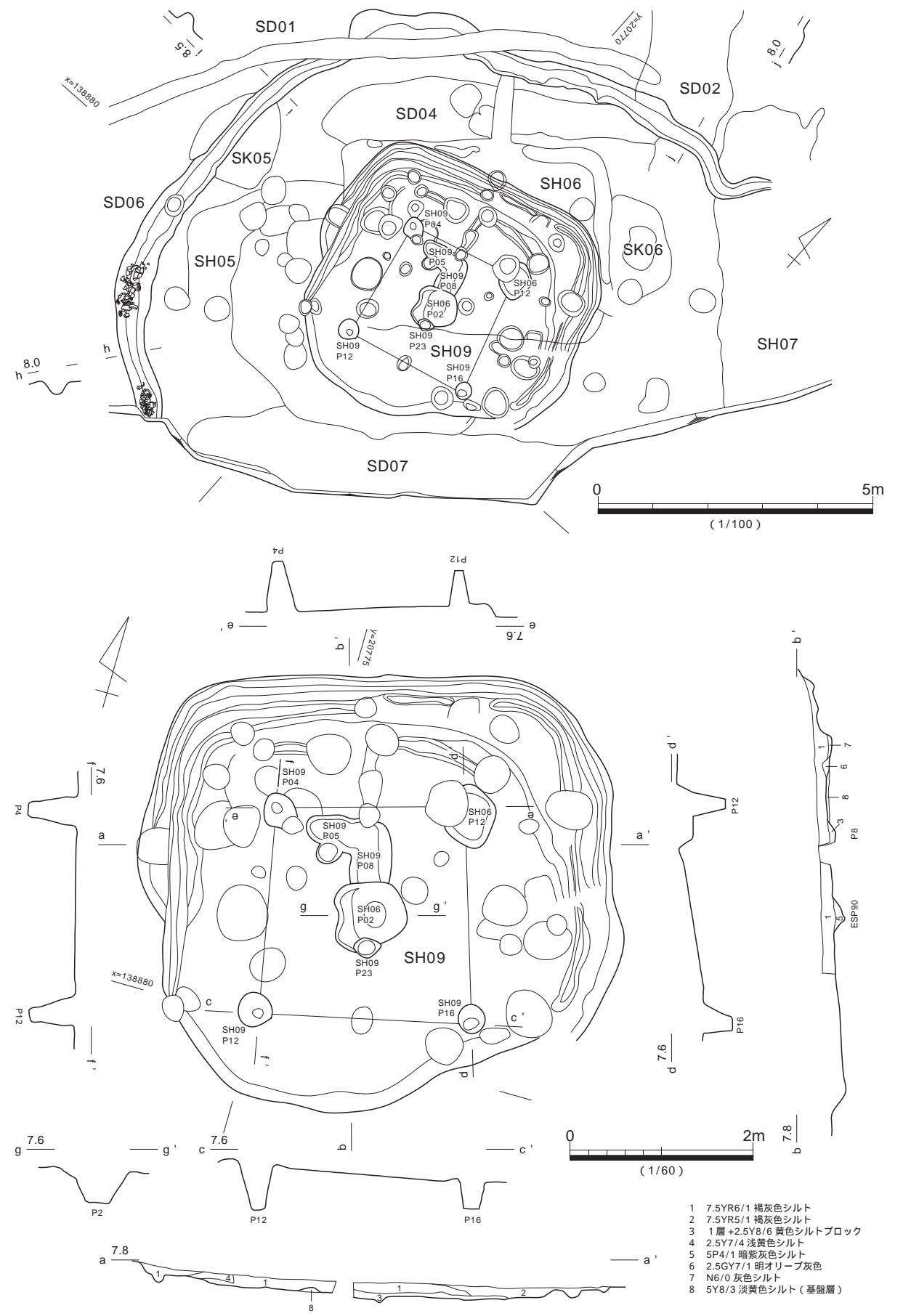


第25図 3区 SH02 平・断面図

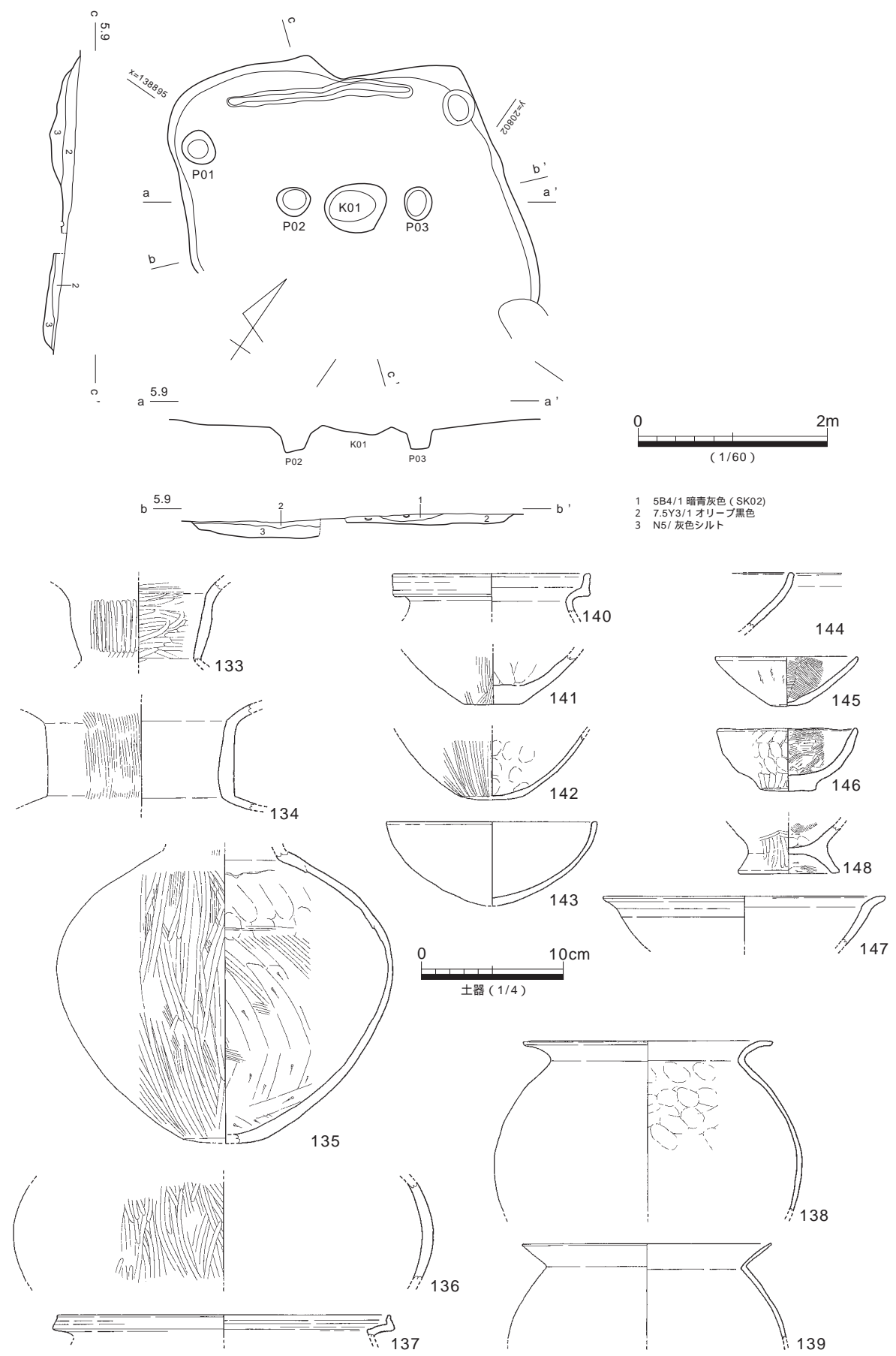




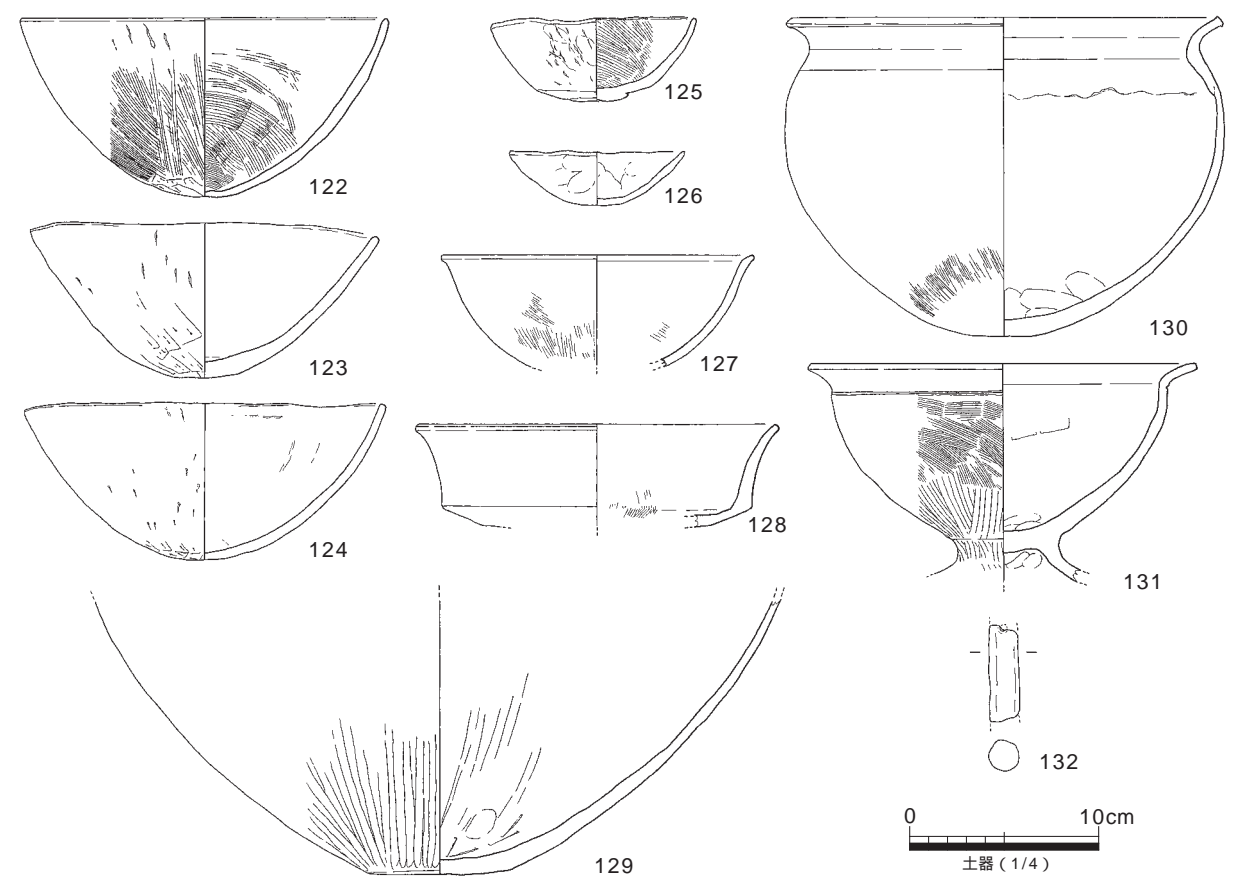
第29図 7区 SH09 出土遺物 1



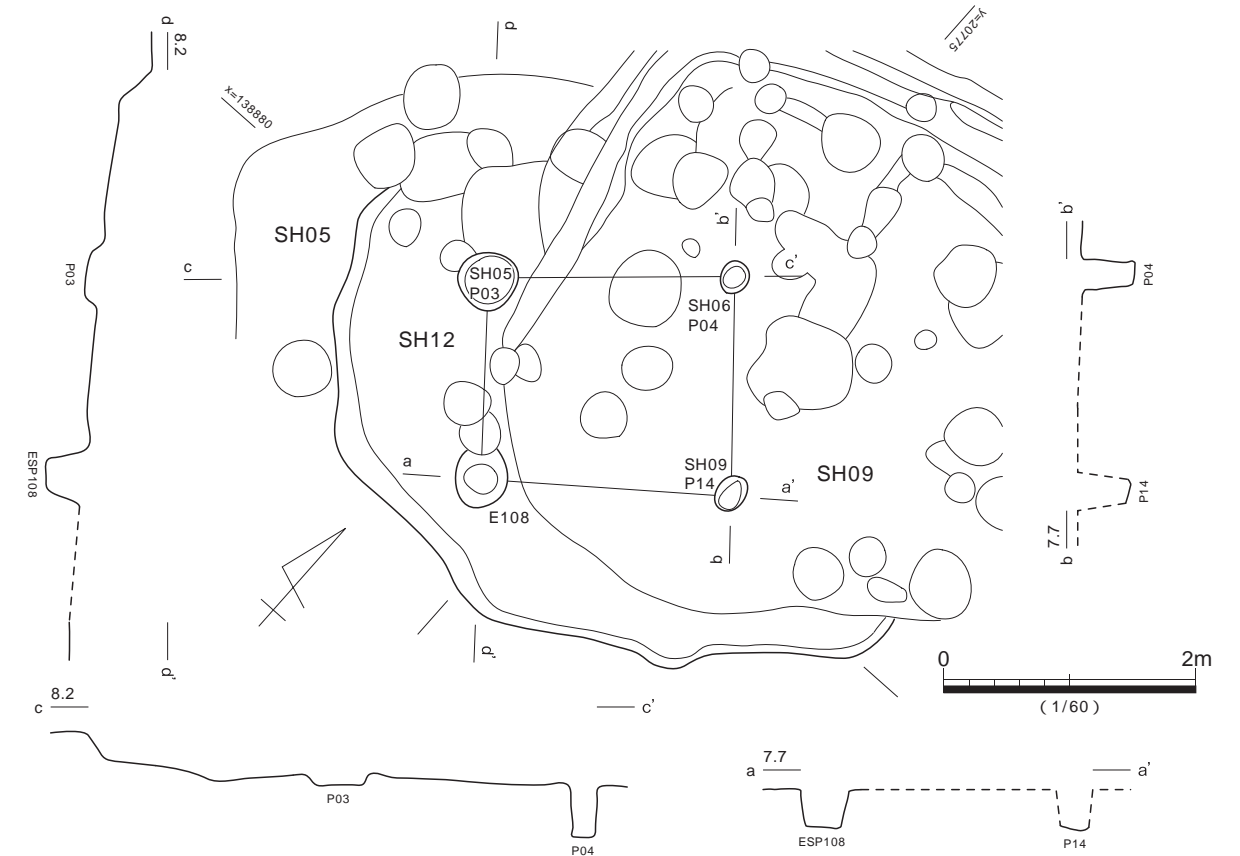
第28図 7区 SH09 平・断面図



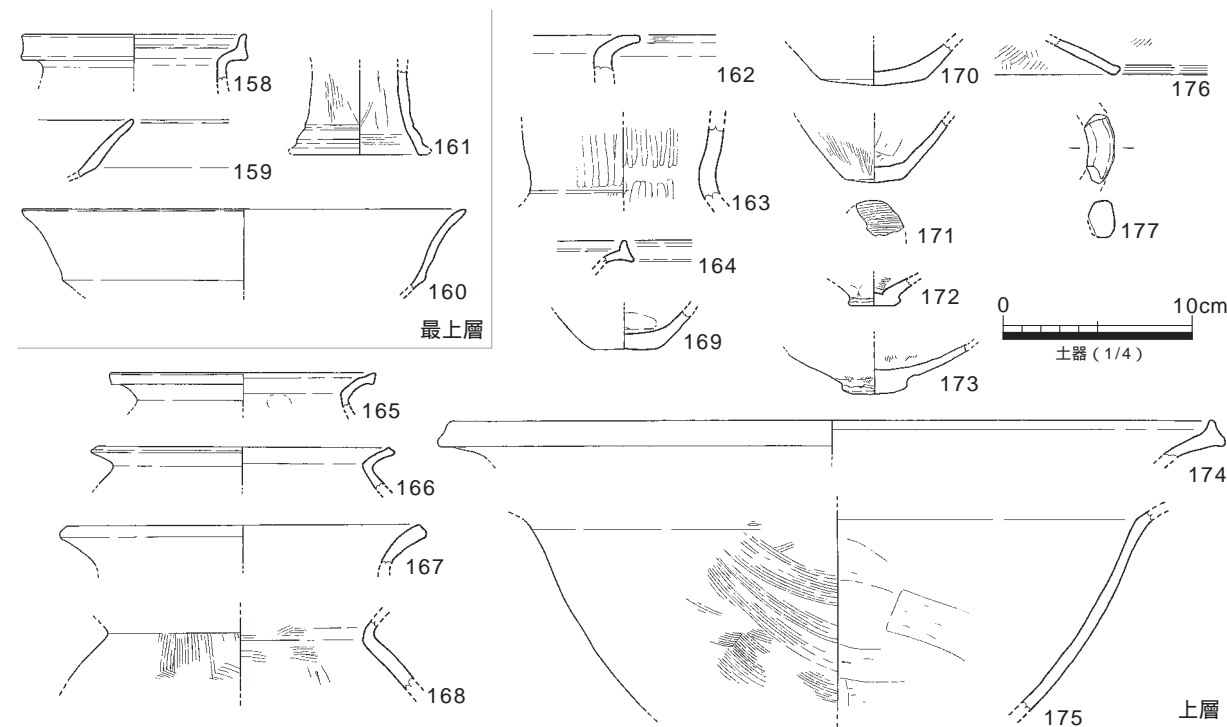
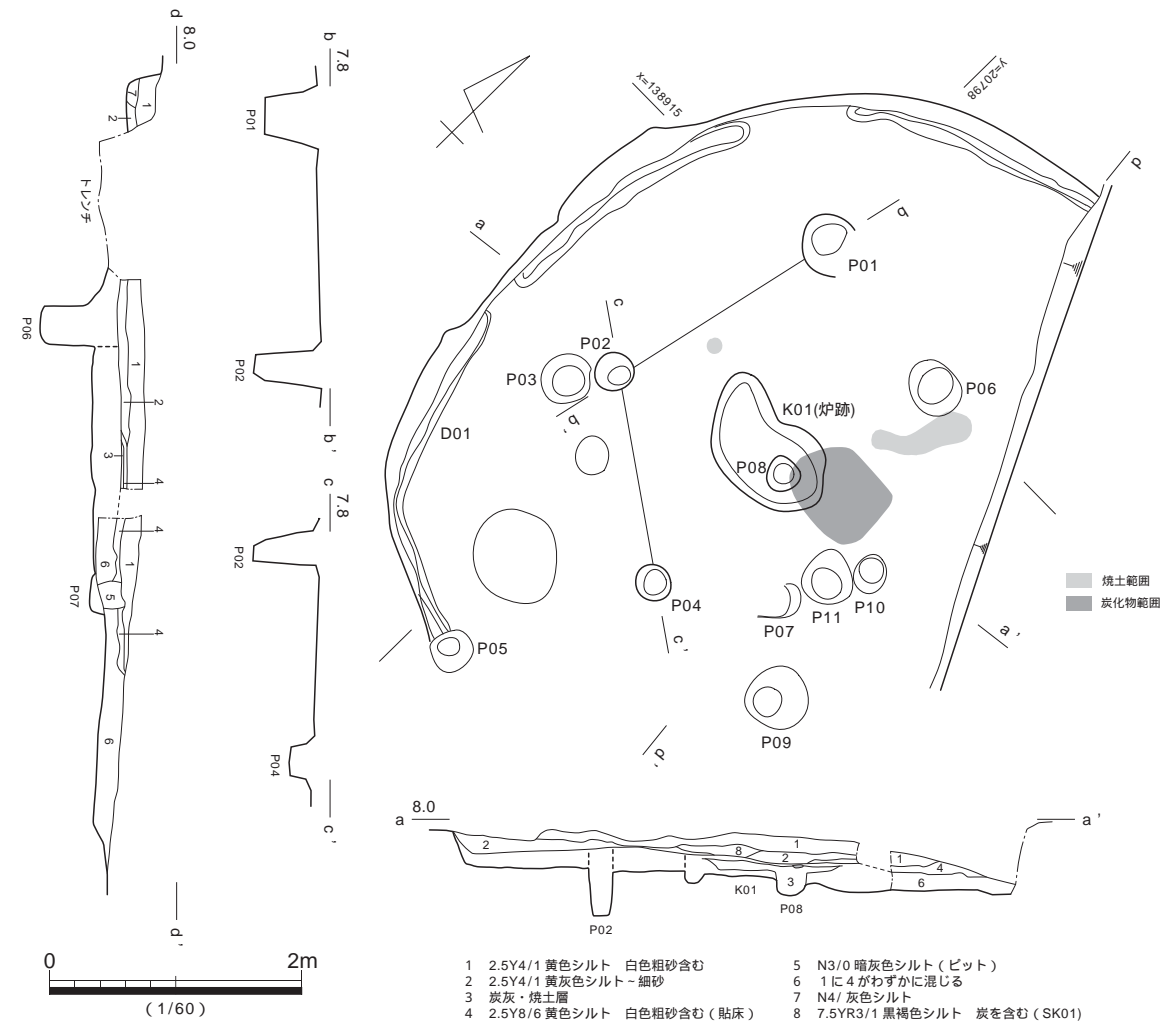
第32図 8区 SH02 平・断面図、出土遺物1



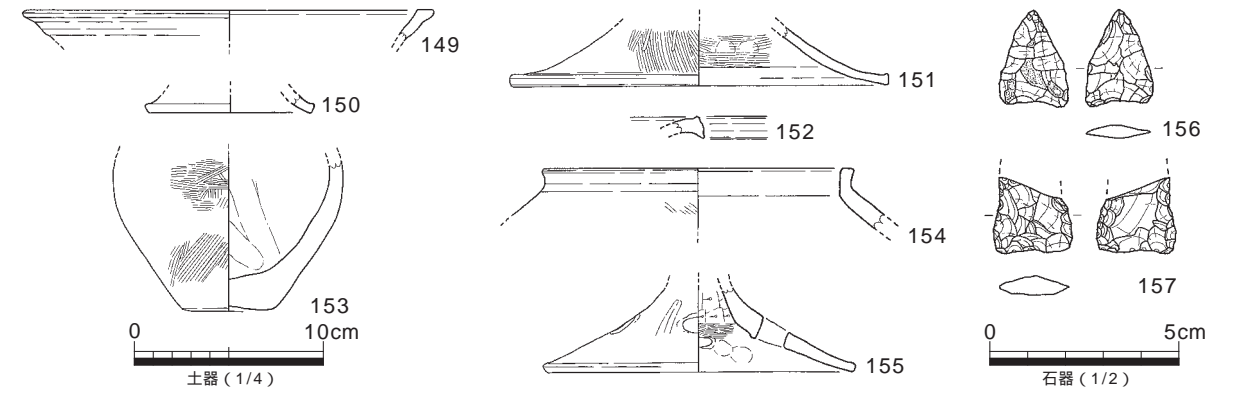
第30図 7区 SH09 出土遺物2



第31図 7区 SH12 平・断面図



第34図 8区SH04平・断面図、出土遺物1



第33図 8区SH02出土遺物2

8区SH02 (C6,C7)(第32・33図)

平面形が不正方形の建物である。北側に壁溝、中央に炭化物の堆積する中央土坑K01がある。中央土坑の両側にピットがあり、この建物の柱穴と考えられる。断面図のうち2層下面が建物床面と考えられる。

土器133～151は、埋土から出土した土器である。152は、中央土坑から出土した。153は、中央土坑及び柱穴P03から出土した。154は、P02、03から出土した。石鏃156・157が出土している。135、151などから建物の時期は、弥生時代終末期の時期が考えられる。

8区SH04 (B6)(第34・35図)

平面形が多角形となる可能性のある建物である。南半は、傾斜地のため流失している。西端部は残りがよく、壁面の深さは検出面より、50cm程度ある。壁面に炭化材の一部が残存していた。壁面の構造材の可能性もある。壁溝、中央土坑K01と主柱穴3を確認した。この建物の下で、8区SH12を検出している。

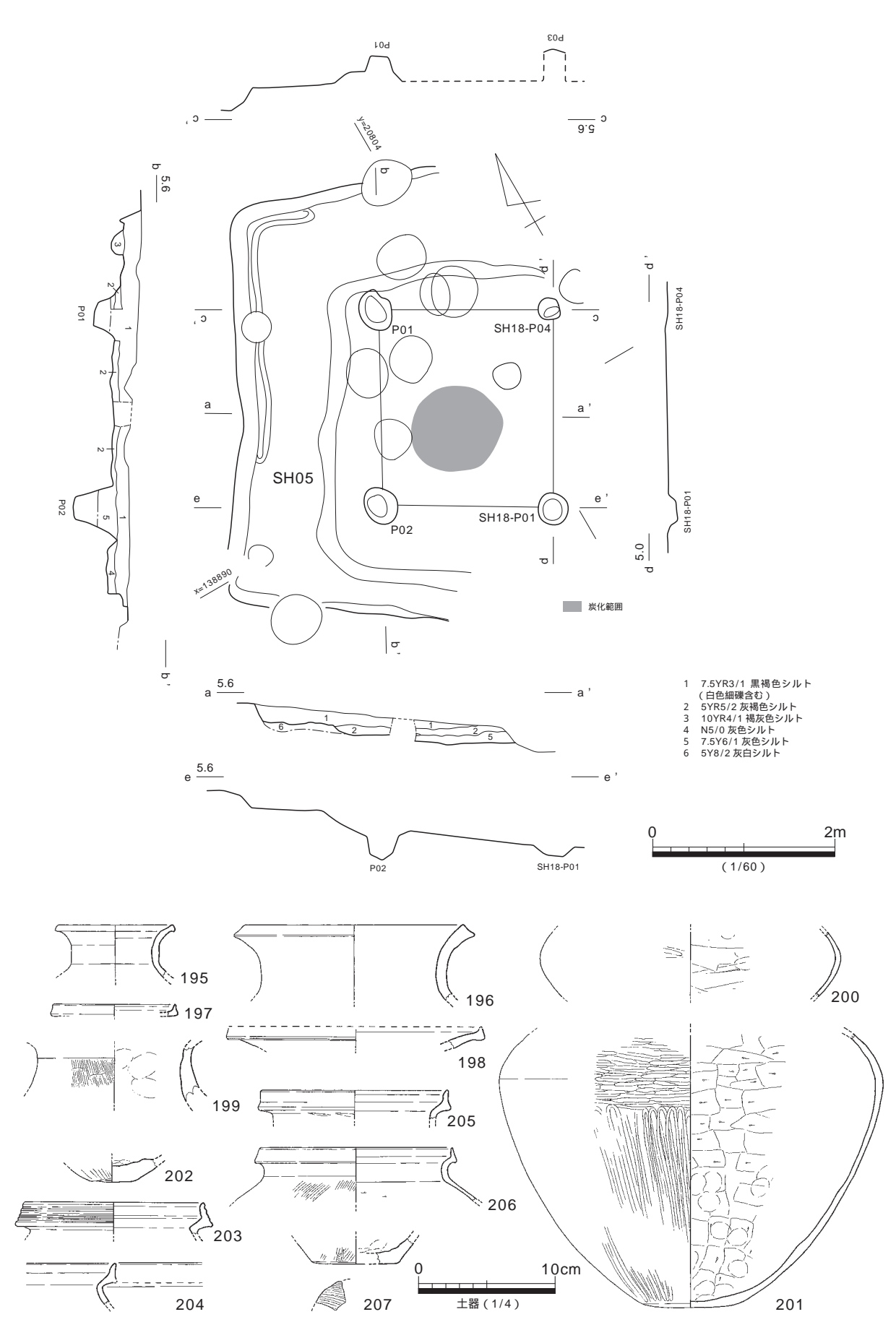
SH04からの出土土器は、埋土の最上部から158～161、上部から162～177が、下部から178～184が出土している。また、P01から185、P11から186・187が出土している。188～191は、詳細な出土位置がわからない埋土から出土した土器である。泥岩製と考えられる砥石192は、床面直上から出土した。160、183から建物の時期は終末期頃が考えられる。

8区SH12 (B6,B7)(第36図)

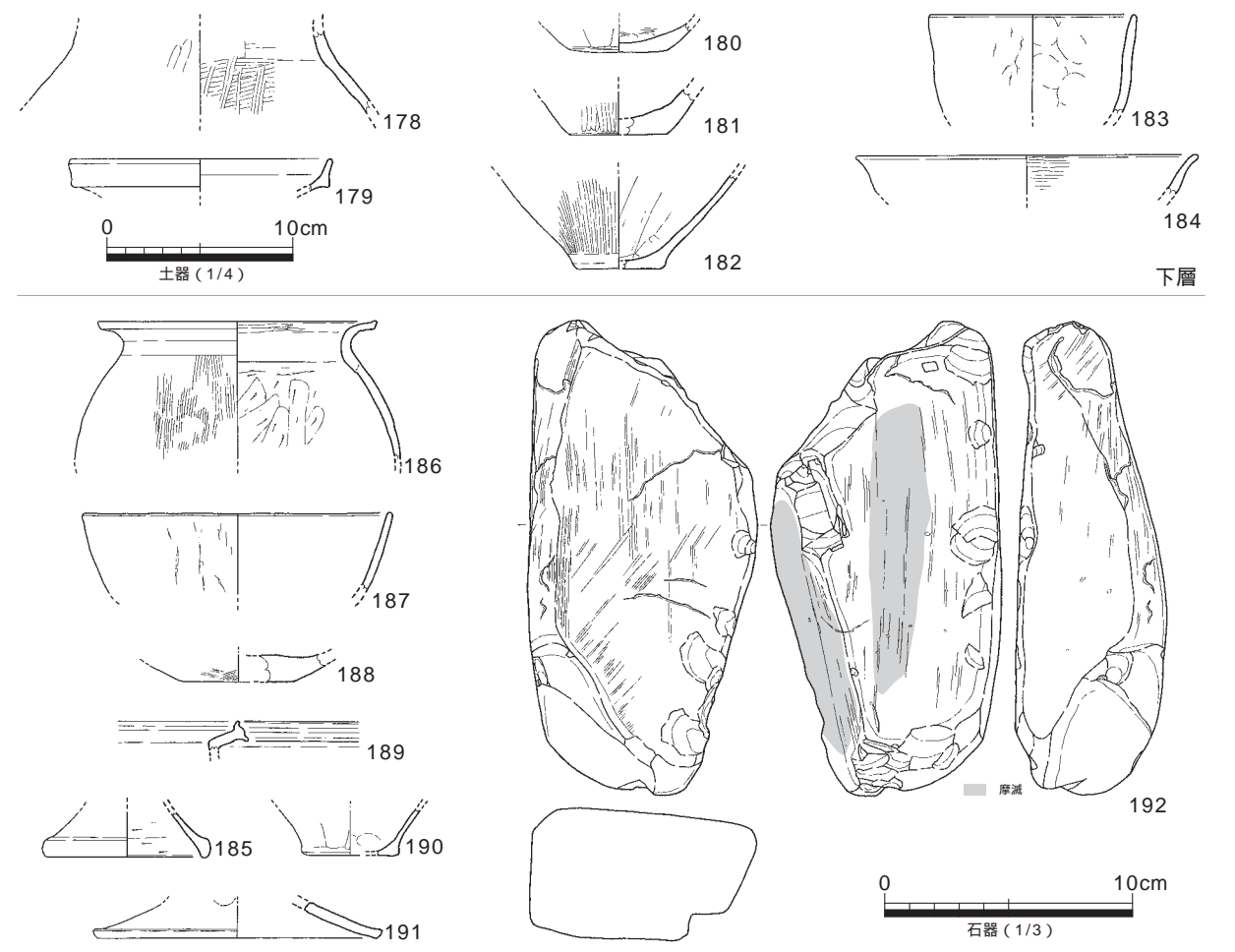
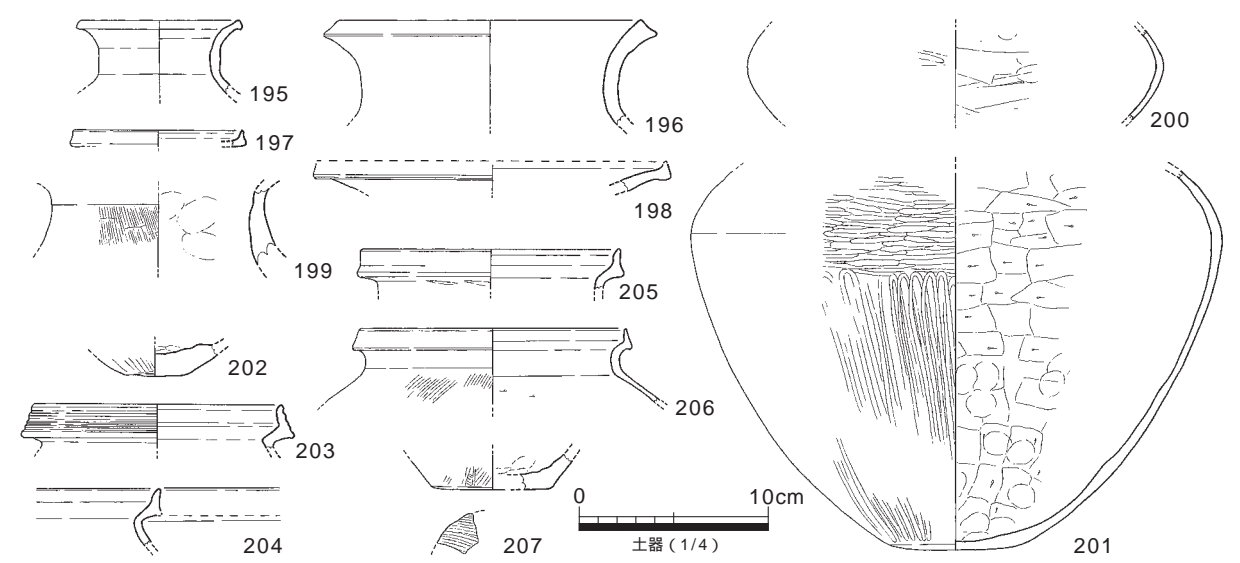
SH04の下で検出した。平面形が方形の竪穴建物である。壁溝、ベッド状遺構、主柱穴2を確認した。出土土器は、193・194である。

8区SH05 (C7)(第37・38図)

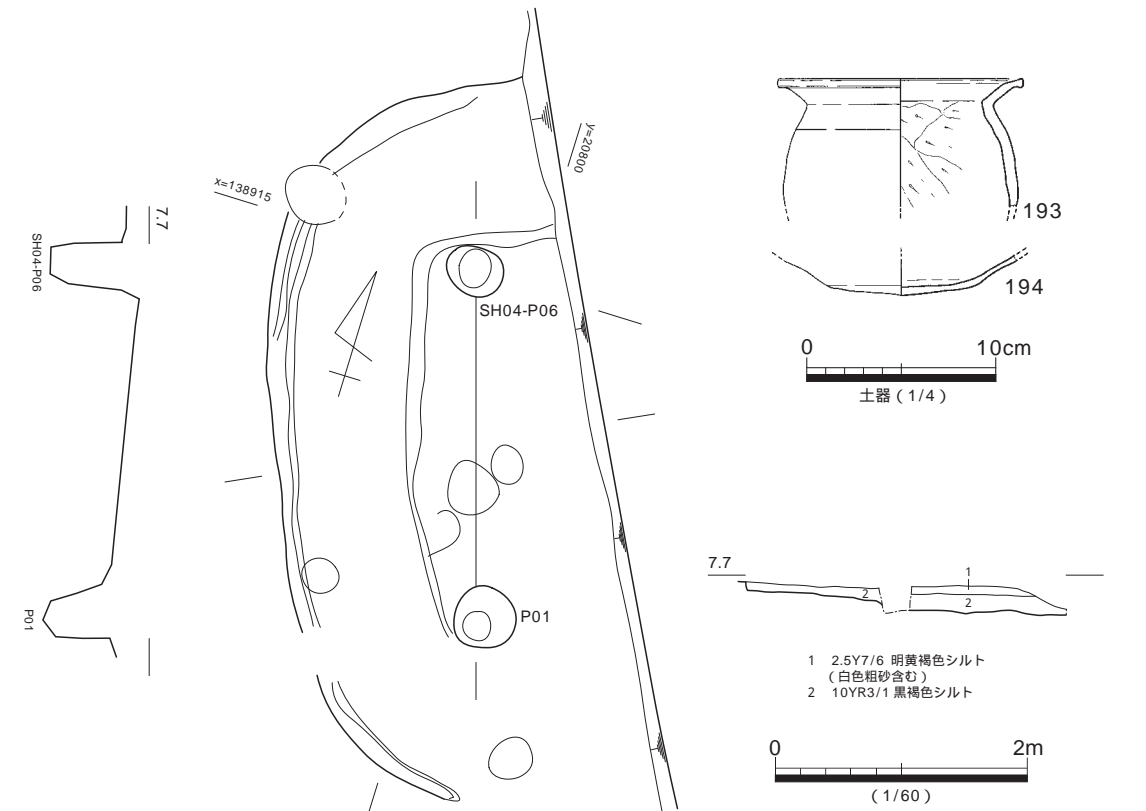
出土遺物が弥生時代のものと7世紀頃のもの混在している。2時期の遺構が重なっている可能性が高いが、発掘作業では、区別はできなかった。明らかなことは、ベッド状遺構と考えられる段差の内部の床面で、下層のSH18の輪郭がみえること、同じ面で炉跡と見られる炭の広がりがあり、弥生土器の壺214が出土していることである。また、主柱穴と見られる4穴のうち、P04(SH18)から飯



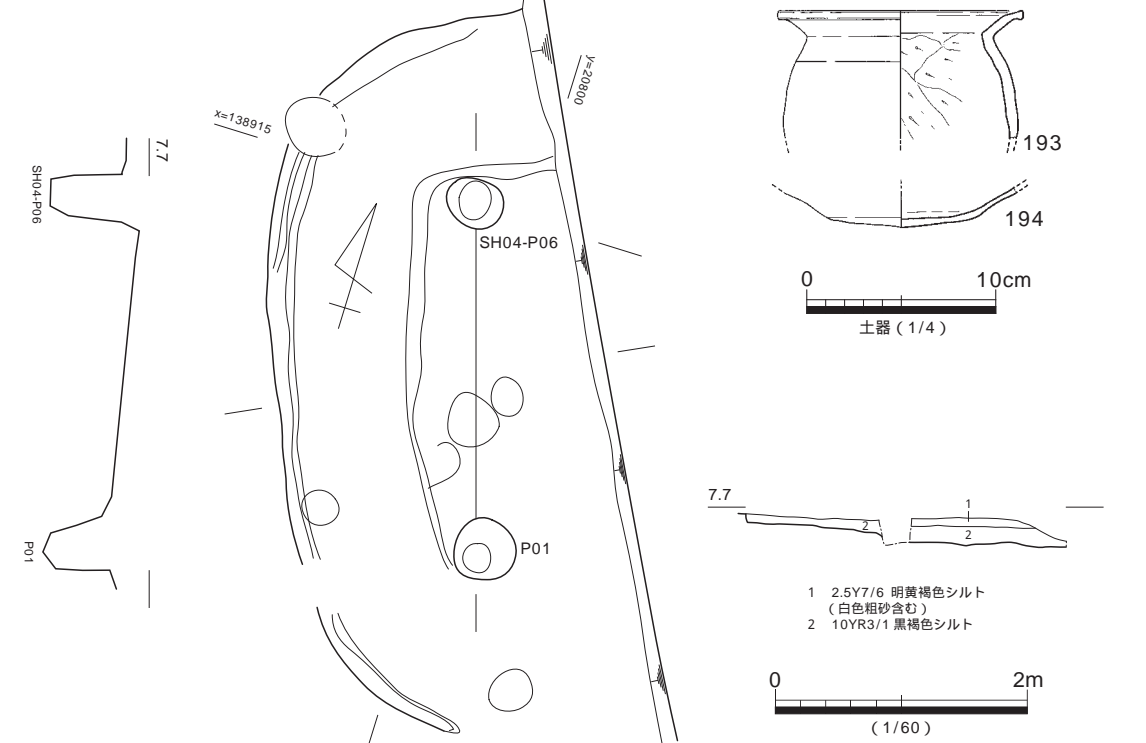
第37図 8区 SH05 平・断面図、出土遺物1

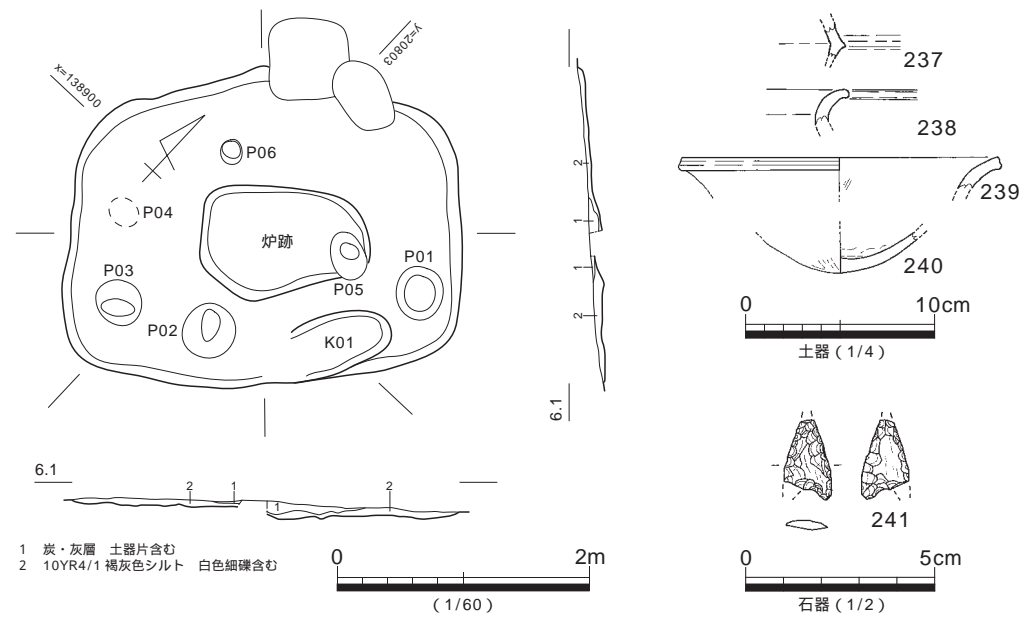


第35図 8区 SH04 出土遺物2



第36図 8区 SH12 平・断面図、出土遺物





第39図 8区SH06平・断面図、出土遺物

蛸壺229が出土していることから、この4支柱穴は7世紀の建物のもと考えられる。このことから、一番外側の方形の輪郭線と4支柱穴の組み合わせが、7世紀頃の建物の構造ではないかと考えられる。弥生時代の建物は、ベッド状遺構内側と炭化物の広がりとの組み合わせと考えられる。また、ベッド状遺構の東側に見られた掘り込みをSH17として調査したが、これについては遺構かどうかは疑問である。

土器は195～214が弥生時代の竪穴建物に伴うと考えられる。200、201、214は、赤彩されている。215～227は、7世紀頃の建物に伴うものと考えられる。TK209～TK217段階のものである。228と229は、P04から出土した土器である。弥生土器高坏231と土師器甕230は、SH17として調査を実施した部分から出土している。232・233は石鏃、234は打製石庖丁、235は楔状石核、236は結晶片岩製の石錘である。

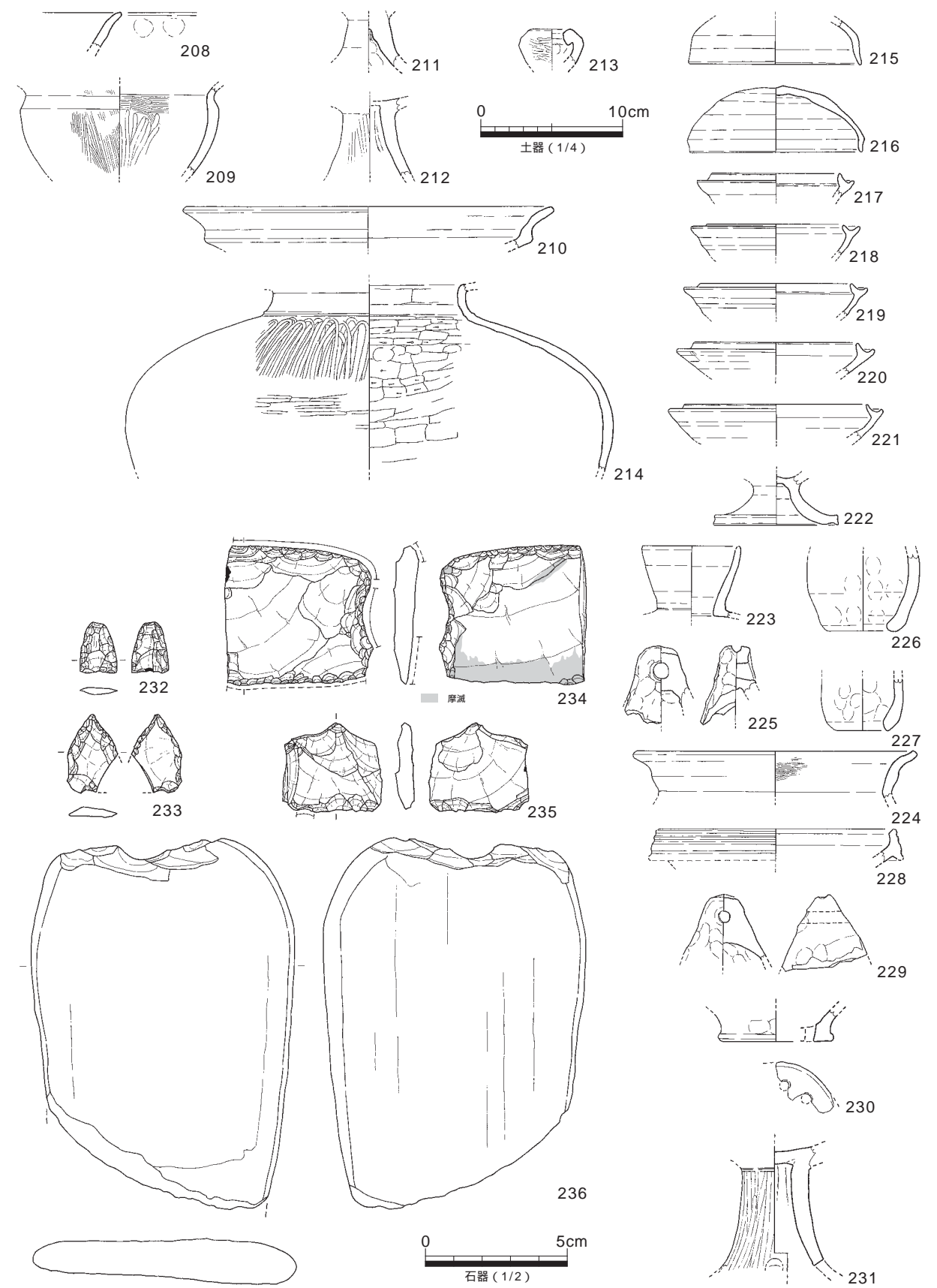
8区SH06 (B7,C7) (第39図)

中央土坑を検出した。検出された大きさからベッド状遺構の内側のみが検出されたものと考えられる。出土土器は、237～240である。P01から石鏃241が出土している。

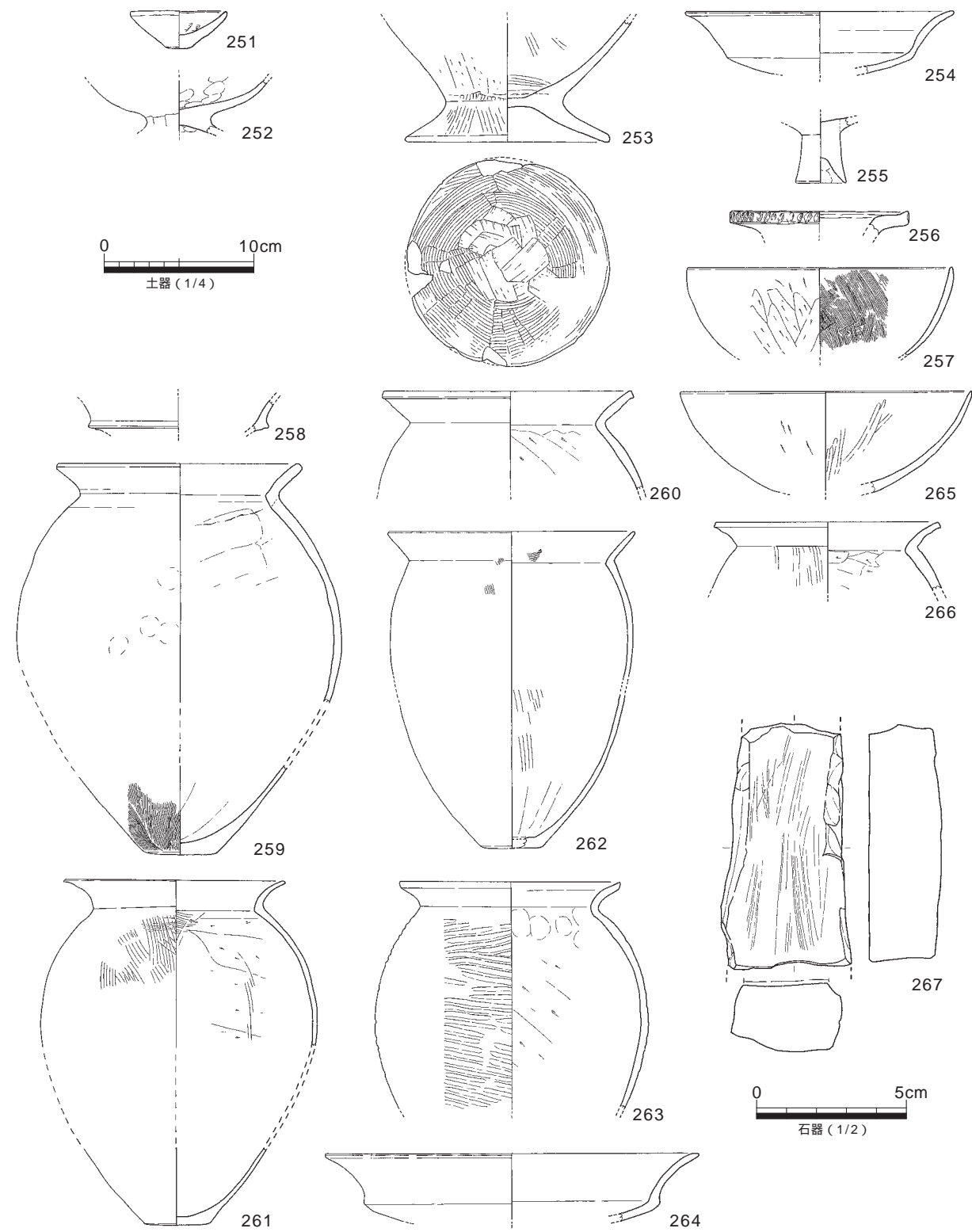
8区SH07 (B5～C6) (第40・41図)

傾斜地のため、南東部の大半は流失している。小溝が3条めぐるが、一番内側は大きさからベッド状遺構の内側の溝で、その他は、壁溝と考えられる。2つの建物が重なっているものと考えられる。ベッド状遺構を伴うものは、溝の配置から一番外側の壁溝を持つ建物と考えられる。4支柱穴を確認した。

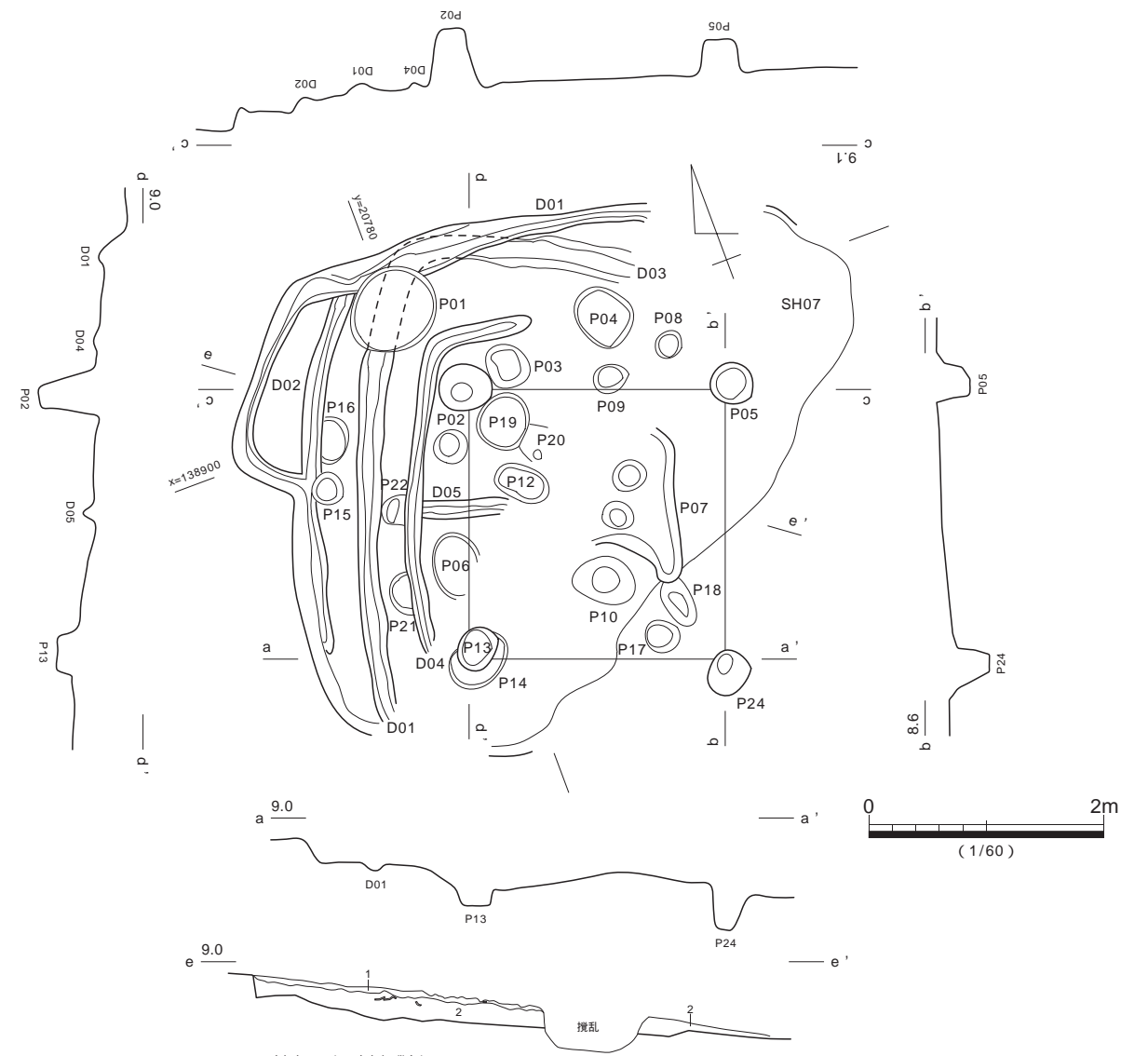
出土土器は、242～256が埋土から出土した。257は、張り出し部からの出土である。258～264はP02から、265はP07から、266はP13からの出土である。泥岩製と考えられる砥石267がP05から出土した。出土土器から建物の時期は、後期後半新段階～終末期古段階頃と考えられる。



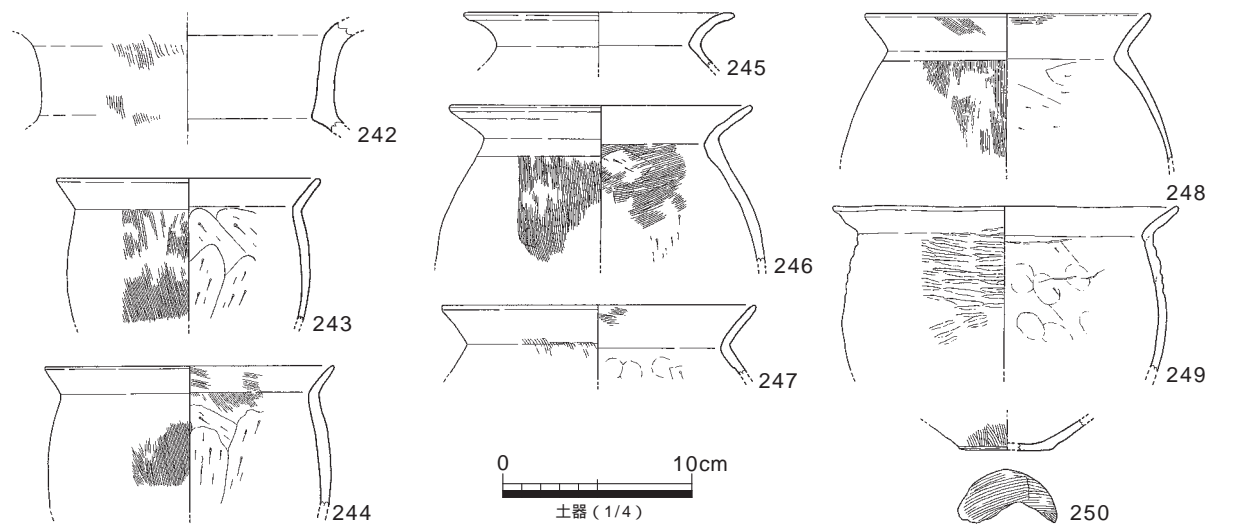
第38図 8区SH05出土遺物2



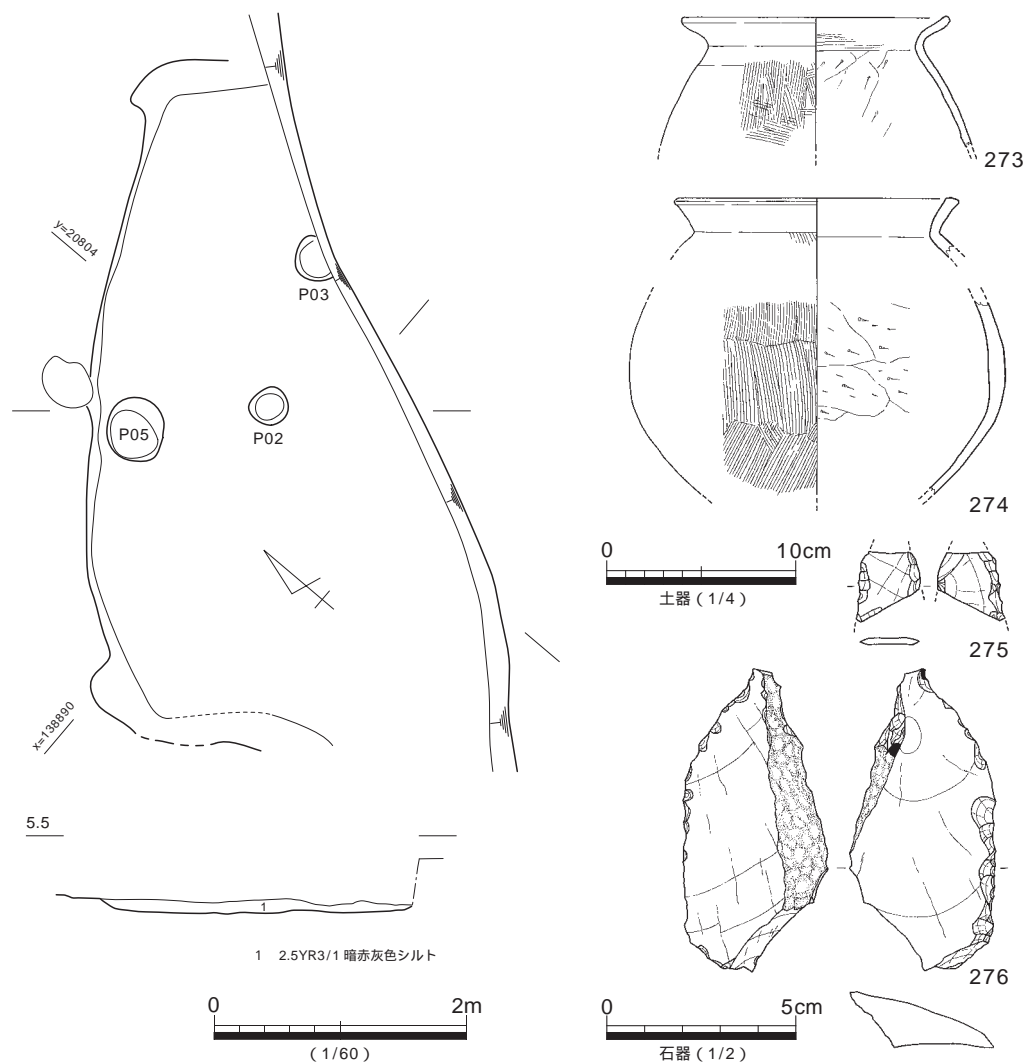
第41図 8区 SH07 出土遺物2



- 1 N3/0 暗灰色シルト 白色細礫含む
- 2 7.5Y6/1 灰色シルト 白色細礫含む



第40図 8区 SH07 平・断面図、出土遺物1



第43図 8区SH18平・断面図、出土遺物

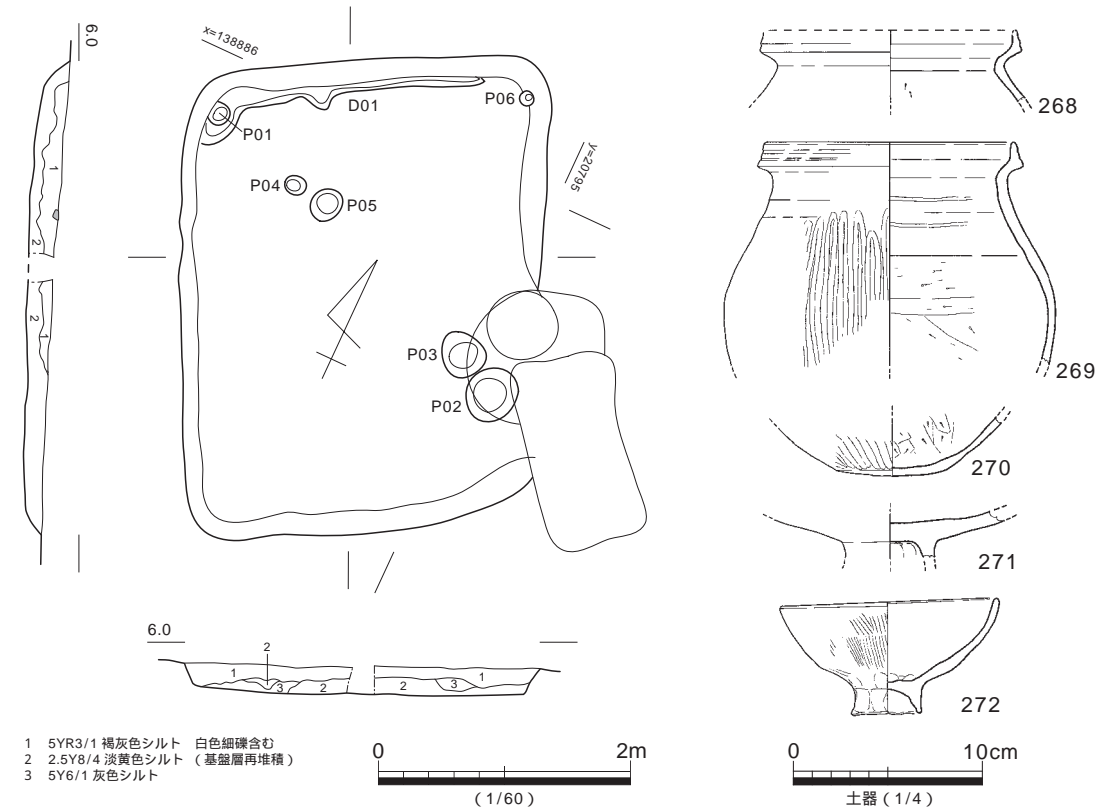
れ、深さ及び配置から竪穴建物の一部と考えられる。281・282は、W12から出土した。また、付近のW11からは、283が出土している。

12区SH01 (B5,B6) (第46図)

削平をうけており、平面形は明確ではないが、方形になるものと考えられる。支柱穴は4穴である。中央のSK01は、形態から考えてベッド状遺構の内側と考えられる。土器284～291は、埋土から出土した。292はベッド状遺構の内側から、293はSK02から出土した。後期後半新段階頃の時期が考えられる。

12区SH02 (8区SH01) (B6) (第47～49図)

8区と12区で年度が異なって調査を実施した。ベッド状遺構、壁溝、柱穴5を検出した。また中央から南に延びる溝は排水溝と考えられる。土器294～299は、埋土から出土した。299は良く焼けており、



第42図 8区SH13平・断面図、出土遺物

8区SH13 (C6) (第42図)

2.9m x 3.8mの小規模な遺構である。北側に壁溝状の遺構がある。竪穴建物としては小さく、ベッド状遺構の内側だけを検出した可能性もあるが、支柱穴、中央土坑も無く、建物かどうかは不明である。土器268～271は埋土から、272はD01・P01から出土した。建物は後期後半の時期が考えられる。

8区SH18 (C7) (第43図)

平面形が方形の建物である。内部の施設は不明である。出土土器は273・274で、建物の時期は終末期頃が考えられる。石鏃275、スクレイパー276が出土している。

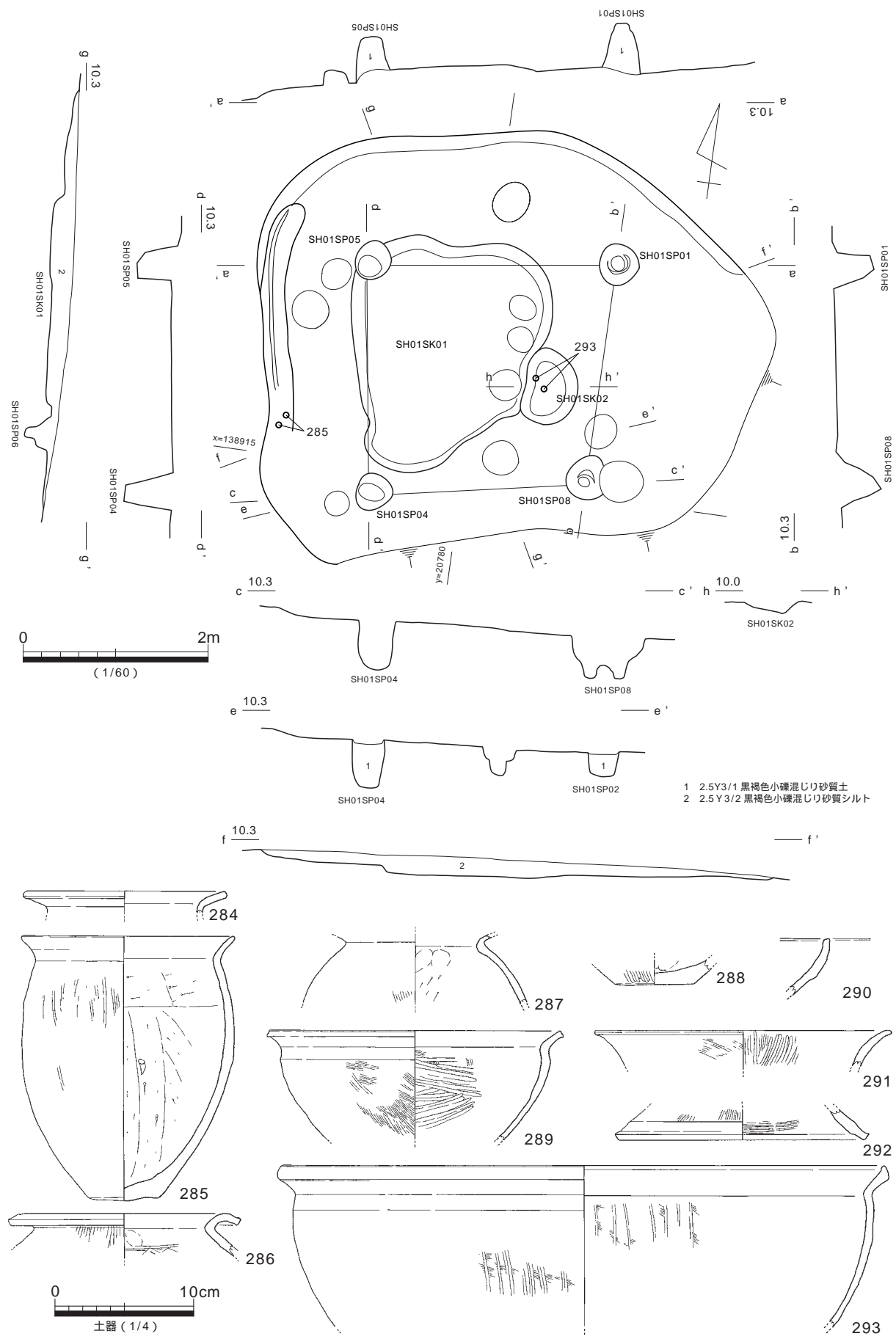
8区SH19 (C6) (第44図)

大部分が流失しているが、平面形が円形の竪穴建物と考えられる。壁溝と支柱穴2が確認された。壁溝は一部蛇行しているところがあり、張り出しをもつ建物の可能性がある。

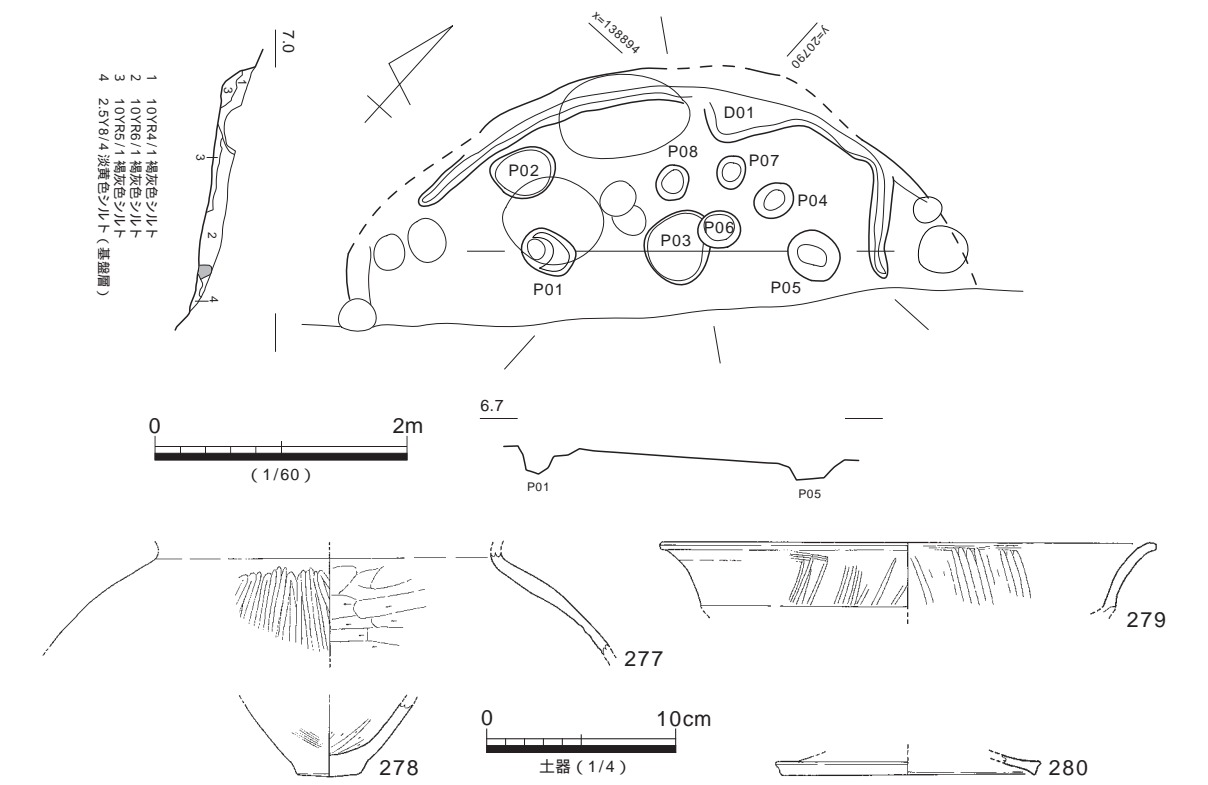
出土土器は、277～280である。279から建物の時期は、後期前半新段階頃と考えられる。280は須恵器高坏で、混入品と考えられる。

8区SH20 (B6) (第45図)

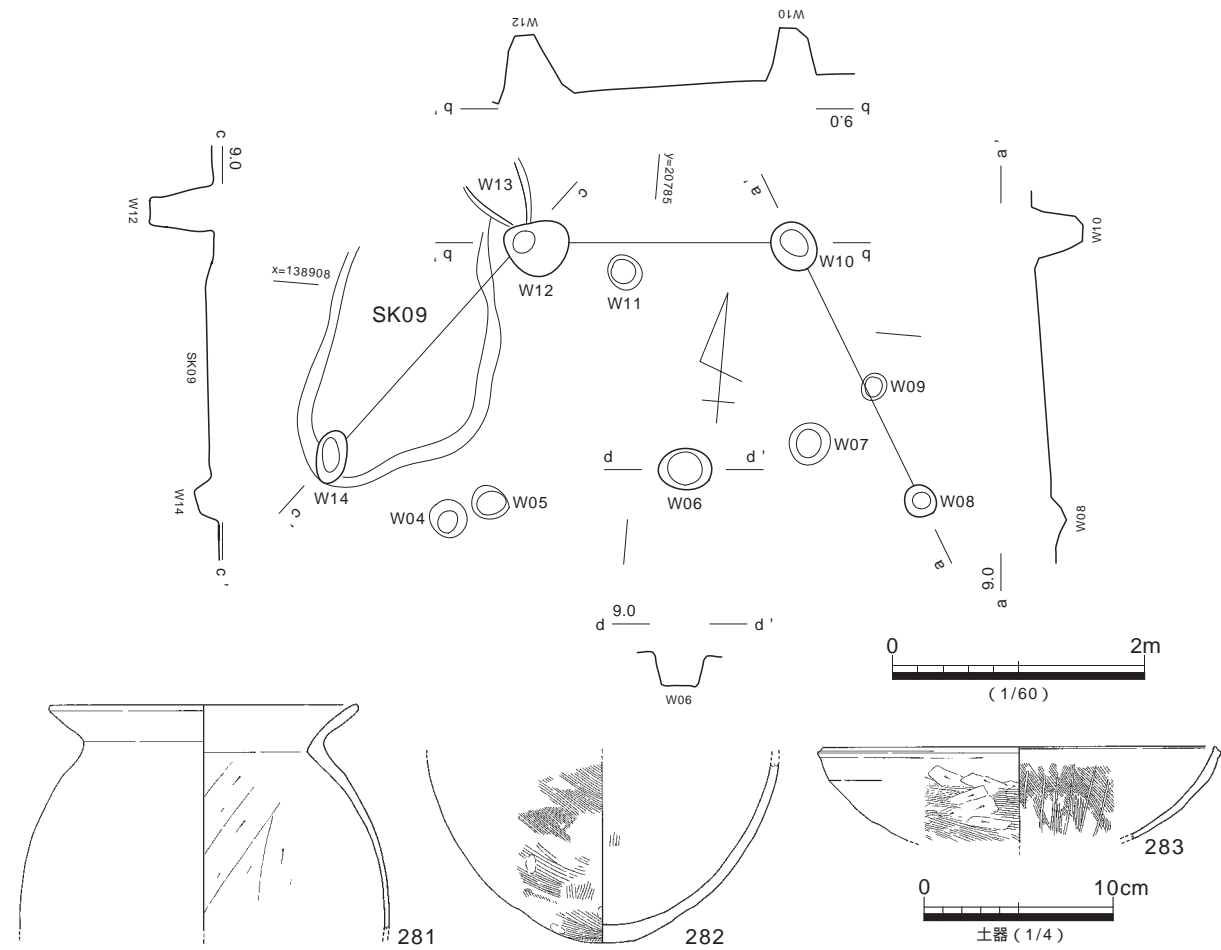
一部の柱穴のみの検出であるが、大きい破片の弥生土器が出土しているから、弥生時代の遺構と考え



第46図 12区 SH01 平・断面図、出土遺物

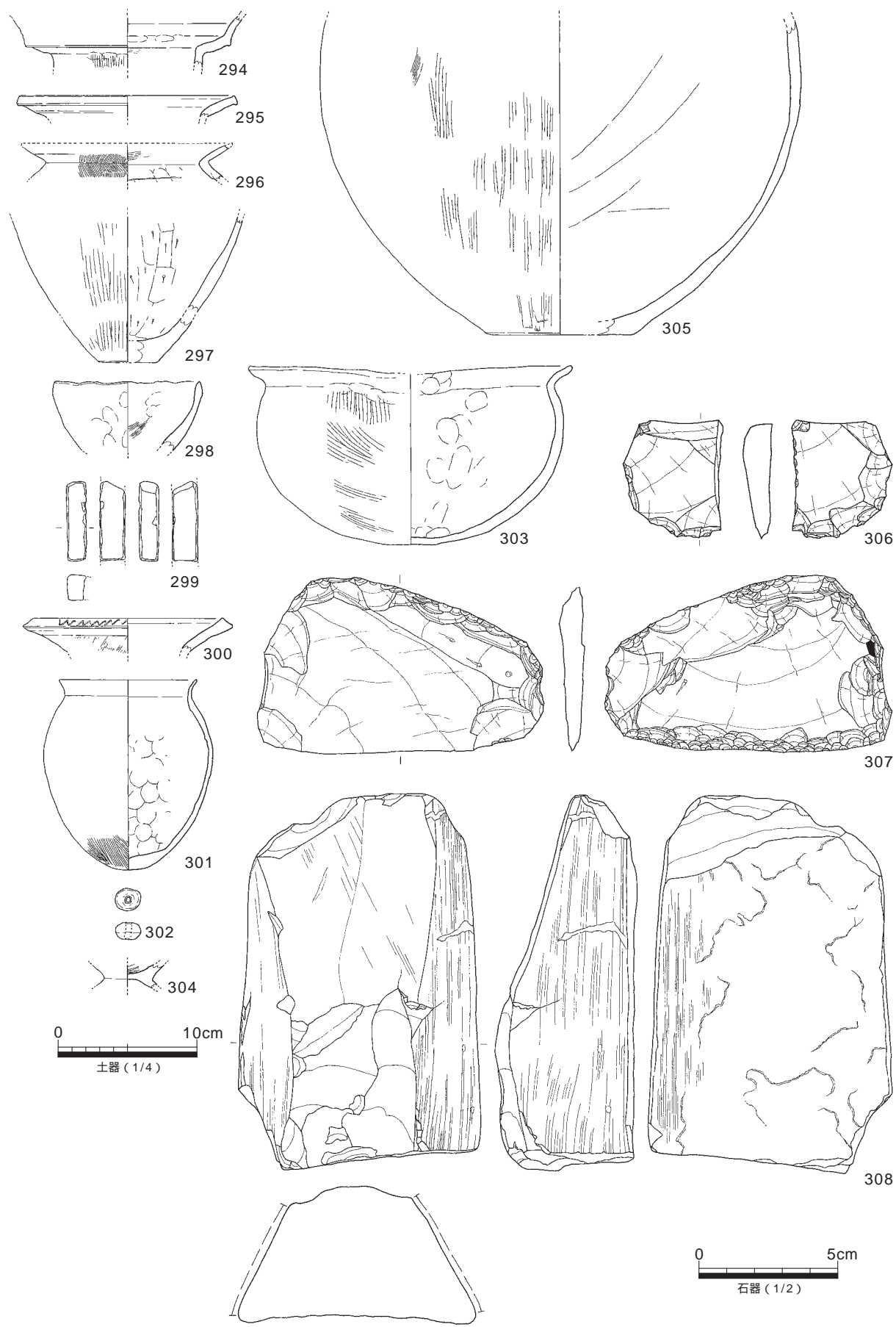


第44図 8区 SH19 平・断面図、出土遺物

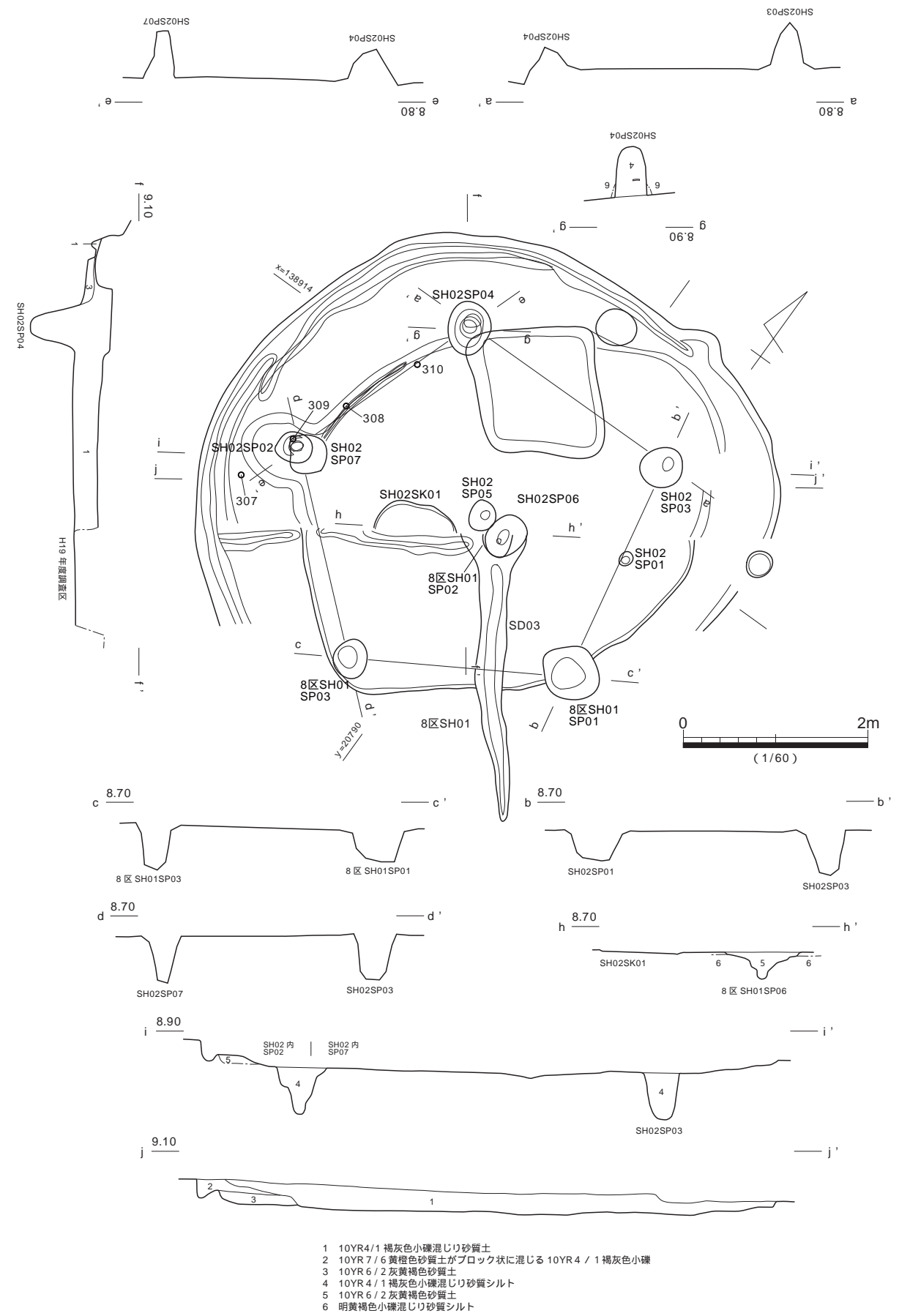


第45図 8区 SH20 平・断面図、出土遺物



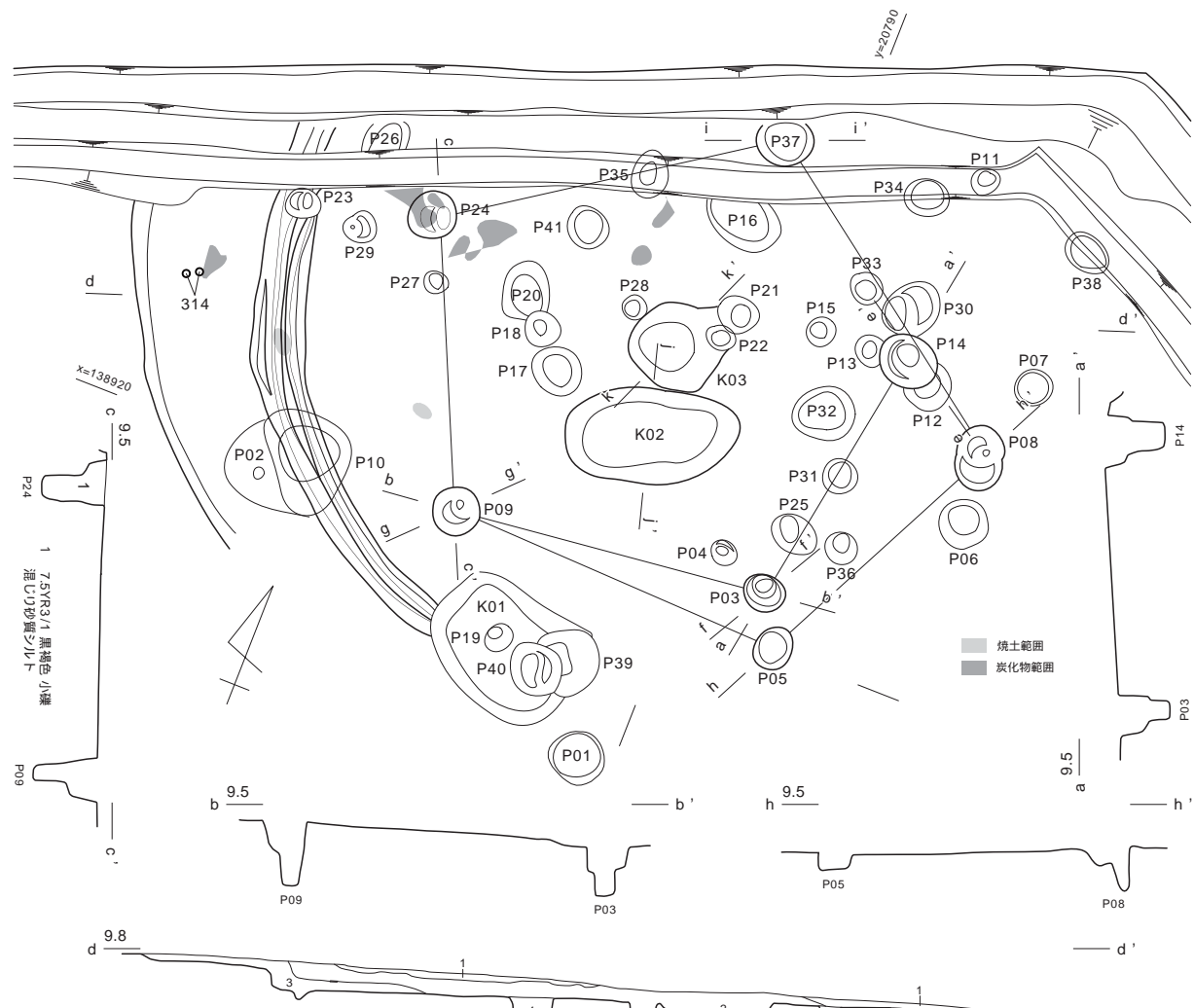


第48図 12区SH02出土遺物1

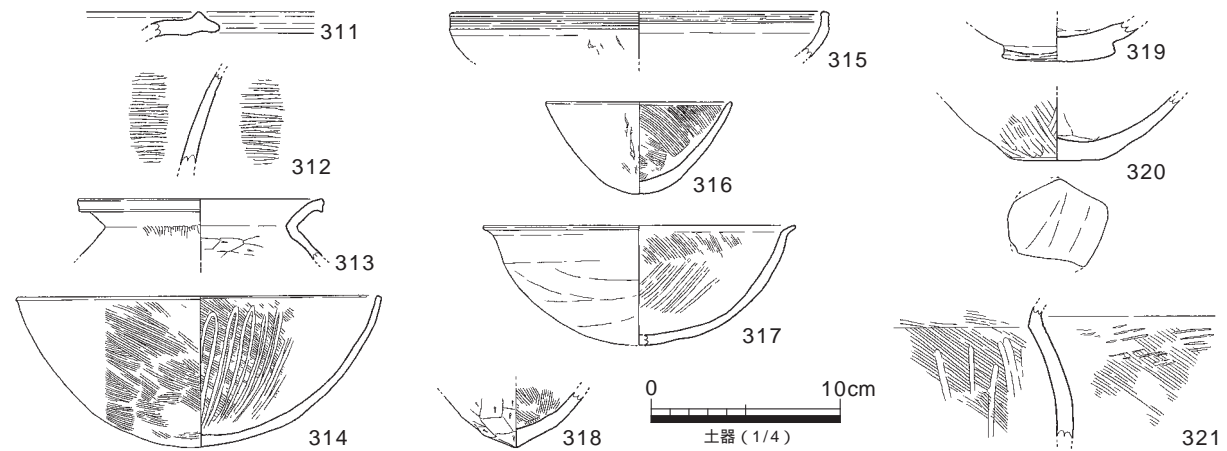
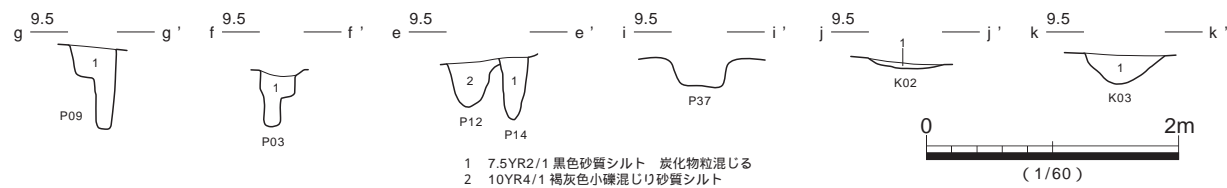


第47図 12区SH02平・断面図

- 1 10YR4/1 褐灰色小礫混じり砂質土
- 2 10YR7/6 黄橙色砂質土がブロック状に混じる10YR4/1 褐灰色小礫
- 3 10YR6/2 灰黄褐色砂質土
- 4 10YR4/1 褐灰色小礫混じり砂質シルト
- 5 10YR6/2 灰黄褐色砂質土
- 6 明黄褐色小礫混じり砂質シルト



- 1 7.5YR4/4 褐色砂質シルト 斜面に堆積した包含層
- 2 7.5YR2/1 黒色砂質シルト 炭化物を多量に含む
- 3 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト
- 4 10YR5/1 褐灰色小礫混じり砂質シルト



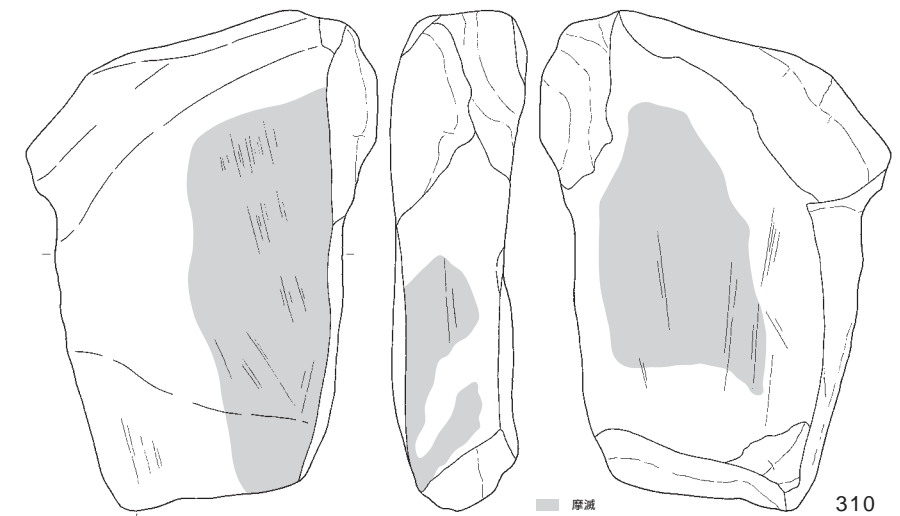
第50図 12区SH03平・断面図、出土遺物1



309

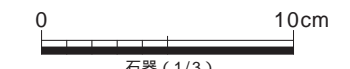


石器 (1/2)



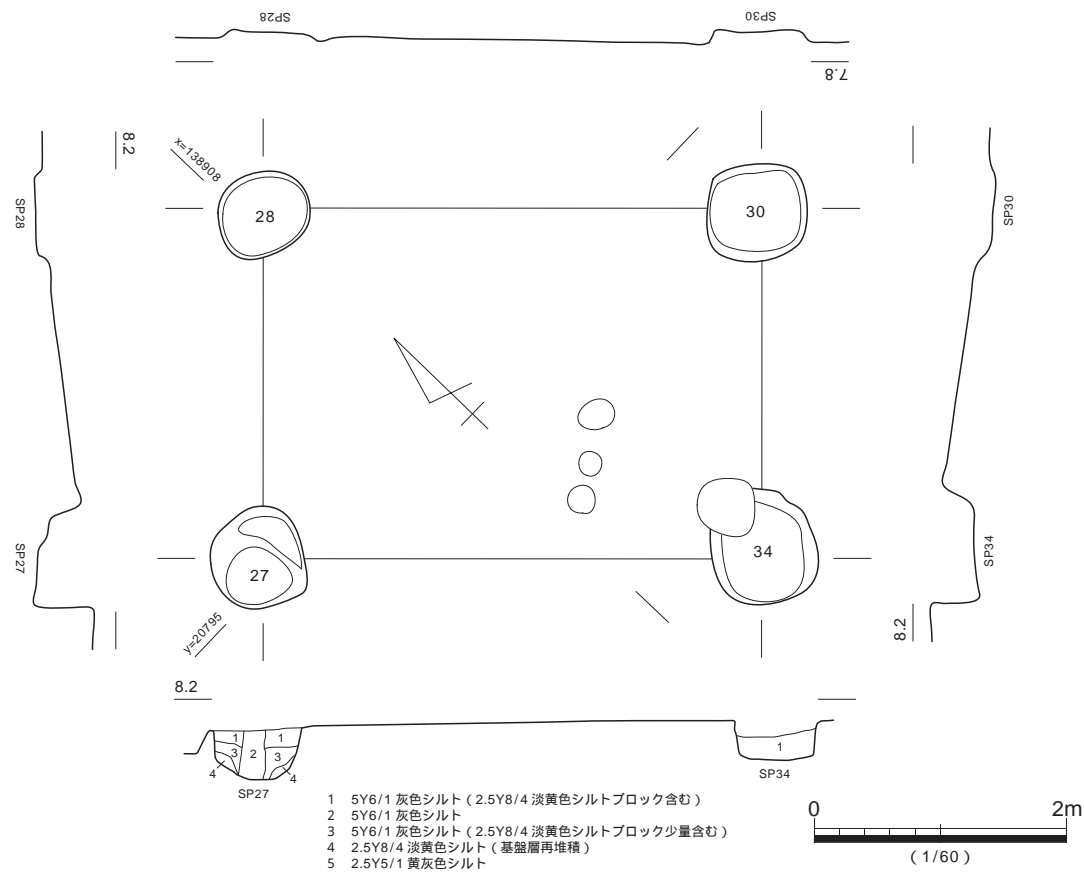
310

■ 摩滅

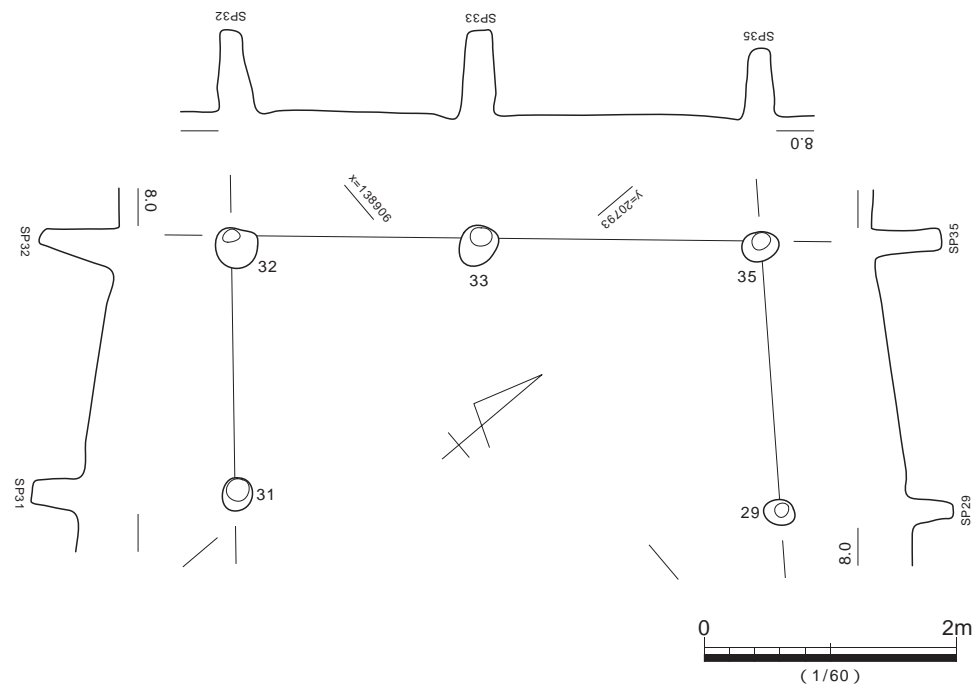


石器 (1/3)

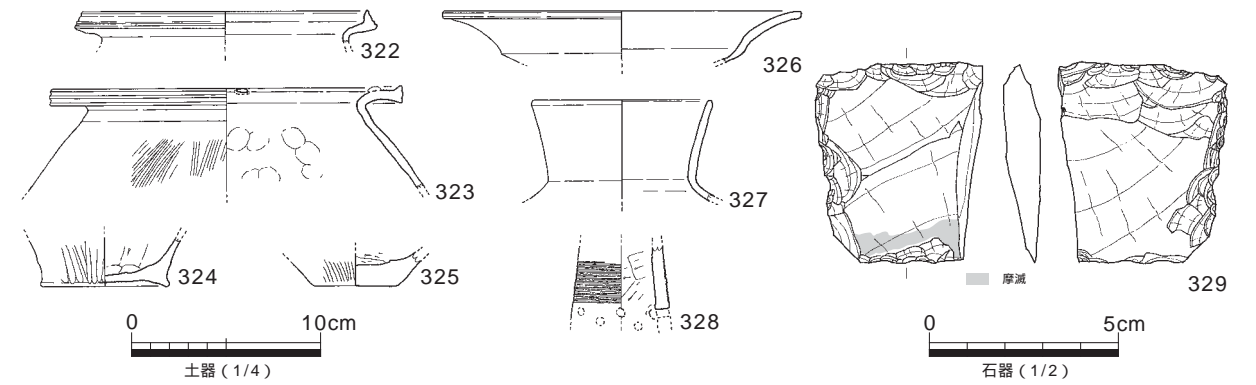
第49図 12区SH02出土遺物2



第52図 8区SB02平・断面図



第53図 8区SB03平・断面図



第51図 12区SH03出土遺物2

後世の焼成施設の破片である可能性もある。300～302は、ベッド状遺構の内側から出土した。303～305は、ピットから出土した。土器303は、P01の埋め戻しに伴い、埋設されたように出土した。306は、スクレイパーである。ベッド状遺構の直上から、打製石庖丁307が出土している。308～310はサヌカイト製ではない砥石で、309は柱穴埋土から、310はベッド状遺構内側の壁際の床面直上から出土した。

12区SH03 (A6, B6) (第50・51図)

平面円形の建物跡である。壁溝は2重検出された。主柱穴は、7穴確認された。本来は5主柱穴と考えられる。壁溝の西側にある浅い落ち込みは、建物跡の埋没に伴う土砂の流失により形成されたものと考えられる。

土器は311～321が埋土から、322～326はピットから出土した。312は、内外とも赤彩されている。327・328は、K03から出土した。後期後半から終末期頃の時期が考えられる。打製石庖丁329が出土している。

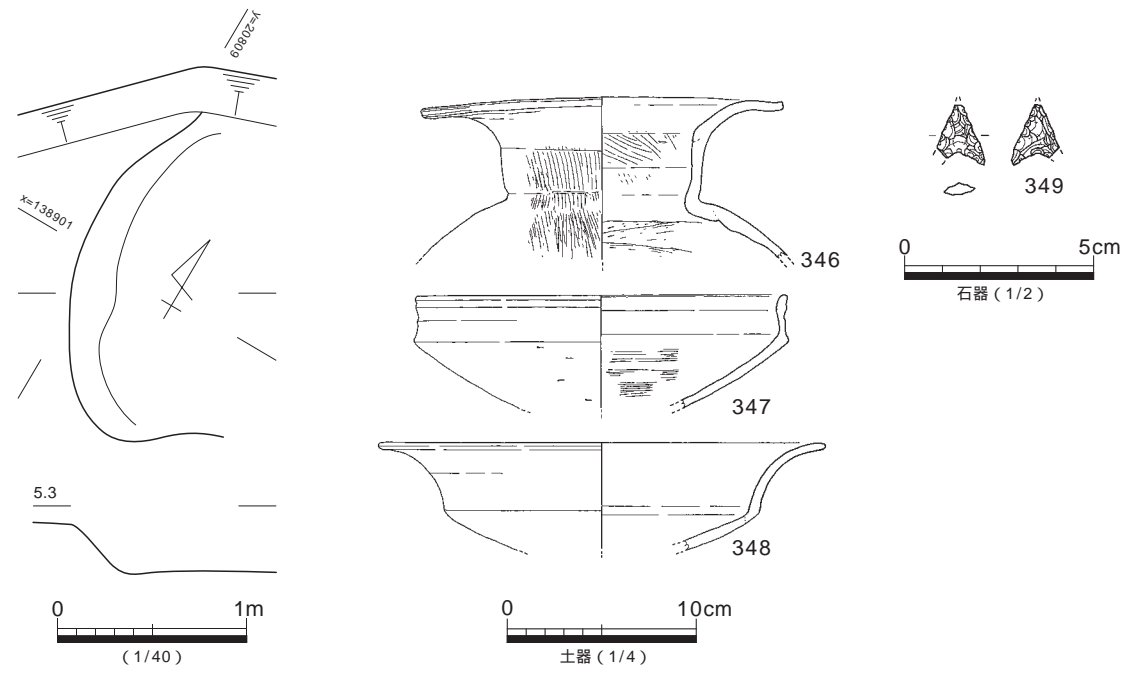
掘立柱建物

8区SB02 (B6) (第52図)

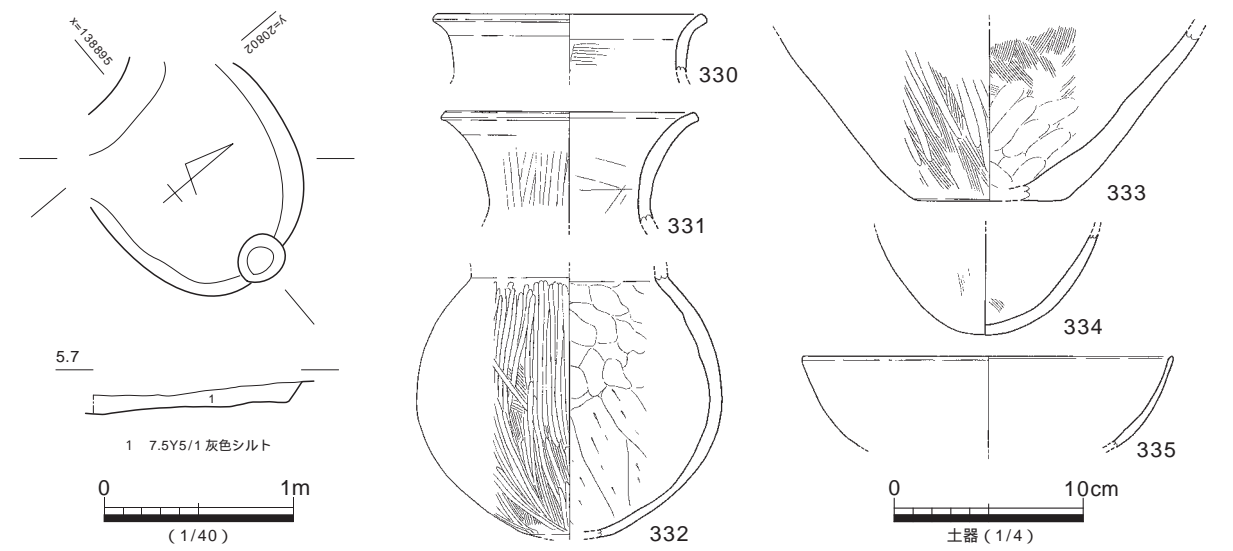
柱穴埋土からは、弥生土器小片しか出土していないが、規模が1間×1間で、柱穴間の距離が比較的大きいこと、弥生時代後期～終末期の竪穴建物と重複せず、グループを構成するような位置にあることから、弥生時代後期～終末期の時期と考える。桁行3.9m、梁行2.8mで、主軸方位はN44°Wである。

8区SB03 (B6) (第53図)

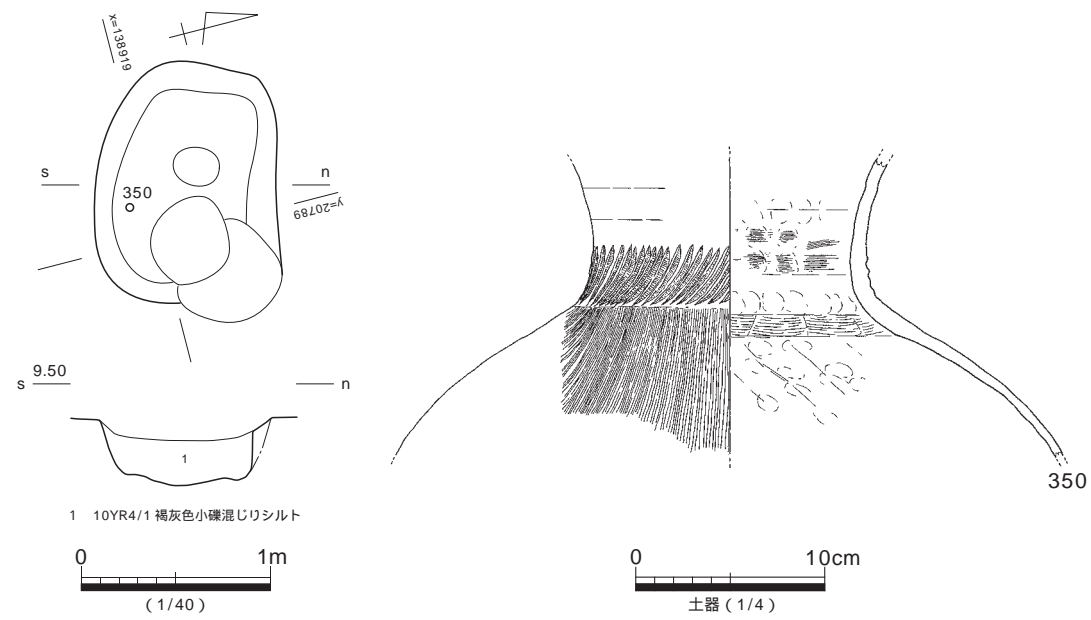
柱穴埋土からは、弥生土器小片しか出土していないが、柱穴間の距離が比較的大きいこと、弥生時代後期～終末期の竪穴建物と重複せず、グループを構成するような位置にあることから、弥生時代後期～終末期の時期と考える。なお、SB02とは重複する。規模は1間×2間で、桁行4.25m、梁行2.0mで、主軸方位はN40°Wである。



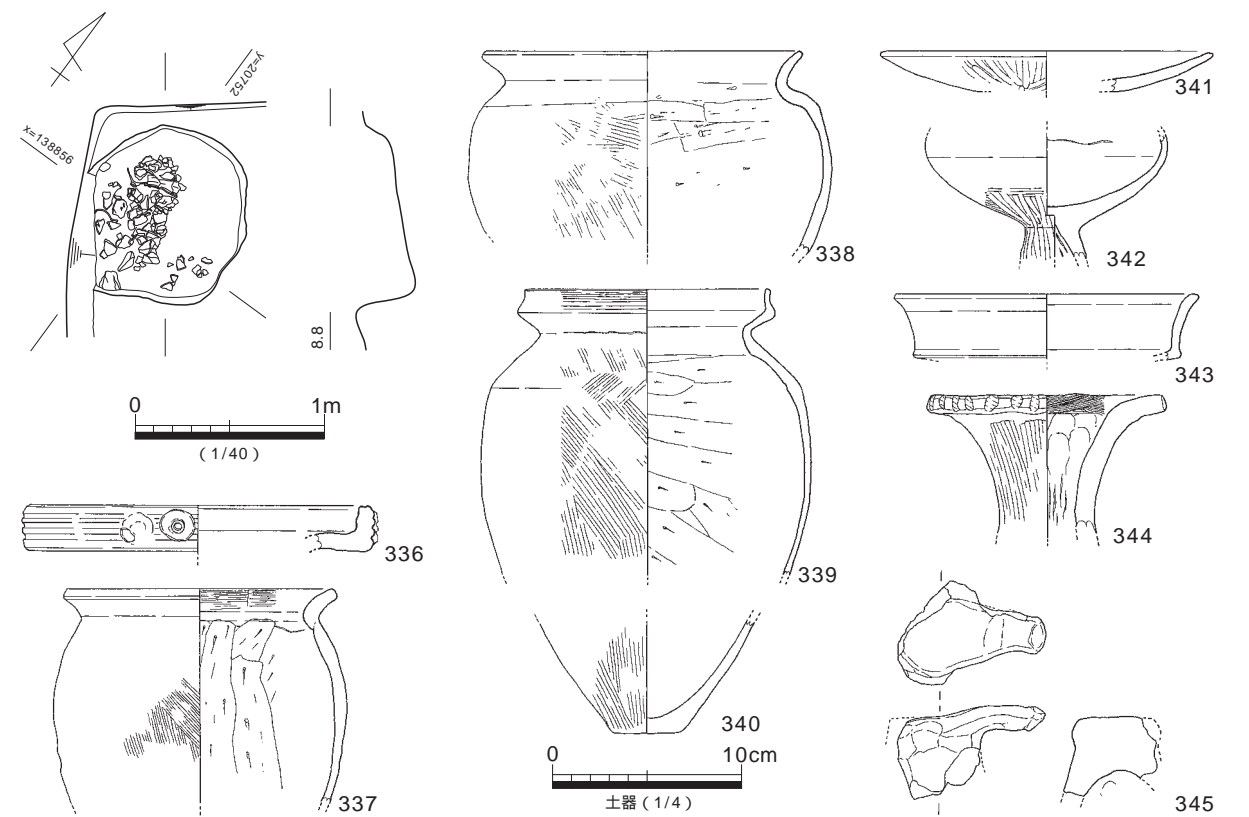
第56図 10区東SK01平・断面図、出土遺物



第54図 8区SK02平・断面図、出土遺物



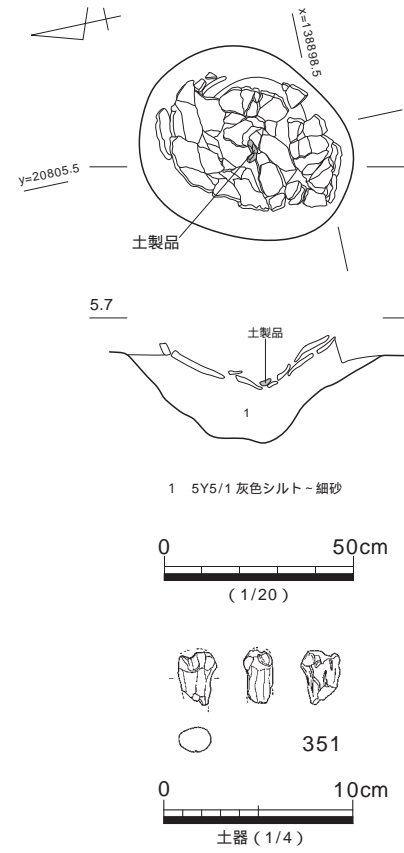
第57図 12区SH03SK01平・断面図、出土遺物



第55図 10区SK01平・断面図、出土遺物



第59図 4区南端土器溜り平面図



第58図 8区SP59平・断面図、出土遺物

土坑

8区SK02 (C7) (第54図)

竪穴建物SH02より新しい。土器330～335が出土している。球胴化の進んだ壺があることから古墳時代前期頃の時期が考えられる。

10区SK01 (E4) (第55図)

直径95cm前後の土坑である。土器が集中して出土している。土器336～345が出土している。341は高坏脚部の可能性がある。

10区東SK01 (B7) (第56図)

東半部は流出している。廃棄土坑と考えられる。礫、土器(346～348)、石鏃(349)が出土している。出土土器から終末期の時期と考えられる。

12区SH03SK01 (B6) (第57図)

SH03より新しい。弥生土器350が出土している。やや土坑の時期より古い遺物と考えられる。

ピット

8区SP59 (C7) (第58図)

当初縄文土器の破片がまとまって埋蔵状に出土したため、縄文時代の遺構と考えていたが、整理作業の結果、弥生土器が混じっていることが判明したため、当期の遺構と考えられる。埋蔵状とみえた土器は、破片があまり接合できず、後世の土器片の再配置の可能性があると考えられる。土器片の集中した中から、土製品351が出土している。なお、縄文土器片は、里木式の深鉢5と接合するものがある。

土器集中遺構等

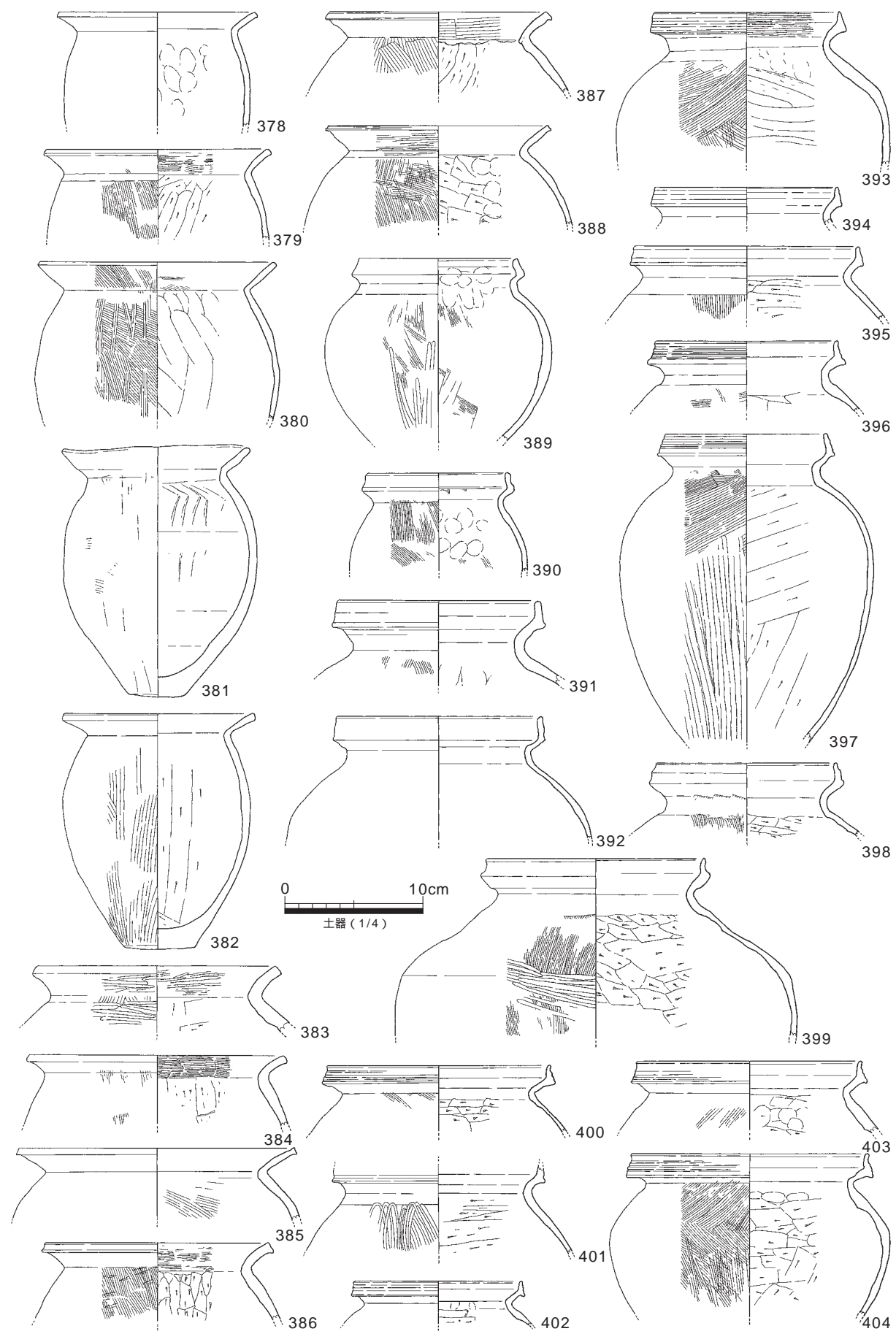
4区南端土器溜り (E4) (第59～64図)

斜面と谷底状平地の傾斜変化点付近に形成された土器溜りである。幅約0.9m、長さ約6.5mの規模である。厚さは、土器1個体分程度である。コンテナ13箱の遺物が出土している。

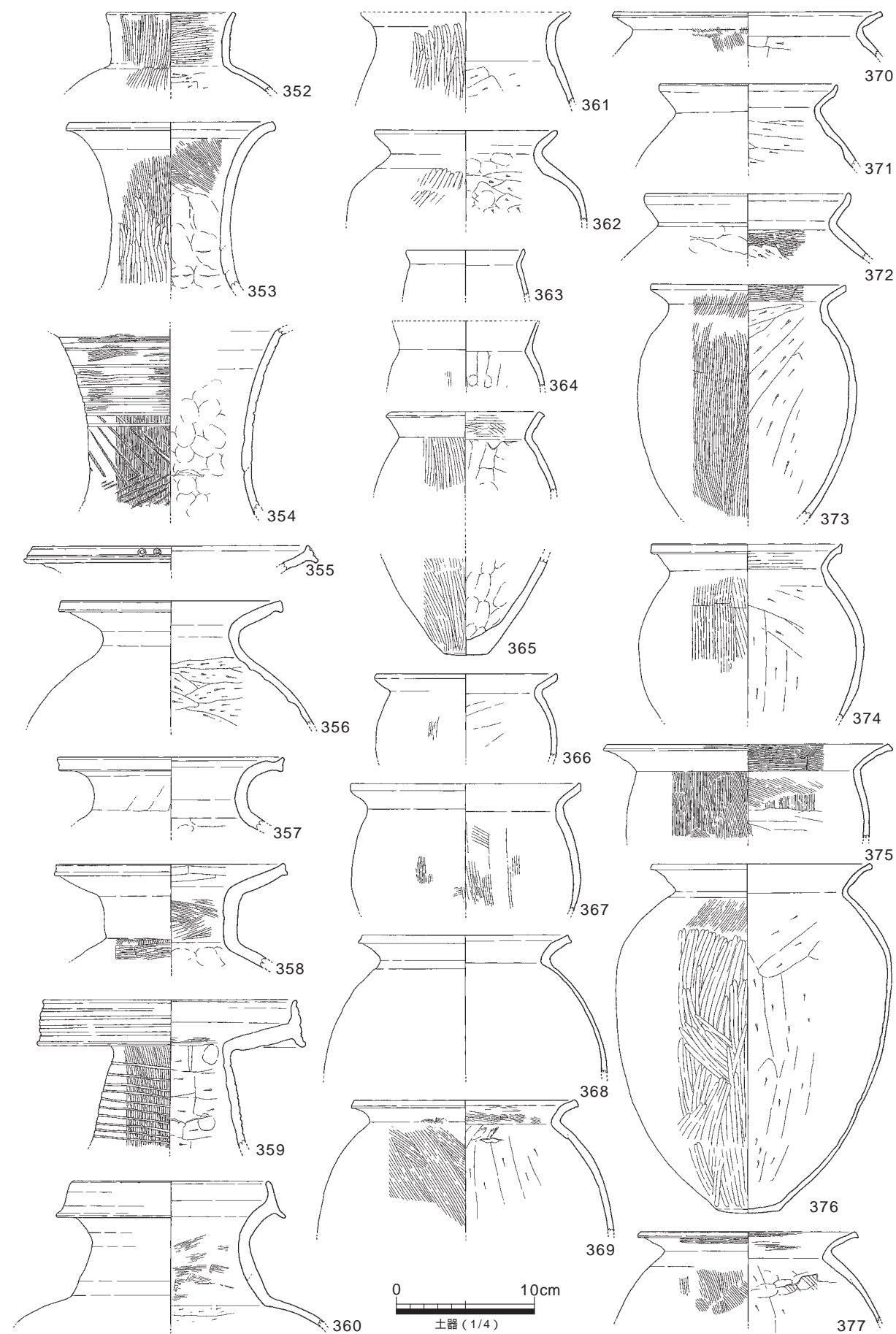
土器352～461が出土している。外来系の土器が多く出土している。359は備中系と考えられる。二重口縁の甕や鉢は、備中・備後系と考えられる。石器は、スクレイパー462、楔状石核463、結晶片岩製の石錘464、砂岩製の凹石465が出土している。甕の球胴化が進んでいないことや、台付鉢・高坏の形態から弥生時代後期新段階頃と考えられる。

10区西SX02 (E4) (第65～67図)

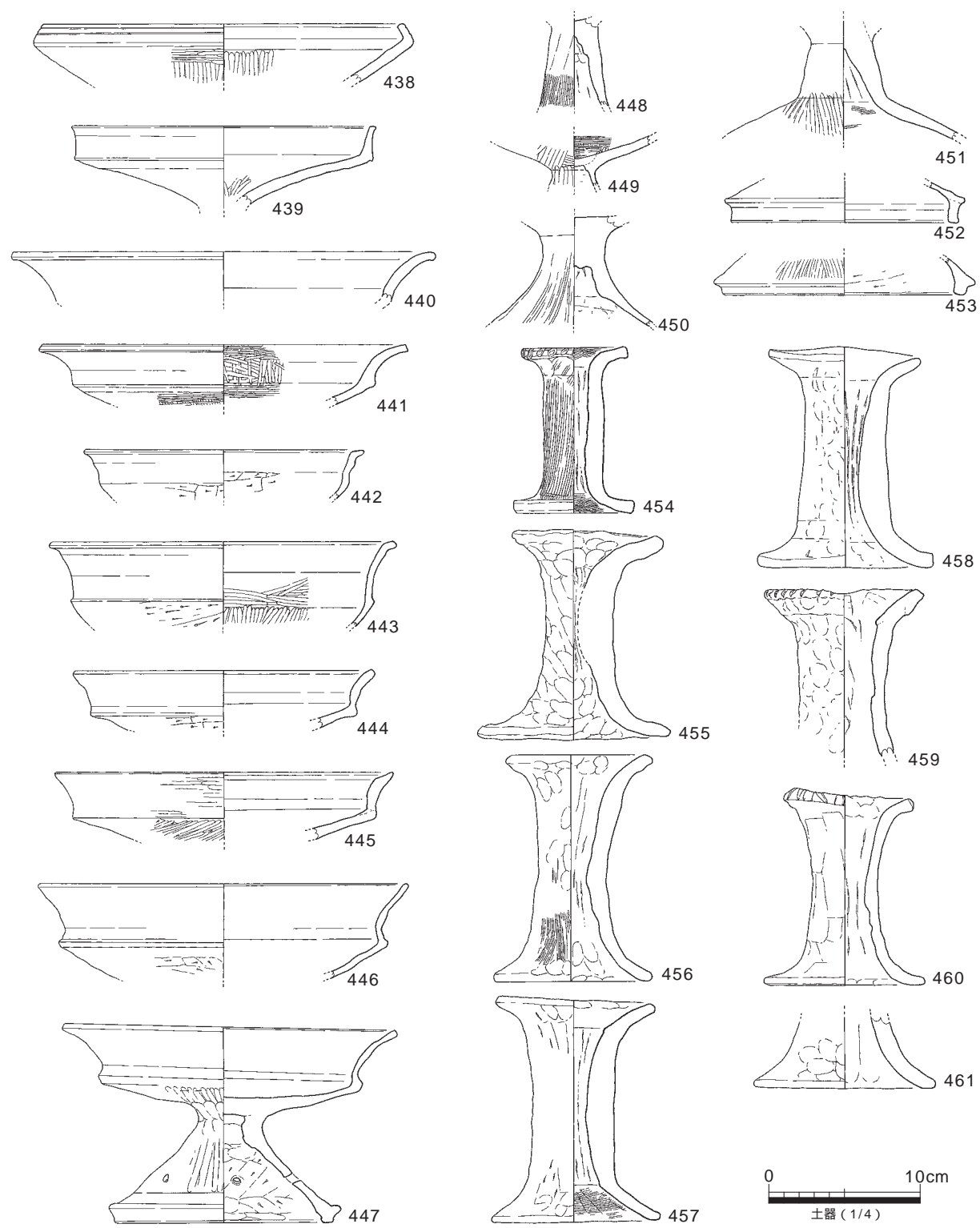
4区南端土器溜りに隣接する。浅い土坑状の落ち込みとして検出したが、遺構というよりは、4区の



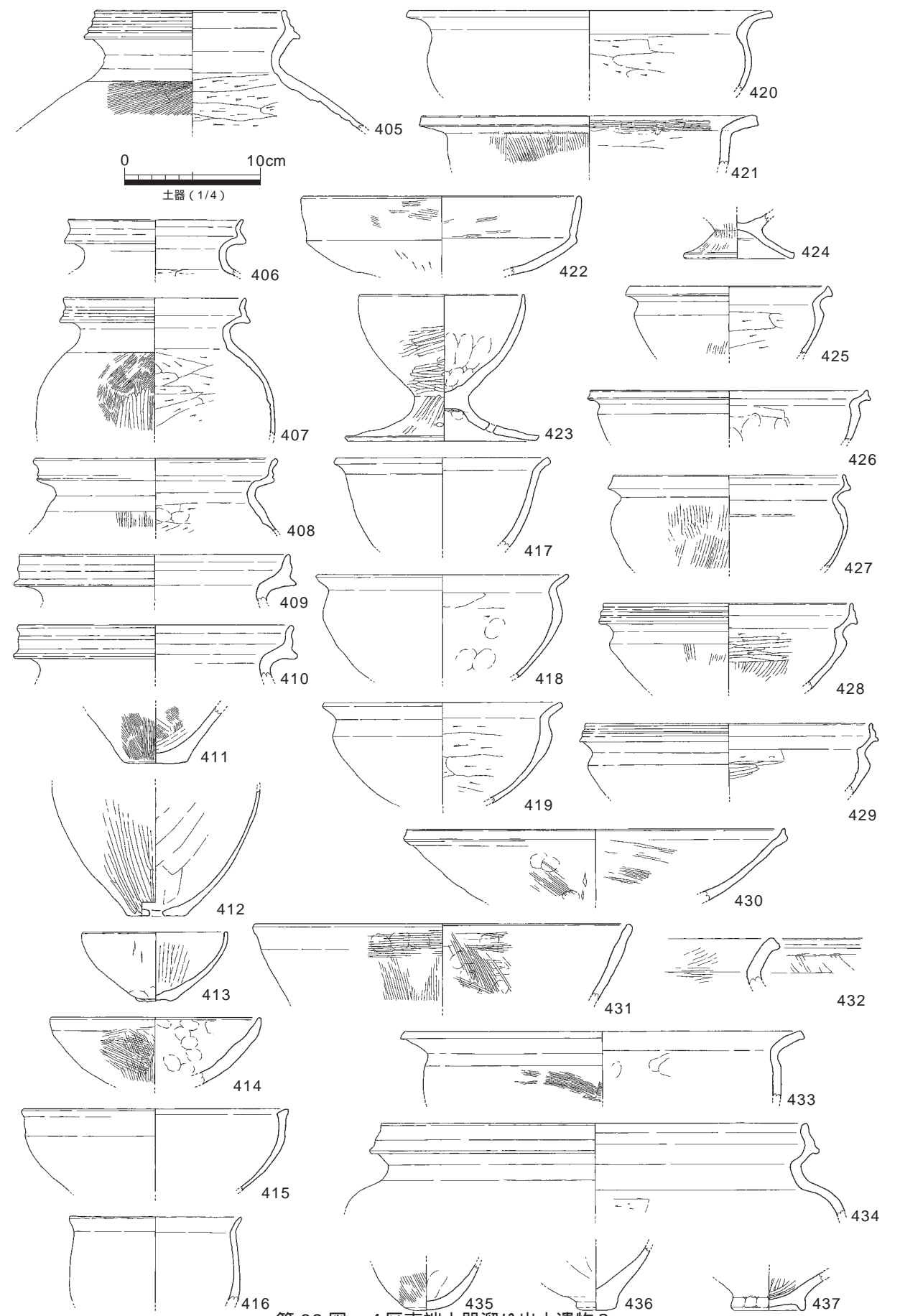
第 61 图 4 区南端土器溜り出土遺物 2



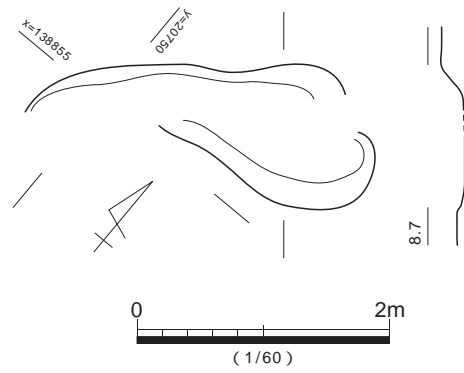
第 60 图 4 区南端土器溜り出土遺物 1



第 63 图 4 区南端土器溜り出土遺物 4



第 62 图 4 区南端土器溜り出土遺物 3



第65図 10区SX02平・断面図

土器溜と同一として考えられる。1点飯蛸壺が混入しているが、他は弥生時代後期頃の土器である(466~500)。502は、敲石である。

12区SX01(A6)(第68~71図)

SH03に近接する不定形の落ち込みである。SH03の範囲を推定すると、SX01とは重複しないものと考えられる。埋土から多量の土器や礫が出土しており、廃棄土坑のような性格と考えられる。

土器503~571は、上層出土土器である。571は、製塩土器である。572~576は、下層出土土器である。一部古墳時代前期のものも含むと考えられる。577は、石鏃である。578は、結晶片岩製の石棒状の石器である。579は、砂岩製の砥石である。580は、ハリ質安山岩の敲石と考えられる。

溝跡

8区SD02・12区SD03(B6)(第72~74図)

溝底は、北から南へ下がる。8区SH04より新しい。埋土から多量の土器及び人頭大の礫が出土している。

土器581~620が出土している。弥生時代終末期頃の時期が考えられる。621・622は製塩土器である。

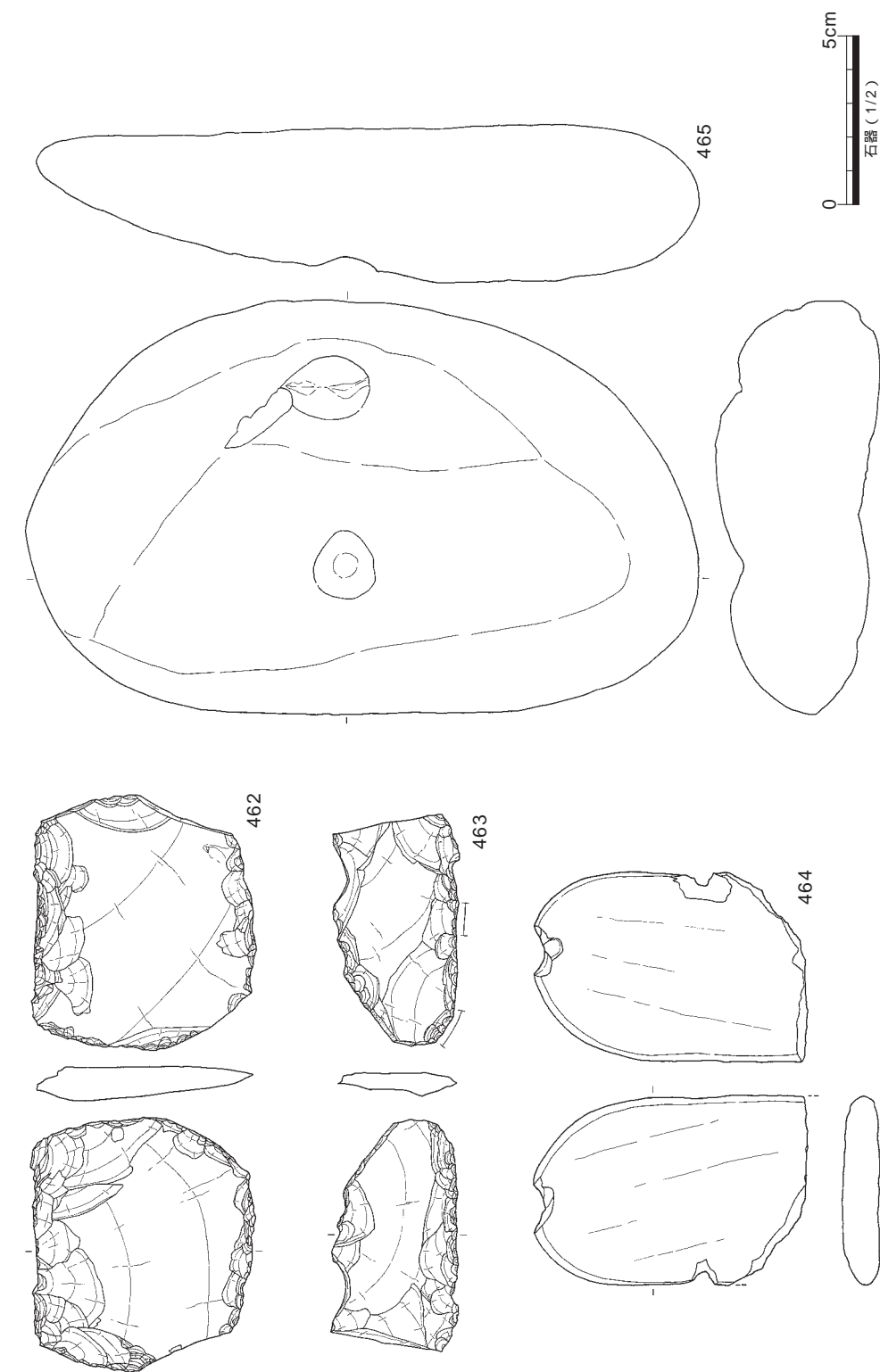
623は、SD02との新旧関係は明らかではないが、溝と重なって検出された8区SP25(12区SP11)から据えられた状態で出土した土器である。SD02出土土器と同じ時期と考えられる。

10区西SD04(E4)(第75図)

調査時は、10区SH02としていたが、竪穴建物としての掘り方がはっきりしないこと、SD04の範囲に土器や礫の出土範囲が納まることから、SD04出土土器として報告する。弥生土器624・625及び石鏃626が出土している。624から弥生時代後期後半頃と考えられる。

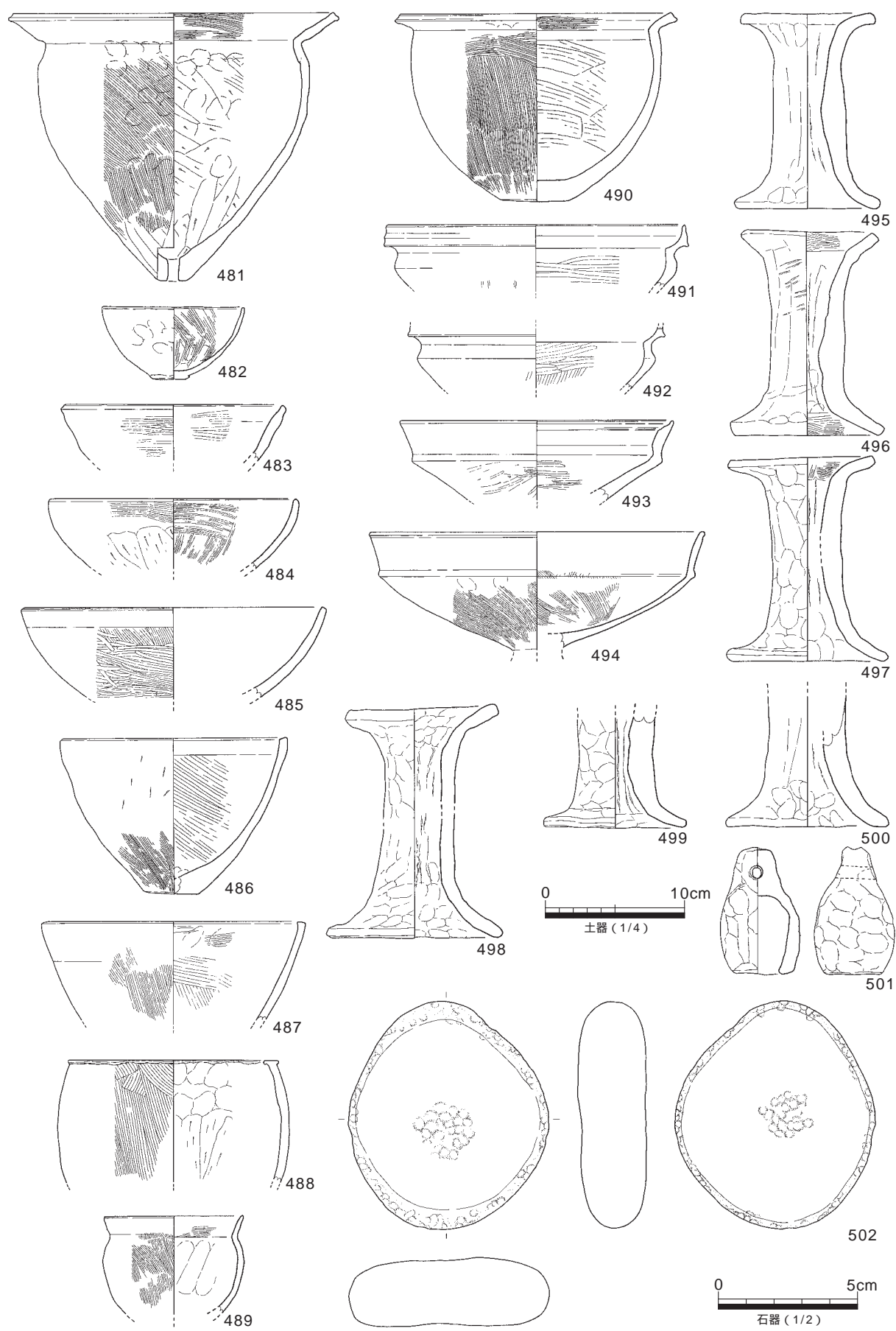
10区西SD05(E4)(第76図)

幅約1m、深さ8cm程度の溝である。埋土からは、627をはじめとする弥生土器の破片のみが少量出土している。

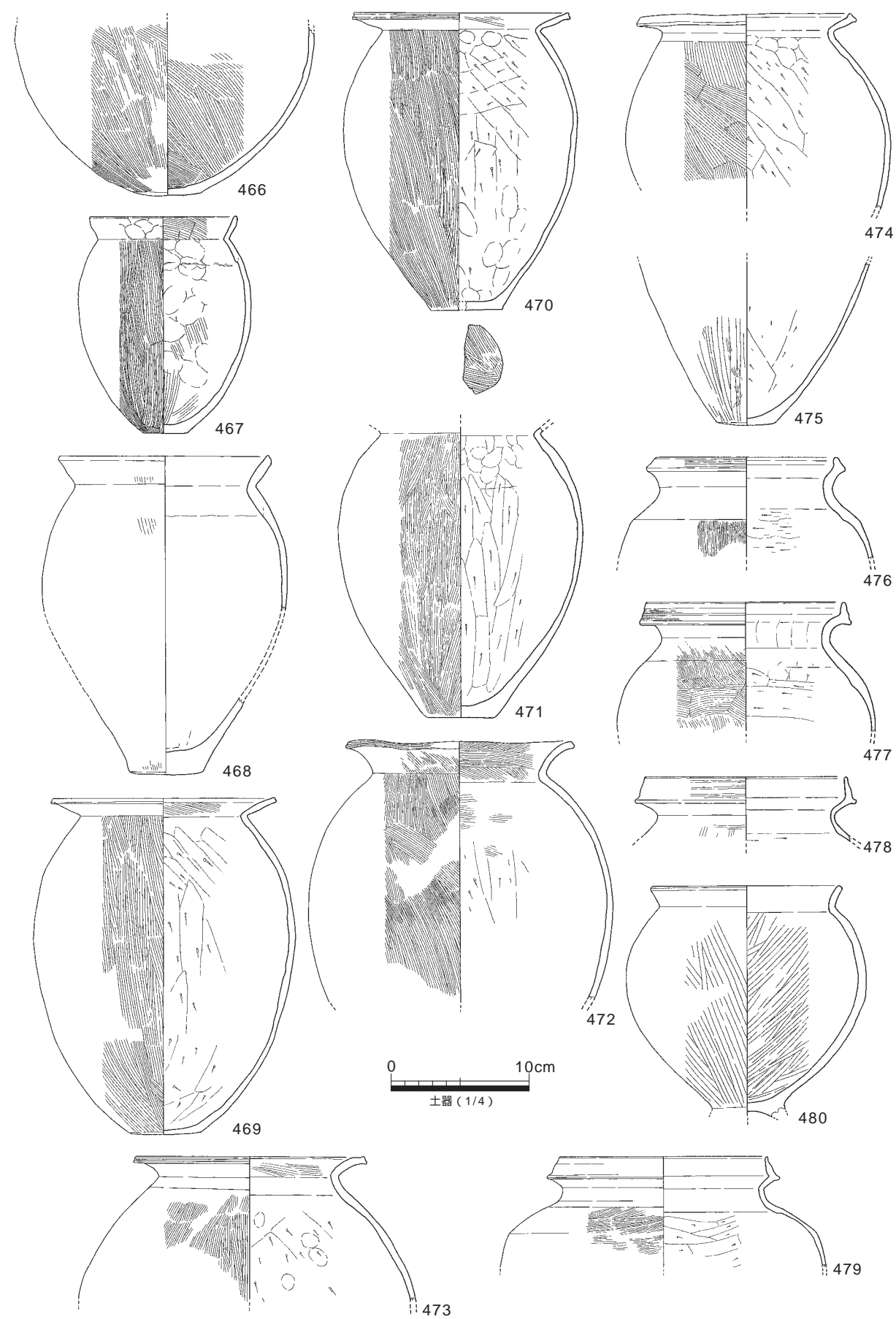


第64図 4区南端土器溜り出土遺物5

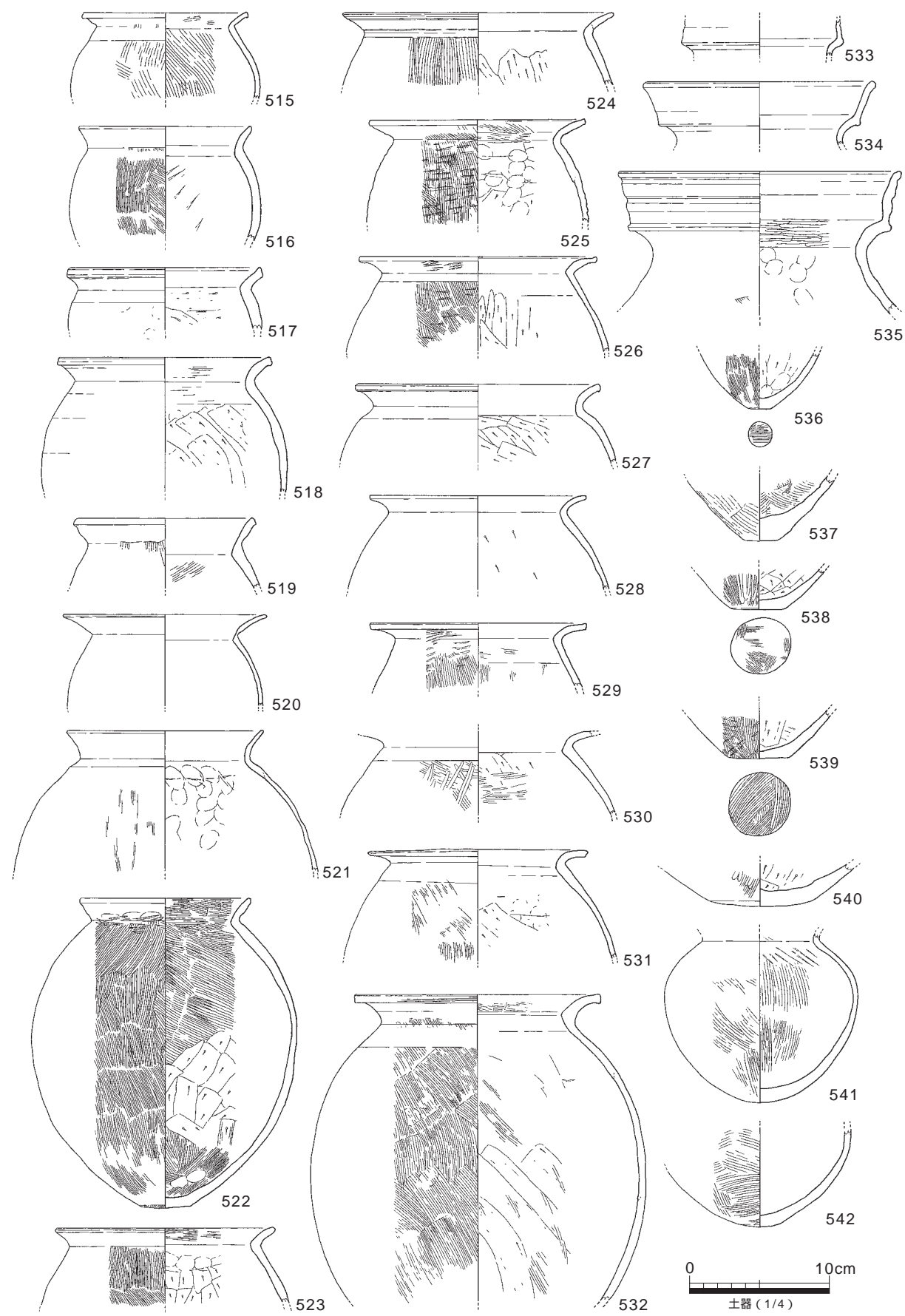




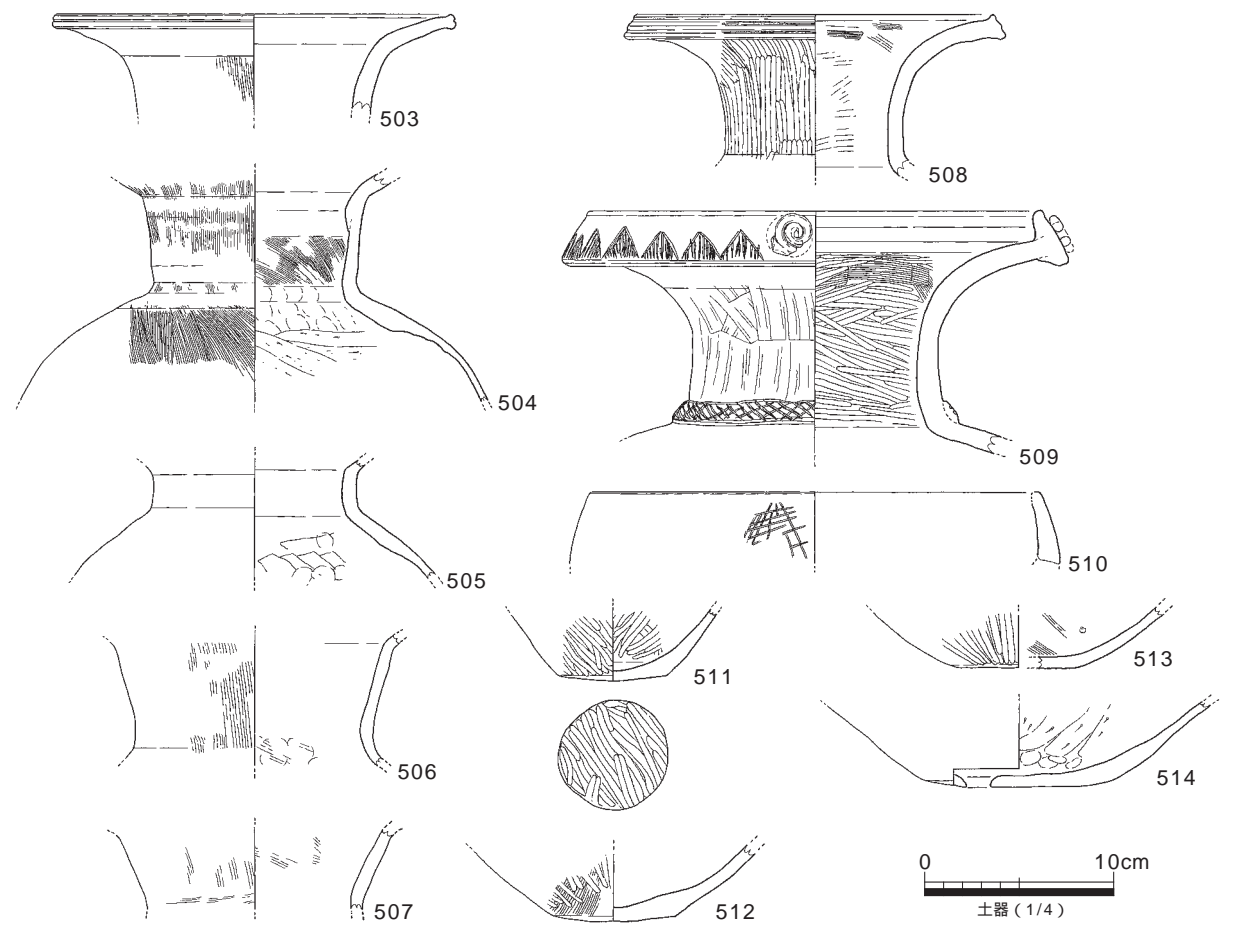
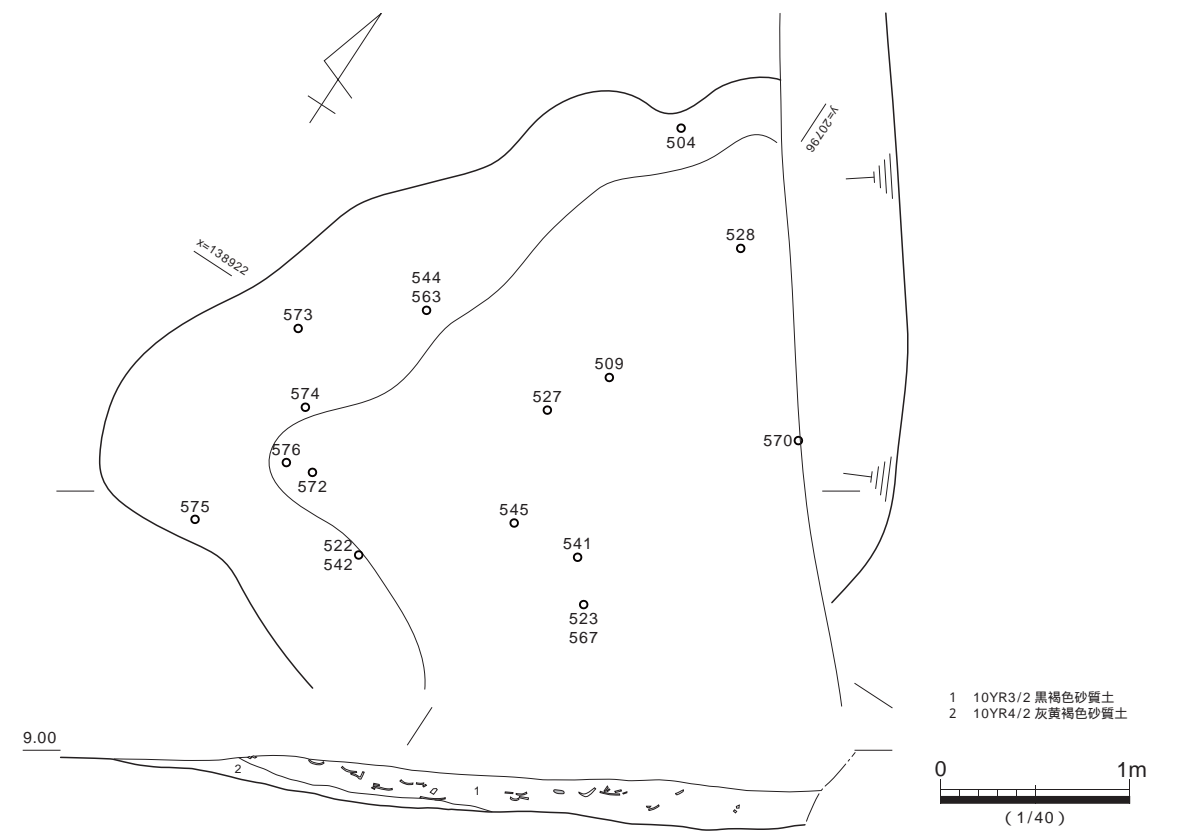
第 67 图 10 区 SX02 出土遺物 2



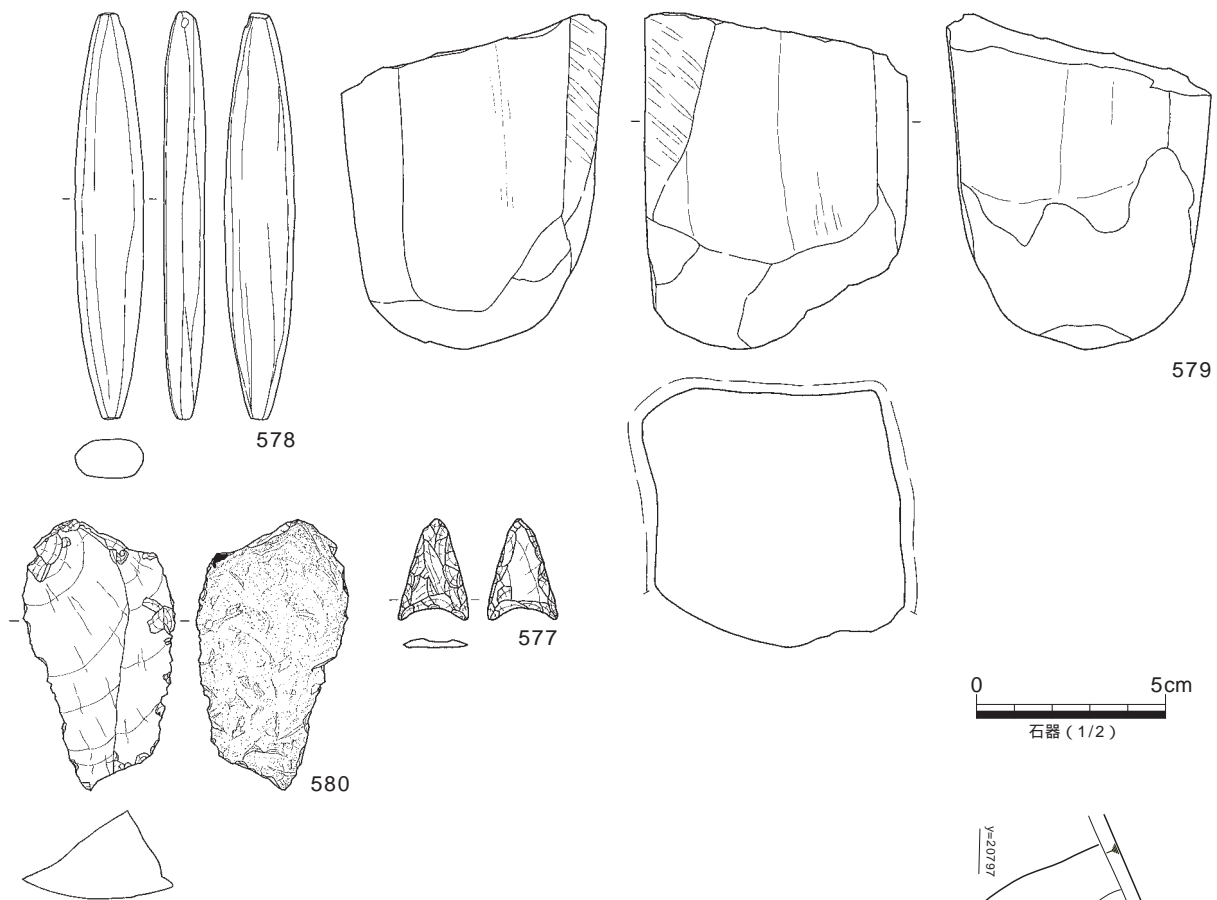
第 66 图 10 区 SX02 出土遺物 1



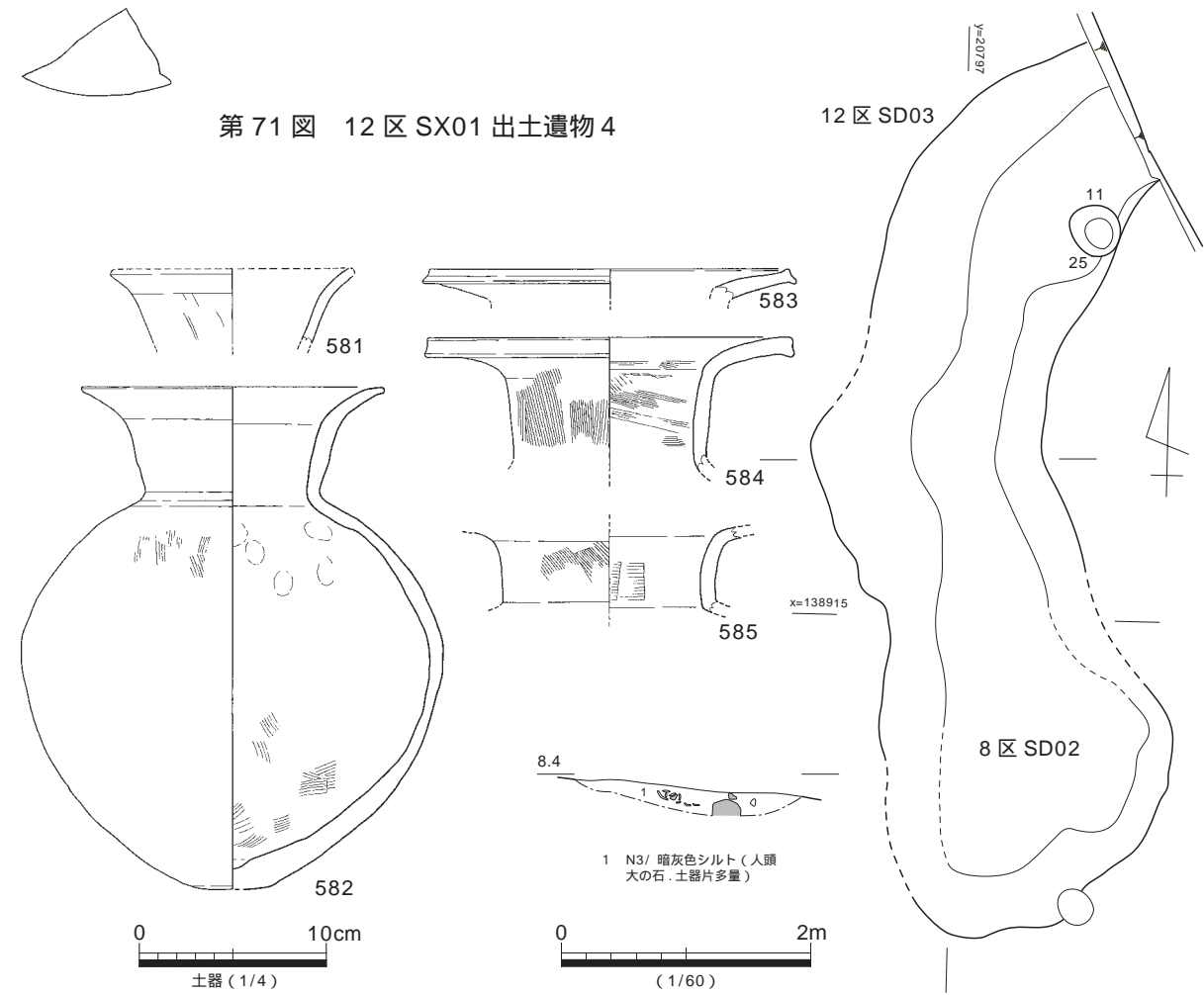
第 69 图 12 区 SX01 出土遺物 2



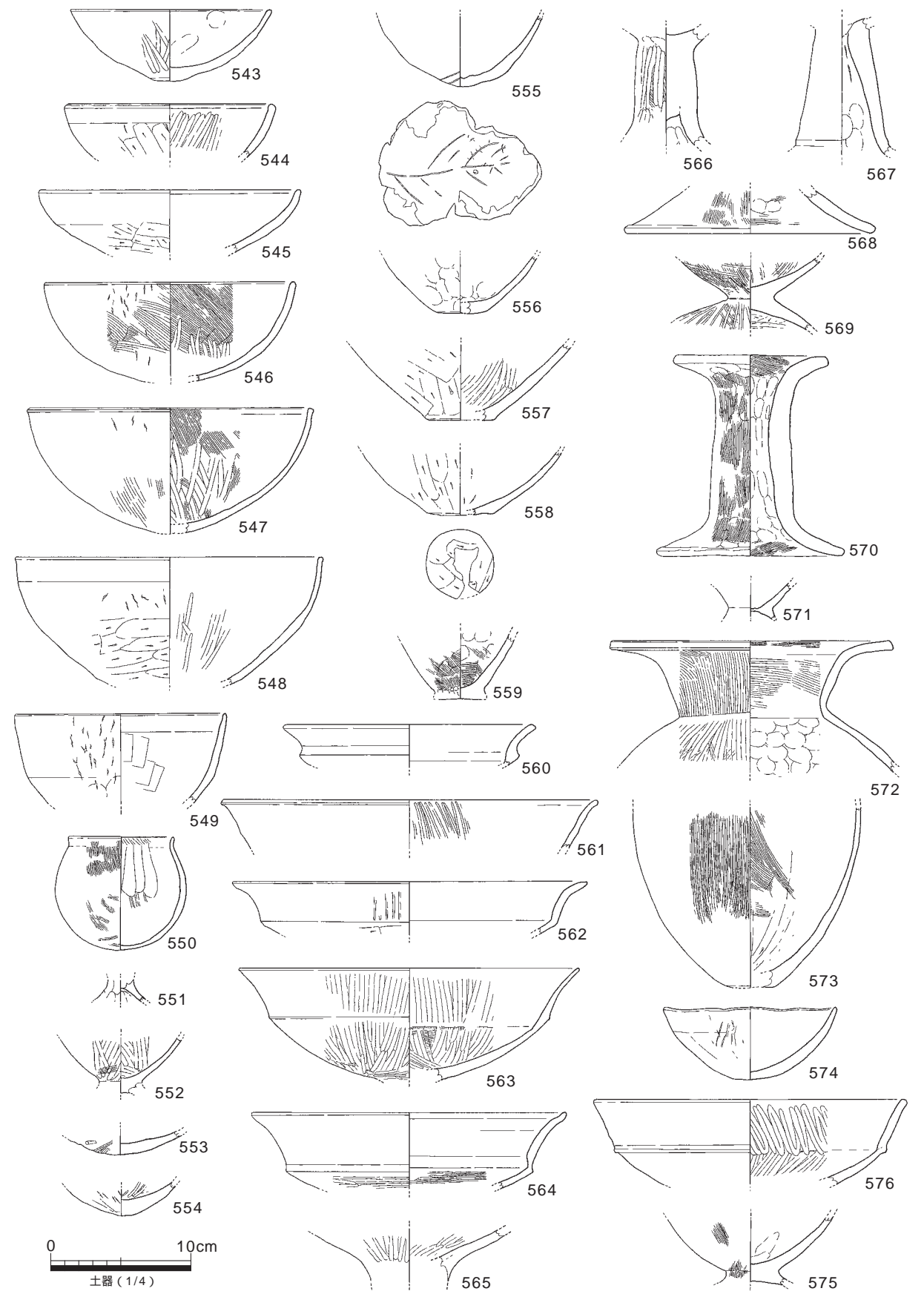
第 68 图 12 区 SX01 平·断面图、出土遺物 1



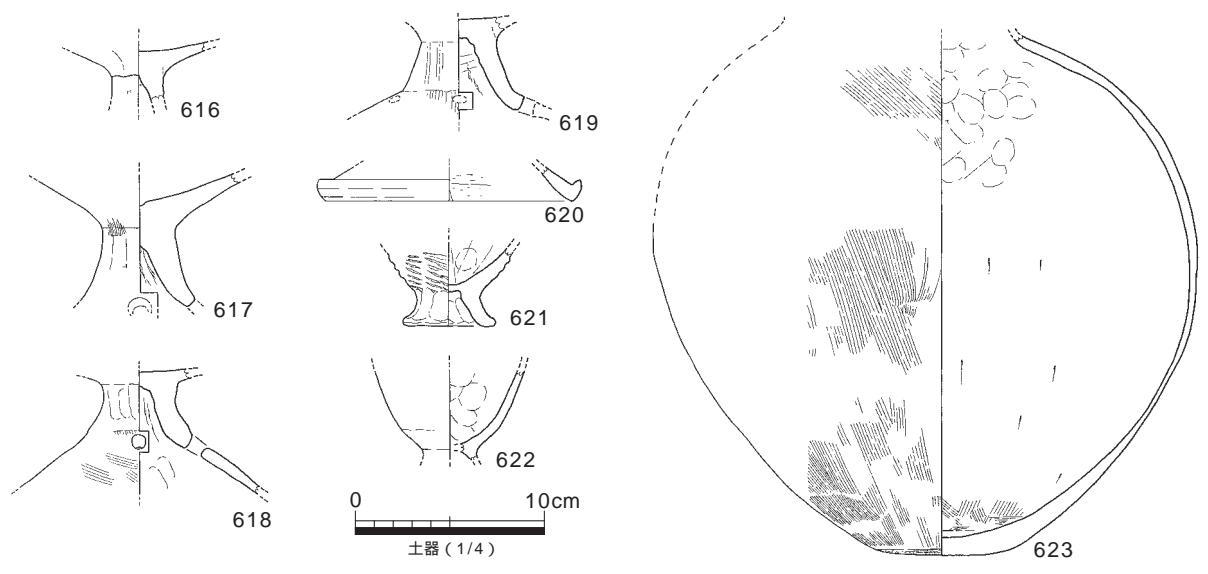
第71図 12区SX01出土遺物4



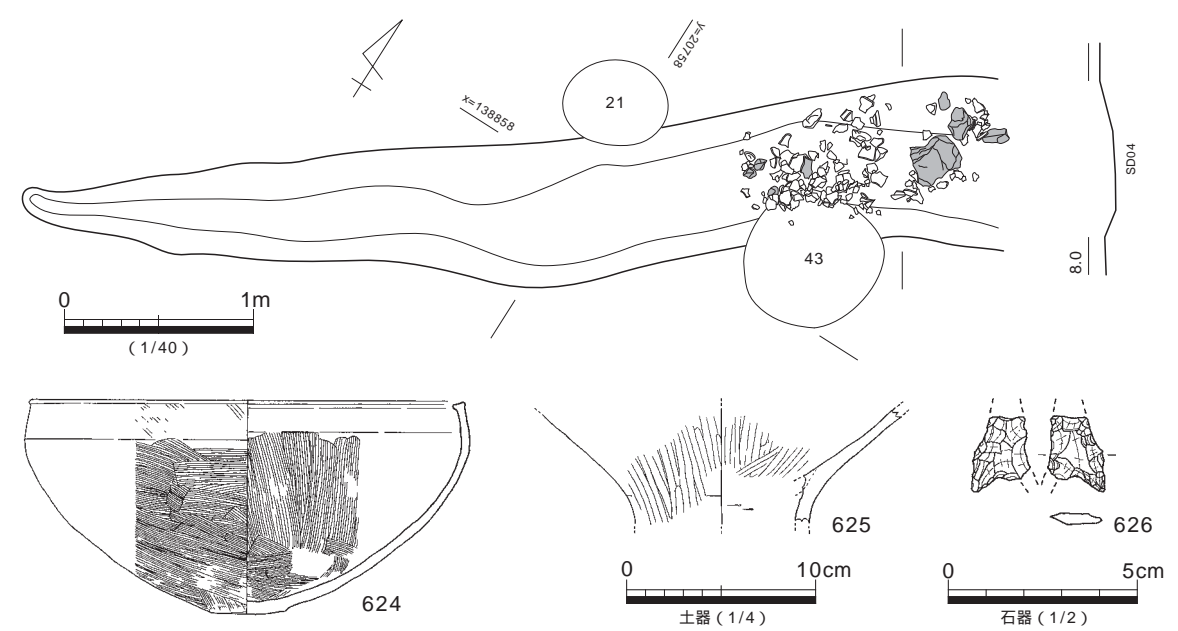
第72図 8区SD02平・断面図、出土遺物1



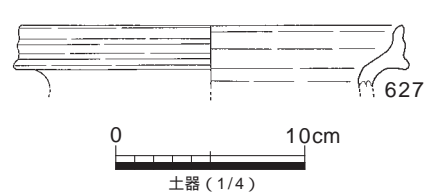
第70図 12区SX01出土遺物3



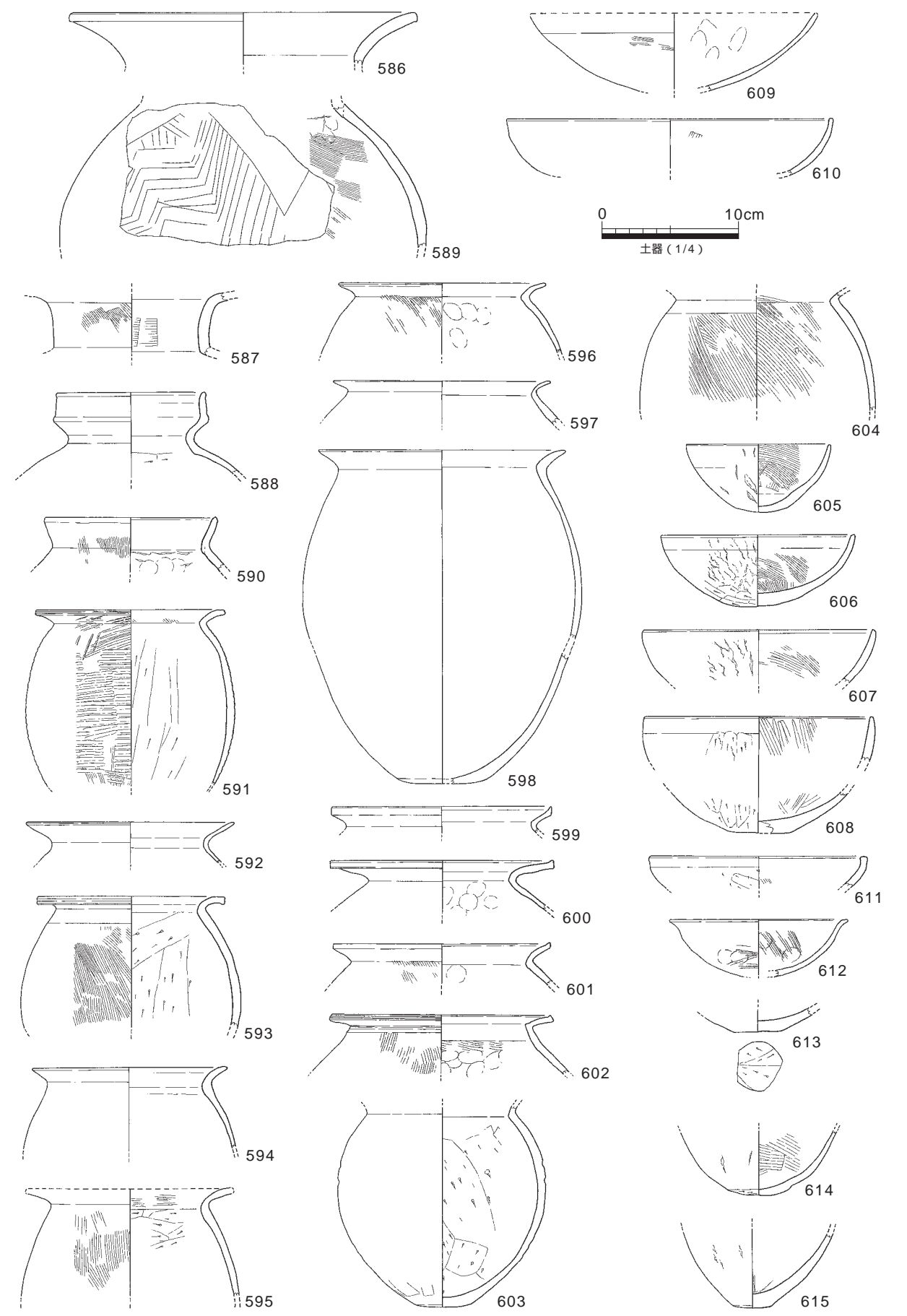
第74图 8区SD02出土遺物3



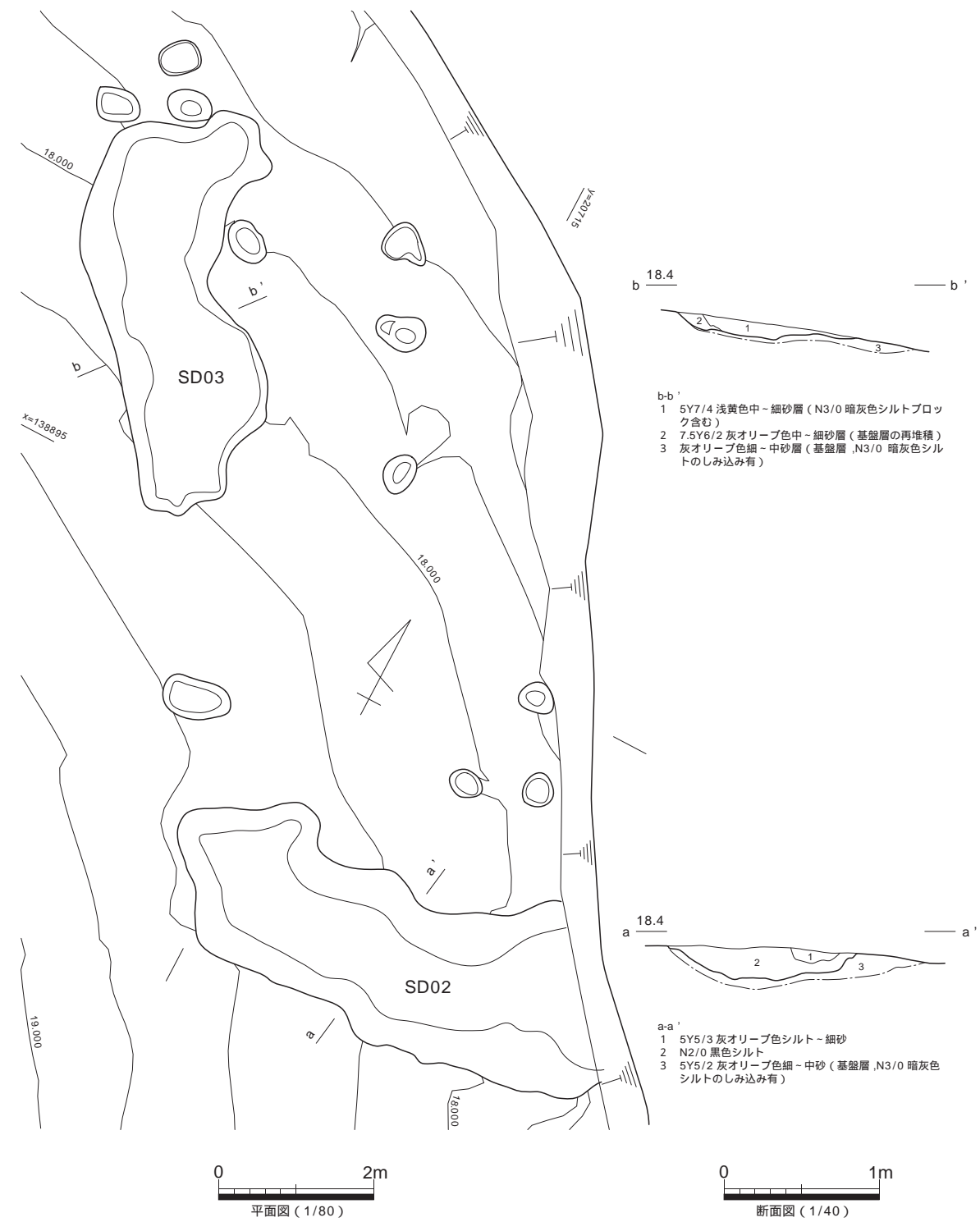
第75图 10区SD04平·断面図、出土遺物



第76图 10区SD05出土遺物



第73图 8区SD02出土遺物2



第78図 1区SD02・03平・断面図

#### 4 古墳時代中期

##### 古墳

##### 1区SD01(C2)(第77図)

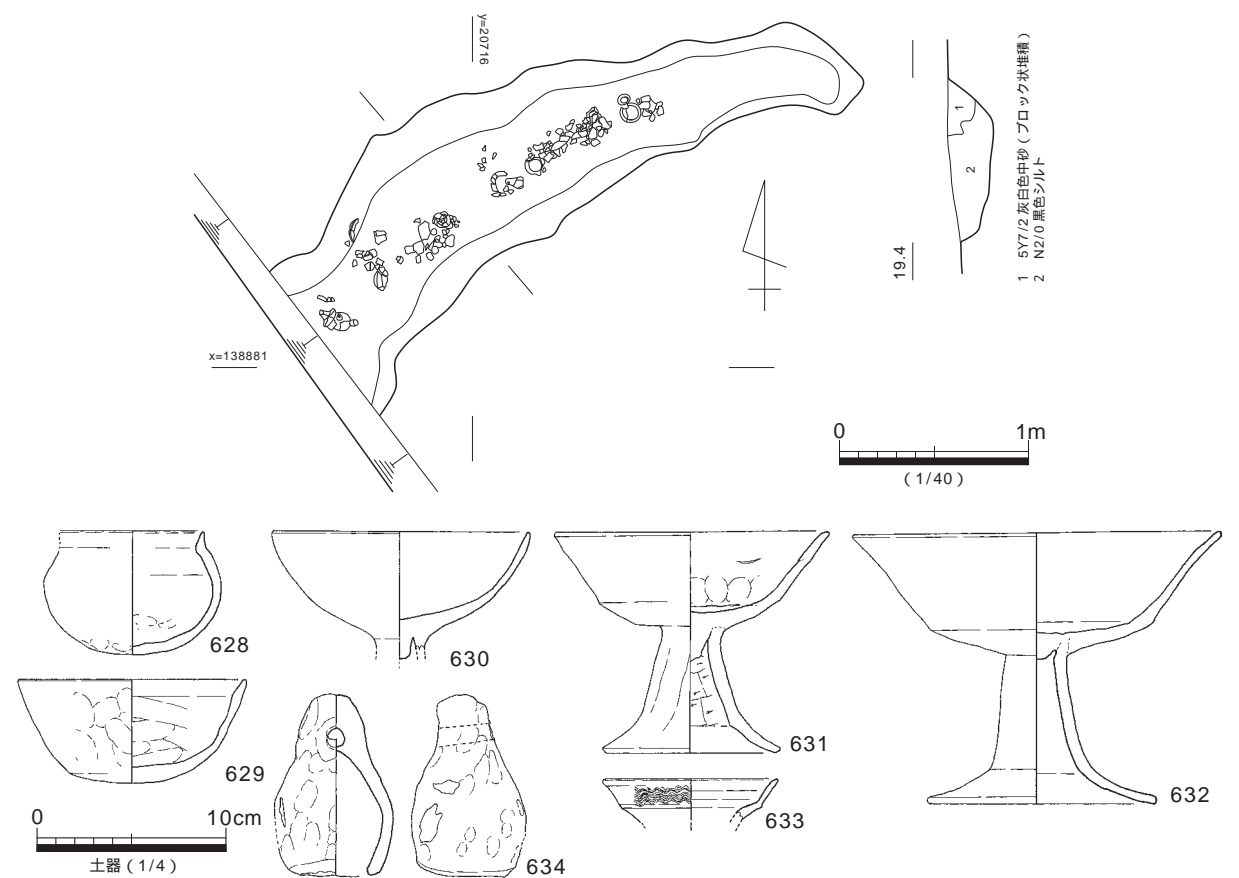
今回の調査区が一番標高の高い、尾根の稜線に位置する。平面ほぼ円形の古墳の周溝と考えられる。断面図の1層は後世の攪乱である。

周溝からの出土遺物は高坏が目立つ。628～632は土師器である。633は須恵器壺の口縁部である。須恵器からTK208型式頃の年代が考えられる。

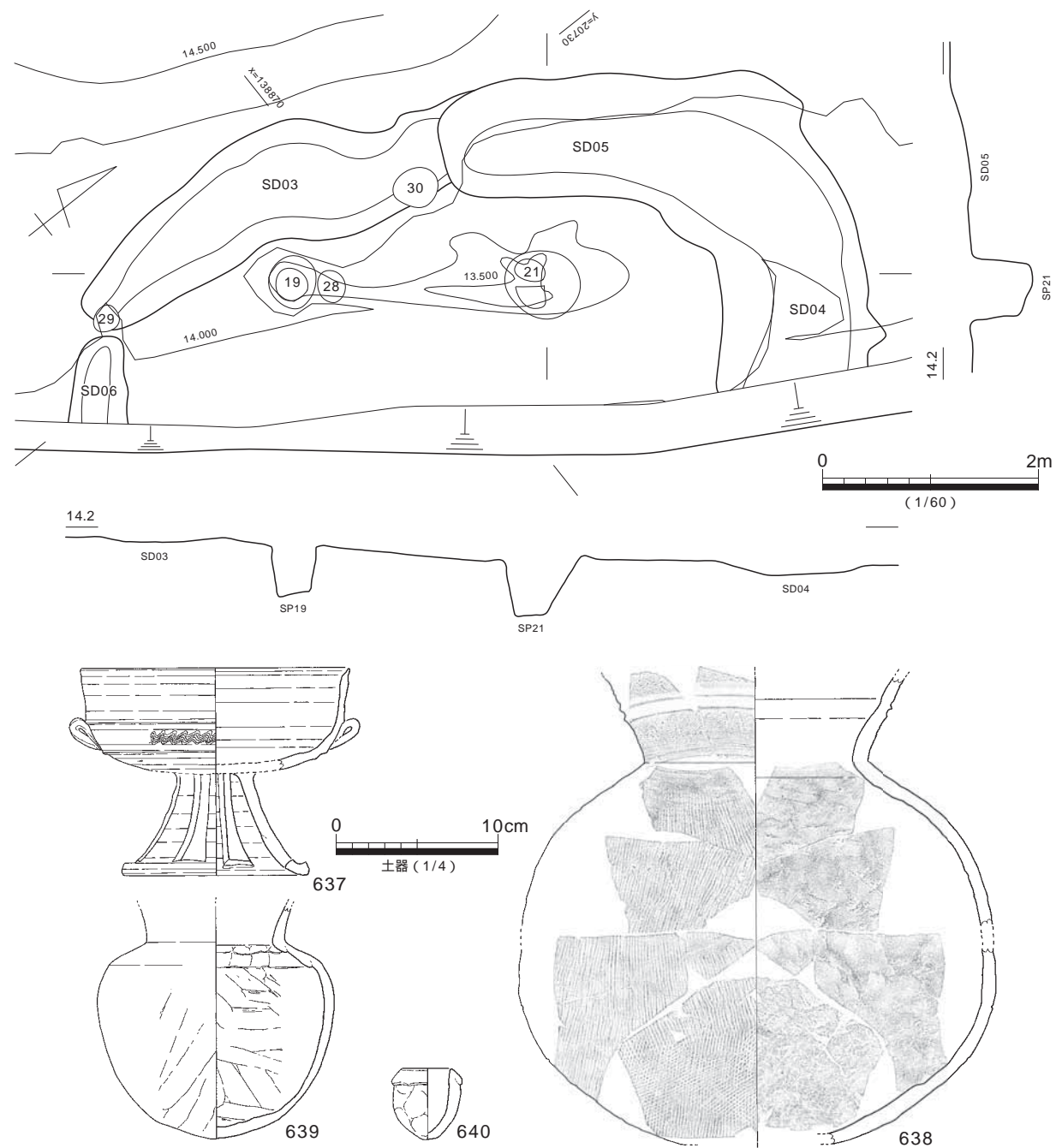
飯蛸壺634は、出土位置がほかの土師器等より高いことから、断面図1層に相当する攪乱からの出土とみなせる。

##### 1区SD02(C2)(第78図)

埋土(断面図2層)が南にあるSD01と同じで、平面がやや円形を呈することから、古墳の周溝の可能性が考えられる。ただ、出土遺物は、少量で弥生土器の小片のみである。また、隣接するSD03はSD02の延長とも考えられるが、埋土が攪乱土と考えられ、その可能性は小さい。



第77図 1区SD01平・断面図、出土遺物

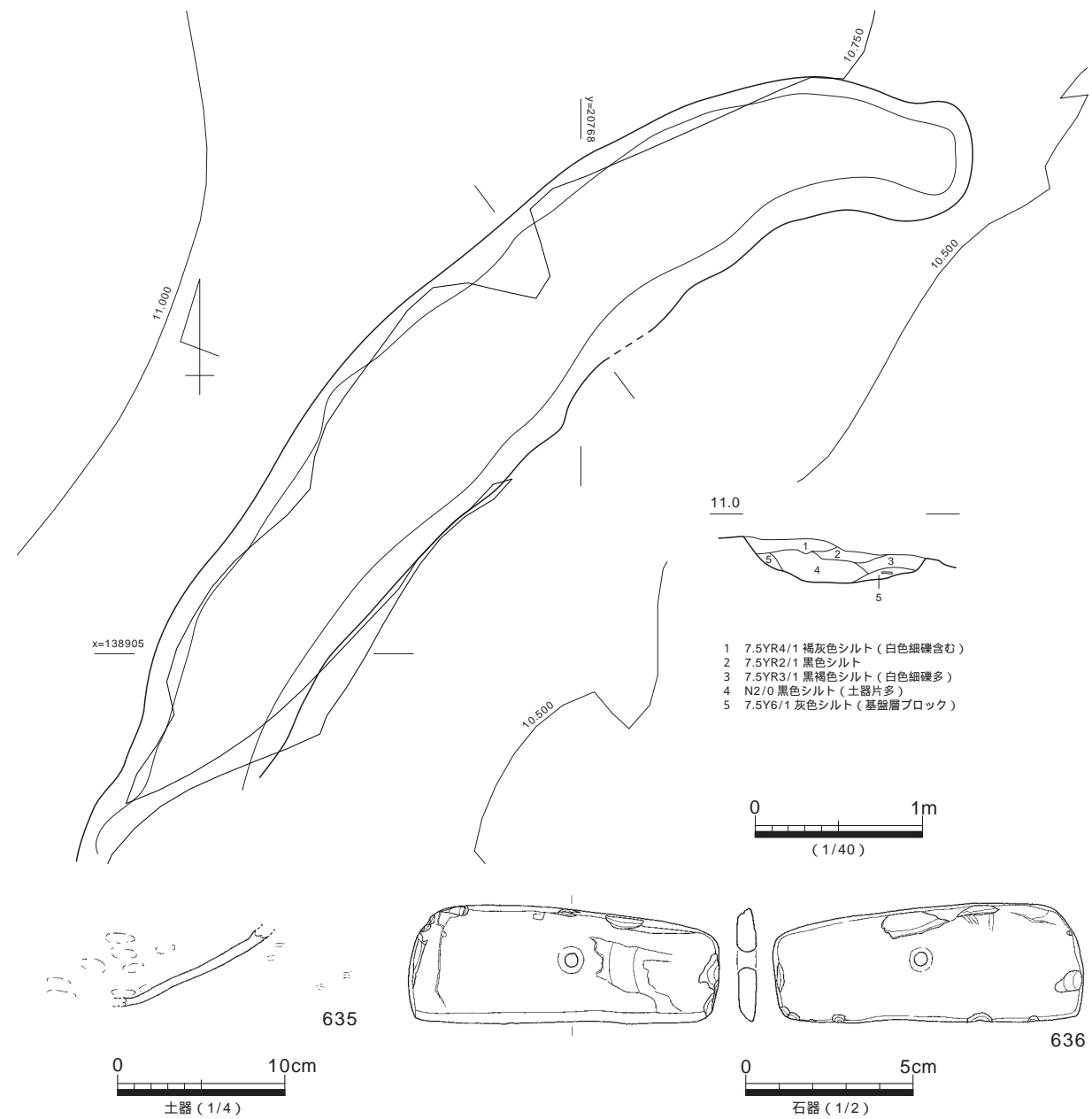


第80図 6区SD03～06平・断面図、出土遺物

6区SD03, 04, 05, 06 (D3) (第80図)

平面形が方形の古墳の周溝と考えられる。南半分は崖状の段差で消失している。溝外側で1辺約7.5mである。

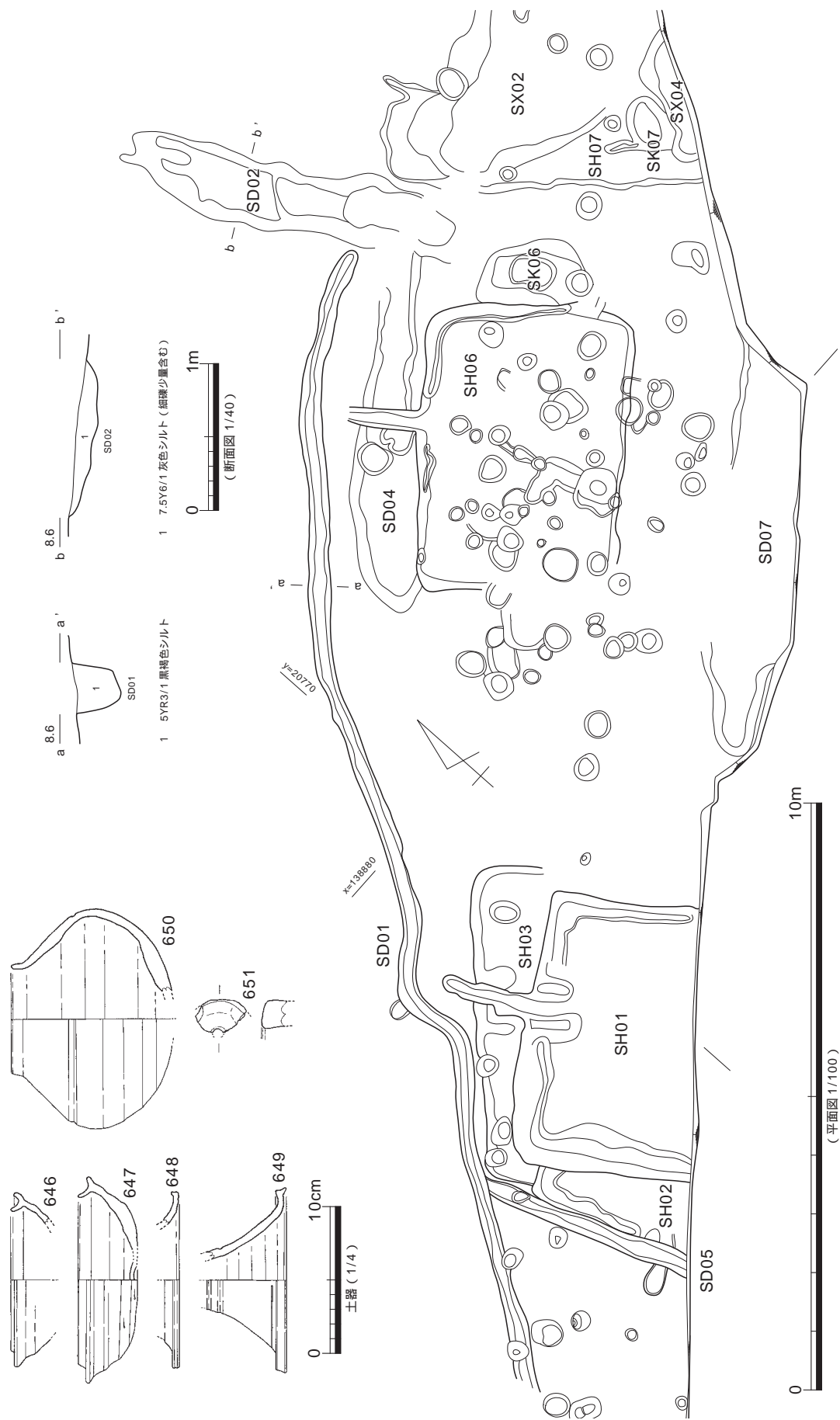
637は耳状把手が2条の凸帯間にあり、透かし孔は5である。638は、須恵器甕で、内面がナデ調整されている。639は、土師器の壺で、SD04から出土したが、ピットに置かれた可能性がある。640はミニチュアの甕である。須恵器からTK208型式の時期と考えられる。



第79図 5区SD01平・断面図、出土遺物

5区SD01 (B5) (第79図)

丘陵尾根からやや南に下がったところに立地する。形態及び黒色を呈する埋土から古墳の方形の周溝の一部を検出したものと考えられる。溝底は、ほとんど傾斜がない。溝の両端がやや曲がりこむような形状をしているので、方形の一边がほぼ検出されているものと考えられる。現存長約7mである。遺物は小破片のものが多く、635は須恵器甕の底部付近と考えられるが、内外とも丁寧になで消されており、TK208型式以前の年代が考えられる。636は、1穴の磨製石庖丁である。



第 82 図 7 区竪穴建物群平面図、SD01 平・断面図及び出土遺物

5 7 世紀代

竪穴建物

4 区 SH01 (D4) (第 81 図)

平面形が方形で、壁溝及び主柱穴 2 を持つ。

641~644 は須恵器で、641 は壁溝 D1 から出土している。645 は飯蛸壺である。須恵器から、TK217~TK46 型式の時期が考えられる。

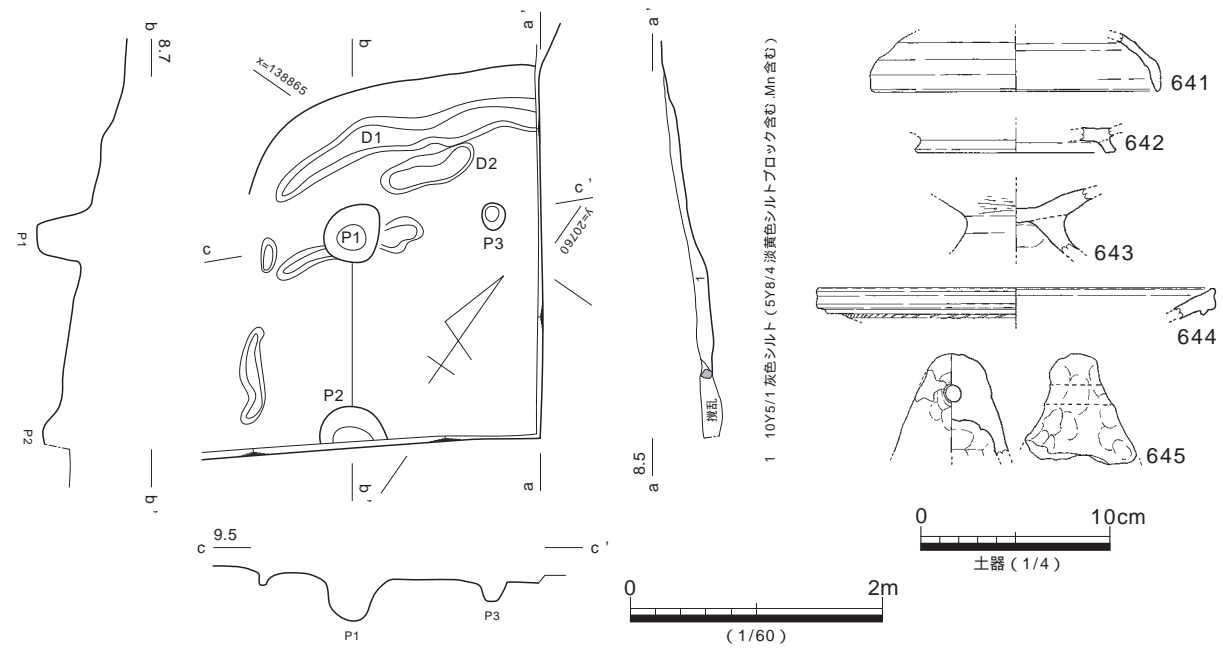
7 区竪穴建物群 (C5, D5) (第 82 図)

7 区 SH01・02・03・06 の北側には、排水溝と考えられる SD01 がある。これは、SH01 の煙道の北側で煙道避けるかのように屈曲している。SD01 と同時期の可能性があるのは、SH01 と SH06 と考えられる。SD01 から出土した遺物は、646~650 が須恵器である。651 は土製紡錘車である。須恵器から TK217 型式の時期が考えられる。

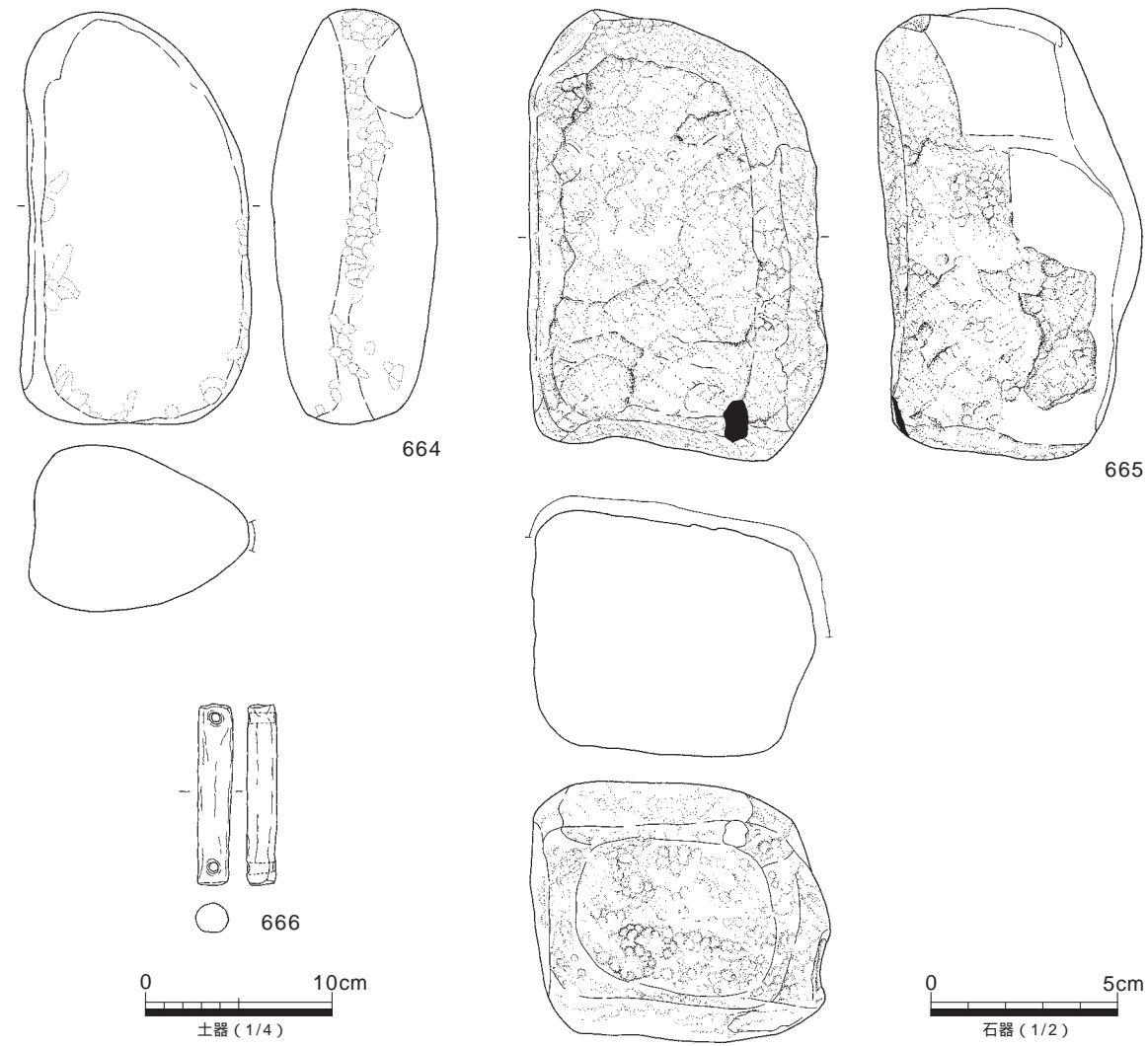
7 区 SH01 (D5) (第 83・84 図)

竈付きの建物である。壁溝を検出しているが、主柱穴は検出できなかった。竈の南側には炭化物の広がりがある。北側に排水溝 SD01 がある。西側にある SD05 も排水溝の可能性もある。須恵器、土師器等が出土している。652~658 は須恵器である。655 は高坏の可能性もある。659 は土師器高坏である。661~663 は土師質の土錘である。664・665 は敲石である。須恵器から TK209 型式の時期が考えられる。

666 は、SD05 から出土した土師質の土錘である。



第 81 図 4 区 SH01 平・断面図、出土遺物



第84図 7区SH01出土遺物

7区SH02(D5)(第83図)

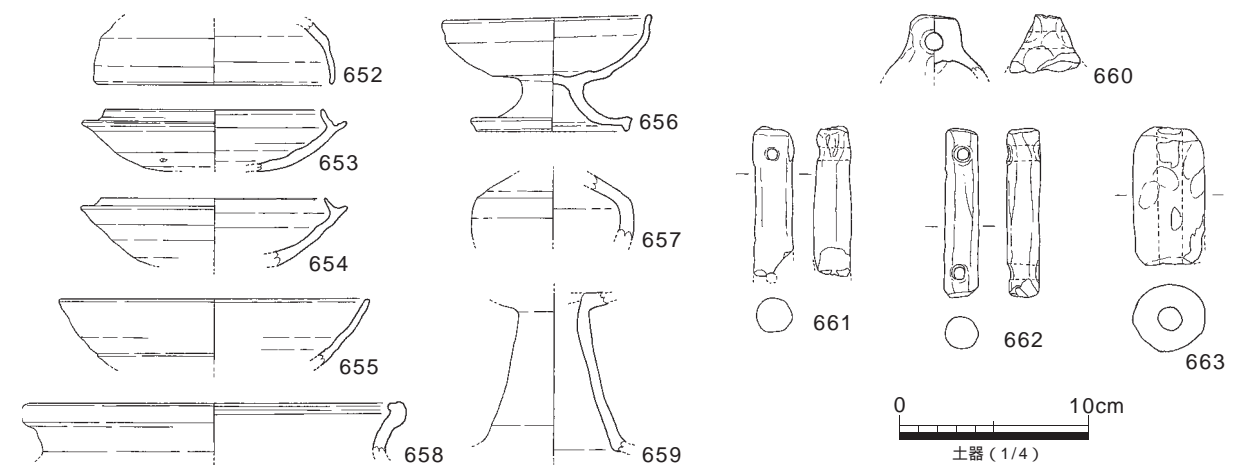
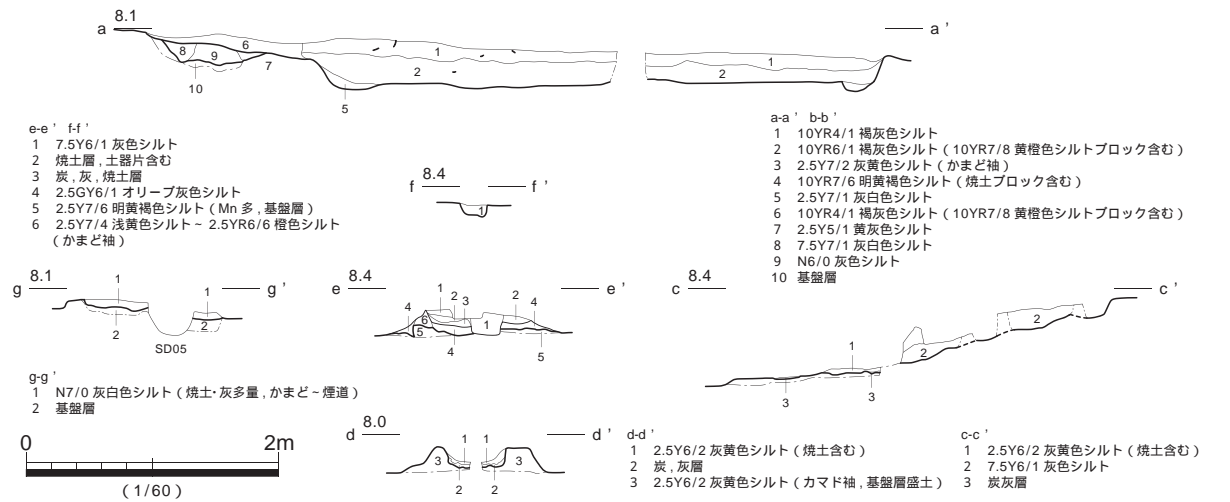
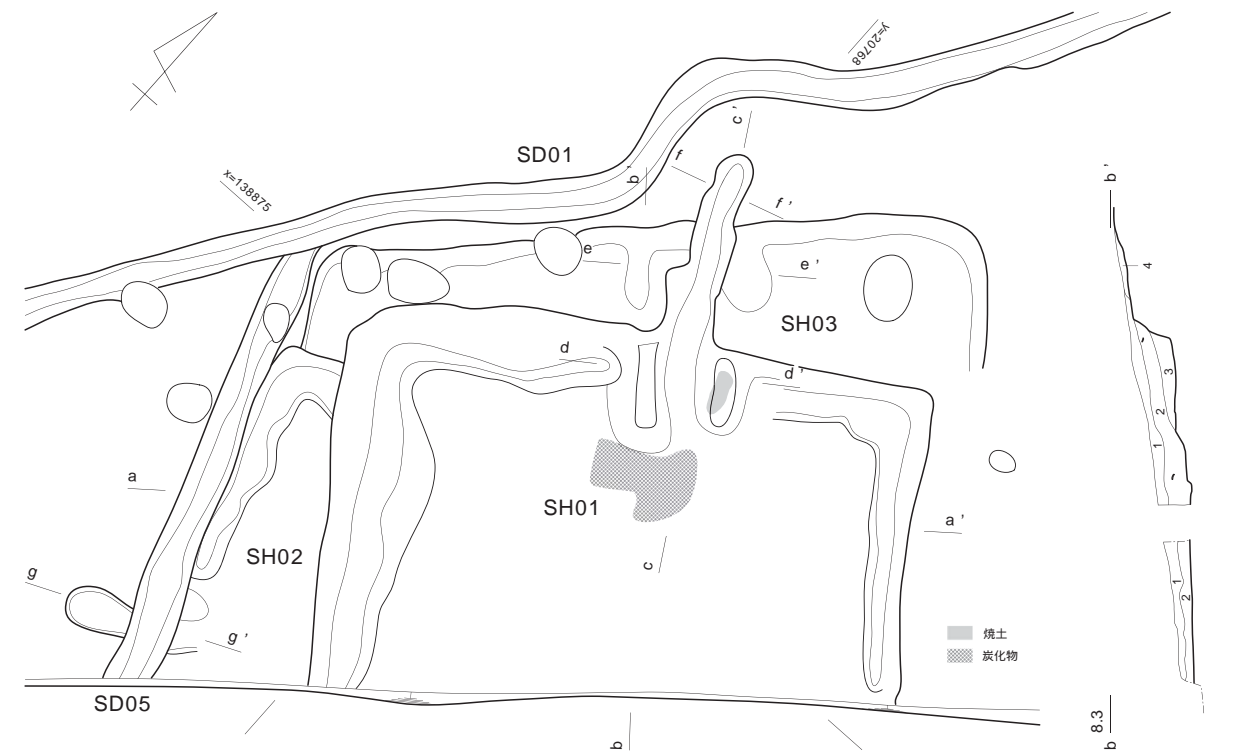
SH01及びSD05より古い建物である。竈及び壁溝を検出している。竈は袖部が残存しておらず、焼土の広がりや煙道と考えられる溝状に延びる浅い遺構が残存している。西側に煙道が延びるタイプである。

7区SH03(D5)(第83図)

SH01より古い。SD01とは重複していないものの、近接していることからSD01とは同時期とは考えられない。竈を検出したが、SH01の竈に破壊されているため、煙道は明確ではない。

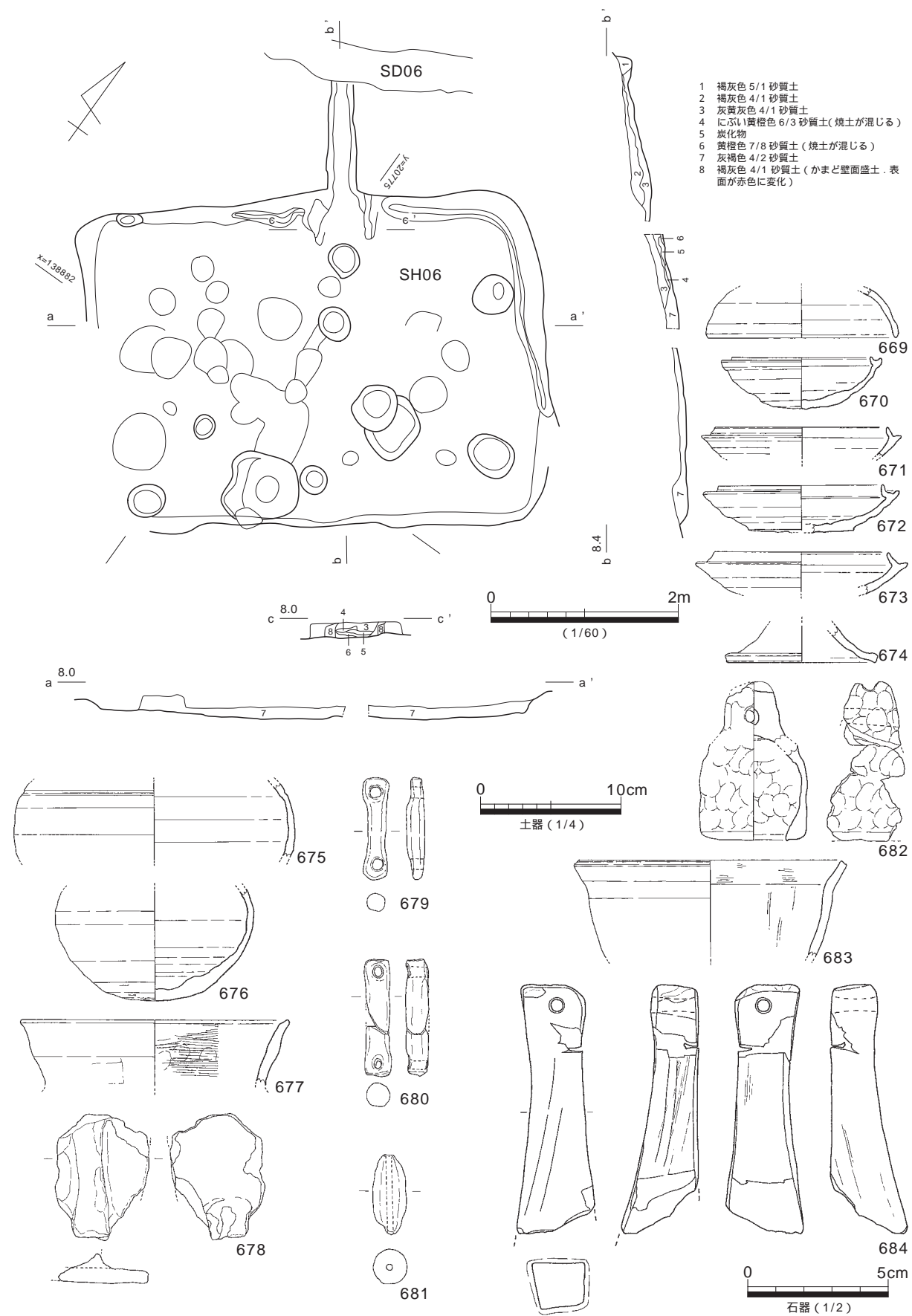
7区SH05(C5,D5)(第85図)

SH06より古い建物である。北側で壁溝を検出した。須恵器坏667、土師器壺668が出土している。TK209型式の時期が考えられる。



第83図 7区SH01 ~ 03平・断面図、出土遺物





第 86 図 7 区 SH06 平・断面図、出土遺物



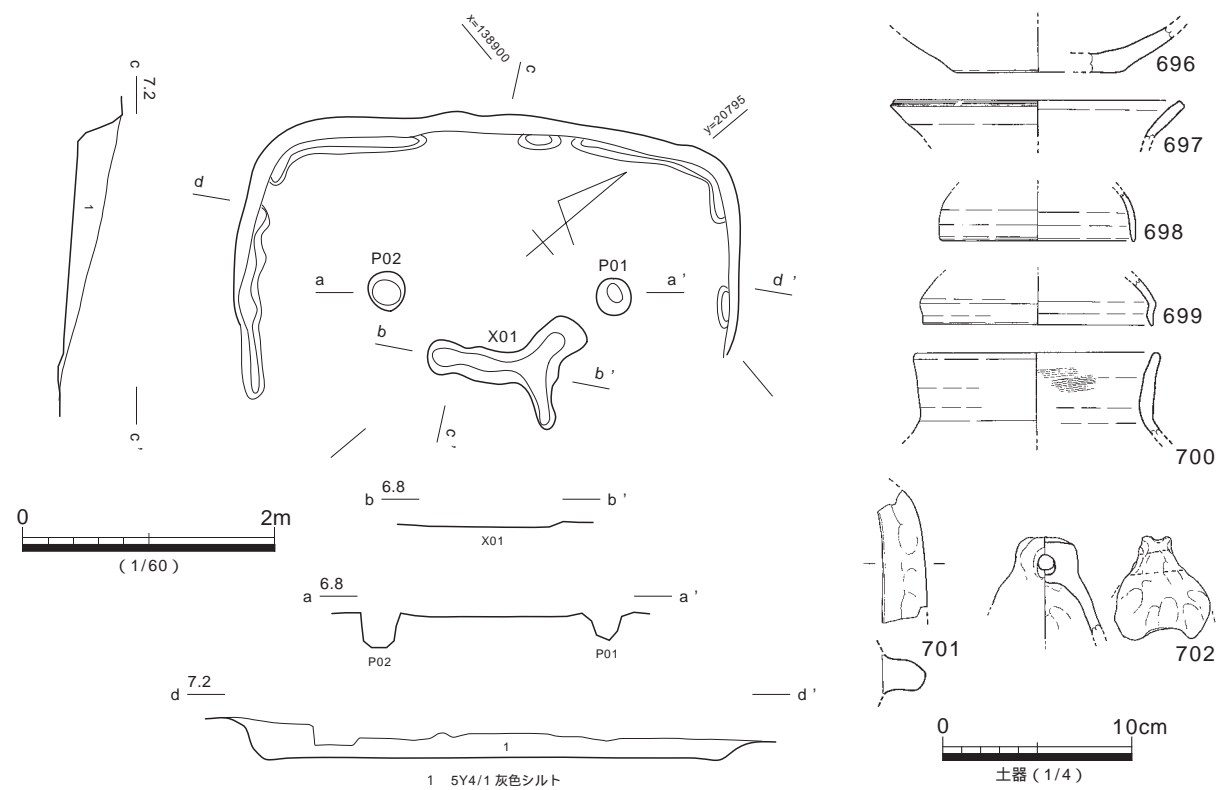
第 85 図 7 区 SH05 平・断面図、出土遺物

7 区 S H 0 6 ( C 5 ) ( 第 86 図 )

平面形が長方形の建物である。煙道部を除く規模は、南北約 3.5 m、東西約 4.9 m である。竈及び壁溝を検出した。主柱穴は明確ではない。北の S D 0 1 が同時期の排水溝である。出土遺物は、669 ~ 676 が須恵器である。677・678 は土師器である。679 ~ 681 は土師質の土錘である。683 は弥生土器の鉢である。684 は穿孔のある砥石で、下層の弥生時代竪穴建物の埋土から出土したと記録されているが、形状から当期のものと考えられ、上層の S H 0 6 に帰属するものとして、ここで報告する。須恵器から TK217 型式の時期が考えられる。

7 区 S D 0 4 ( C 5 ) ( 第 87 図 )

S H 0 6 より古い溝である。S H 0 6 より古い建物の排水溝の可能性はあるが、明確ではない。出土遺物は、685 ~ 688 は須恵器である。689 は、土師器鉢である。690 は、紡錘車である。691 は、弥生土



第 89 図 8 区 SH03 平・断面図、出土遺物

器壺の口縁部である。須恵器から TK209 型式の時期が考えられる。

7 区 S H 0 4 ( C 5 ) ( 第 88 図 )

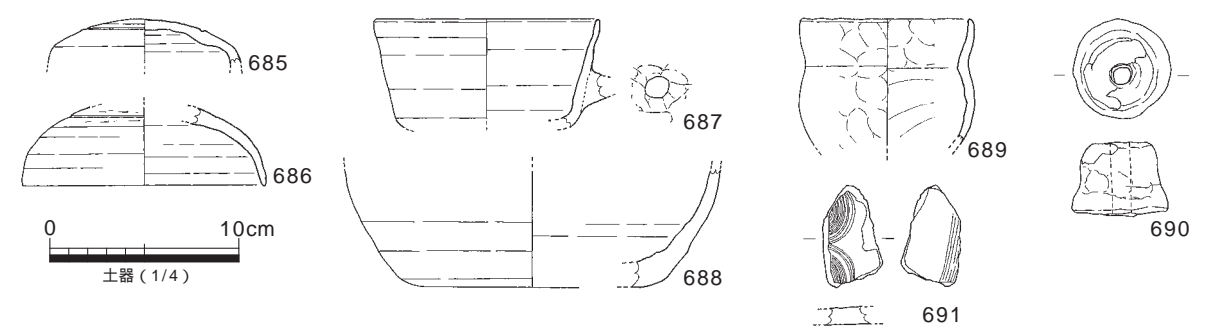
排水溝 7 区 S D 0 1 より北にある竪穴建物である。平面形は長方形で、南北約 5.4m、東西 4.8m である。竈及び壁溝を検出した。支柱穴は明確でない。壁溝は二重になっており建物の建替え等が考えられる。土師器 692・693 及び土師質の土錘 694・695 が出土している。

8 区 S H 0 3 ( B 6 , C 6 ) ( 第 89 図 )

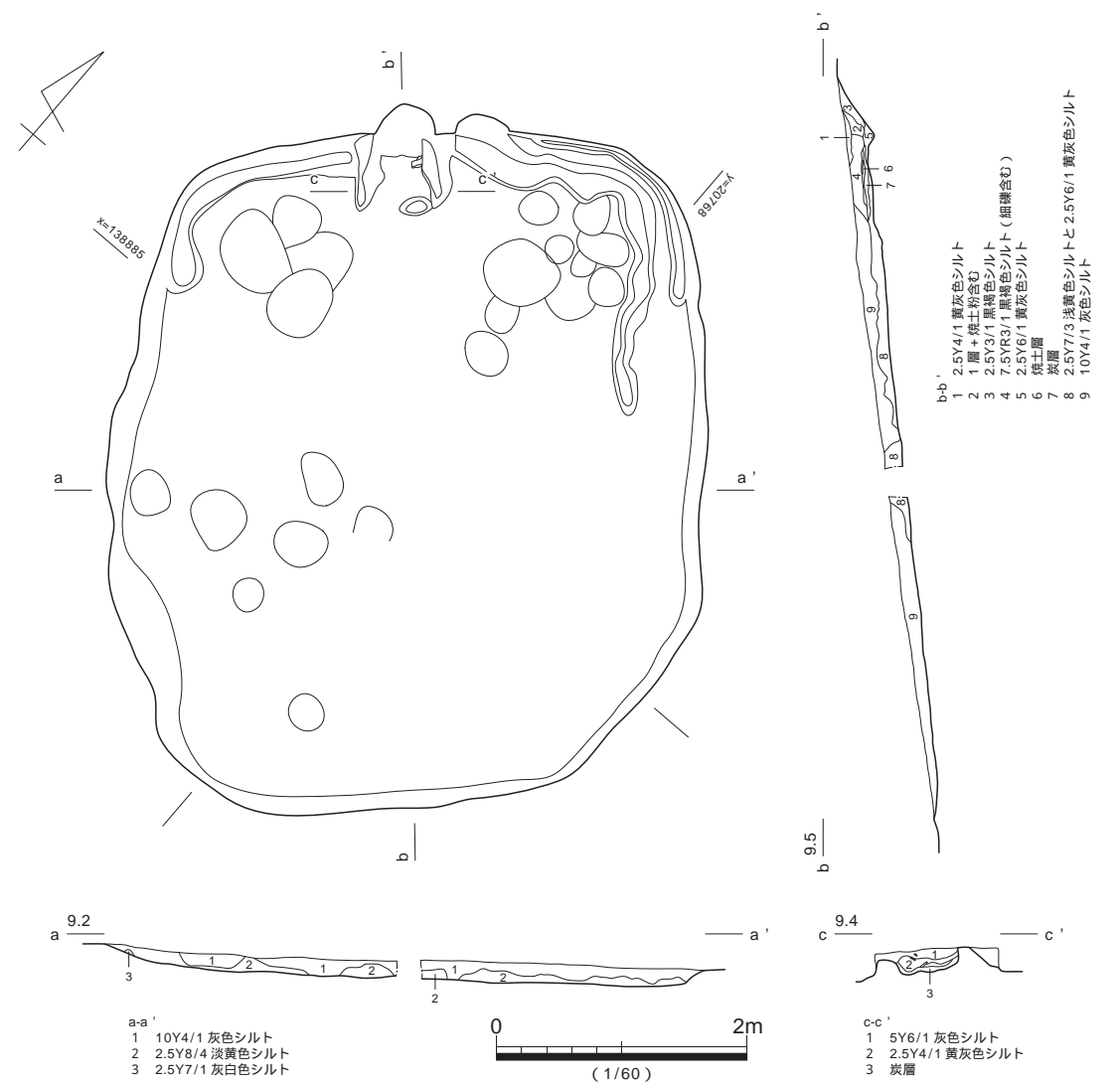
平面形が方形の建物である。南半分は流出している。壁溝及び 2 支柱穴を検出している。出土遺物は、696・697 は弥生土器、698・699 は須恵器、700・701 は土師器である。須恵器から TK217 型式の時期が考えられる。

8 区 S H 0 8 ( C 6 ) ( 第 90 図 )

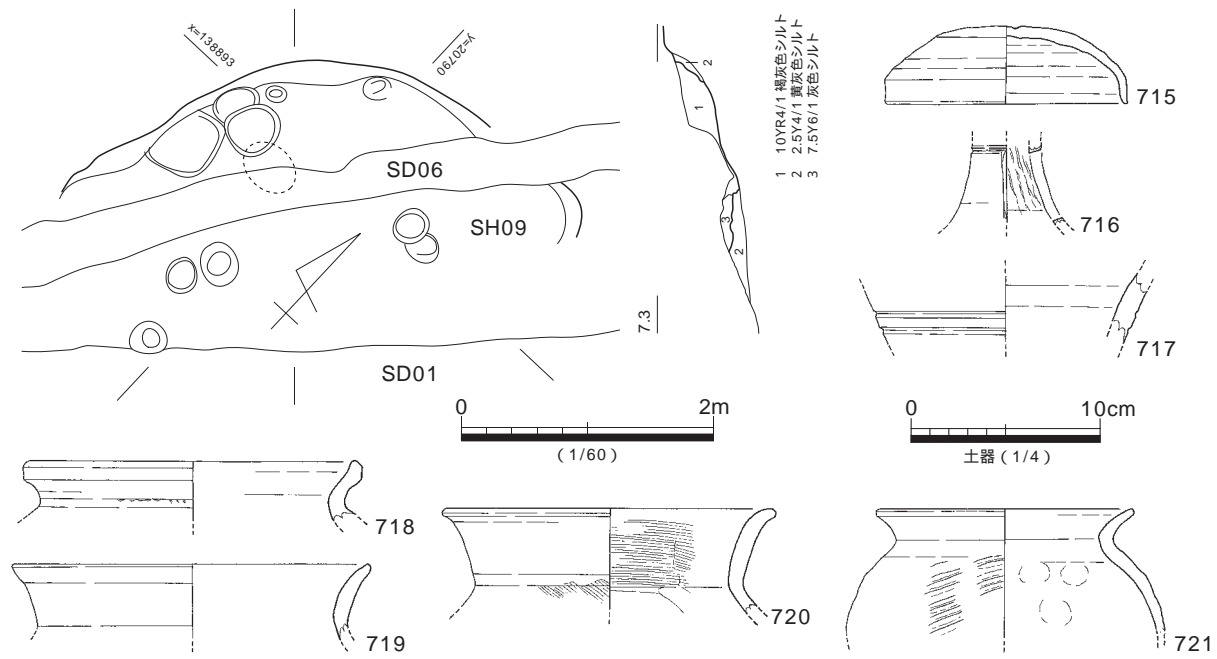
竪穴建物の周溝と考えられるものを 3 条検出した。出土遺物は、弥生土器と 7 世紀頃の遺物があり、周溝の平面形が方形になるものと円形になりそうなものがあることから、2 時期の竪穴建物が重複している可能性が高い。発掘作業ではその区別はできなかった。出土遺物は、703～705 は、弥生土器である。706・707 は、須恵器である。708～710 は、土師器である。711～713 は、製塩土器と考えられる。714 は、土師質の土錘である。このうち 703、708、709 が P 0 1 から出土している。



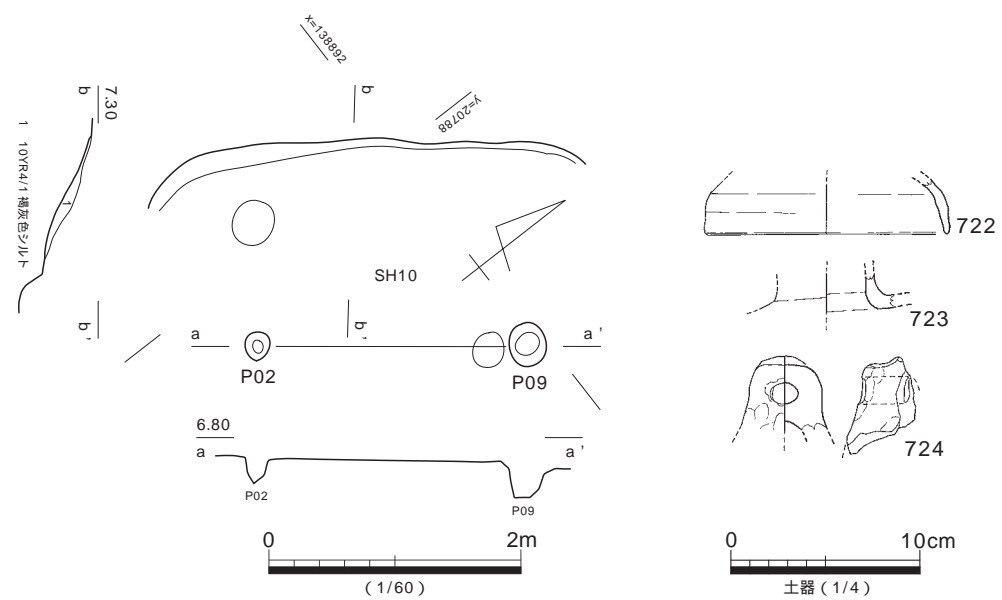
第 87 図 7 区 SD04 出土遺物



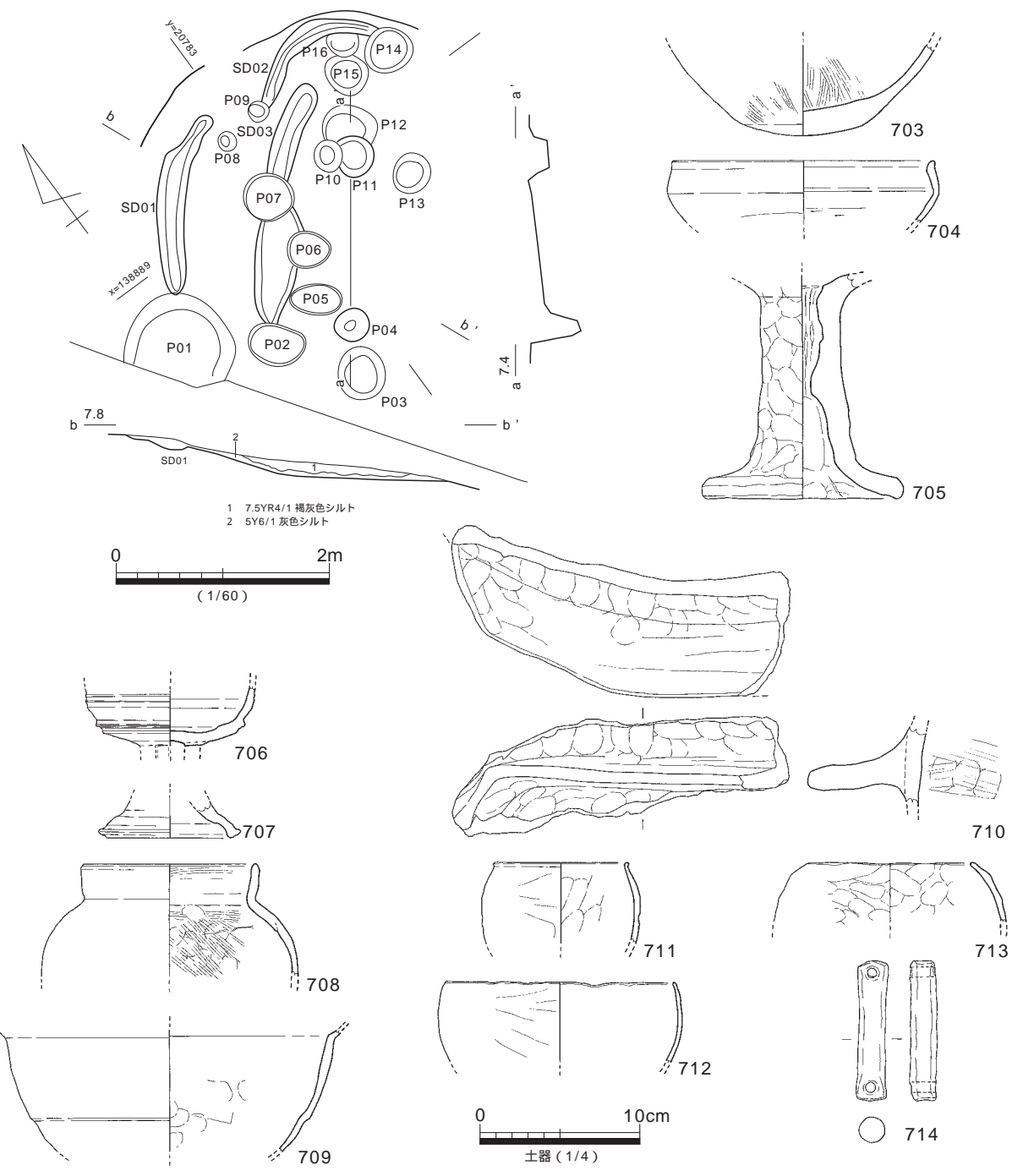
第 88 図 7 区 SH04 平・断面図、出土遺物



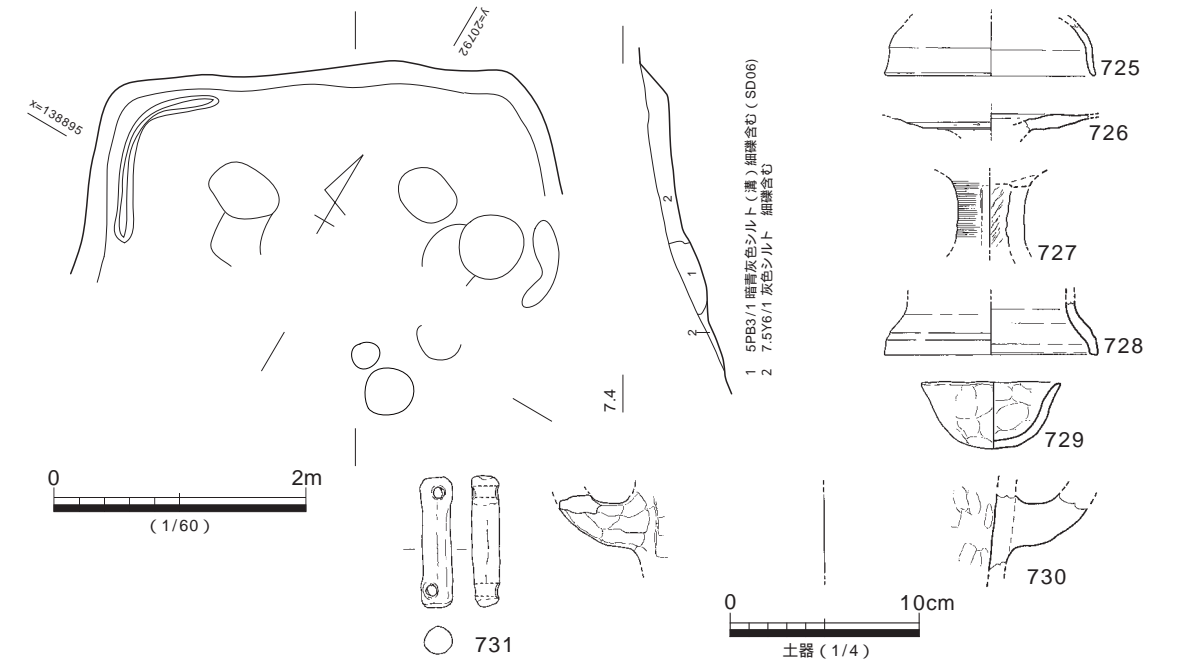
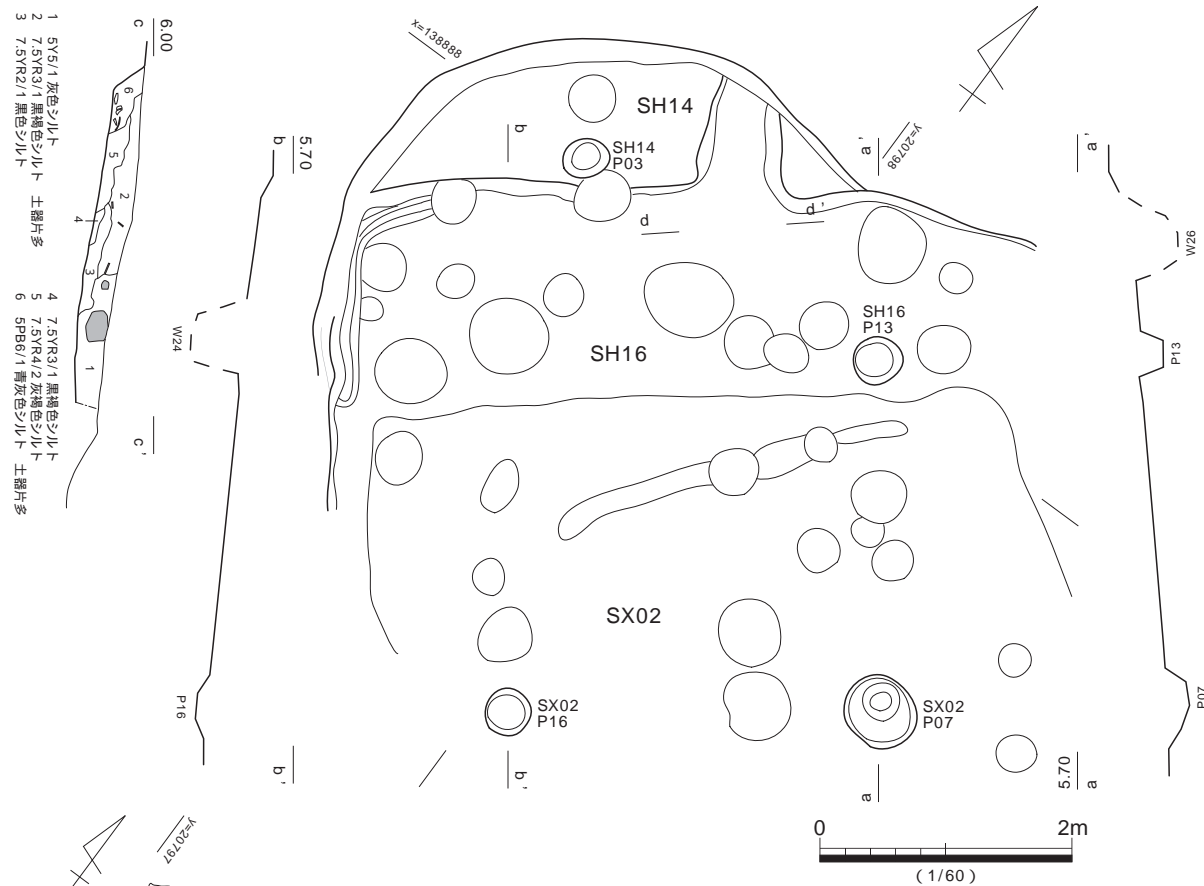
第91図 8区 SH09 平・断面図、出土遺物



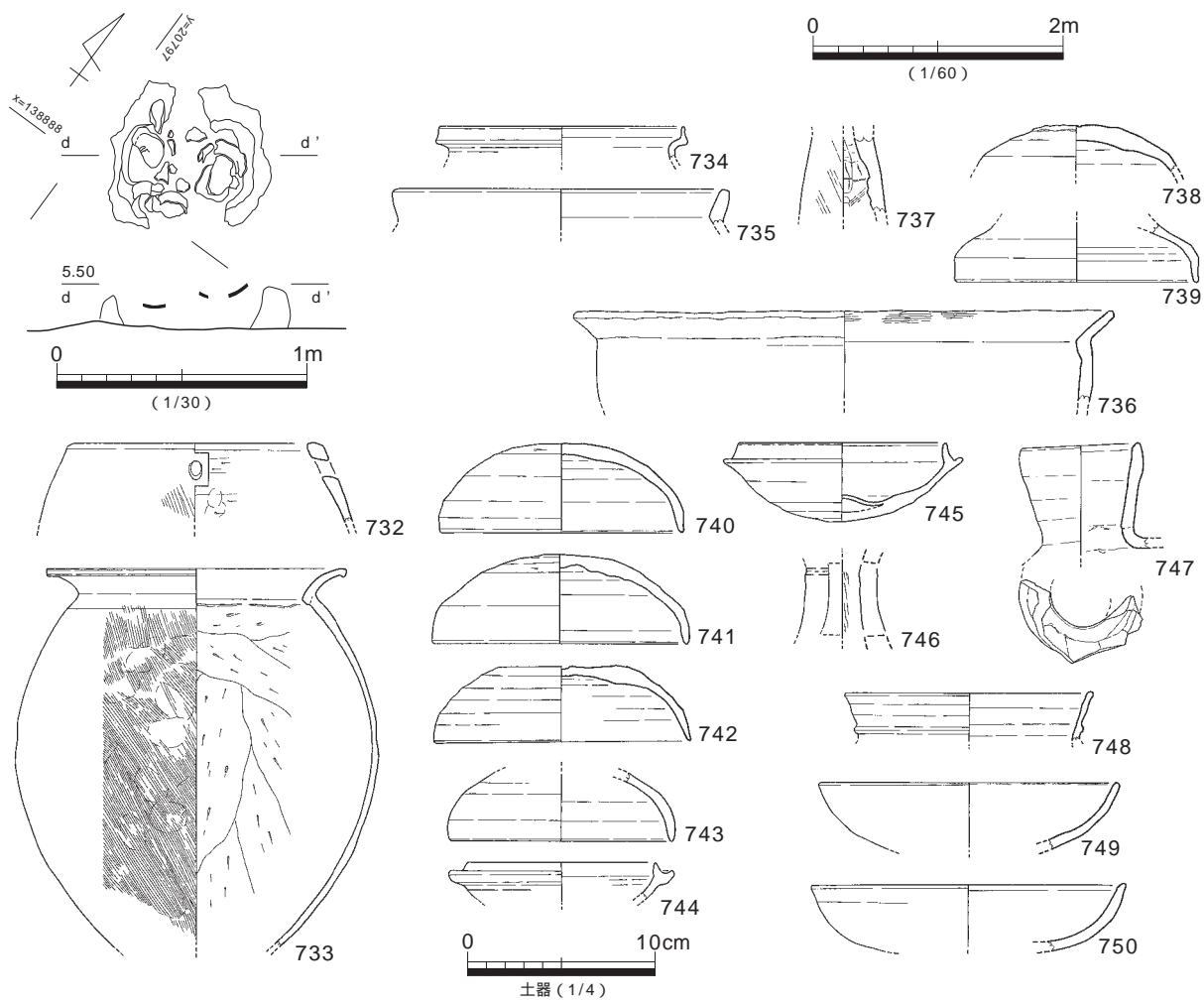
第92図 8区 SH10 平・断面図、出土遺物



第90図 8区 SH08 平・断面図、出土遺物



第93図 8区SH11平・断面図、出土遺物



第94図 8区SH16平・断面図、出土遺物1

8区SH09 (C6) (第91図)

平面形が方形に近い建物の一部と考えられるが、残存状況が悪く内部施設等は不明である。須恵器715～718、土師器719・720、弥生土器721が出土している。須恵器からTK209型式の時期が考えられる。

8区SH10 (C6) (第92図)

建物北端のみが残存している。平面形は方形と考えられる。須恵器722・723及び飯蛸壺724が出土している。須恵器からTK209型式の時期が考えられる。

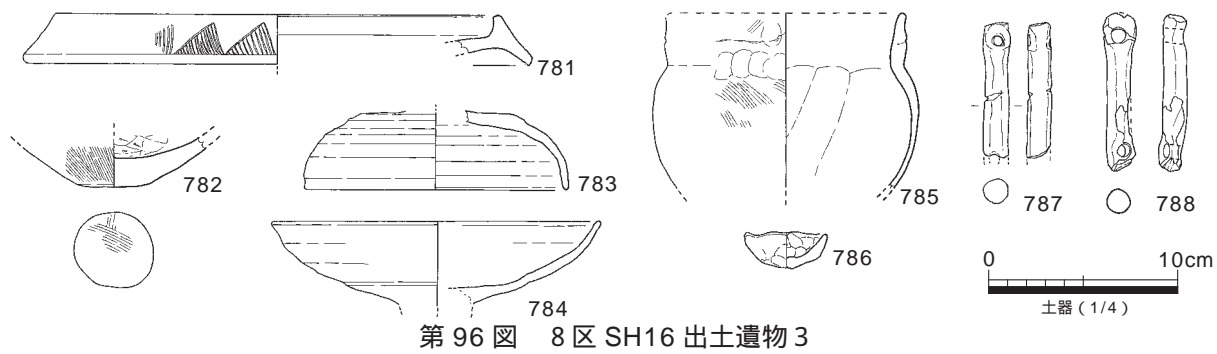
8区SH11 (C6) (第93図)

平面形が方形の竪穴建物である。南半部は流出している。壁溝を検出したが、支柱穴は明確ではない。出土遺物は、須恵器725～728、土師器729・730、土師質の土錘731が出土している。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

8区SH16 (C6) (第94～96図)

平面形が方形の建物である。SB01より古い。発掘作業時にSH14としてSH16の外側の掘り込みと一緒に調査している。SH14とSH16の関係は明確ではない。SH16は竈、壁溝及び支柱穴3を検出した。竈袖の形状は円筒形をなす。

732～780は、SH14出土として取り上げた遺物であるが、本来はSH16に帰属するものも多いと考えられる。732～737は、弥生土器である。738～748は、須恵器である。749～769は、土師器である。763は、SH16の竈内から出土した破片と接合した。770～772は、製塩土器である。773



第96図 8区SH16出土遺物3

~776は、土師質の土錘である。777・778は、指押さえの目立つ土製品である。779は、P03から出土した土師器高坏である。780は、敲石である。

781~788は、SH16出土遺物である。781・782は、弥生土器である。783は、須恵器である。784~786は、土師器である。なお、763の破片は、竈内からも出土している。787・788は、土師質の土錘である。788は竈内から出土している。

須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

9区SH02(10区SH01)(E4)(第97・98図)

平面方形の建物である。竈及び壁溝を検出したが、主柱穴は明確ではない。西壁に竈がつく。出土土器は、789~796が竈及び煙道の埋土から出土した。ミニチュアの土器が出土している。797~803は、竈及び煙道以外の埋土から出土した土器である。797~799は弥生土器で、797は底部の接合部が剥落したものの可能性もある。800・801は、須恵器高坏である。802・803は、土師器である。804・805は発掘作業時は、SX04出土と認識していた。SX04は非常に浅いものであることから、遺構とするには疑問が残り、またこの2点は想定されるSH02の範囲内にあることから、SH02出土とした方がよいと考えられる。また、9区SK02及びSK06についても、深さが建物の床面とほぼ同じことから、建物の埋土の一部かもしれない。竪穴建物の出土土器からは、TK209型式以降の時期が考えられる。

10区東SH01(D5,D6)(第99・100図)

平面形が方形の浅い遺構である。建物かどうかはやや疑問が残る。806・807は、須恵器である。808~810は、土師器である。811は、製塩土器である。須恵器からTK209型式の時期が考えられる。

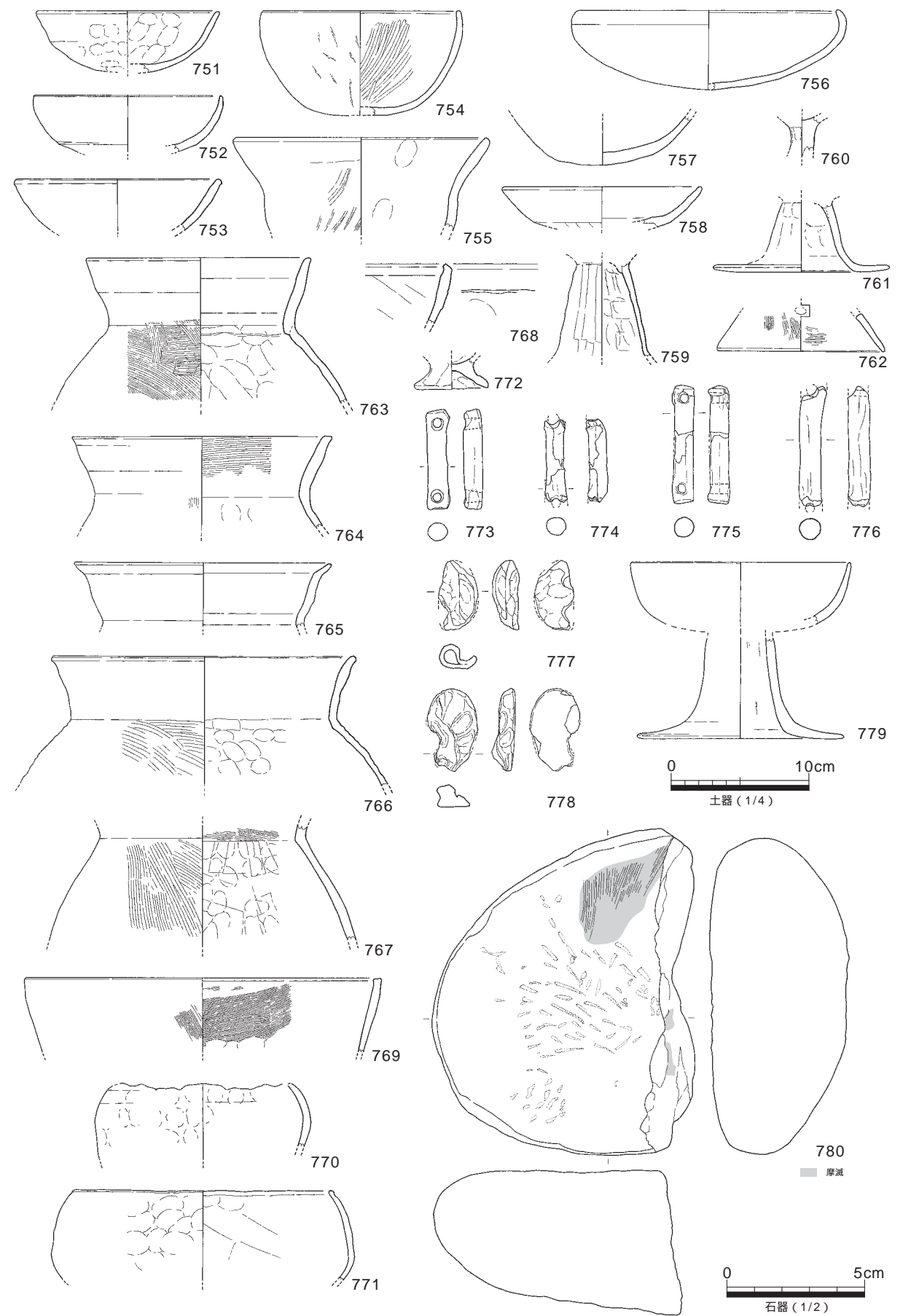
10区東SK02(C7)(第101図)

北壁部分以外はほとんど流出している。壁溝を検出した。弥生土器812・813、飯蛸壺814が出土している。

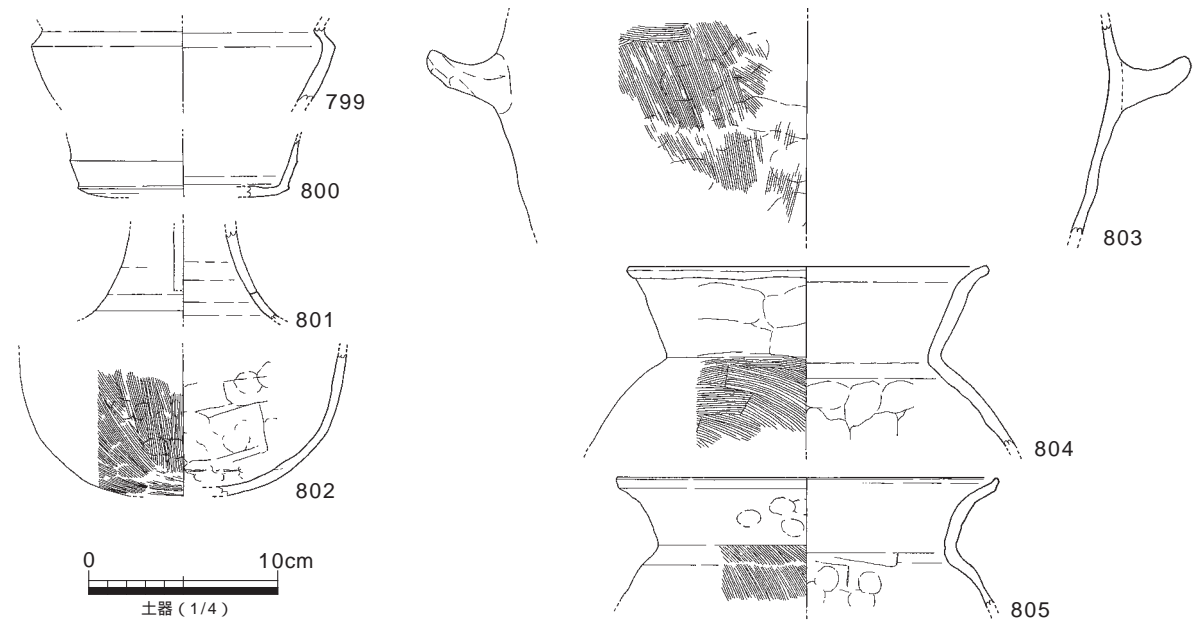
掘立柱建物

4区SB01(E4)(第102図)

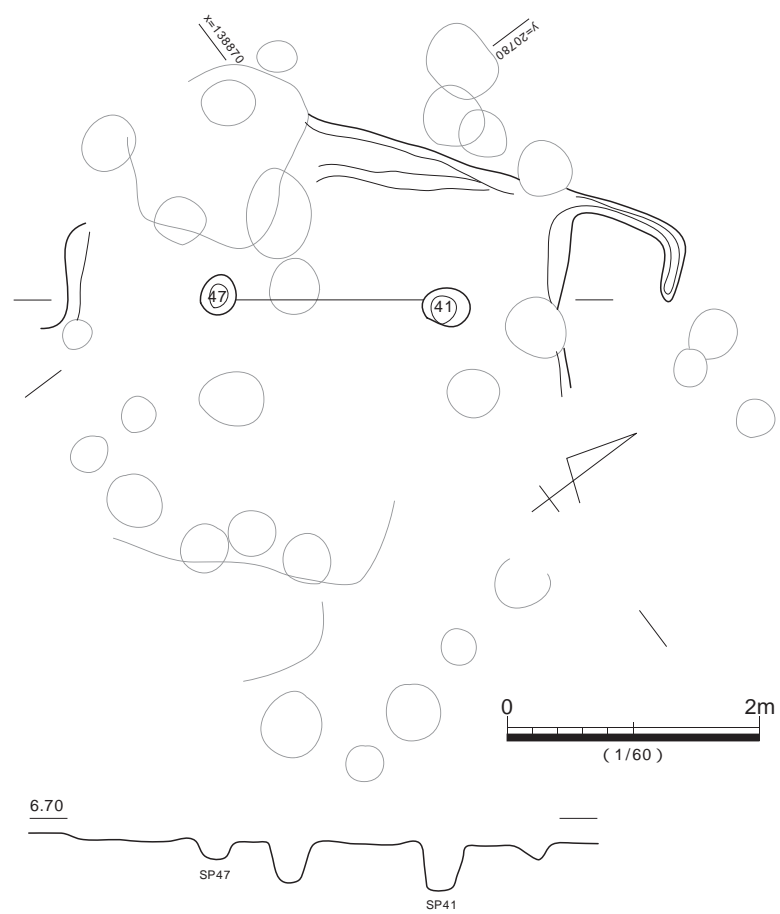
規模は、桁行4間(7.45m)、梁行2間(4.6m)で、主軸方位N69°Wである。柱穴から実測可能な



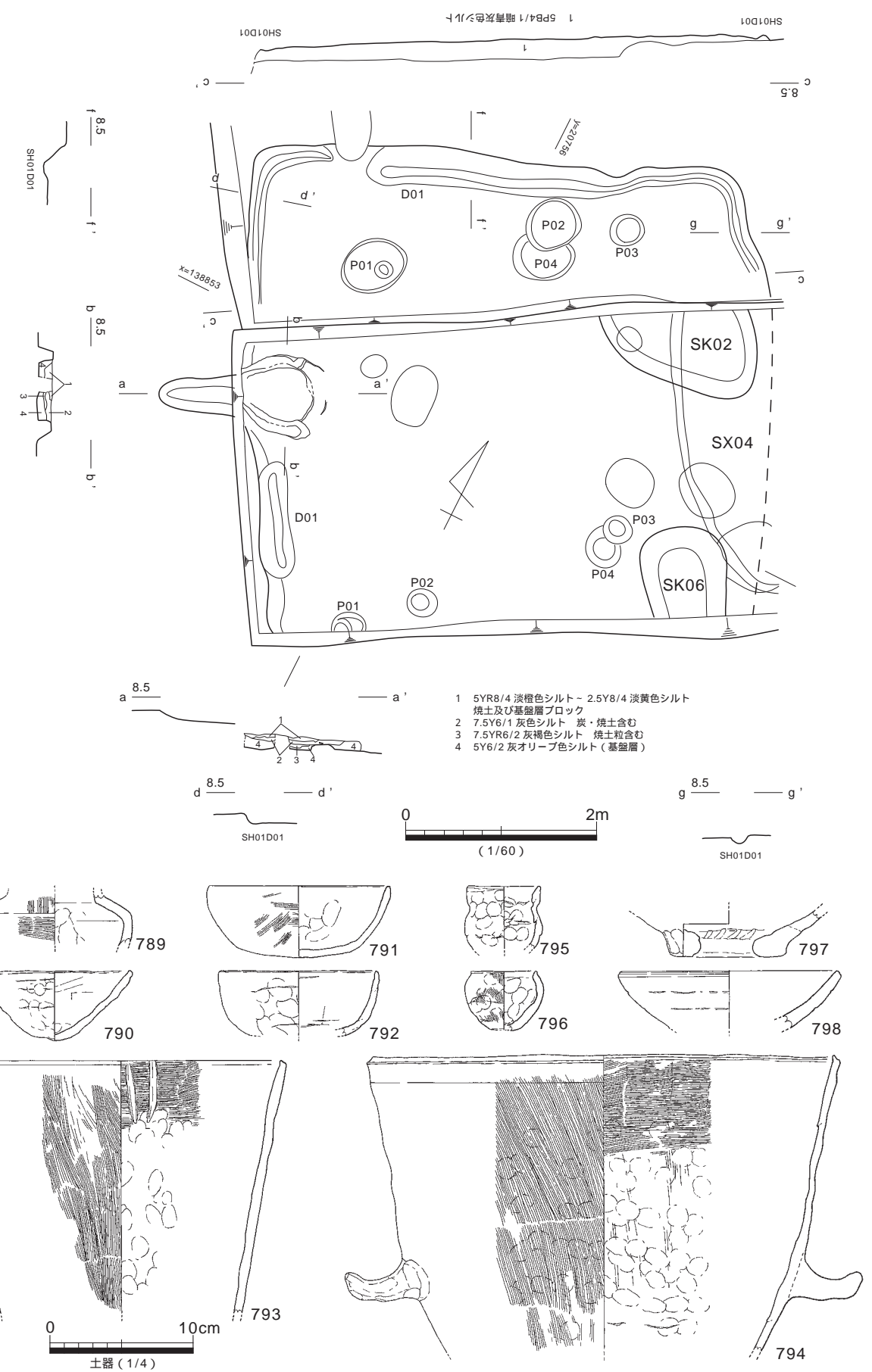
第95図 8区SH16出土遺物2



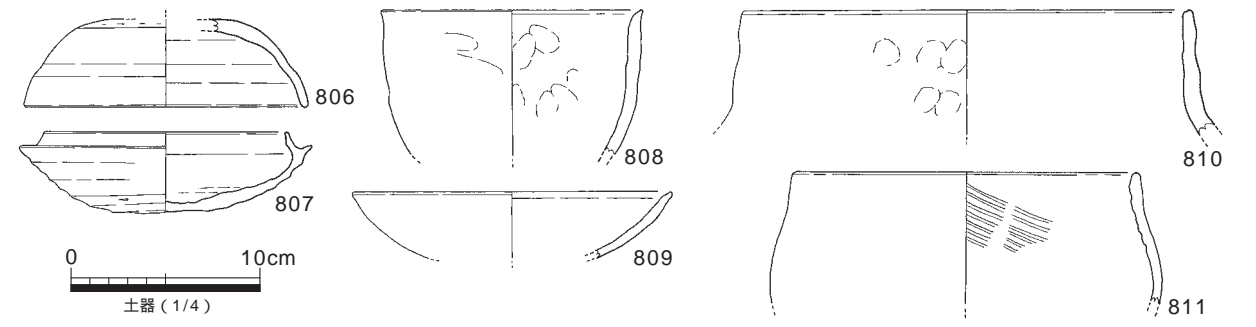
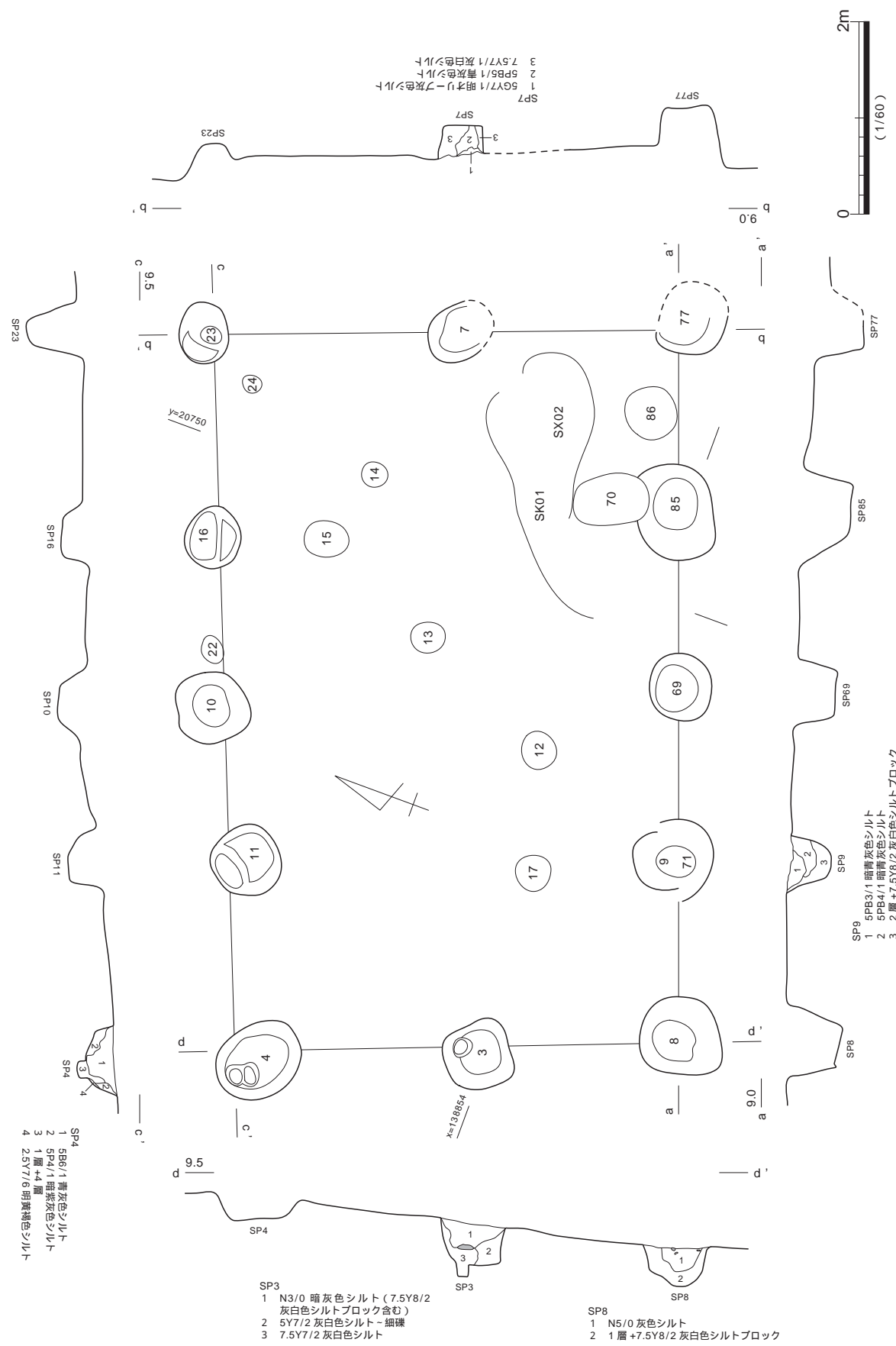
第98図 9区SH02出土遺物2



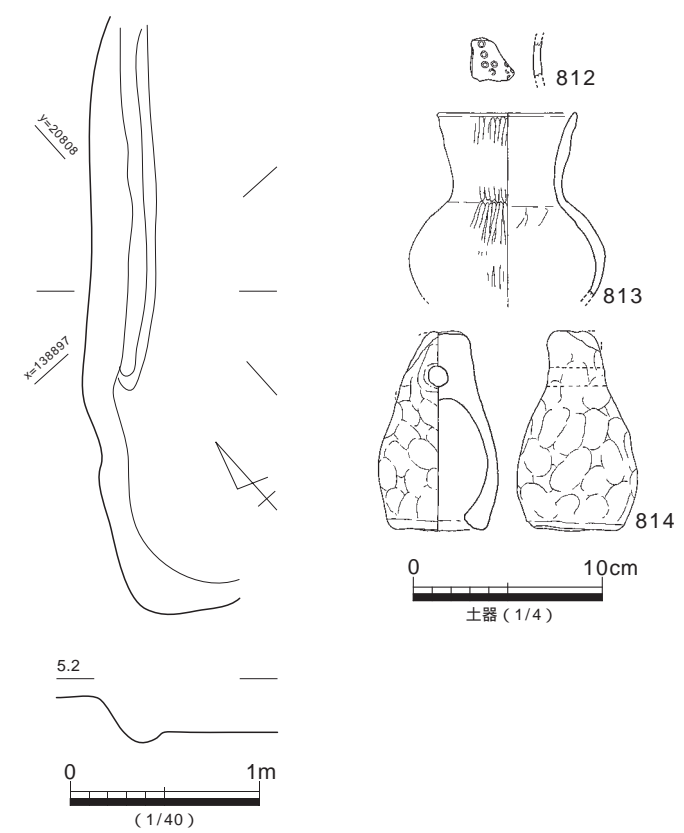
第99図 10区東SH01平・断面図

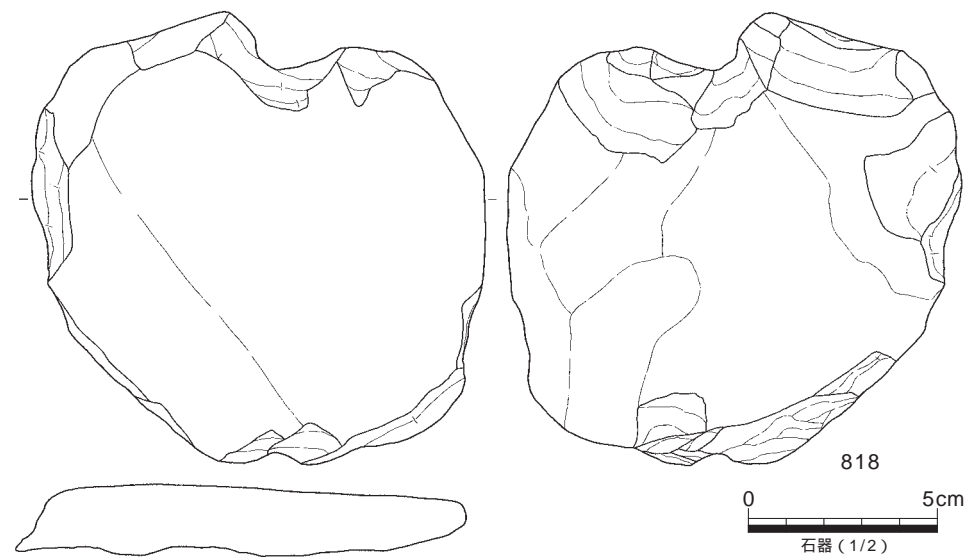
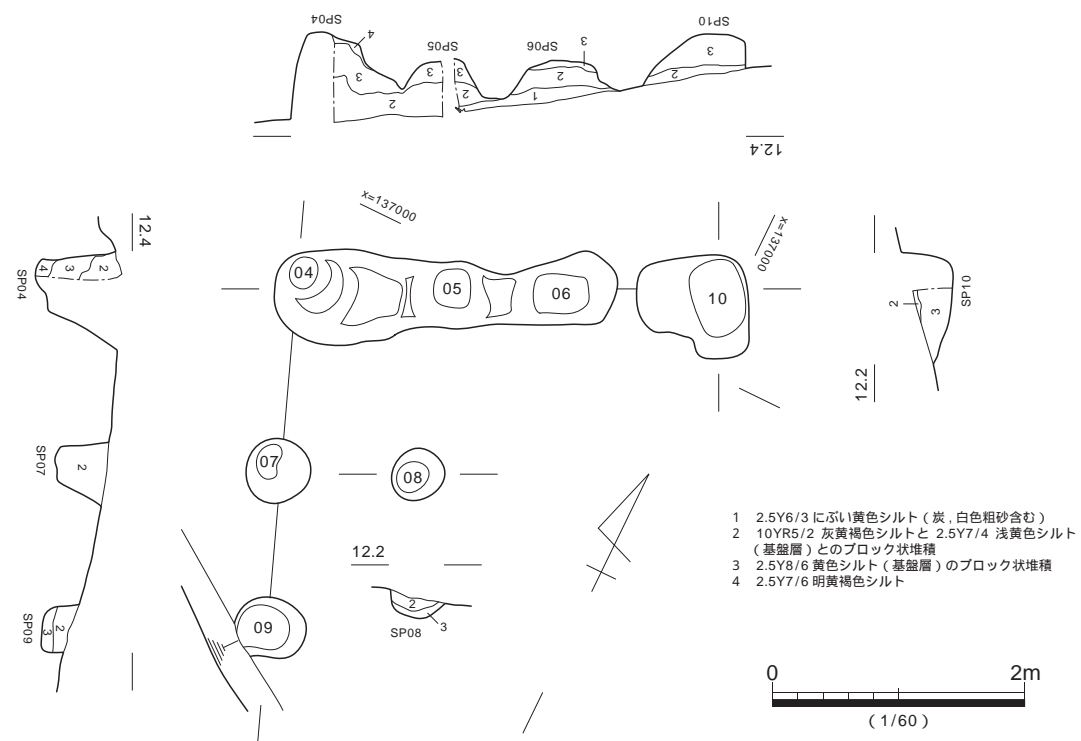


第97図 9区SH02平・断面図、出土遺物1

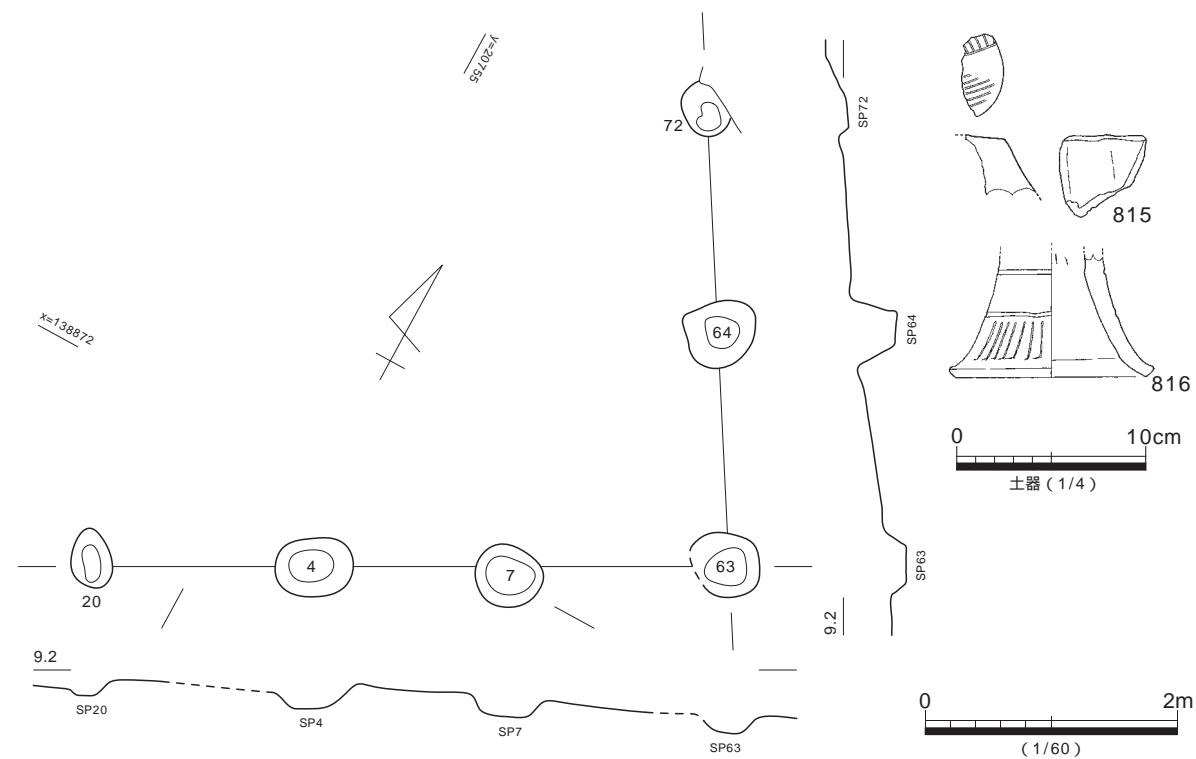


第100図 10区東SH01出土遺物





第104図 6区SB01平・断面図、出土遺物



第103図 4区SB02平・断面図、出土遺物

遺物は出土していないが、建物の規模から当期と考えられる。

4区SB02(D4)(第103図)

4区と7区にまたがり、柱穴の半分程度検出している。規模は、桁行3間以上(残存長5.05m) 梁行2間以上(残存長3.7m)で、主軸方位はN61°Eである。柱穴64から須恵器が出土していることや建物の規模から当期のものと考えられる。815は、柱穴7から出土した弥生土器の支脚と考えられる。上面に鋸歯文が施されている。816は柱穴64から出土した弥生土器高坏である。

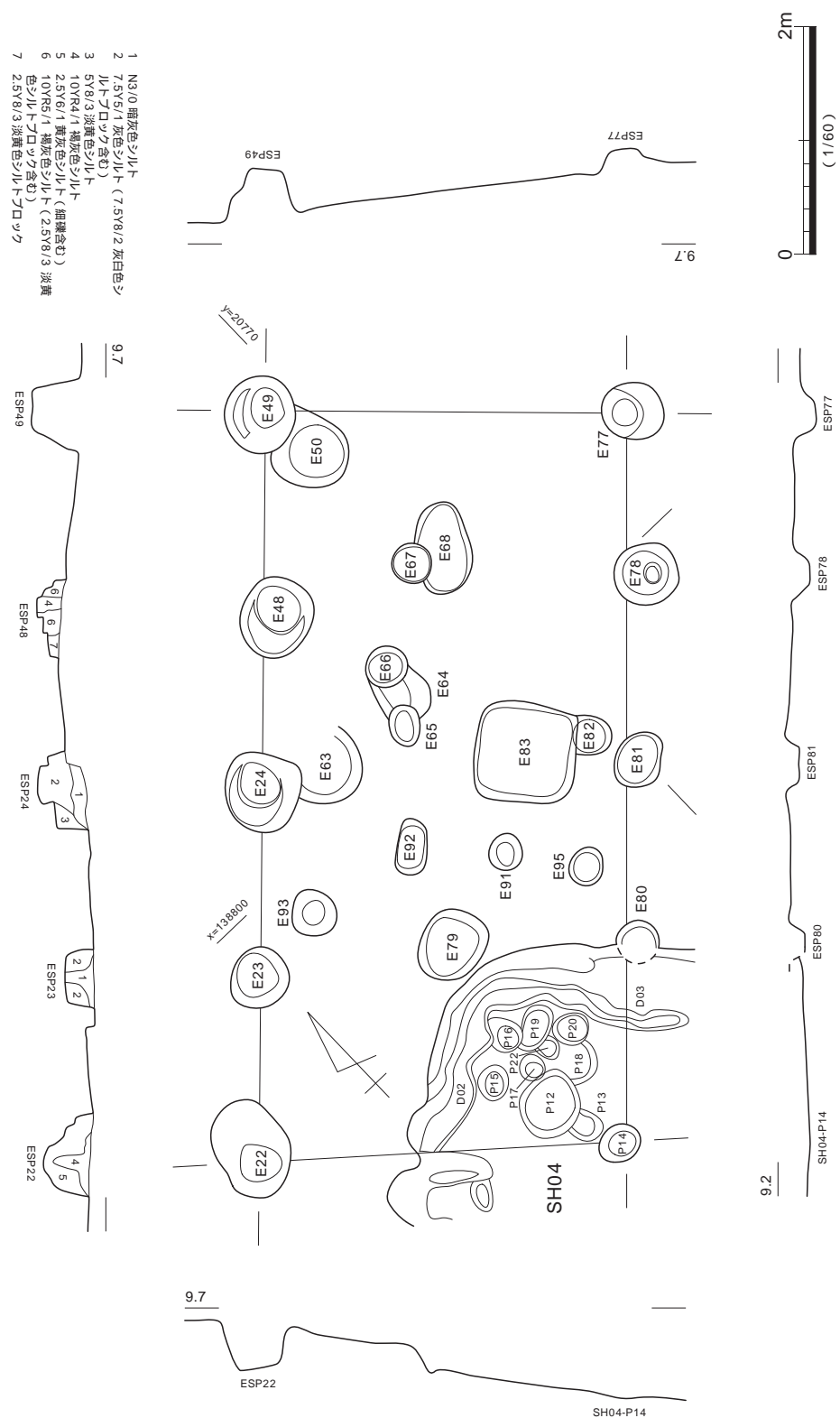
6区SB01(C4)(第104図)

丘陵斜面地に位置する。後世の削平等により、南東部は消失しているが、桁行3間以上(現存長3.35m) 梁間2間以上(現存長2.7m)の規模である。主軸方位は、N64°Eである。斜面の傾斜方向とはややずれた方向の主軸方位である。総柱の建物である。北側柱穴列は、平面形は布振り状に柱穴が繋がっているような形態であるが、断面では個々の柱穴は独立しており、柱穴掘削時に二段掘りしたものが、埋没時に柱穴壁が崩れて掘り方がつながったものと考えられる。柱穴05から須恵器817及び石錘818が出土している。7世紀終末頃の時期と考えられる。

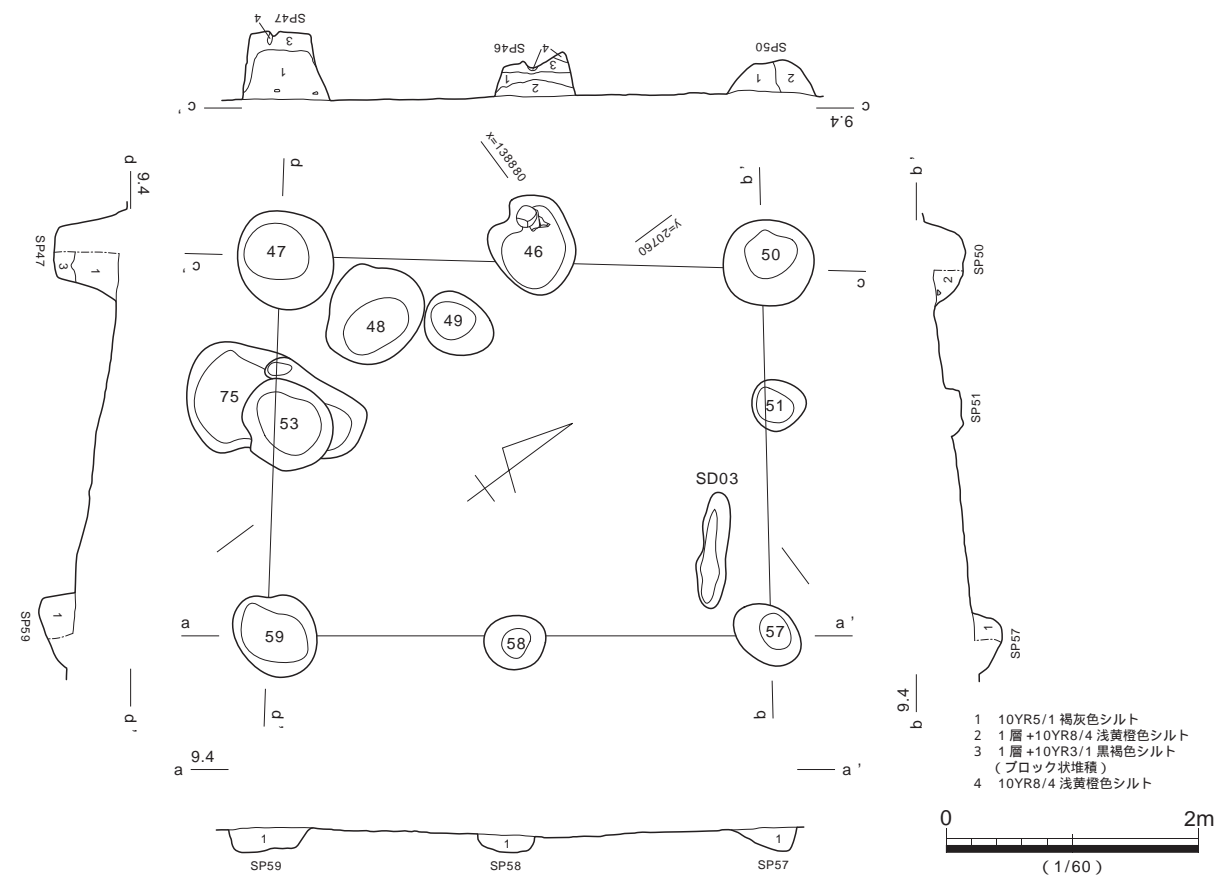
7区SB01(C4~D5)(第105図)

規模は、桁行2間(4m) 梁行2間(3m)で、主軸方位はN37°Eである。実測可能な遺物は出土していない。





第106図 7区SB02平・断面図



第105図 7区SB01平・断面図

7区SB02 (C5) (第106・107図)

規模は、桁行4間(6.6m) 梁行1間(3.15m)で、主軸方位はN44°Eである。SH04より新しい。ESP49から砥石819が出土している。

7区SB03 (D5) (第108図)

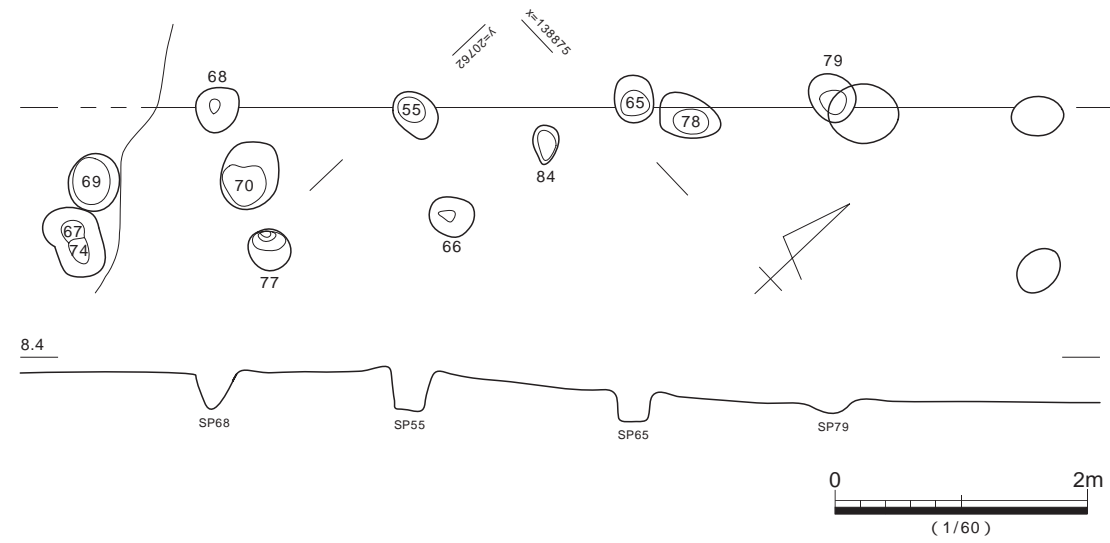
柱穴列1列のみの検出であり、柵列の可能性もある。長さ3間(4.9m)で、主軸方位はN44°Eである。実測可能な遺物は、出土していない。

7区SB04 (C4,C5) (第109図)

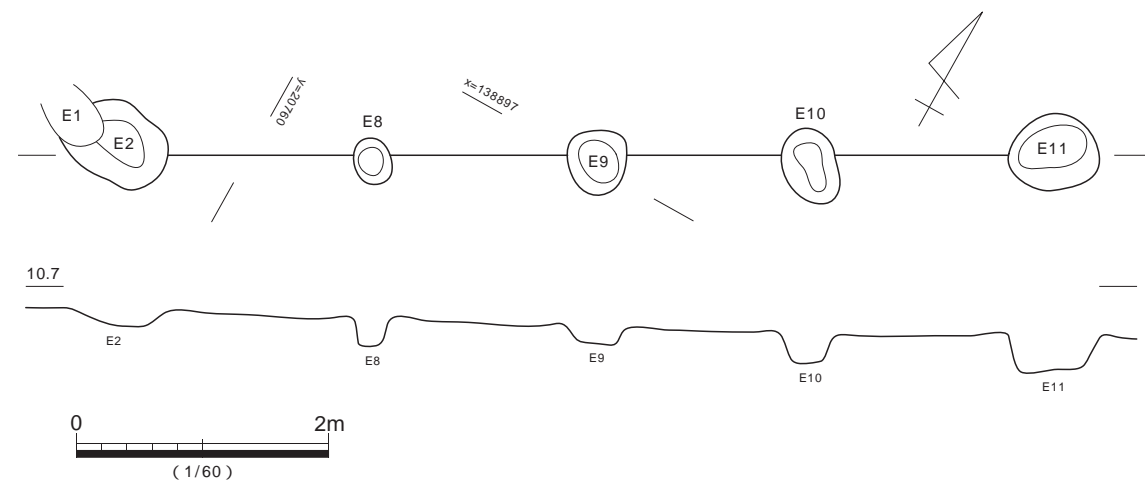
柱穴列1列のみの検出であり、柵列の可能性もある。長さ4間(7.4m)で、主軸方位は、N61°Eである。実測可能な遺物は、出土していない。

8区SB01 (C6,C7) (第110図)

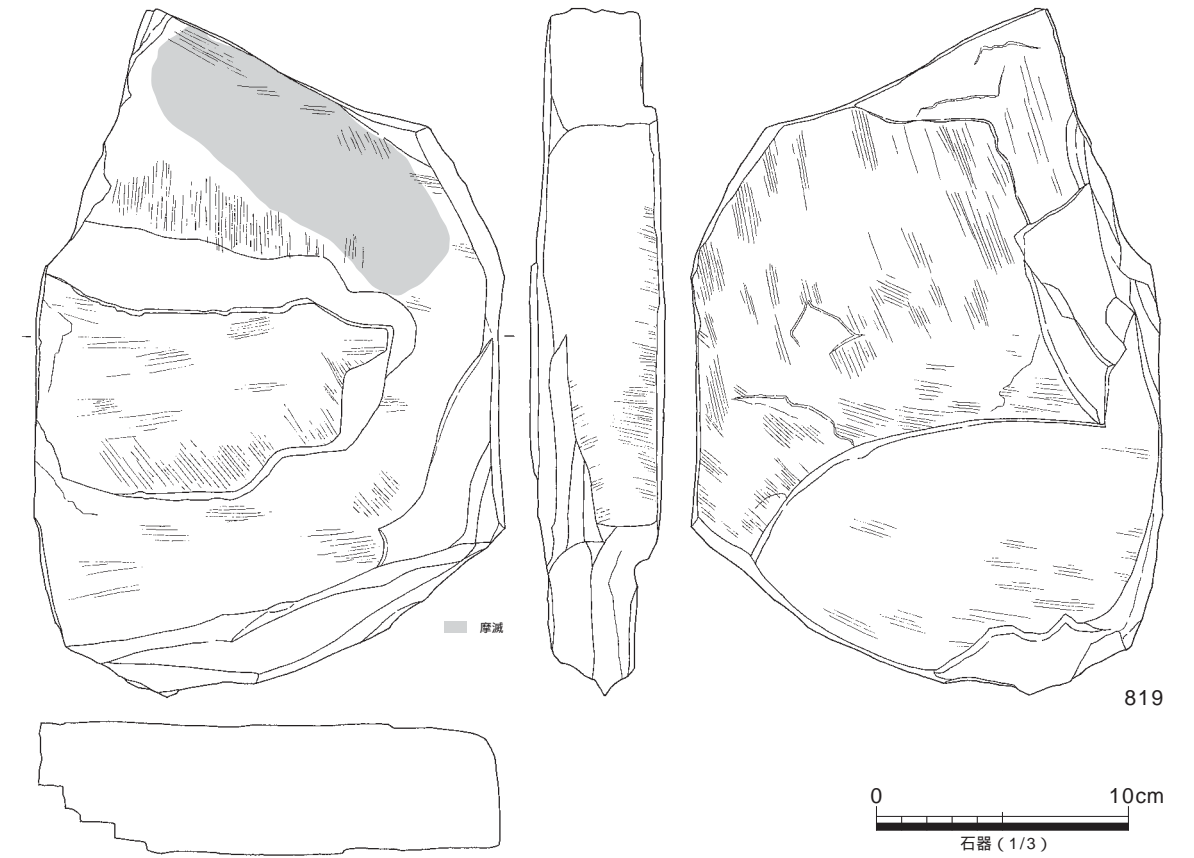
SH16より新しい。規模は、桁行4間(6.75m) 梁行2間以上(現存長2.75m)で、主軸方位はN40°Eである。P11も建物を構成する柱穴の可能性もある。柱穴W23から須恵器坏820、柱穴



第 108 図 7 区 SB03 平・断面図



第 109 図 7 区 SB04 平・断面図



第 107 図 7 区 SB02 出土遺物

W25 から土師器甕 821 が出土している。須恵器から TK209 型式以降の時期が考えられる。

10 区 S B 0 1 (D4, E4, E5) (第 111 図)

規模は、桁行 4 間 (6.1 m) 梁行 2 間 (3.8 m) で、主軸方位は、N53 °E である。柱穴から実測可能な遺物は出土していないが、規模から当期の遺構と考えられる。

10 区 S B 0 2 (D5, D6) (第 112 図)

規模は、桁行 3 間 (3.75 m) 梁行 1 間 (1.75 m) で、主軸方位は N38 °E である。実測可能な遺物は出土していないが、規模から当期と考えられる。

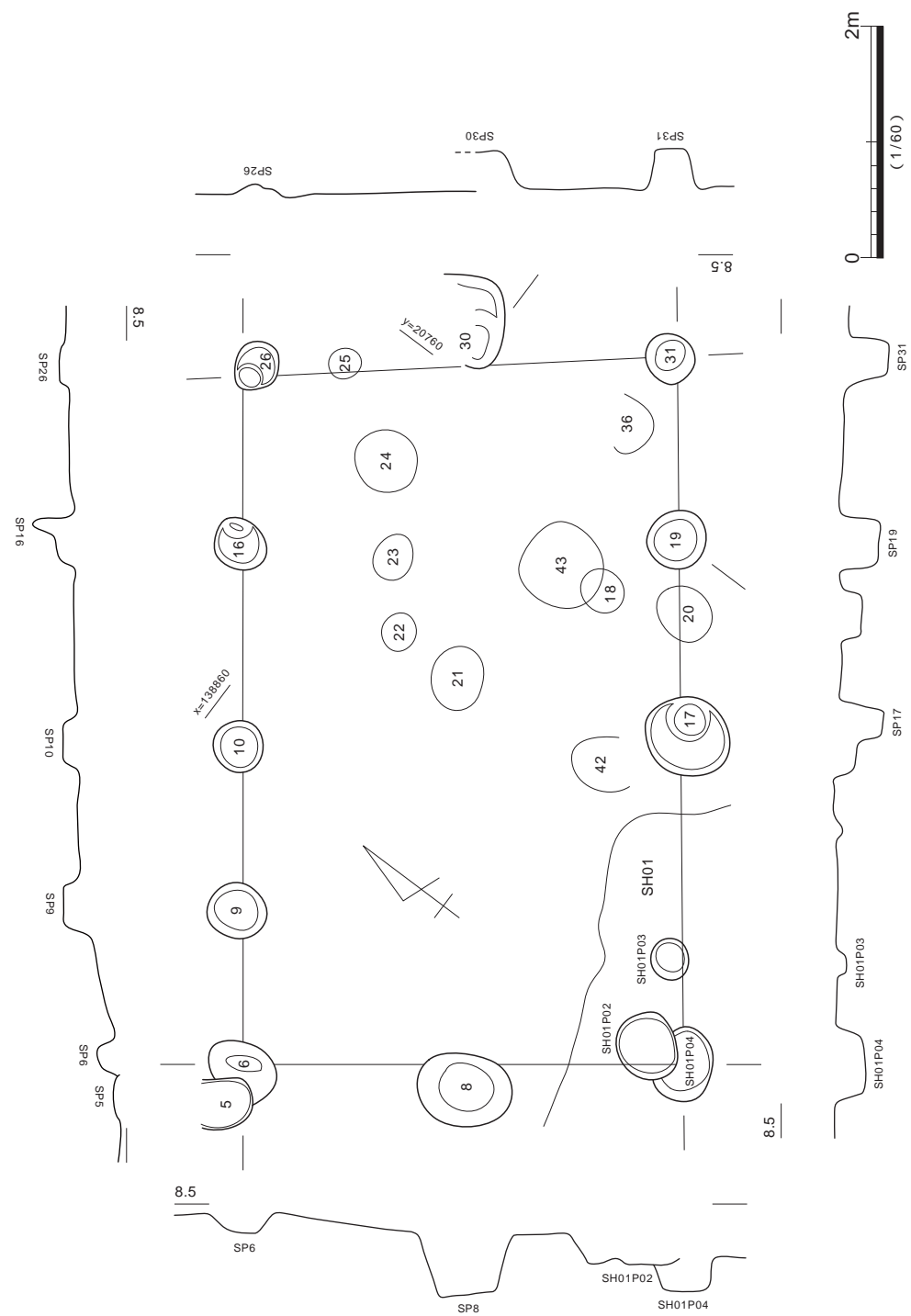
柵列

10 区 S A 0 1 (D5, E5) (第 113 図)

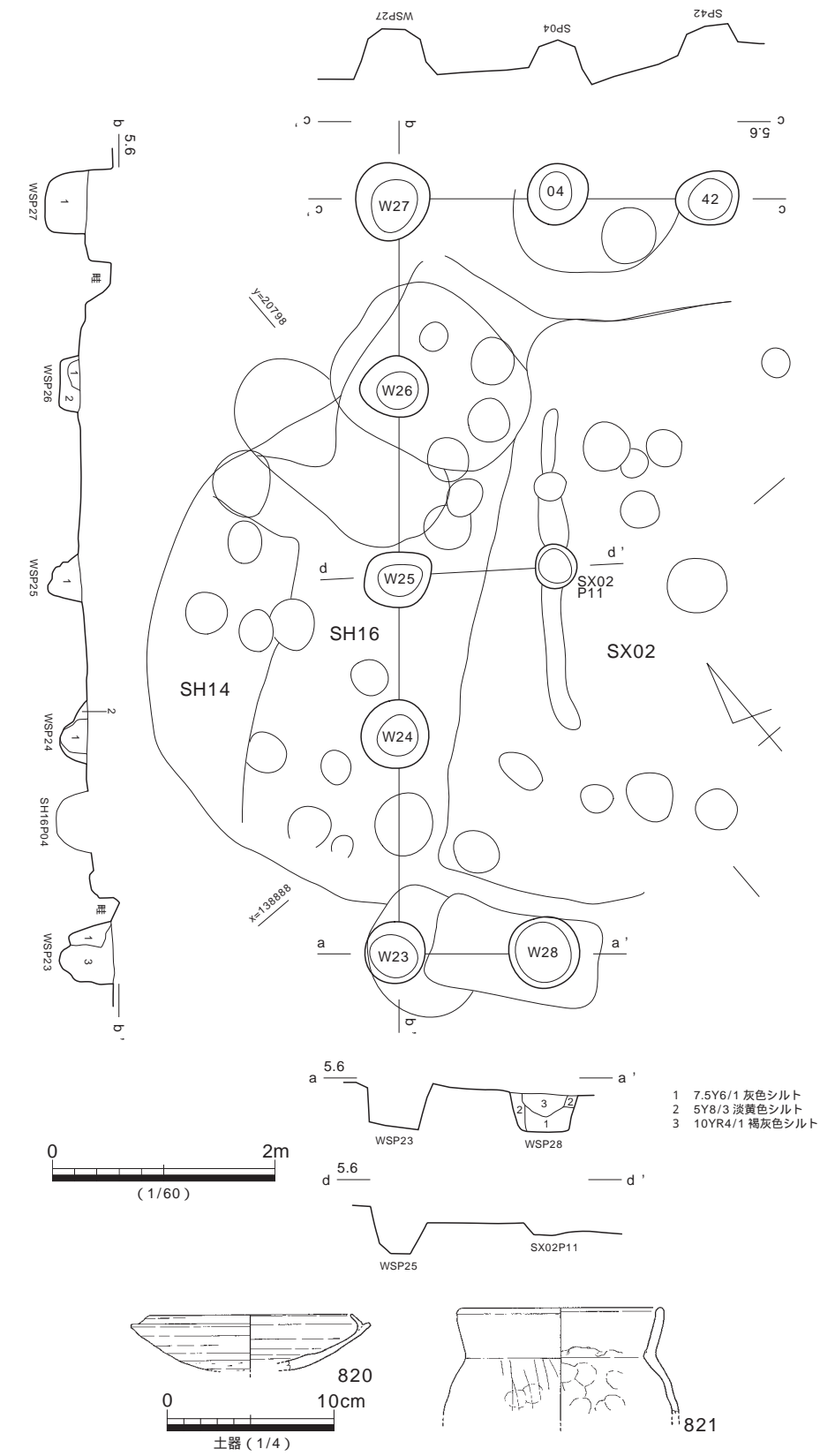
規模は、5 間 (9.75 m) で、主軸方位は N54 °E である。実測可能な遺物は、出土していない。

土坑

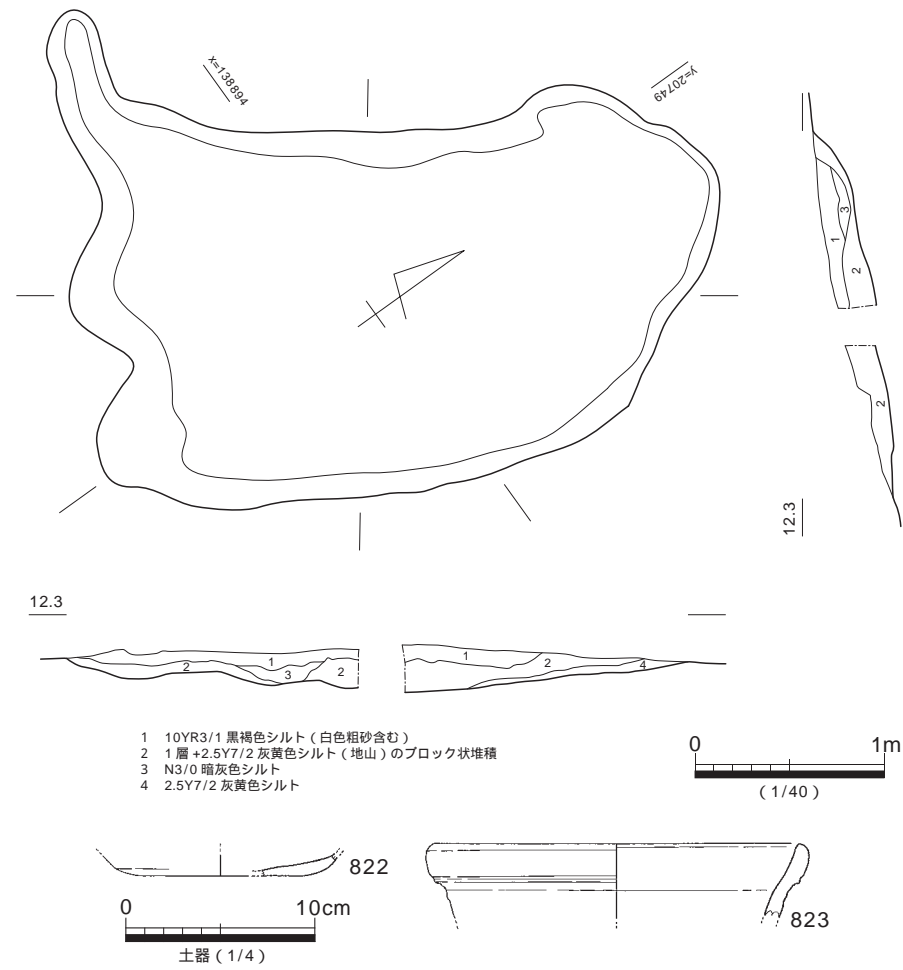
6 区 S K 0 2 (C4) (第 114 図)



第111図 10区SB01平・断面図



第110図 8区SB01平・断面図、出土遺物



第 114 図 6 区 SK02 平・断面図、出土遺物

不定形の落ち込み状の遺構である。性格は不明である。須恵器 822・823 が、出土している。

7 区 S K 0 1 ( D4, D5 ) ( 第 115 ・ 116 図 )

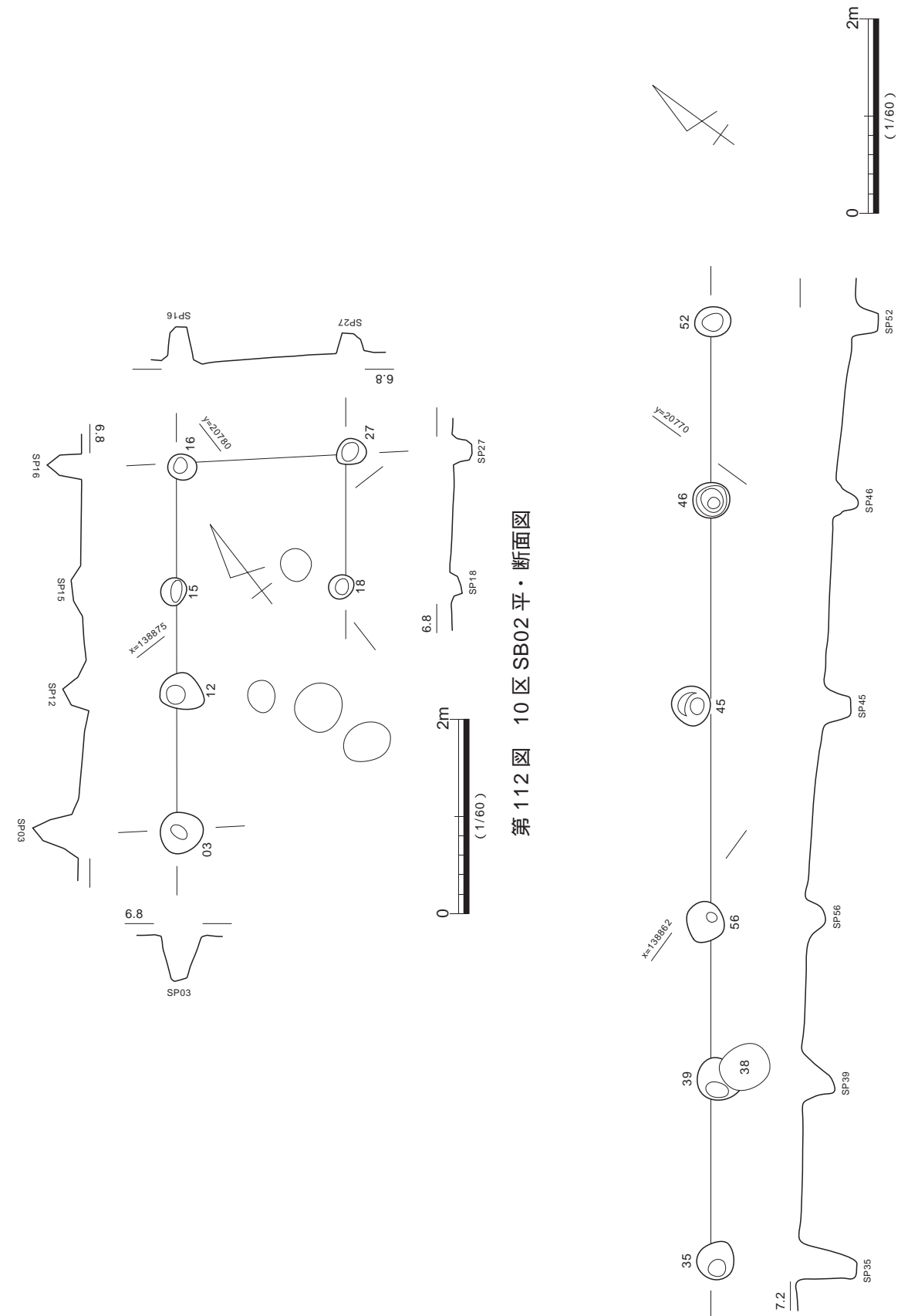
不定形の浅い土坑である。炭、焼土、土器片を多量に含むため、廃棄土坑と考えられる。出土遺物は、824 ~ 835 は須恵器である。836 ~ 843 は、土師器である。844・845 は、製塩土器と考えられる。846 ~ 850 は、土師質の棒状土錘である。851 は、弥生土器である。

7 区 S K 0 5 ( C5 ) ( 第 117 図 )

弥生時代終末期 ~ 古墳時代の周溝 S D 0 6 より新しい。埋土に焼土、炭を含むことから廃棄土坑と考えられる。852 は、弥生土器鉢である。853 ~ 855 は、須恵器坏蓋である。TK209 型式の時期と考えられる。

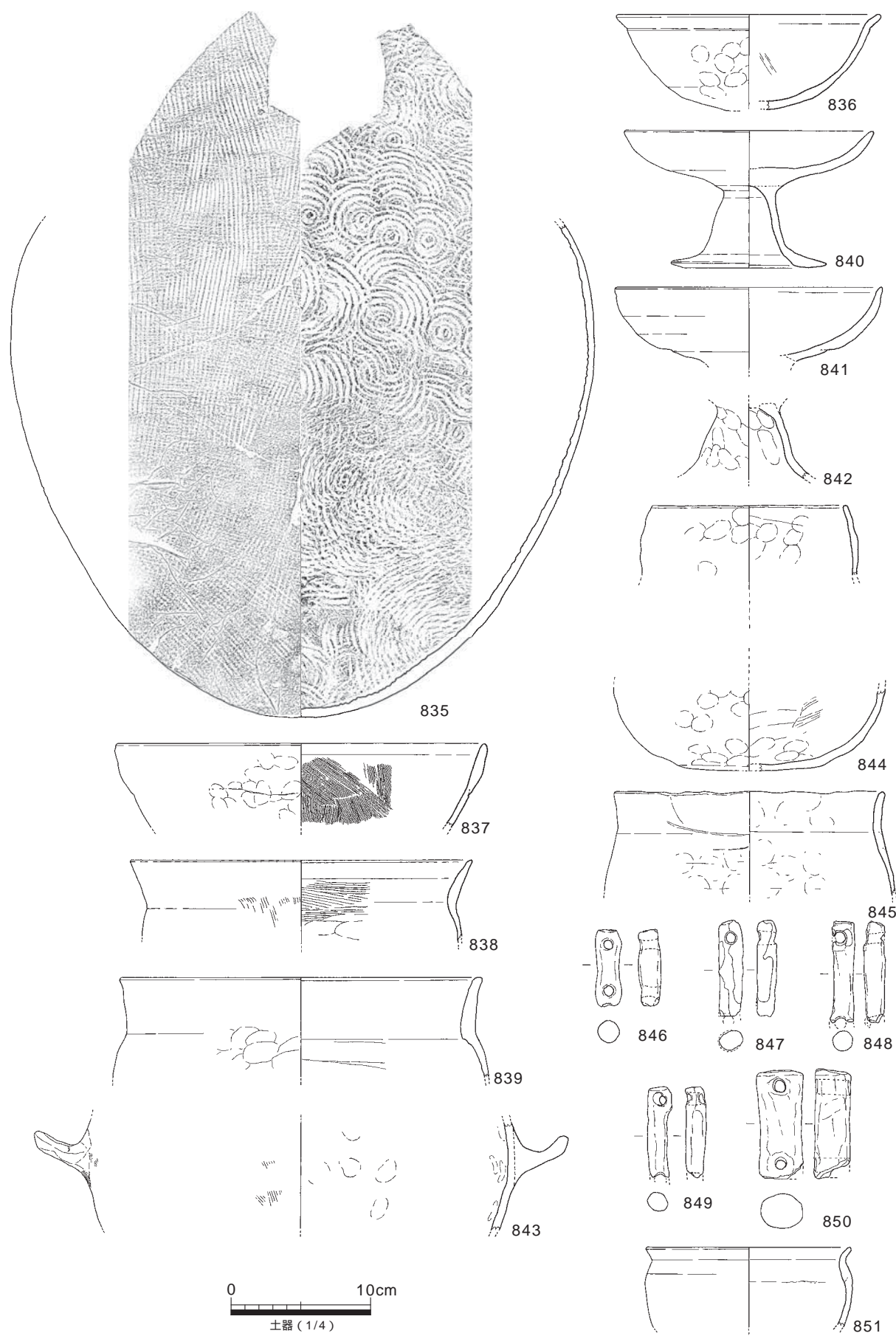
9 区 S K 0 1 ( E5 ) ( 第 118 ・ 119 図 )

断面皿状の土坑である。28 リットル入りコンテナ 2 箱程度の遺物が出土している。廃棄土坑と考えられる。出土遺物は、856 ~ 866 は須恵器である。867 ~ 882 は、土師器である。883 は、土師質の棒

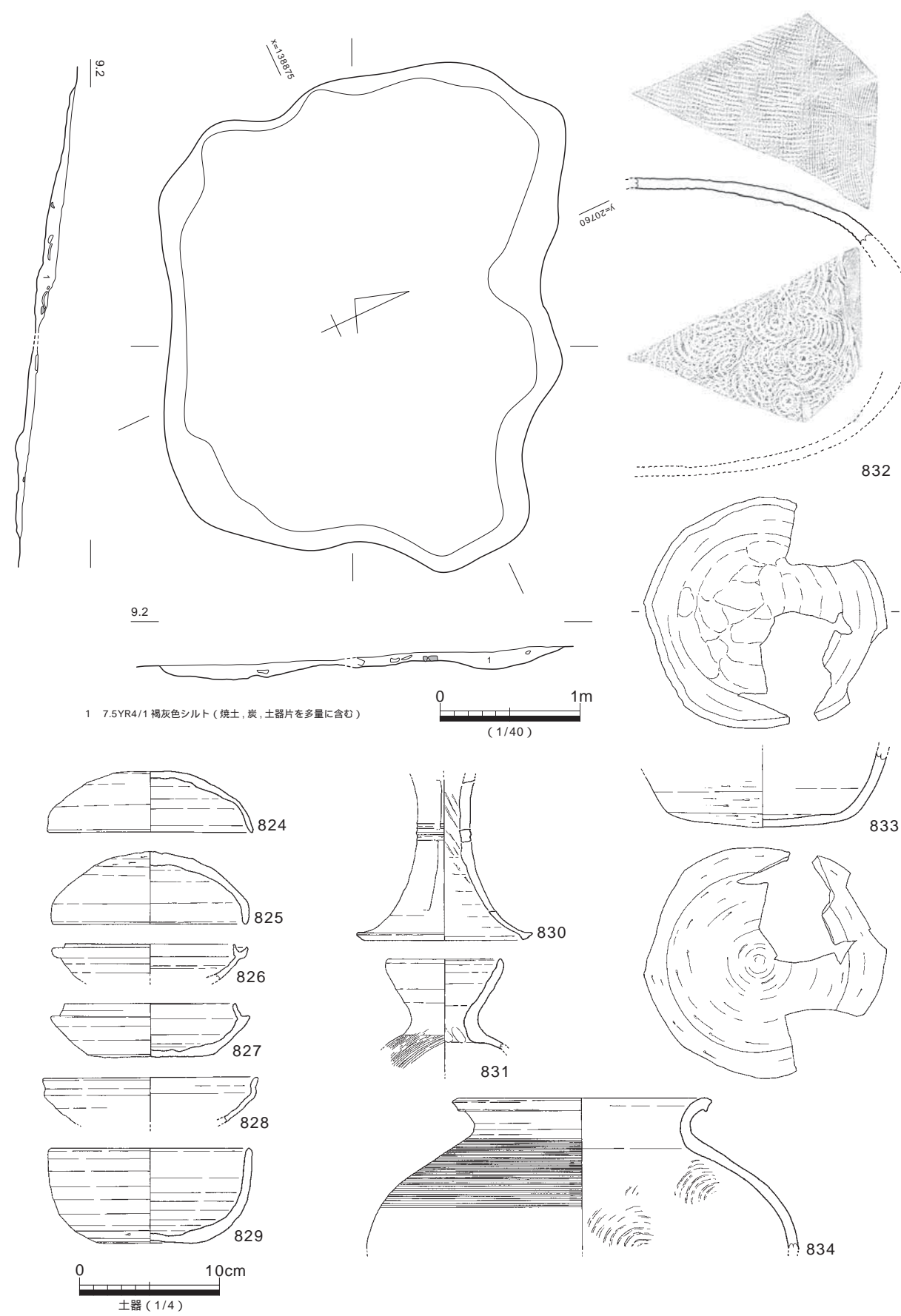


第 112 図 10 区 SB02 平・断面図

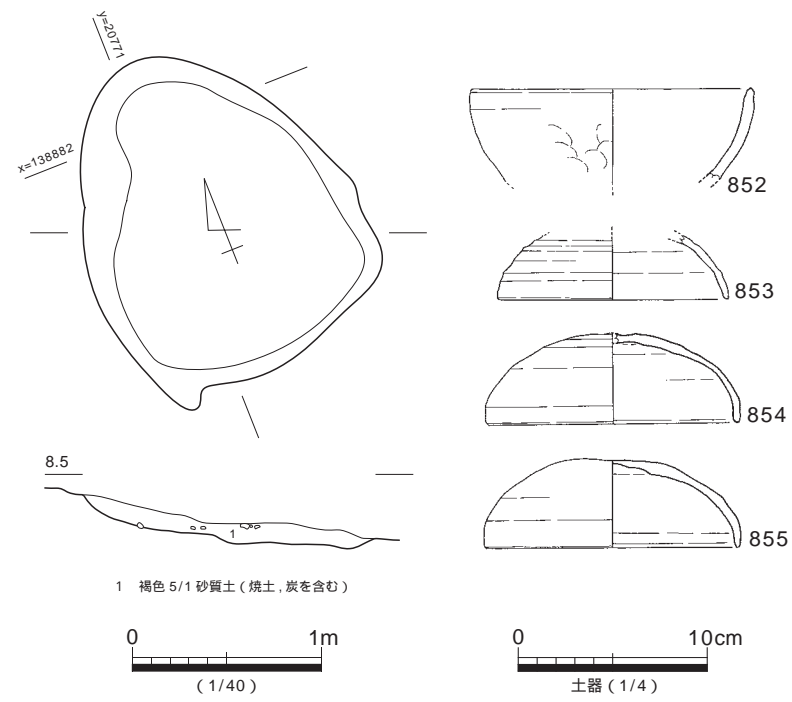
第 113 図 10 区 SA01 平・断面図



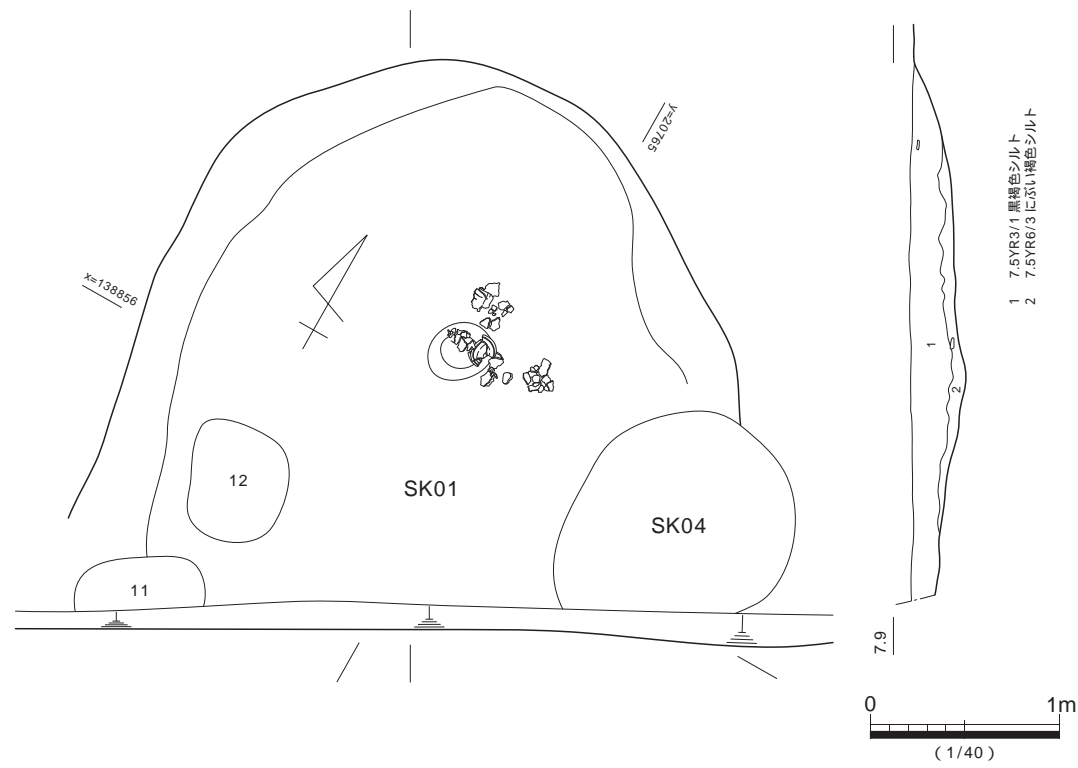
第 116 図 7 区 SK01 出土遺物 2



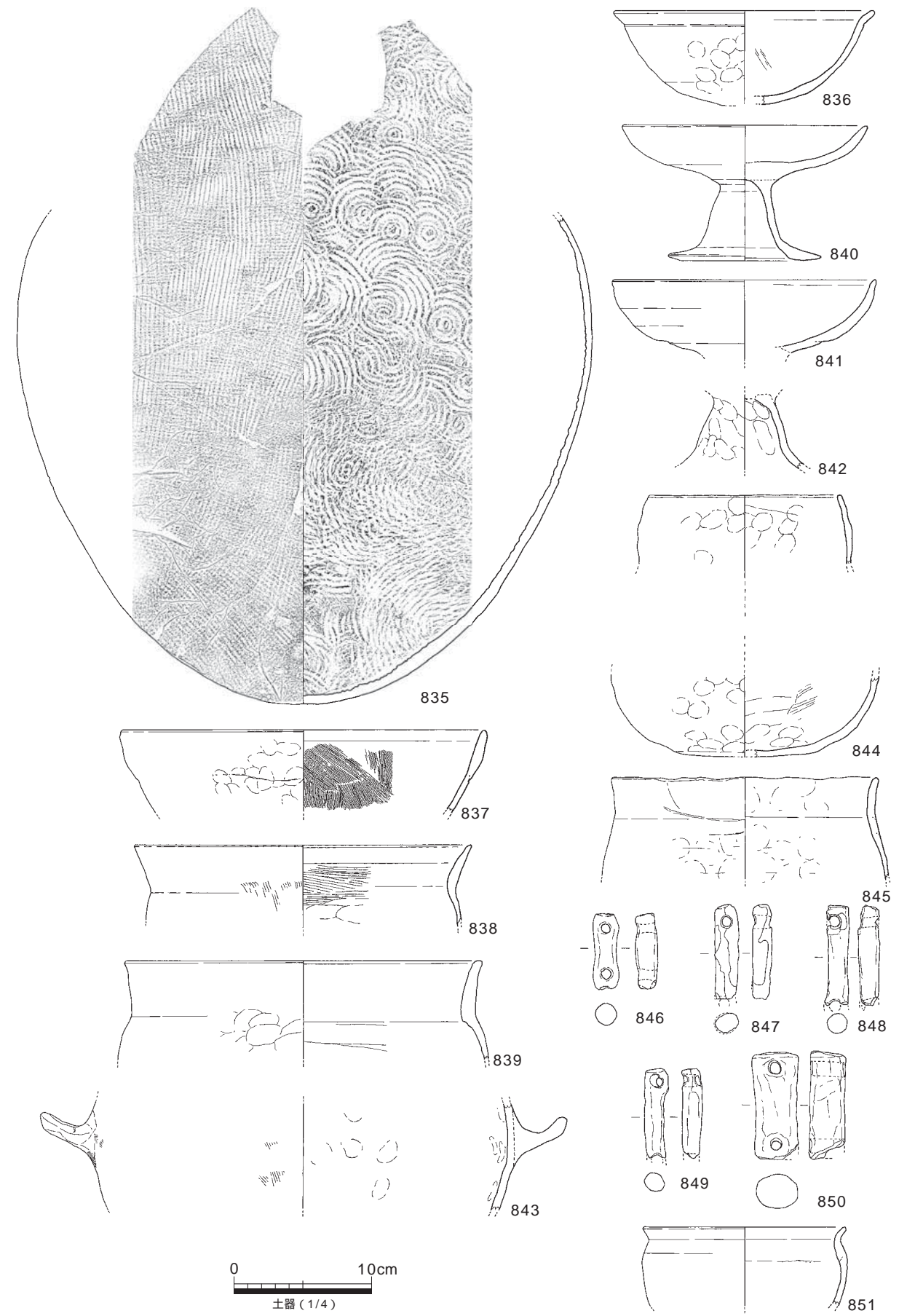
第 115 図 7 区 SK01 平・断面図、出土遺物 1



第 117 図 7 区 SK05 平・断面図、出土遺物



第 118 図 9 区 SK01 平・断面図



第 116 図 7 区 SK01 出土遺物 2

状土錘である。須恵器よりTK209型式の時期が考えられる。

3区SX02(C3)(第120図)

不定形な浅い土坑である。須恵器885～887が出土している。

9区SX06(E5)(第121図)

炭の堆積が見られる。土師器甕888が出土している。

溝

8区SD06(C6)(第122図)

竪穴建物の周溝状の遺構である。土師器甕889が、出土している。深さ20cm程度である。

10区西SD02(D5)(第123図)

幅約30cm、深さ5cm程度の小規模な溝である。須恵器890が、出土している。

その他の遺構

7区SH07, SX03(C5, C6)(第124・125図)

調査時は、竪穴建物及び性格不明の落ち込みとしていたが、遺構の深さが浅かったり、平面形が不定形であることから、明確な遺構としては取り扱えないため、ここでは出土した遺物をまとめて報告する。

891～901は、弥生土器である。902～907は、須恵器である。907は、提瓶あるいは横瓶である。908～910は、土師器である。912はふいごの羽口である。913は石錘である。

8区SX02(C6, C7)(第126図)

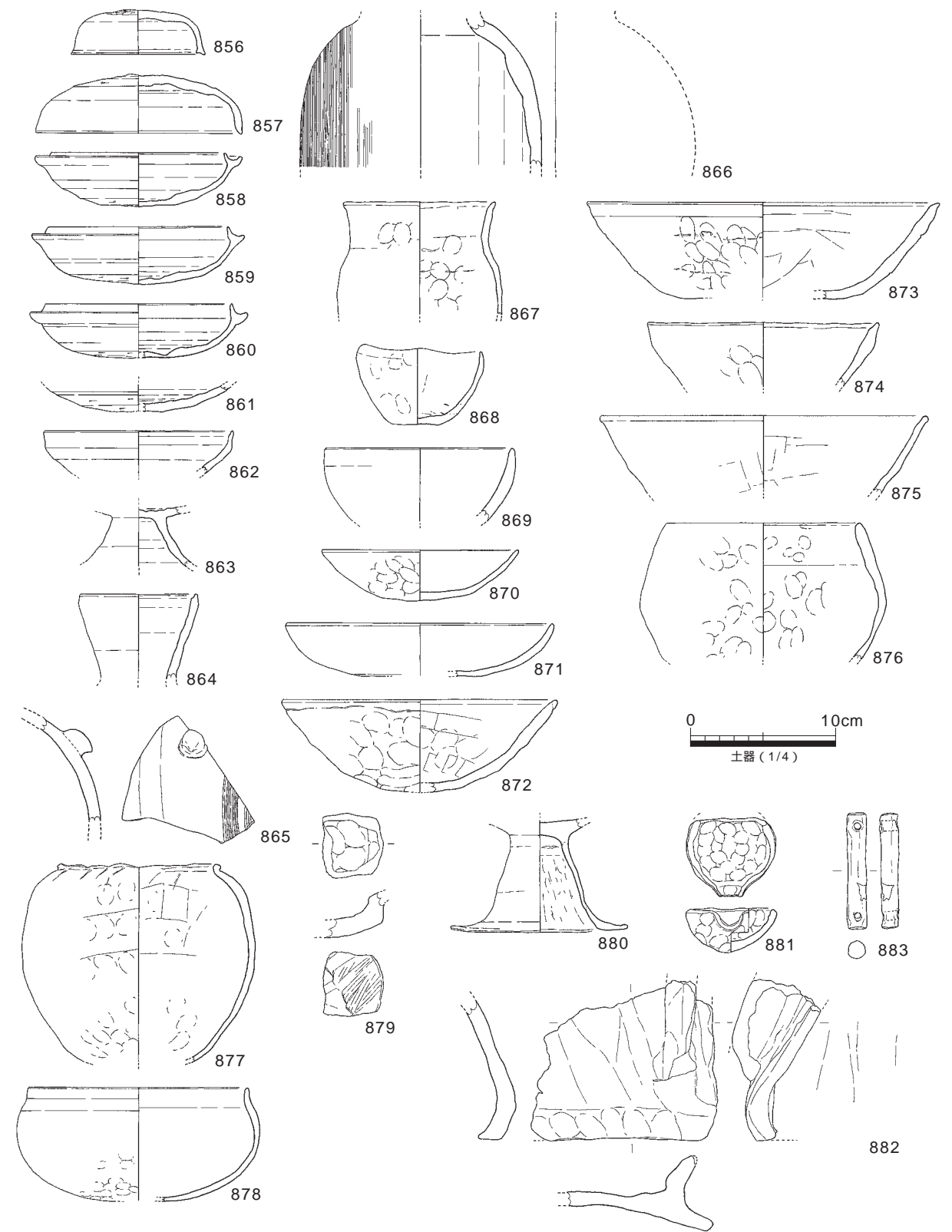
平面形が不整形の遺構である。壁溝状の遺構がある。北東側の壁面と壁溝状の遺構のなす平面の角度は直角に近く、建物の可能性がある。出土遺物は、914～927は須恵器である。928～938は、土師器である。939・940は、土師質の土錘である。941はP01から出土した須恵器である。須恵器からTK209型式の時期が考えられる。

9区SH01, SX01, SX02(D5, D6)(第127・128図)

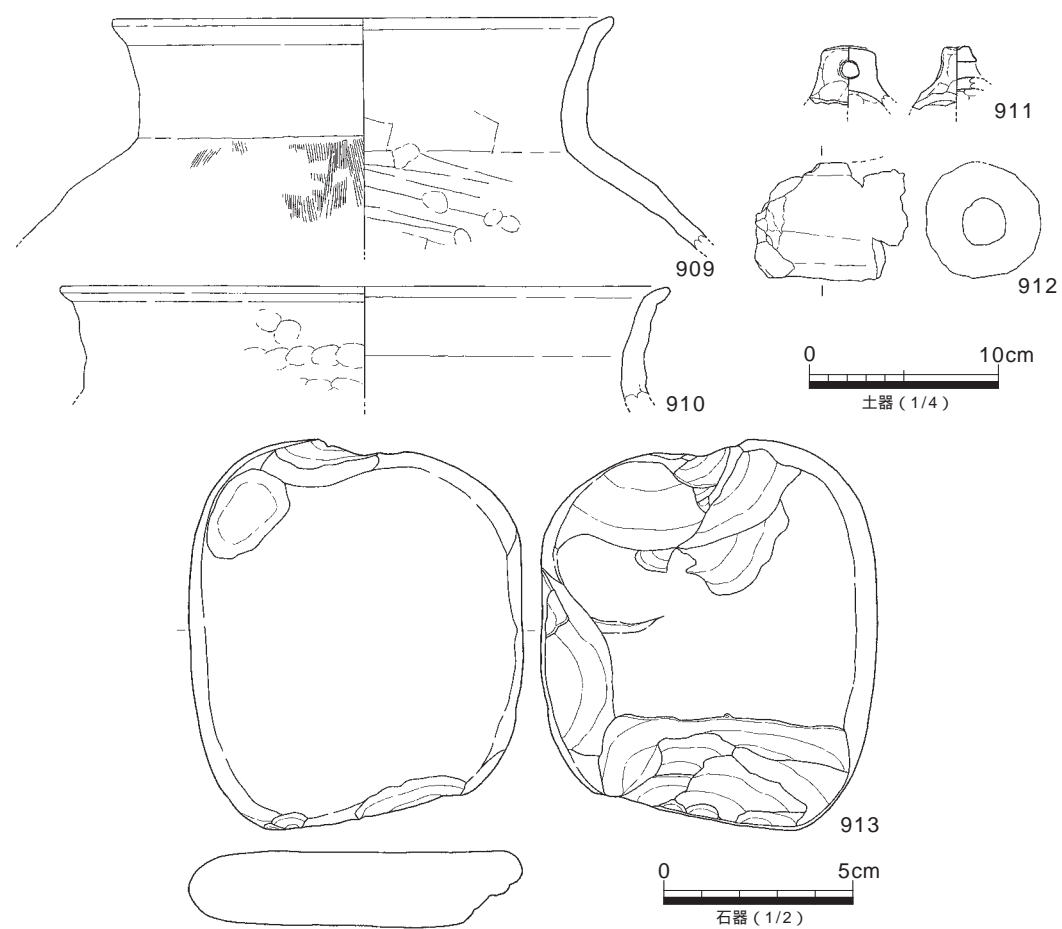
発掘作業時は、竪穴建物として調査を実施したが、方形の平面の半分程度しか検出できていない。また、SH01より古いSX01は、壁溝と考えられる溝があるが、その他の施設は確認されておらず、建物跡かどうかは疑問である。SX02の掘り込み線は、SX01と平行する。942・943は、SH01から出土した土器である。また、944～947がSX01から出土した。948は、SX02から出土している。飯蛸壺949がP01から出土している。SP47からは甑950、砥石951、敲石952・953が出土している。

9区SX03(D5, D6)(第129図)

調査区南壁際で検出した遺構である。深さ15cm、幅4m程度である。竪穴建物の可能性がある。須恵器坏蓋954が、出土している。



第119図 9区SK01出土遺物



第125図 7区SH07・SX03出土遺物2

土器集中遺構 (D4, D5) (第130 ~ 135図)

7区南西部、4区南東部及び10区SX01からは、土器が多量に出土している。これらは、一連の廃棄場所と考えられる。

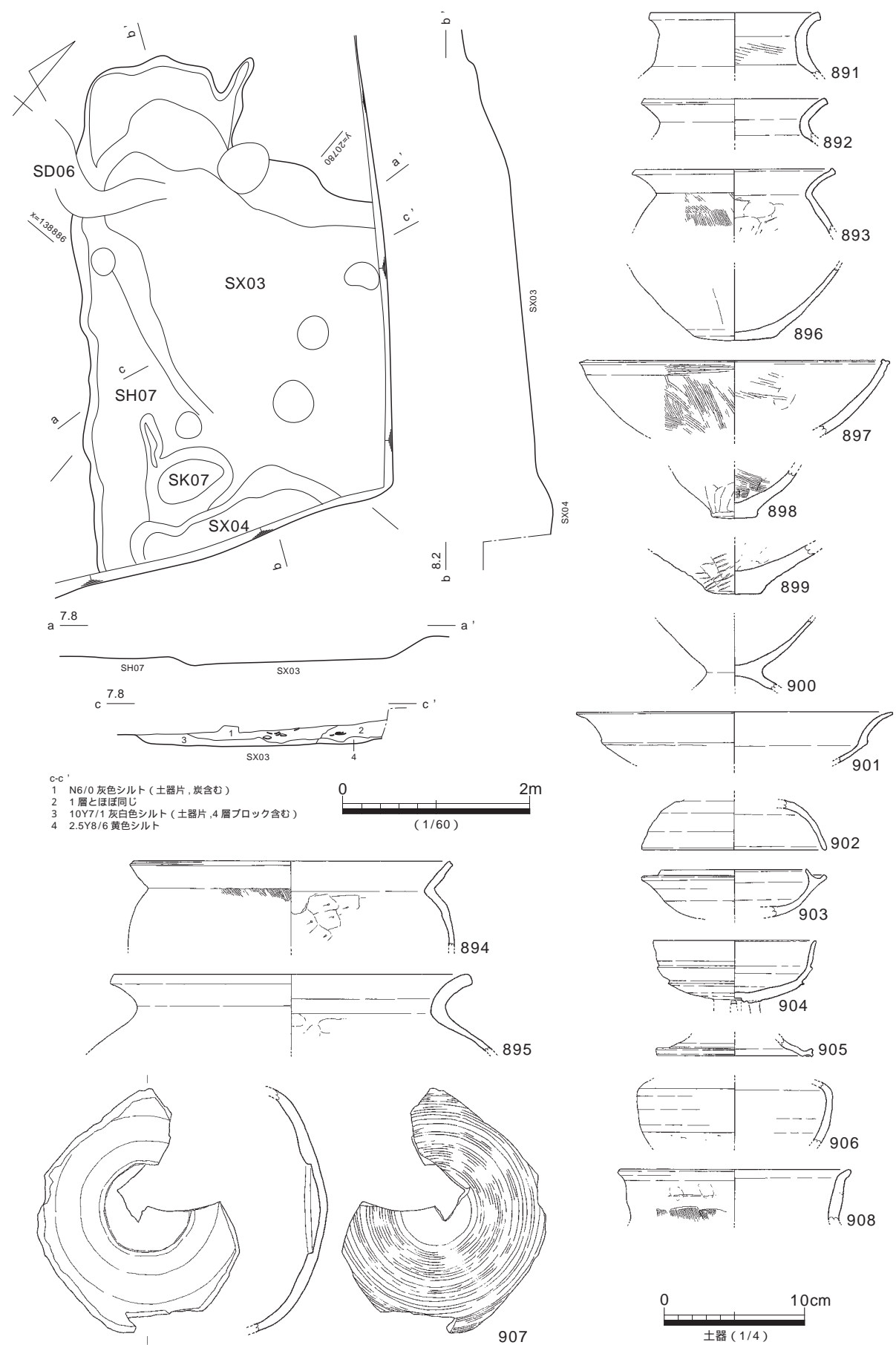
955~971は、7区南西部及び4区南東部から出土した土器である。955~966は、須恵器である。967は、土師器甕である。968~971は、飯蛸壺及び土錘である。972~1009は、SX01から出土した須恵器である。1010~1023は、須恵質の棒状土錘である。1024~1033は、土師器である。1034~1037は、飯蛸壺及び土師質の棒状土錘である。1038~1040は、7区南西部及び4区南東部から出土した石器である。SX01から出土した石器は、1041~1043は砥石、1044は敲石、1045は凹石である。須恵器からTK209~TK48型式の時期が考えられる。

6 奈良時代以降

ピット

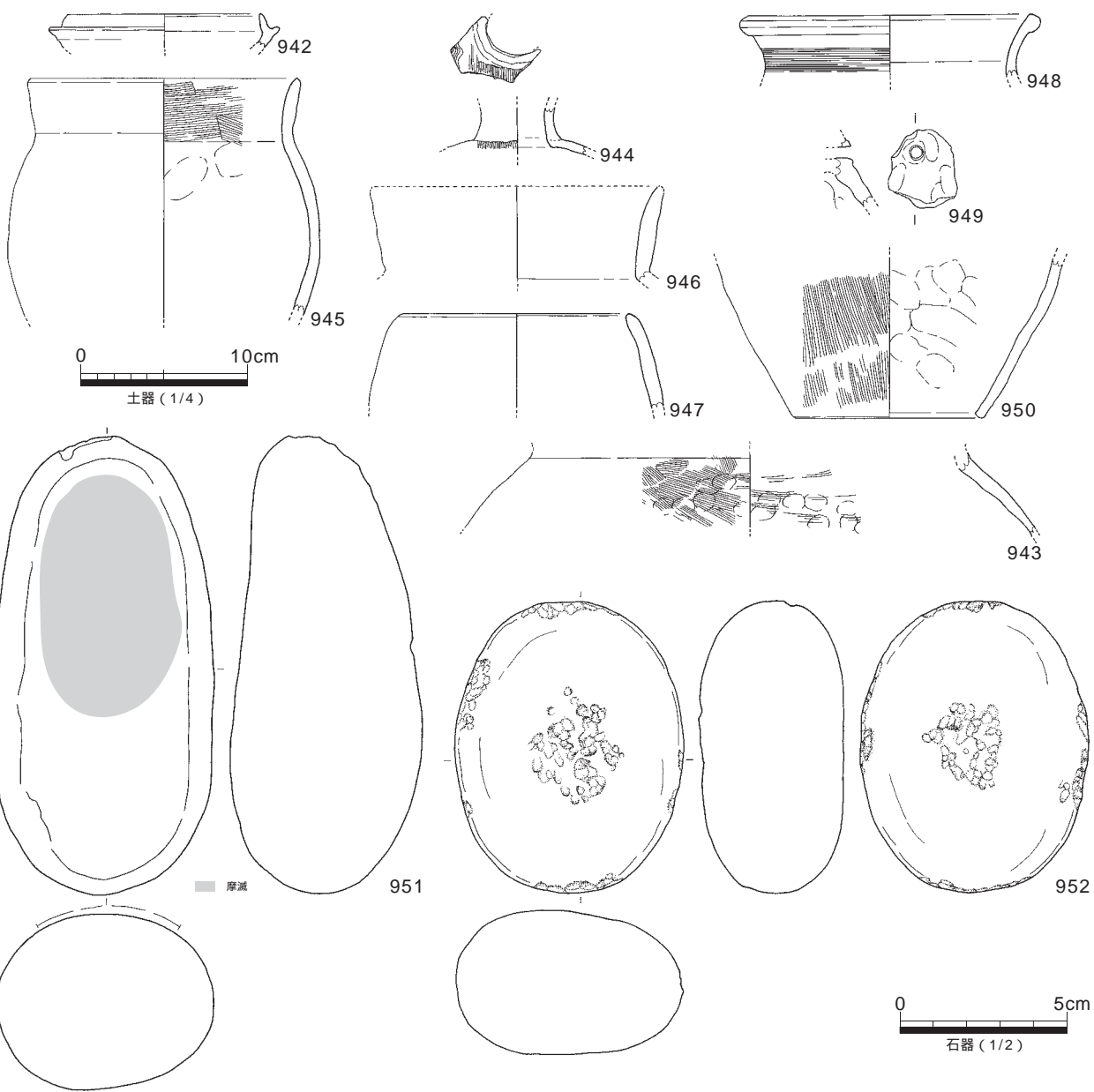
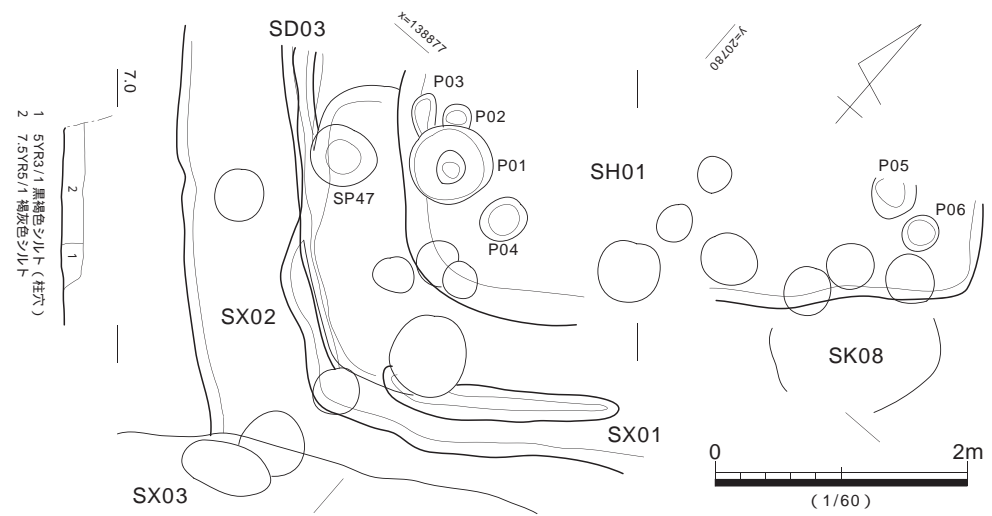
3区SP04 (C3) (第136図)

須恵器及び石が置かれたような状況で出土した。高台付坏1046の上に長頸瓶1047の下半部が置かれ

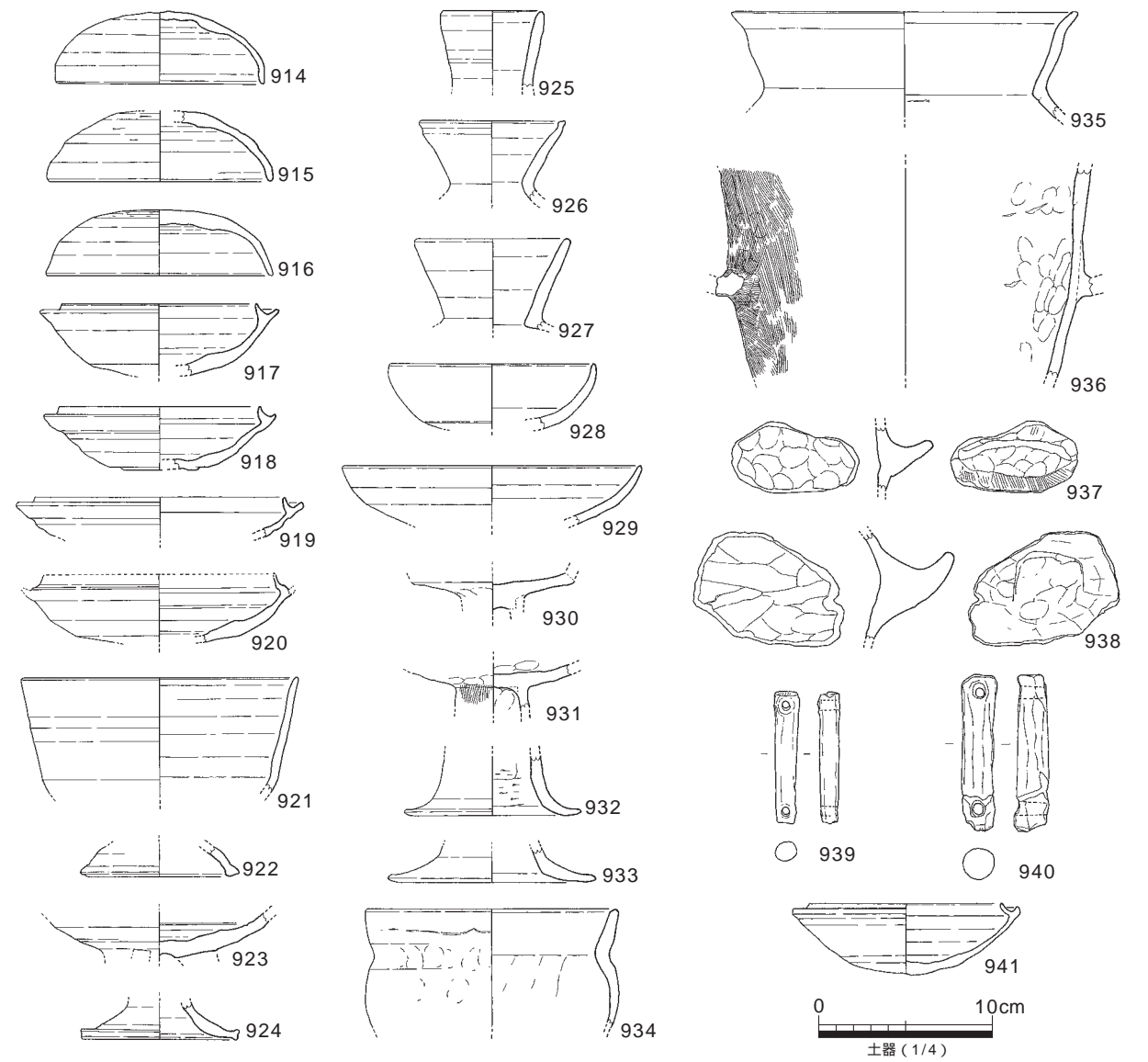
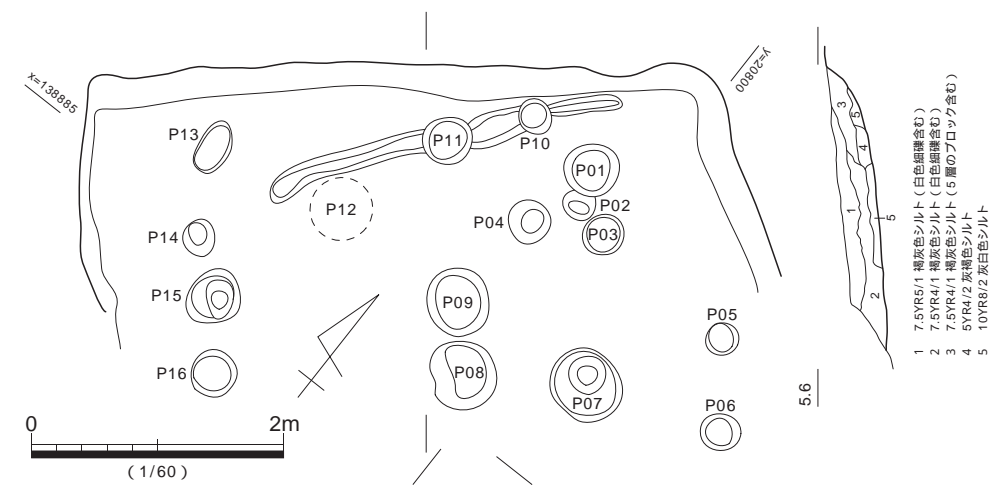


第124図 7区SH07・SX03平・断面図、出土遺物1





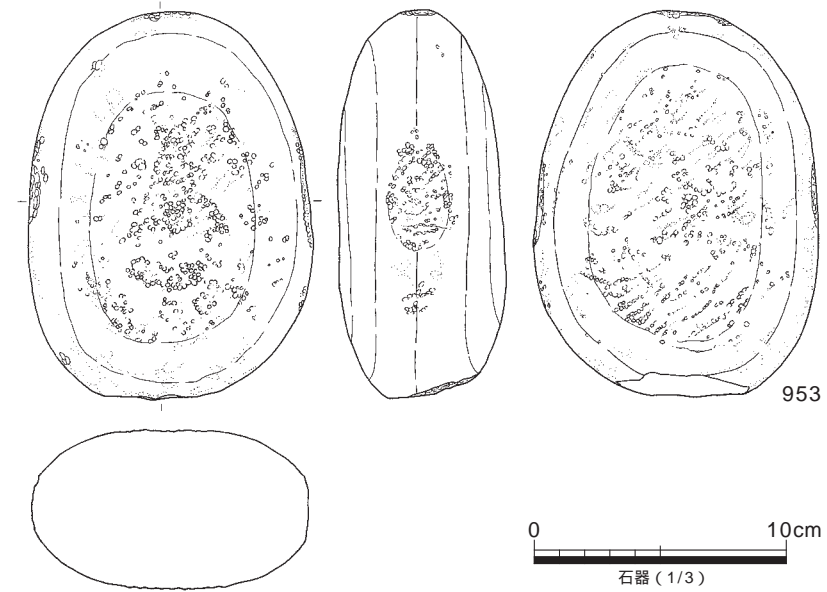
第127図 9区 SH01, SX01, SX02 平・断面図、出土遺物1



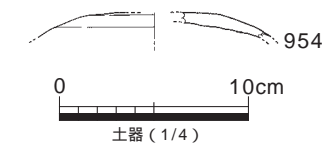
第126図 8区 SX02 平・断面図、出土遺物



第130図 土器集中遺構平面図



第128図 9区 SH01, SX01, SX02 出土遺物2



第129図 9区 SX03 出土遺物

ている。須恵器から奈良時代初め頃の時期が考えられる。

8区SP19(C7)(第137図)

中世の土師質土器皿1048が出土している。

8区SP23(C7)(第137図)

中世の吉備系土師器椀1049が出土している。

土坑

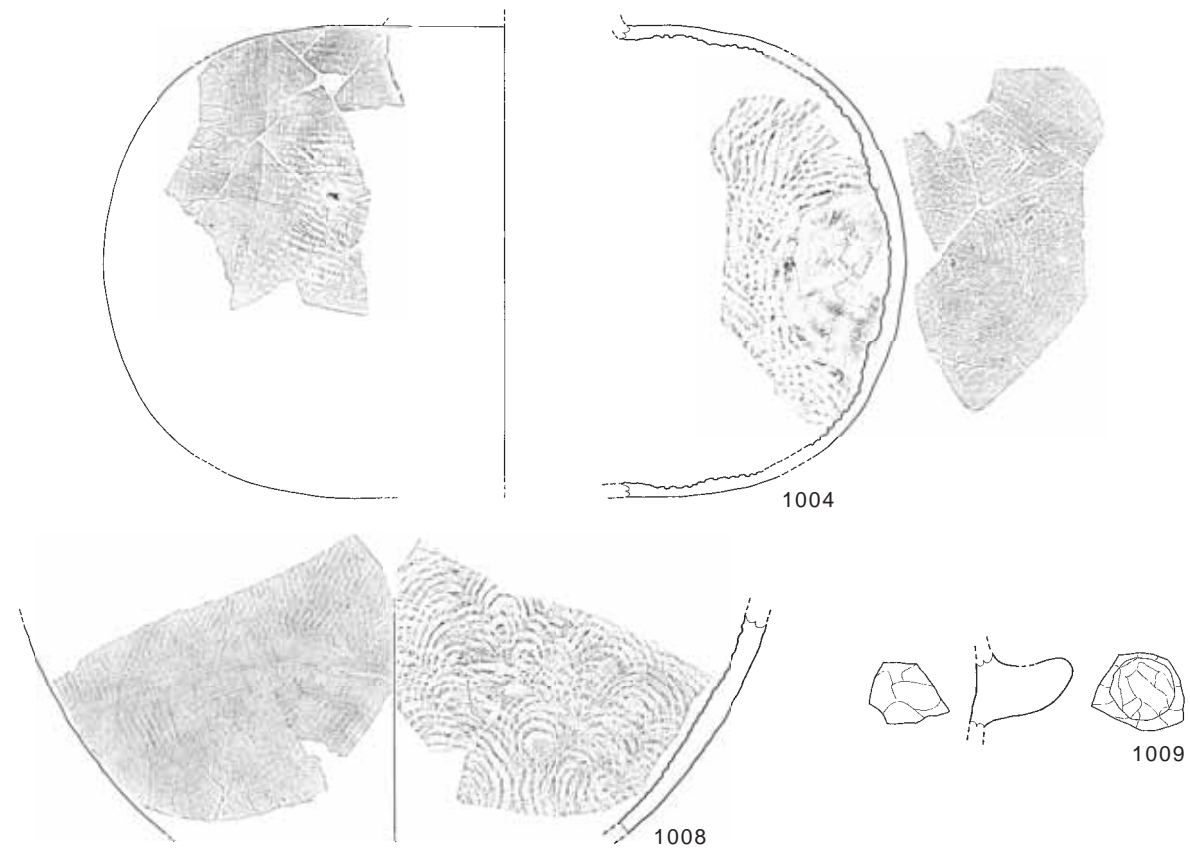
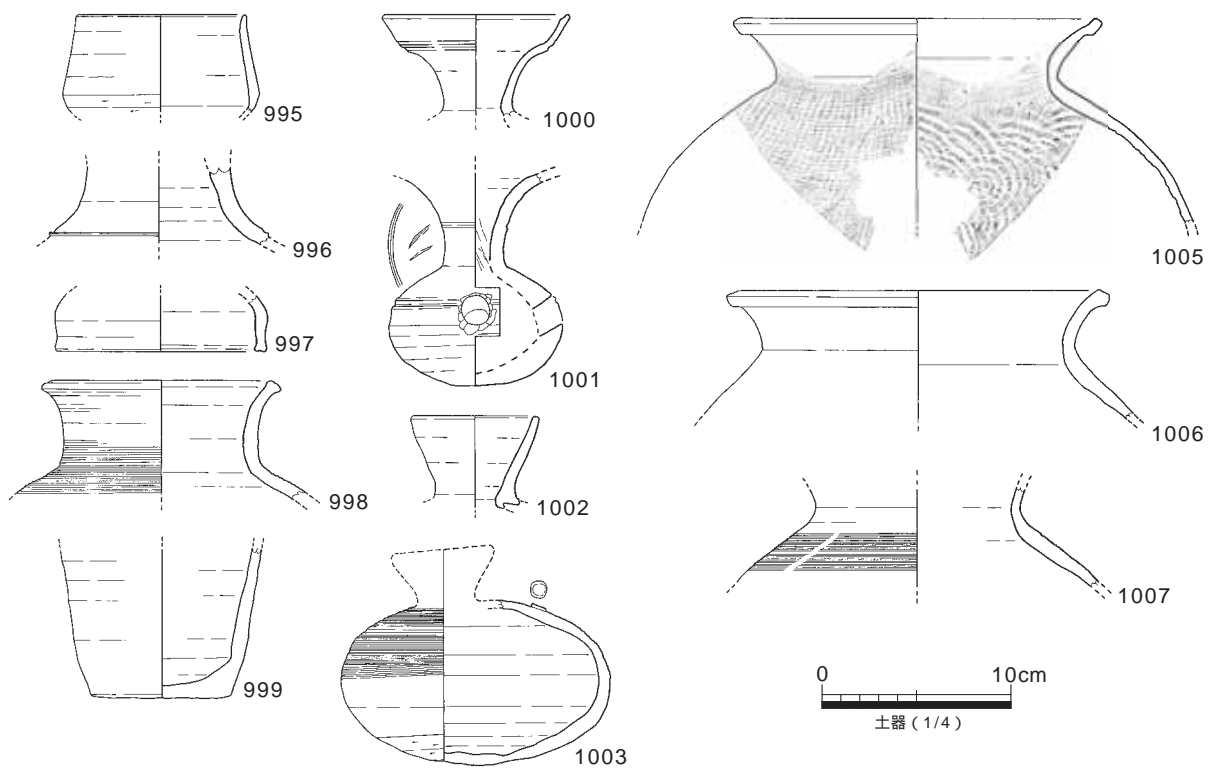
6区SK05(D3)(第138図)

深さ5cm程度の浅い土坑である。中世の土師器の鍋1050が出土している。

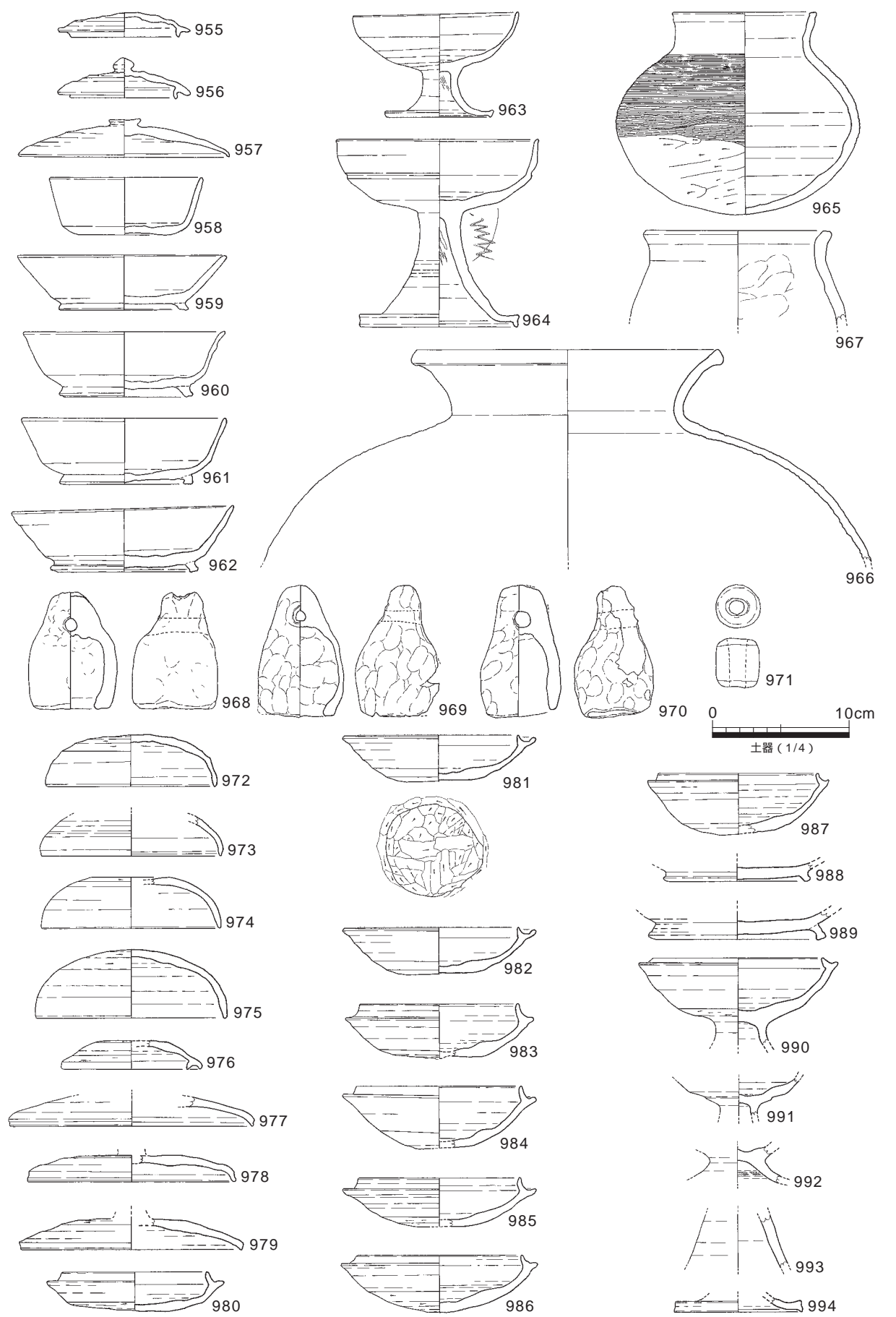
溝

9区西SD01(D6)(第139図)

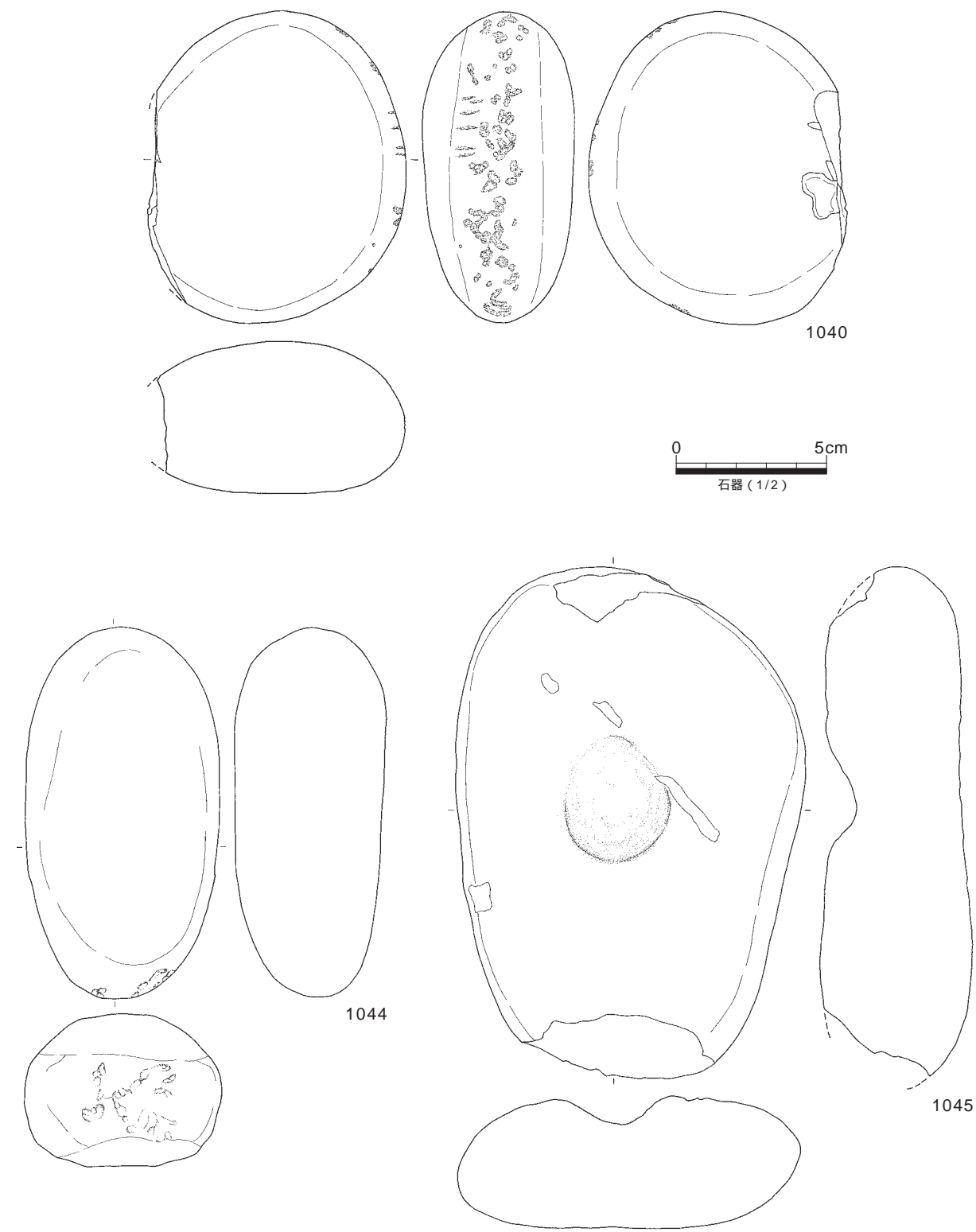
深さ20cm、幅1.5m程度の規模である。瓦器椀1051が出土している。



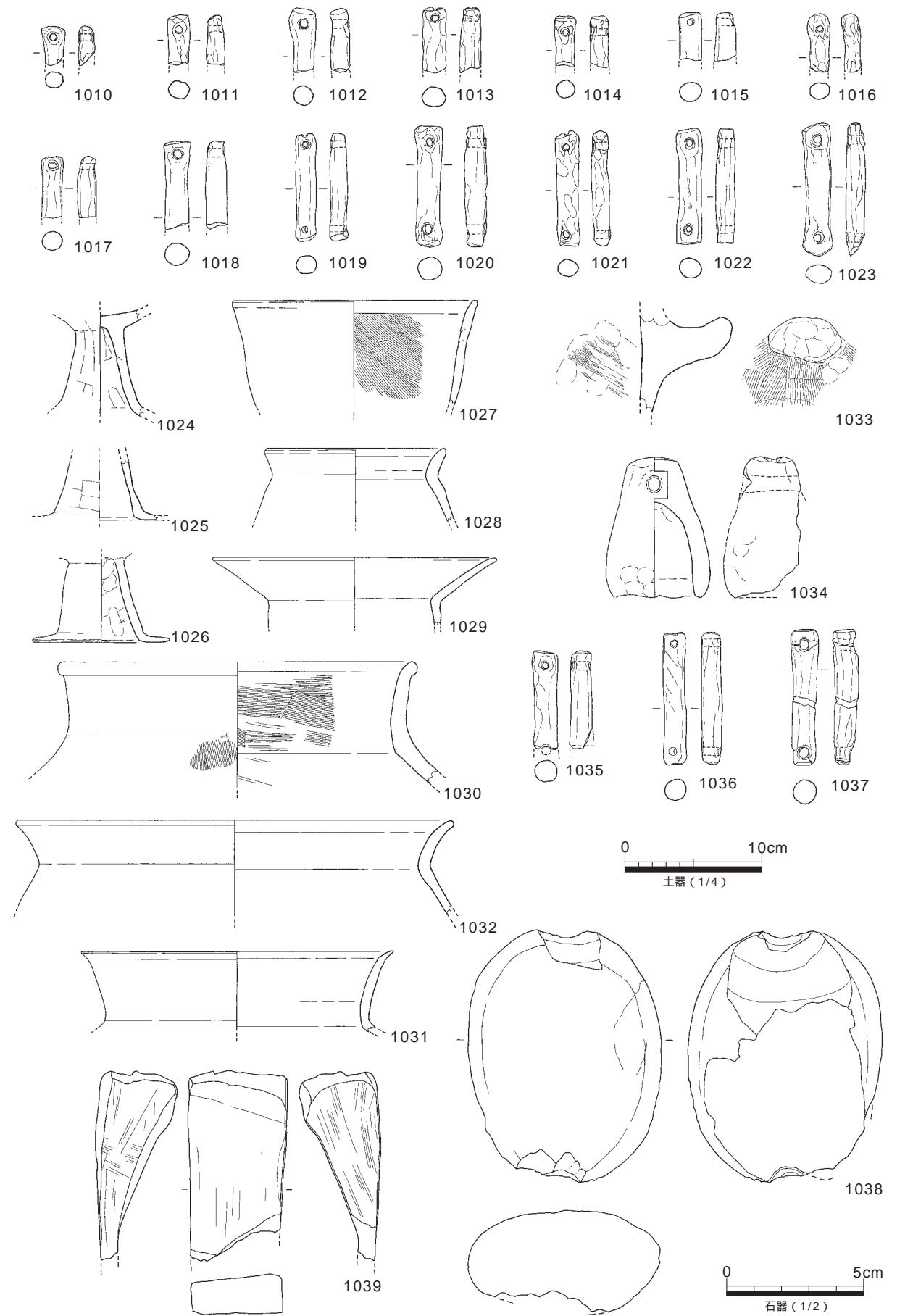
第 132 図 土器集中遺構出土遺物 2



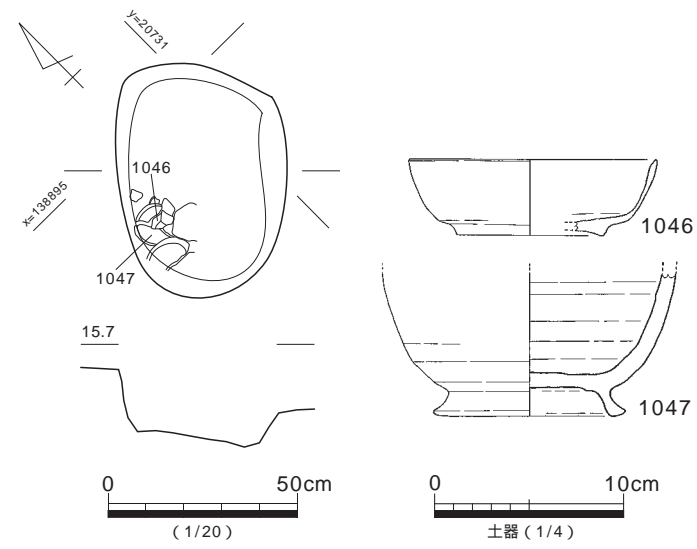
第 131 図 土器集中遺構出土遺物 1



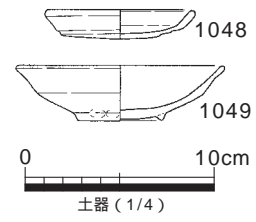
第 134 图 土器集中遺構出土遺物 4



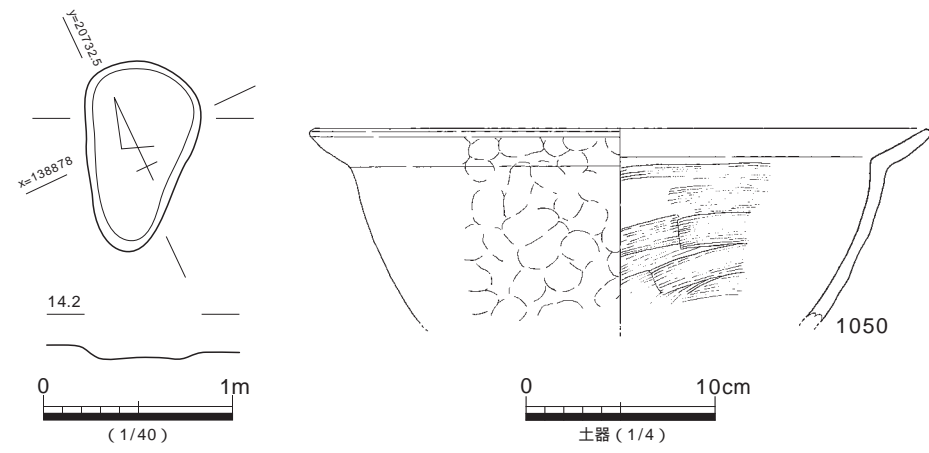
第 133 图 土器集中遺構出土遺物 3



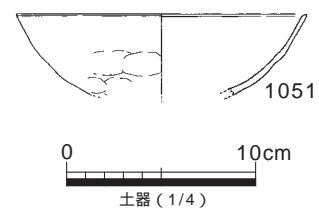
第 136 图 3 区 SP04 平・断面図、出土遺物



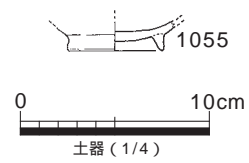
第 137 图 8 区 SP 出土遺物



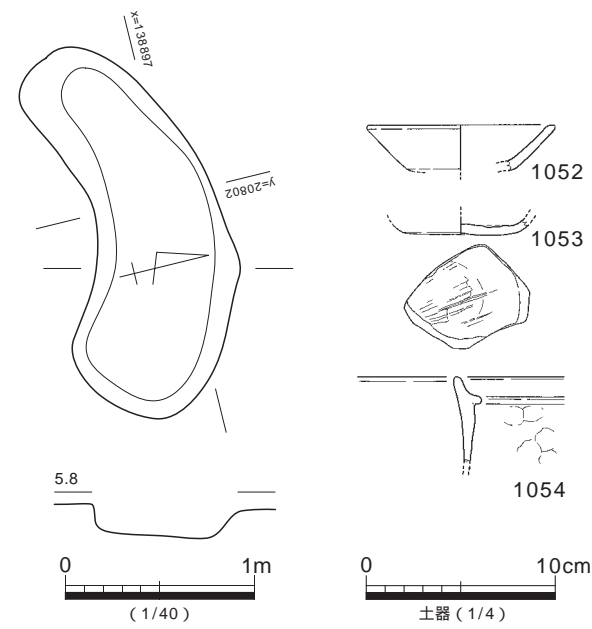
第 138 图 6 区 SK05 平・断面図、出土遺物



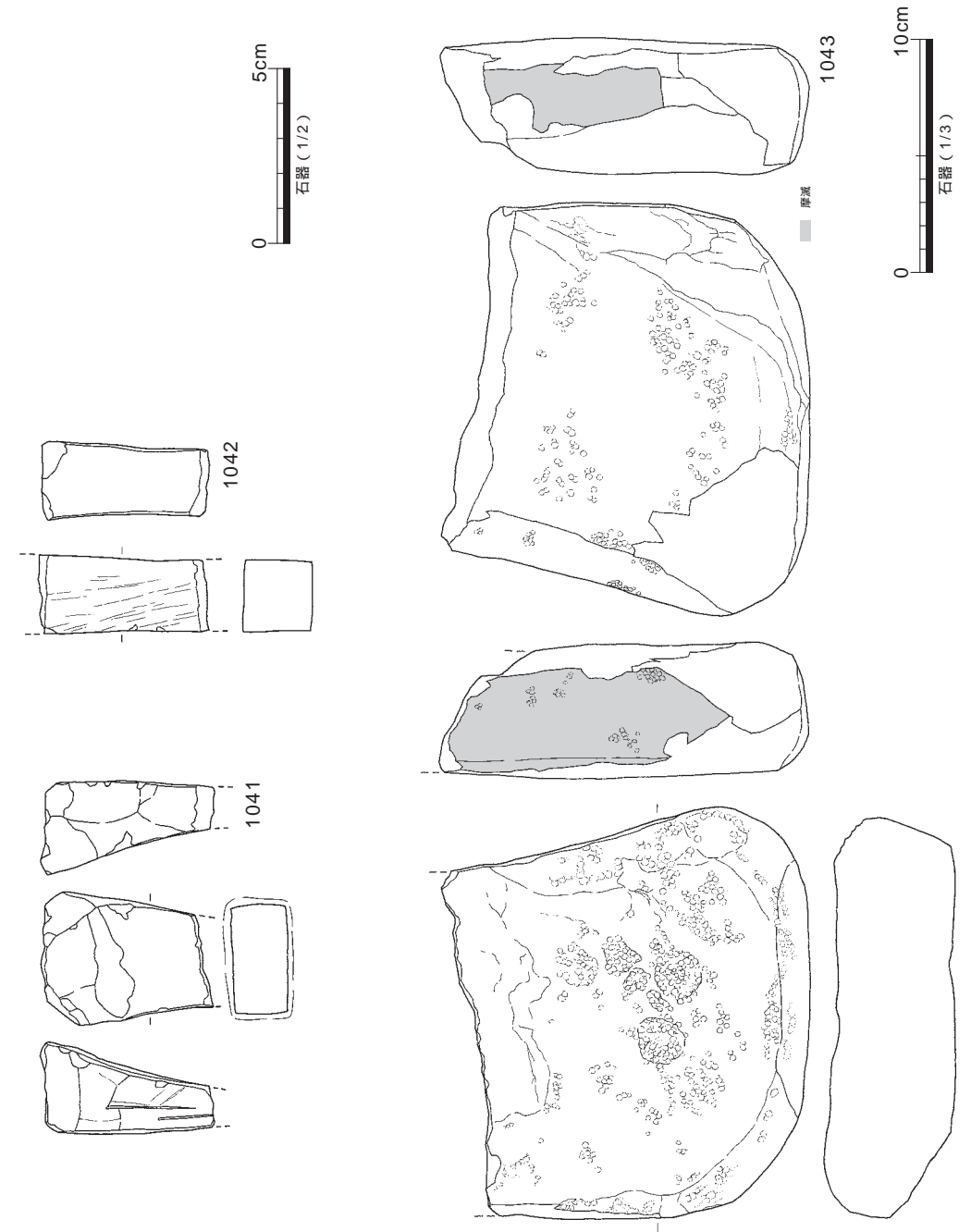
第 139 图 9 区西 SD01 出土遺物



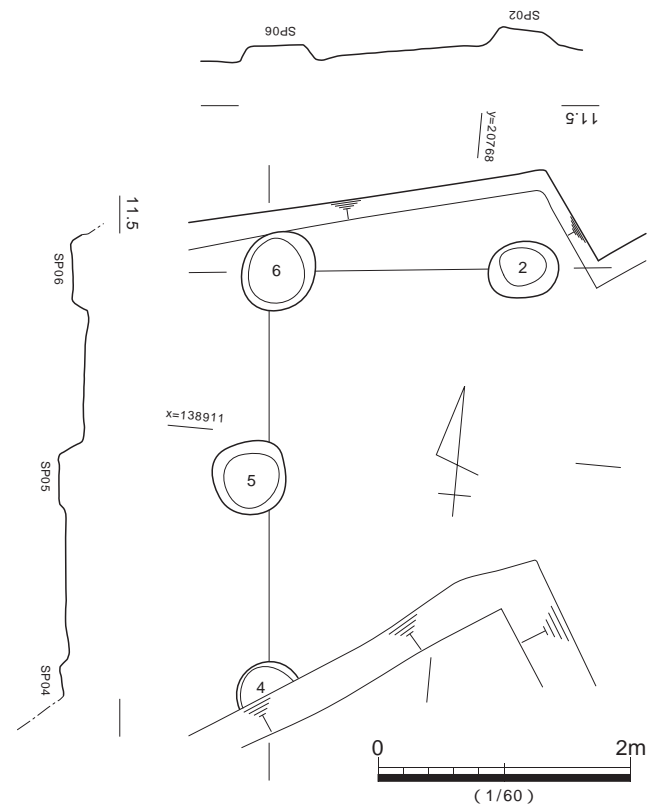
第 141 图 7 区 SX04 出土遺物



第 140 图 8 区 SX05 平・断面図、出土遺物



第 135 图 土器集中遺構出土遺物 5



第 143 図 5 区 SB01 平・断面図

#### 包含層等

##### 11 区出土遺物 (第 142 図)

11 区は、低湿地状の堆積層から多量の遺物が出土している。なお、当期のものとは考えられない石器については、「8 遺構外等出土の遺物」のところで報告する。1056 ~ 1074 は、須恵器である。一部奈良時代のものと考えられる。1075 ~ 1077 は、土師器である。1076 は、表面が淡青灰色であるが、調整から土師器と考えられる。1078 ~ 1080 は、飯蛸壺である。

##### 7 時期不明の遺構

##### 5 区 S B 0 1 (B5) (第 143 図)

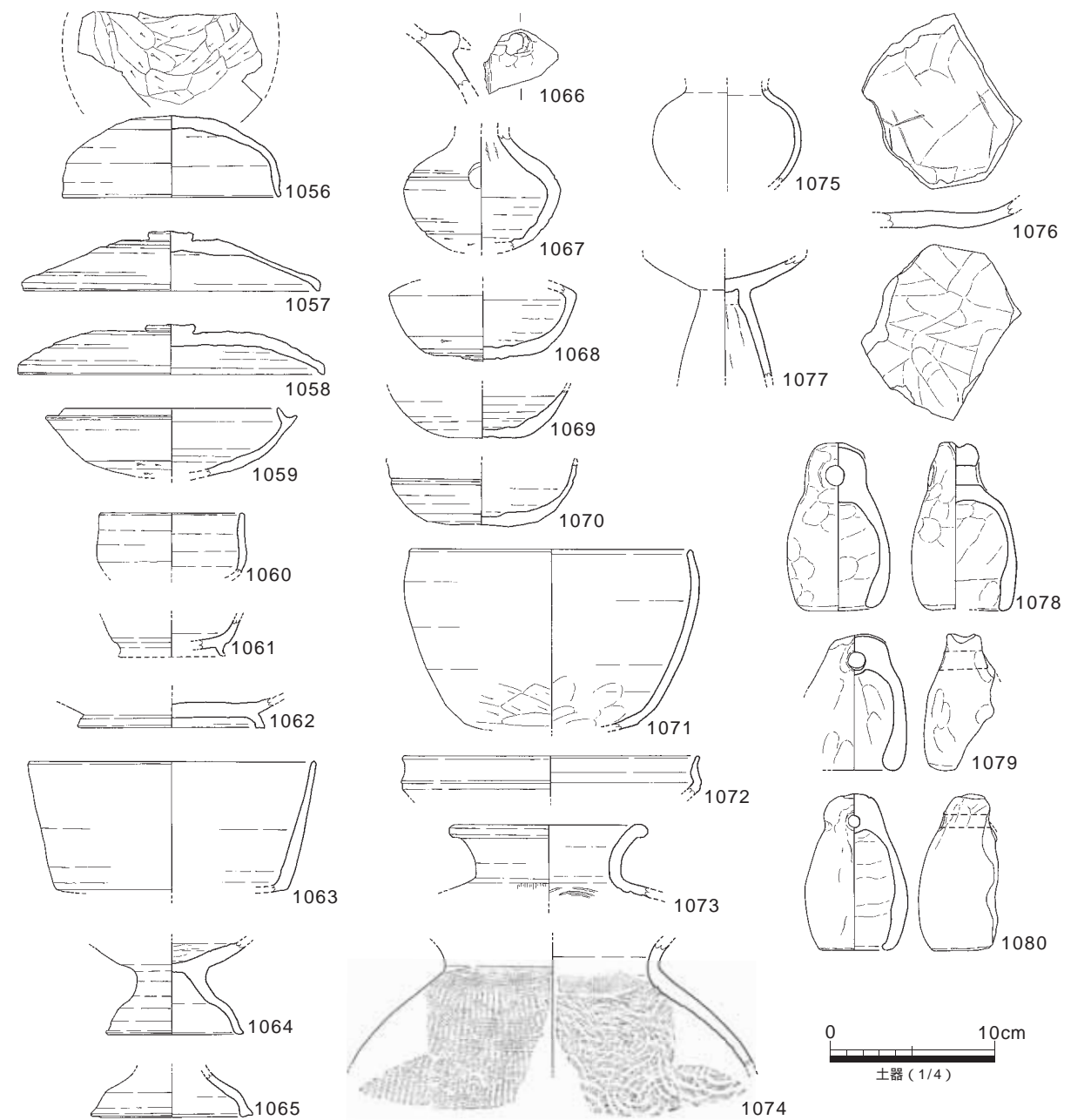
柱穴からは、弥生土器小片が出土している。尾根稜線近くに立地するが、ほかの弥生時代の建物と比較して柱間距離が小さいことから、弥生時代とは考えがたいため、時期不明としておく。

##### 2 区 S K 0 1 (E4) (第 144 図)

埋土に炭、焼土を含む。弥生土器 1081 が出土している。

##### 10 区西 S K 0 2 (E4) (第 145 図)

長径 80 cm、深さ 10 cm 程度の浅い遺構である。弥生土器 1082 が出土している。



第 142 図 11 区包含層出土遺物

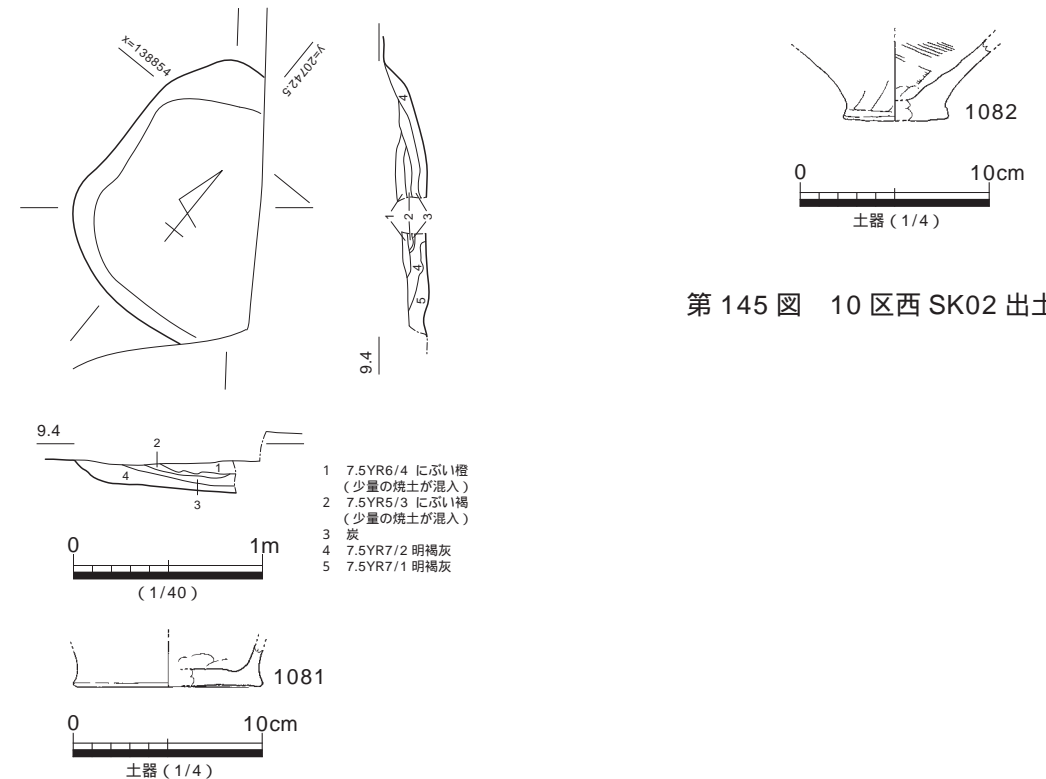
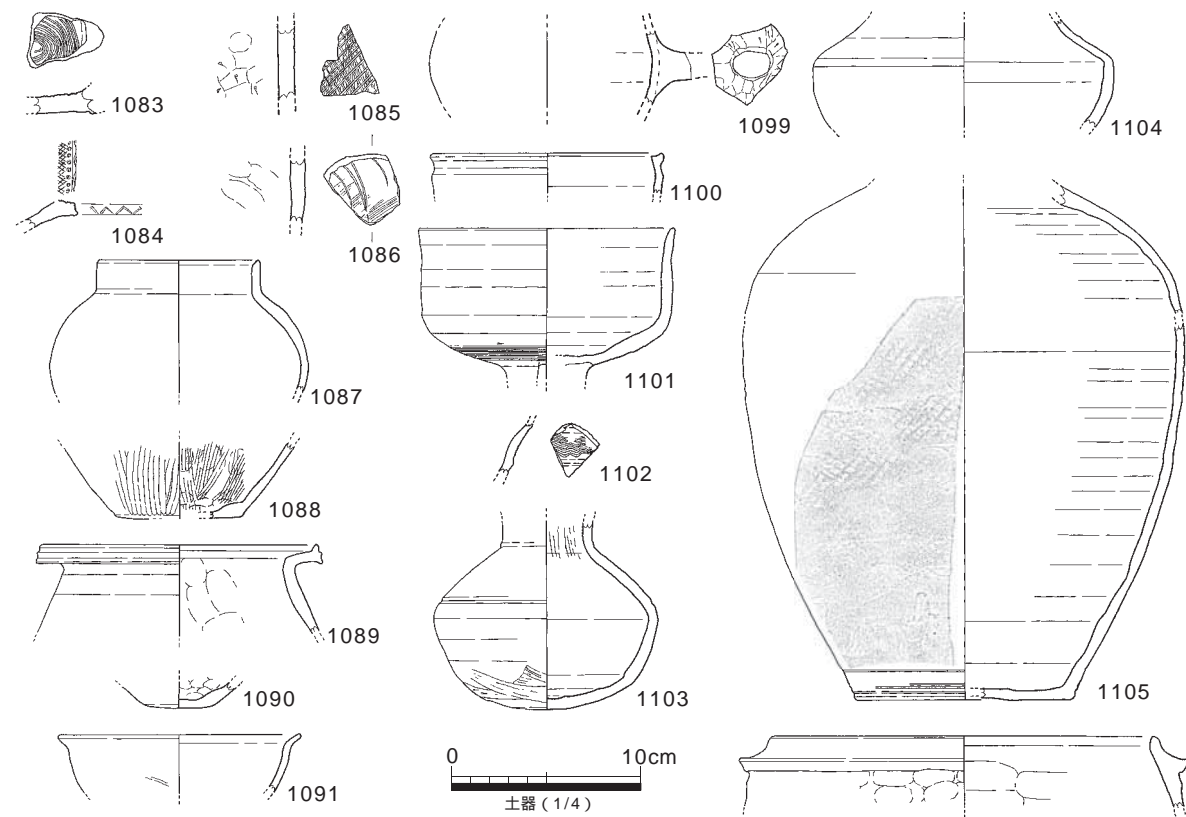
#### 性格不明遺構

##### 8 区 S X 0 5 (C7) (第 140 図)

不定形な遺構である。中世の土器が出土している (1052 ~ 1054)。

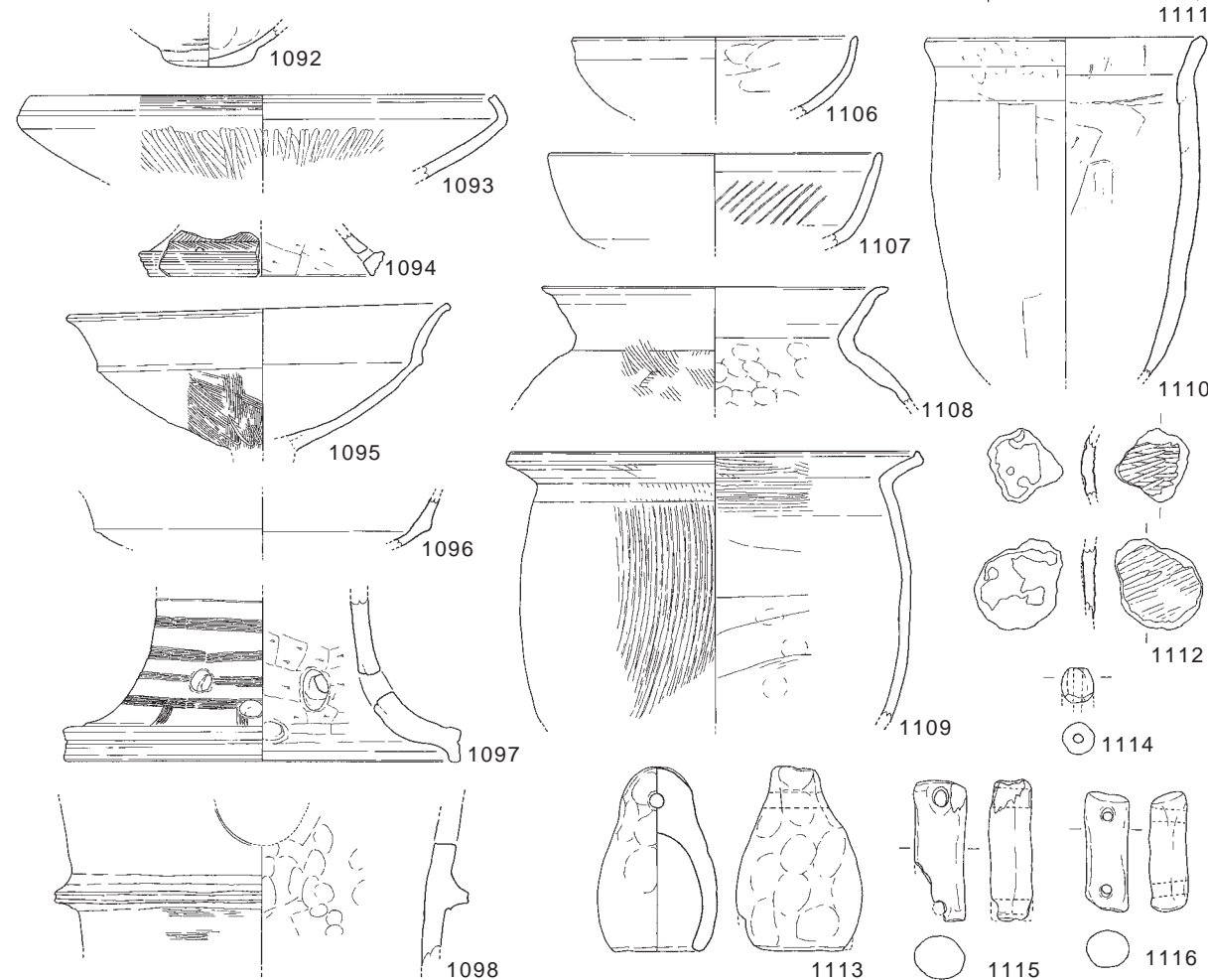
##### 7 区 S X 0 4 (C6) (第 141 図)

黒色土器 A 類椀 1055 が出土している。



第 145 図 10 区西 SK02 出土遺物

第 144 図 2 区 SK01 平・断面図、出土遺物



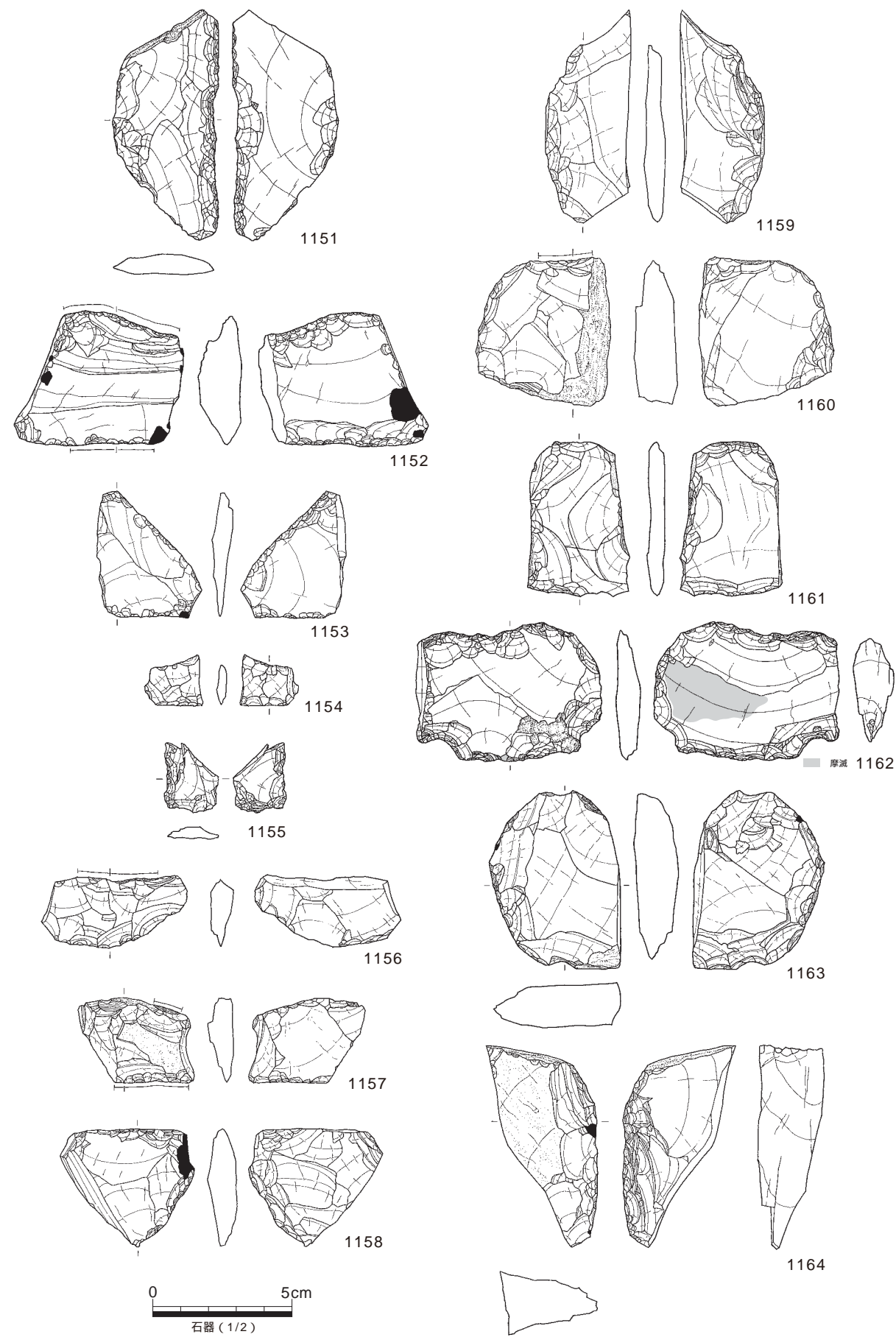
第 146 図 遺構外等出土の遺物 1

8 遺構外等出土の遺物 (第 146 ~ 152 図)

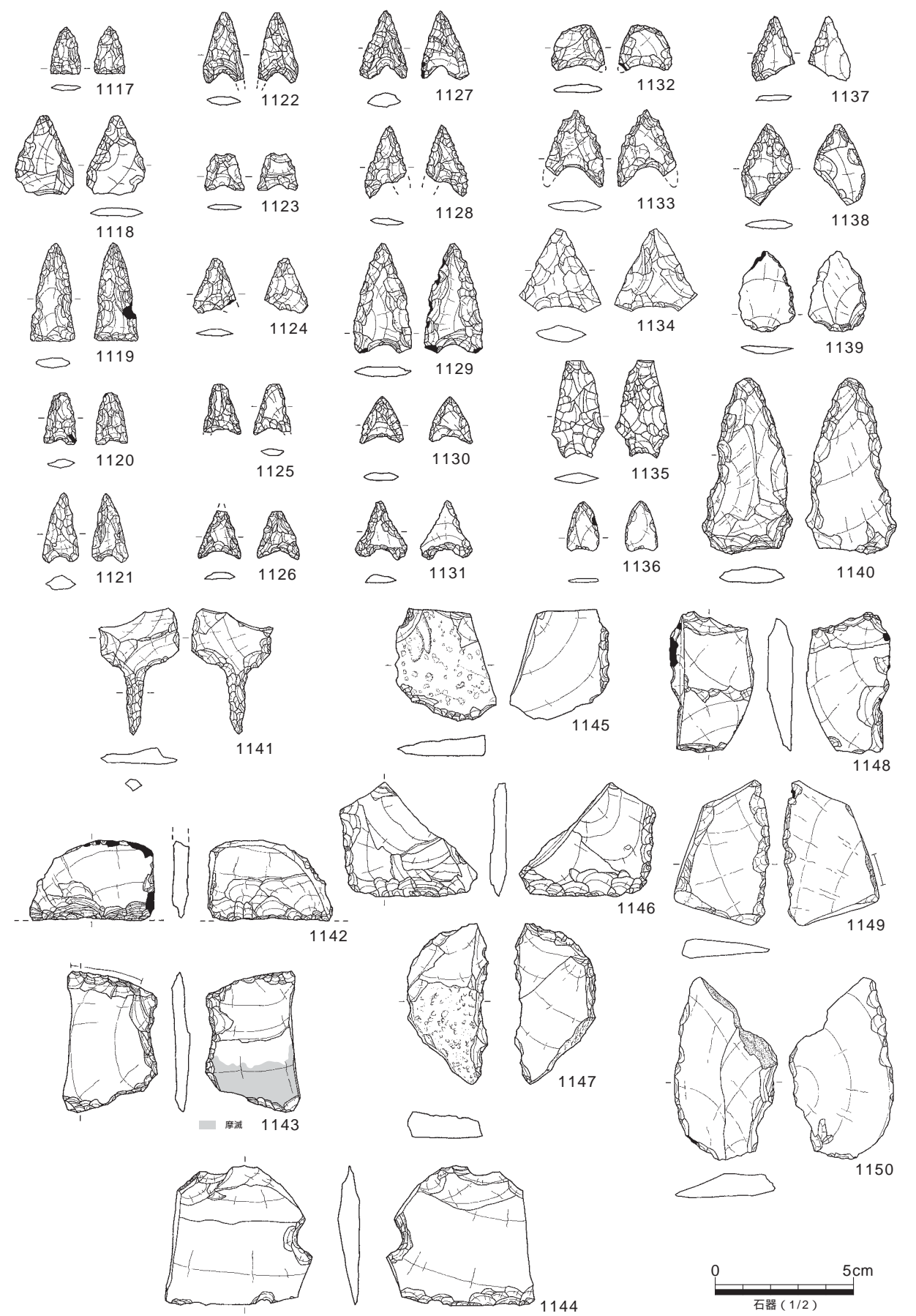
遺構検出、包含層掘削時に出土した遺物、攪乱から出土した遺物及び出土位置が不明確な遺物をまとめて報告する。1083 ~ 1097 は、弥生土器である。1098 は、円筒埴輪である。横八ケが施されている。1099 ~ 1105 は、須恵器である。1106 ~ 1110 は、土師器である。1111 は、中世の足釜である。1112 は、製塩土器と考えられる。その他、飯蛸壺、土師質の土錘が出土している。

石器については、遺構出土遺物のうち遺構の時期には合わないものと、包含層等から出土したものをここで報告する。1117 ~ 1140 は、石鏃及びその未製品と考えられるものである。1141 は、石錐である。1142 ~ 1144 は、打製石庖丁である。1145 ~ 1152 は、スクレイパーである。1153 は、使用痕ある剥片である。1154 ~ 1162 は、楔状石核及びその削片である。1163 ~ 1168 は、石核である。1169 は、擦り切り技法による折り取りがみられ、管玉の未製品の可能性がある。1170 は、結晶片岩製の勾玉状の石製品である。2 孔存在する。1171 は、不定形な垂玉の可能性がある。1172 は、結晶片岩製で、わずかに摩滅とみられるものがあるので石庖丁としたが、石錘の可能性もある。1173 は、安山岩の脈岩製の磨製石斧である。1174・1175 は、結晶片岩製の柱状片刃石斧である。1176・1177 は、結晶片岩製の打欠石錘である。1178 は、砂岩製の有溝石錘である。1179 ~ 1182 は、砥石である。1181 は砂岩製、1182 は結晶片岩製である。1183 は、花崗岩製の敲石である。

1184 は、鉄製釣針である。1185 は、金銅製の耳環である。1186 は、鉄地金銅貼の帯金具の一部である蛇尾と考えられる。

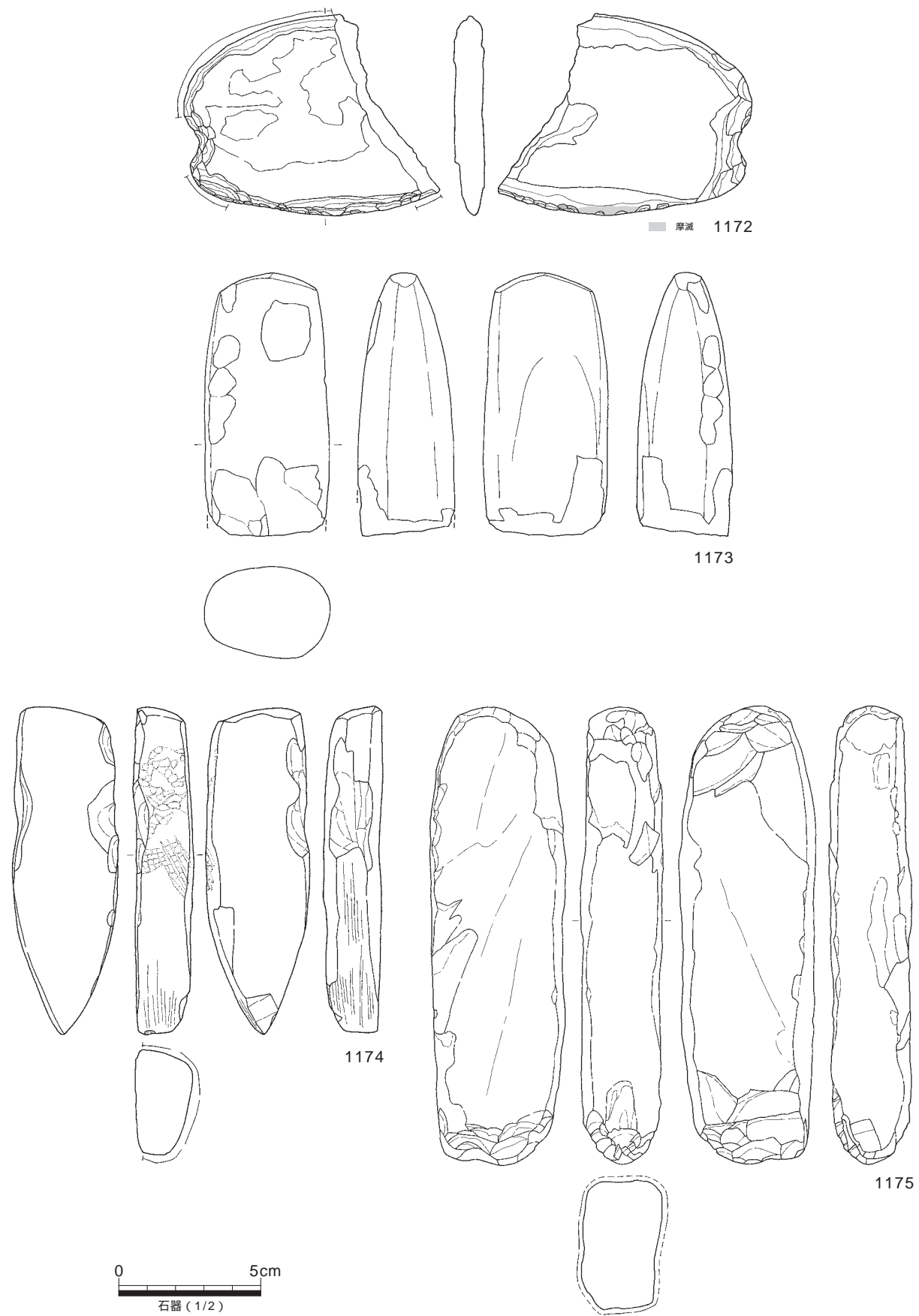


第 148 図 遺構外等出土の遺物 3

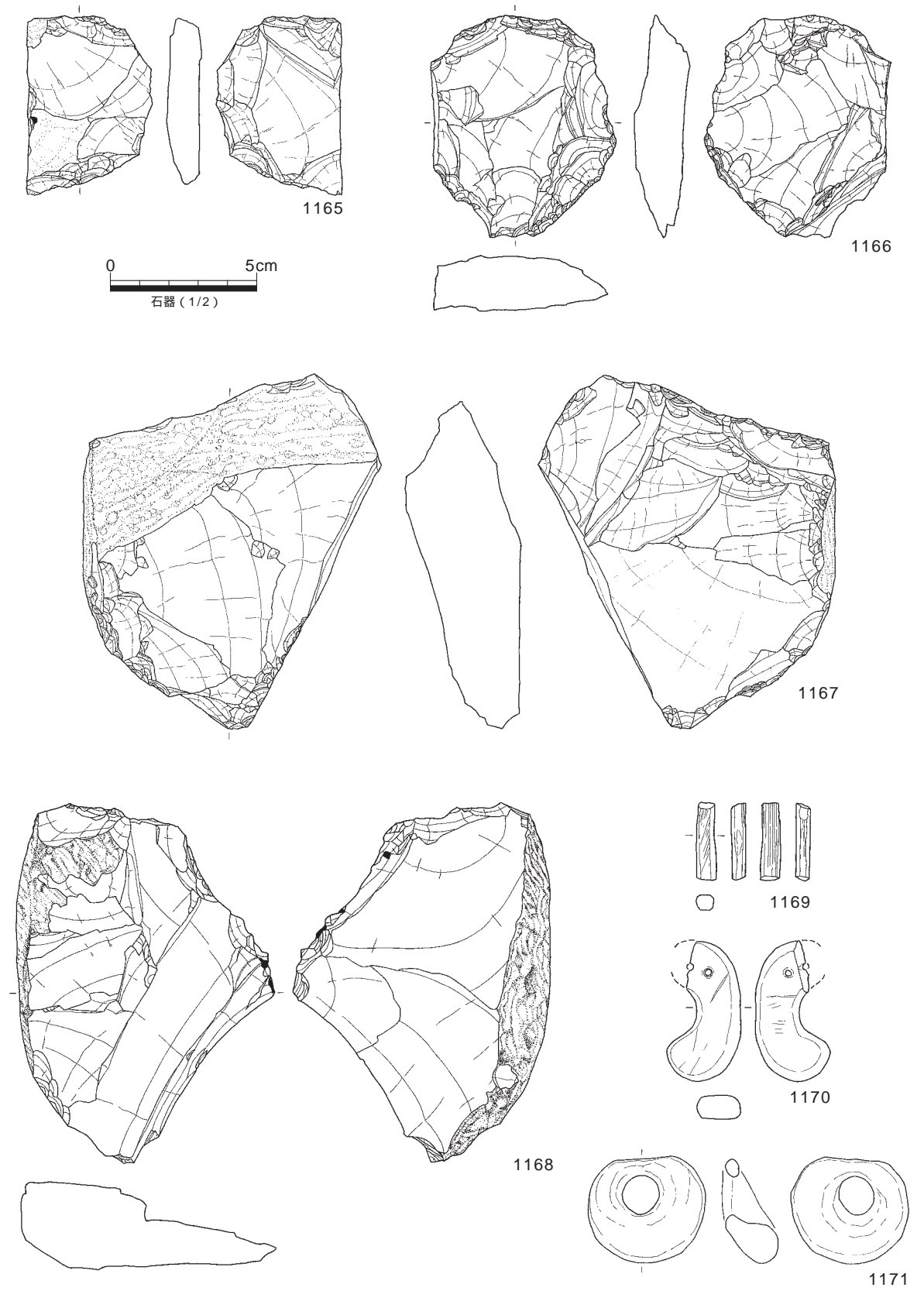


第 147 図 遺構外等出土の遺物 2

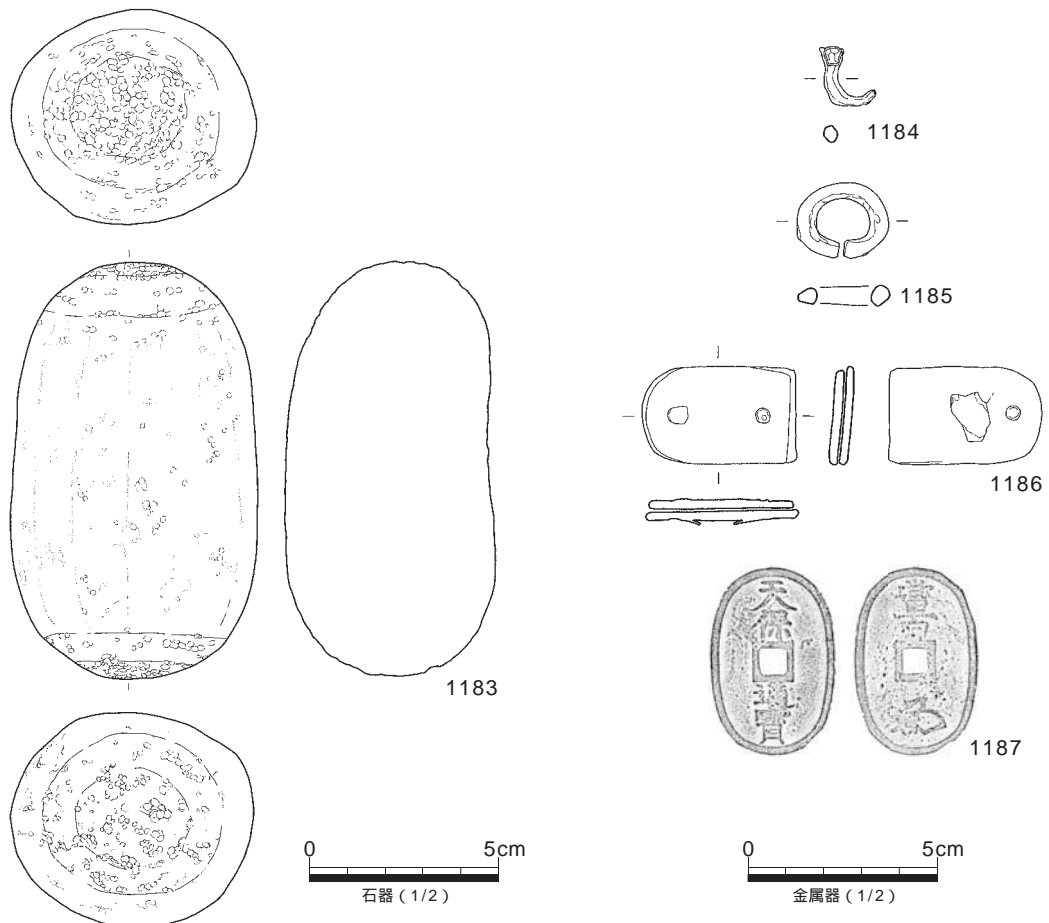
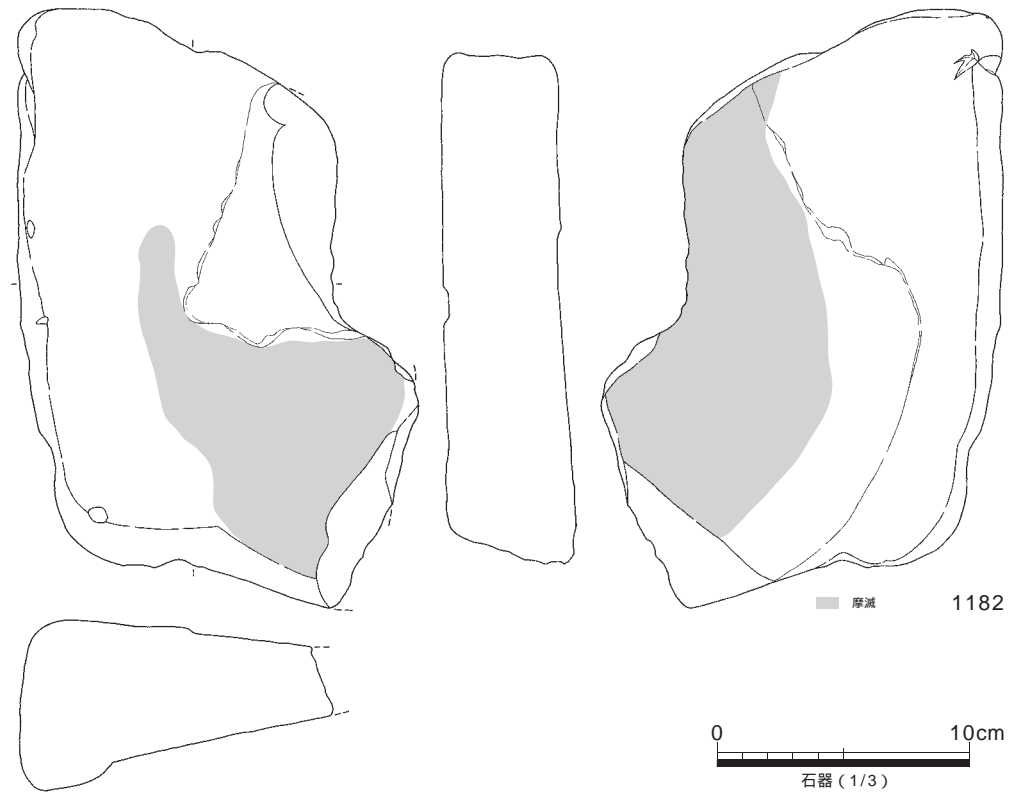




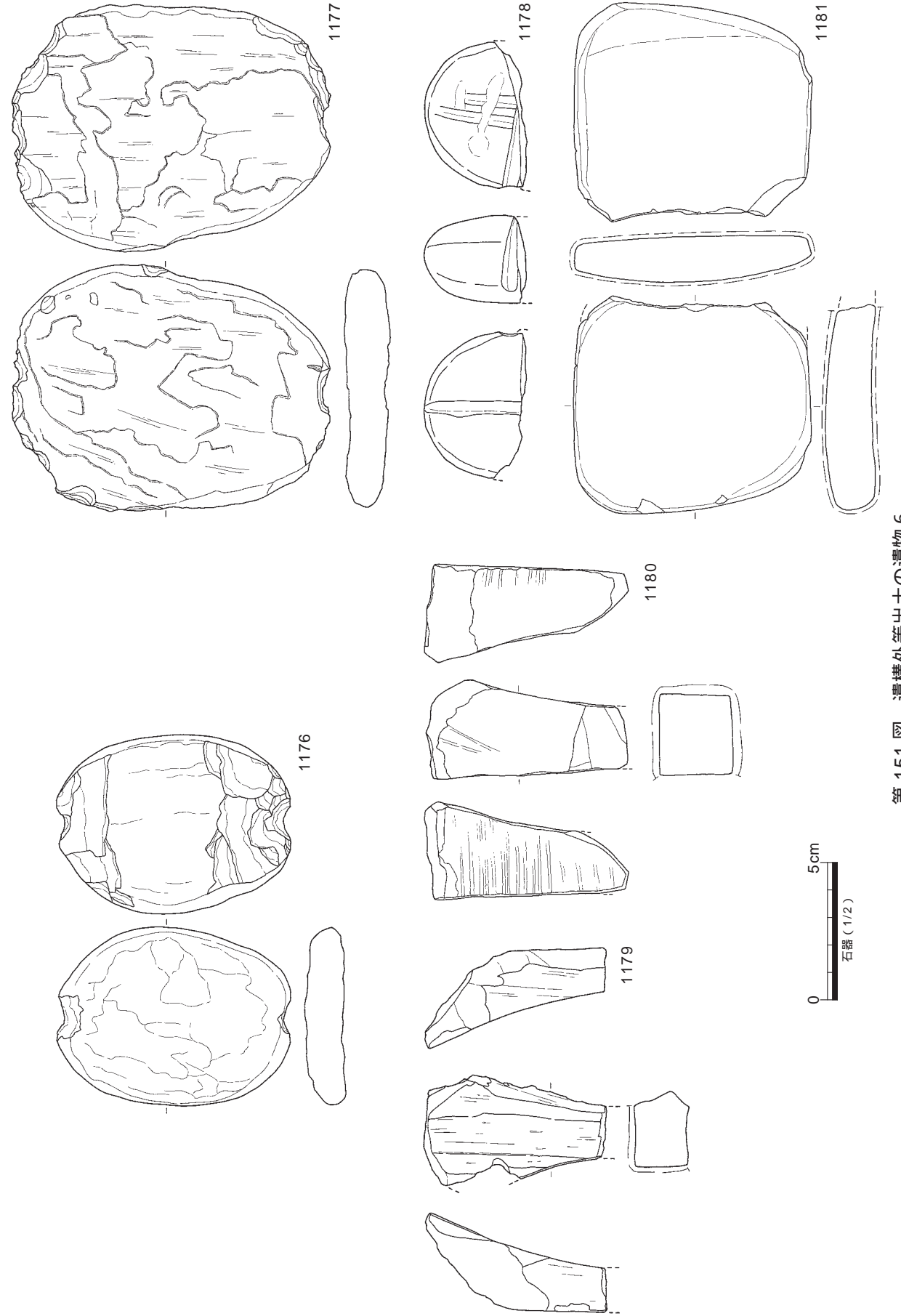
第 150 図 遺構外等出土の遺物 5



第 149 図 遺構外等出土の遺物 4



第 152 図 遺構外等出土の遺物 7



第 151 図 遺構外等出土の遺物 6

## 第4章 まとめ

### 1 遺構の変遷

#### 旧石器時代

風化の進んだサヌカイト製の石器（ナイフ形石器、横長剥片石核）があり、旧石器時代のものの可能性はある。

#### 縄文時代

遺構は検出できなかったが、8区で多数の土器片が出土している。前期前半の羽島下層式土器から晩期の凸帯文土器までが出土している。そのうち、里木 式の深鉢は、下半部の半分程度の破片が残っていることから、遺構に伴っていた可能性は大きい。

#### 弥生時代中期後葉

調査区内の最高所付近のみで、建物を検出している。竪穴建物1棟、竪穴建物の可能性のあるもの1棟、掘立柱建物1棟である。

#### 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭

標高5～14m付近で建物を検出した。竪穴建物は、重複等があり、正確な数は把握しにくい。18棟前後と考えられる。掘立柱建物は2棟である。尾根稜線のすぐ下から谷底の低地付近まで、広く分布する。また、4区南では、廃棄場所と考えられる土器溜りがあるが、付近で建物は、検出されていない。6区と4区北の間は、崖状になっていることから、大きく削平されて建物は消失しているものと考えられる。

#### 古墳時代中期

TK208型式の時期頃と考えられる、小規模な古墳の周溝と考えられる遺構が3基検出されている。12区の包含層掘削時に、円筒埴輪が1点出土しているが、横八ケ及びM字形凸帯の形状から当遺跡の古墳と同じ時期と考えられる。当遺跡の南東約1.2kmにある県指定史跡盛土山古墳は、円筒埴輪から当遺跡の古墳とほぼ同じ時期と考えられ、当時の古墳の階層差を示す例といえる。

### 7世紀代

この時期の建物跡は、6区SB01を除いて、標高5～9m前後に立地し、弥生時代後期～古墳時代前期に比べてより低地へ集中する傾向がある。

竪穴建物は、16棟前後確認されているが、いずれも時期は、TK209～TK217型式と考えられる。

掘立柱建物及び柵列は、主軸方位の揃い方で見ると、3グループに分かれる。

ア 7区（SB01、02、03）、8区（SB01）、10区SB02 N40°E付近に主軸方位をもつもの

イ 4区（SB01、02）、6区SB01、7区SB04 N60°E付近に主軸方位をもつもの

ウ 10区（SB01、SA01） N53°E付近に主軸方位をもつもの

掘立柱建物の時期については、ほとんどの建物の出土遺物が細片のため、遺物から時期を決定することは難しい。このうち6区SB01からは7世紀終末頃の須恵器が、8区SB01からはTK209型式の須恵器出土している。また、竪穴建物と重複する掘立柱建物が3棟あるが、いずれも竪穴建物より新しい。以上のことから、掘立柱建物の時期は、TK209型式から7世紀終末頃と考えることができる。上記のア～ウのグループが時期差を示すのかどうかは不明であるが、イのグループだけは、等高線に沿うような立地をしていないことははっきりしている。

遺物は、多量に漁撈に関するものが出土している。飯蛸壺、土錘及び石錘がある。土錘には、須恵質のもの（1010、1011、1013～1023）があり、これは、三豊市奥蓮華2号窯跡での出土につづく、県内で2例目である。

### 奈良時代以降

奈良時代から中世にかけての、土坑及びピットがわずかに検出されているにすぎない。

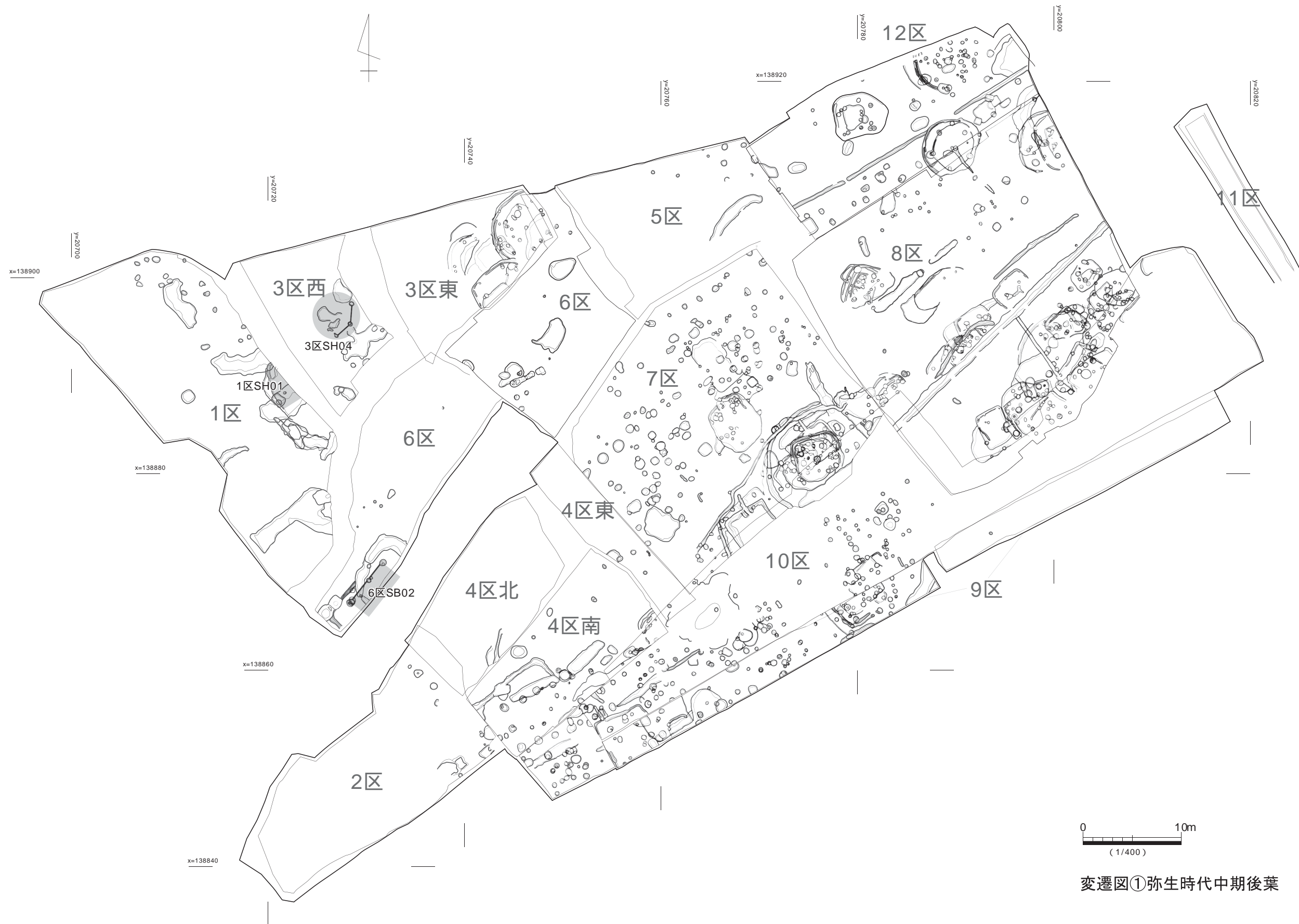
### 2 石器について

当遺跡から出土したサヌカイト製石器の内訳は、第4表のとおりである。縄文時代と弥生時代の石器が出土している、

サヌカイト以外の打製石器の石材としては、チャート（石鏃1）、ハリ質安山岩（石鏃2、石核1、敲石？1）がある。

第4表 石器組成表

器種	点数	重量(g)
石鏃	43	72.97
石錘	2	4.83
打製石庖丁	6	184.5
石匙	2	31.35
スクレイパー	23	648.22
ナイフ形石器	1	2.03
使用痕ある剥片	1	9.68
二次加工ある剥片	2	314.22
楔状石核	15	393.7
石核	12	1503.08
横長剥片	2	197.94
横長剥片石核	2	34.5
その他		22662.6
計		26059.62



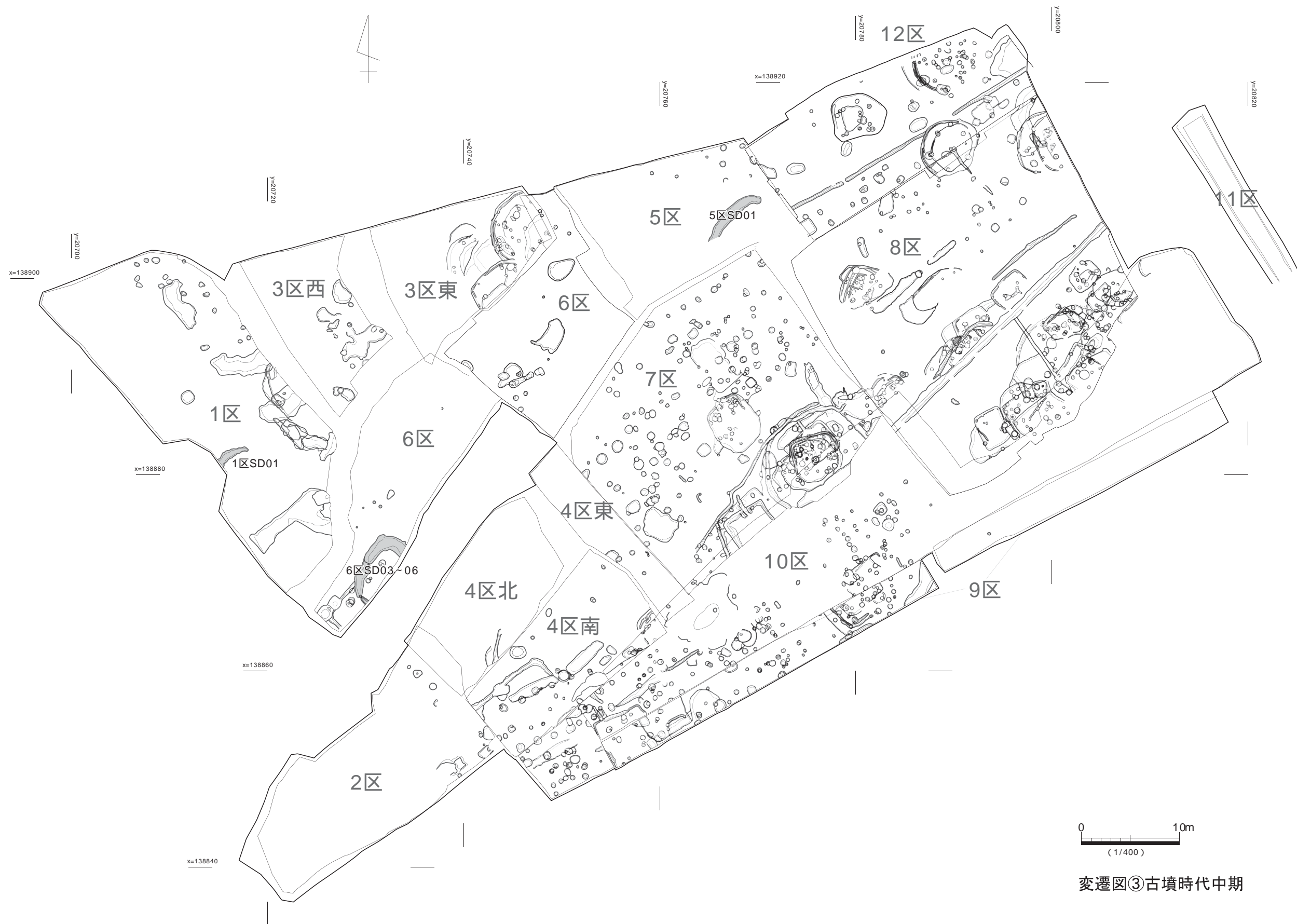
変遷図①弥生時代中期後葉

第 153 図 遺構変遷図1

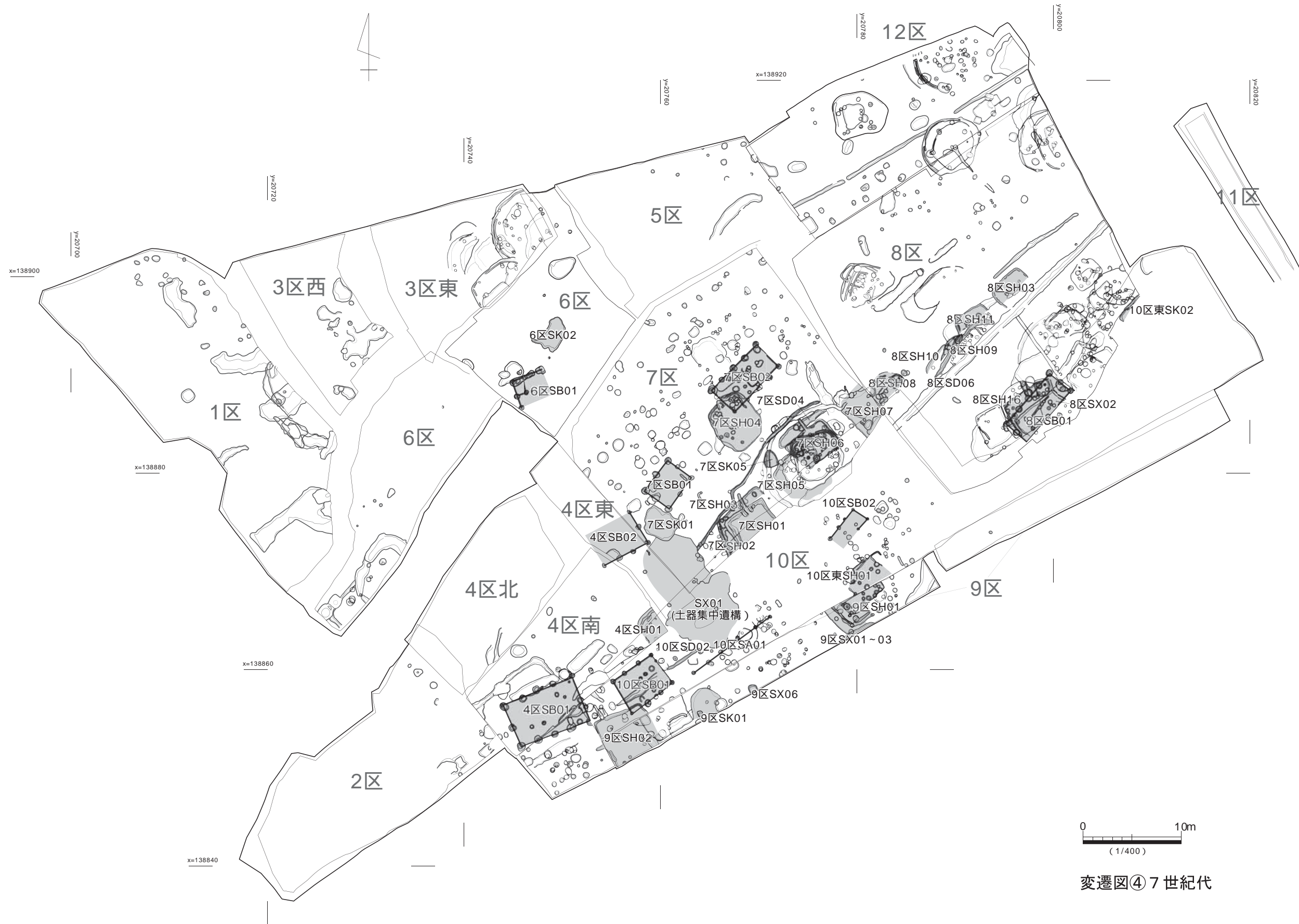


変遷図②弥生時代後期後半～古墳時代前期

第 154 図 遺構変遷図2



第 155 図 遺構変遷図3



変遷図④ 7世紀代

第 156 図 遺構変遷図4

図版 2 西白方瓦谷遺跡



遺跡の遠景 東から



調査前風景 東から

図版 1 西白方瓦谷遺跡



調査区全景 南から



図版 4 西白方瓦谷遺跡



1区全景 東から



1区完掘状況 東から

図版 3 西白方瓦谷遺跡



調査区全景 西から



調査終了写真 東から

図版 6 西白方瓦谷遺跡



3区西全景 南から



3区東全景 南東から

図版 5 西白方瓦谷遺跡



2区全景 東から



2区完掘状況 南から

図版 8 西白方瓦谷遺跡

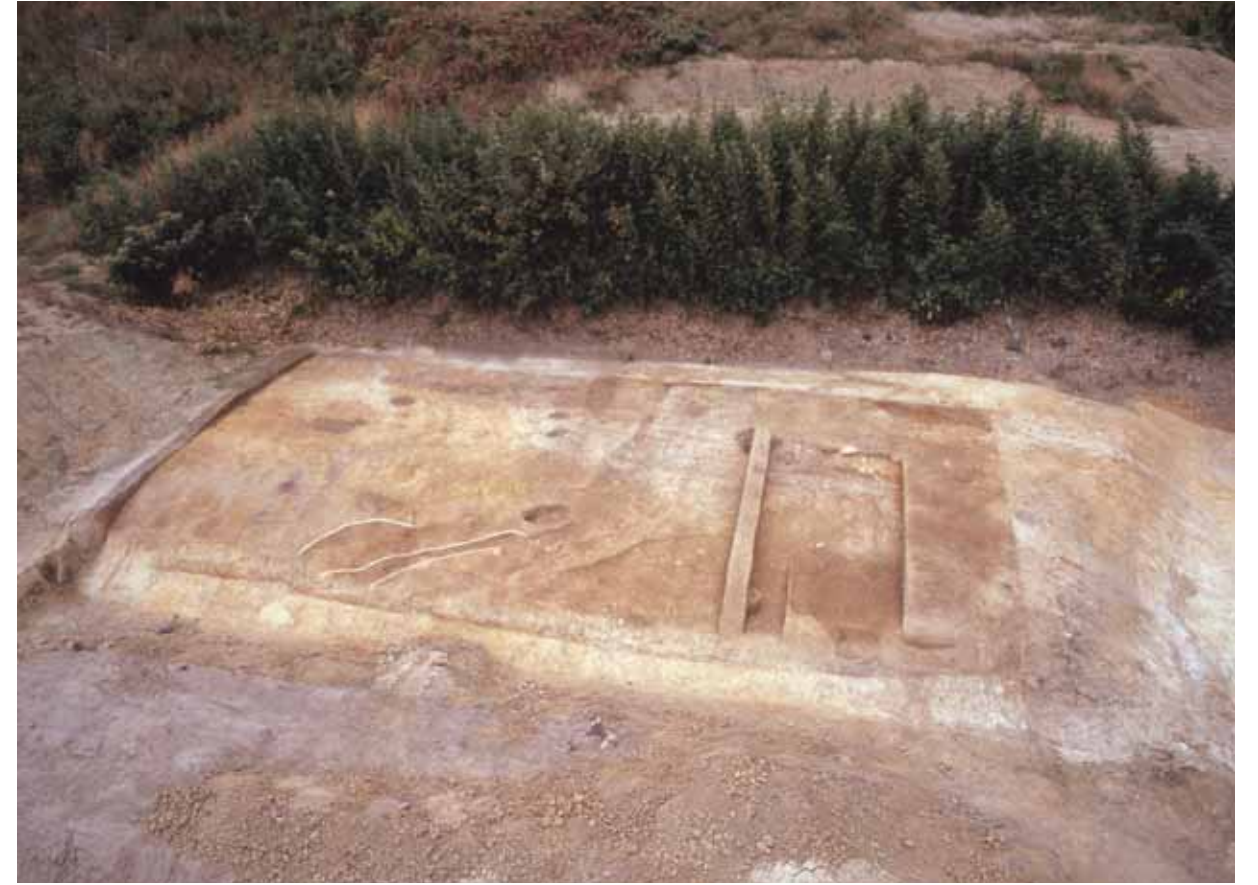


4区南完掘状況(東半)南から



5区全景 西から

図版 7 西白方瓦谷遺跡



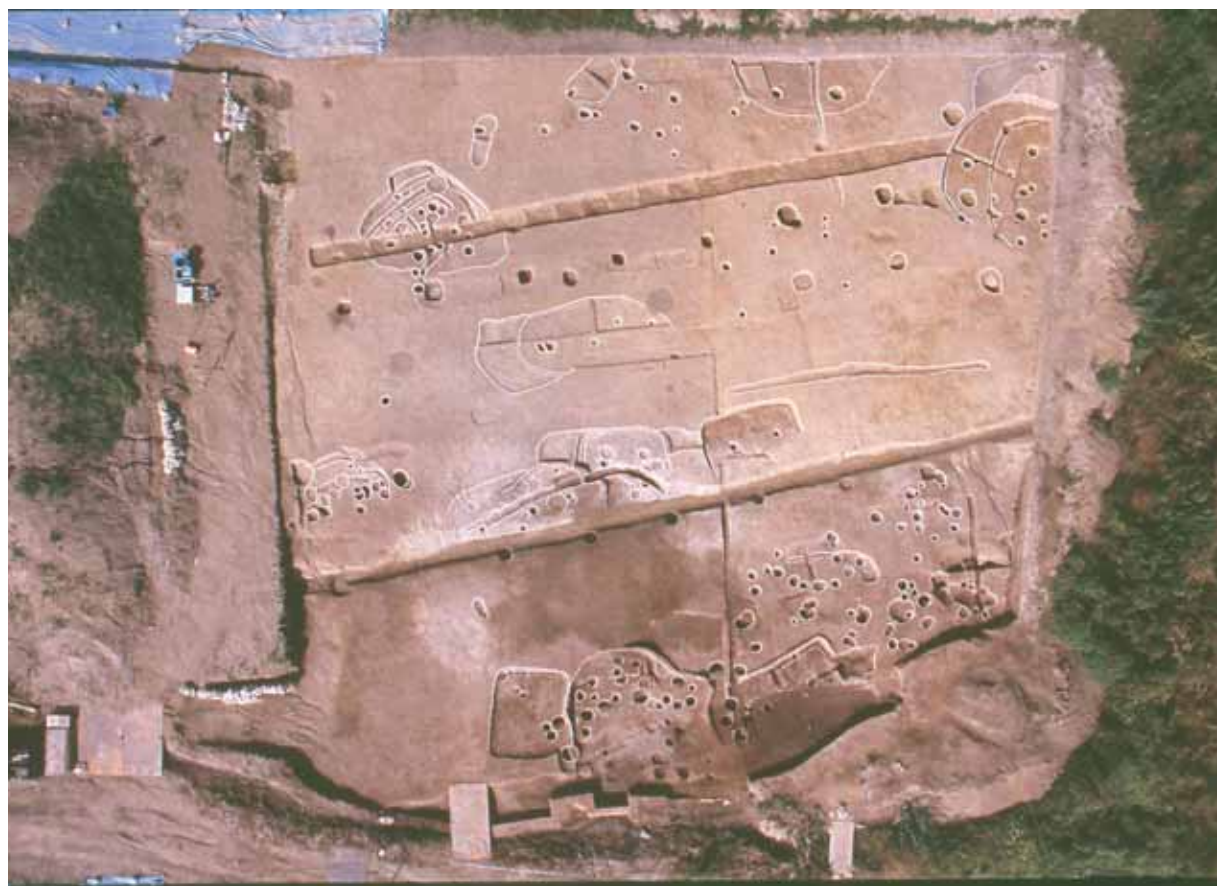
4区北完掘状況 南から



4区南完掘状況(西半)南から



7区完掘全景 東から



8区完掘全景 真上から



6区西完掘状況 東から



6区東完掘状況 西から

図版 12 西白方瓦谷遺跡



9区完掘全景 東から



10区西完掘状況 西から

図版 11 西白方瓦谷遺跡



8区西半完掘全景 南から



8区東半完掘全景 南から



10区東(東半)完掘状況 東から



11区完掘全景 東から



10区西(西端)完掘状況 西から



10区東(西半)完掘状況 東から

図版 16 西白方瓦谷遺跡



1区西壁 東から



1区北壁 南から

図版 15 西白方瓦谷遺跡



12区完掘全景 西から



1区西壁(南半) 東から



4区南 西壁(南半) 東から



4区南 西壁(北半) 東から



2区南壁 北から



3区東 北壁 南から



3区東 東壁 西から





7区西壁 東から



8区東壁 西から



5区東壁 西から



6区西壁 東から



6区東壁 西から

図版 22 西白方瓦谷遺跡



12区西壁 東から



12区北壁 南から



12区東壁 西から

図版 21 西白方瓦谷遺跡



9区東 南壁 北から



9区東 トレンチ再掘削断面 北から



3区 SH04SP08 遺物出土状況 東から



6区 SB02-SP21 遺物出土状況 西から



6区 SB02 完掘 北から



6区 SD02 遺物出土状況 西から



1区 SH01 完掘 東から



1区 SH01 (SK06 下) 遺物出土状況 西から



1区 SH01 (SK06) 断面 北から



3区 SH04SK05 遺物出土状況 東から



8区 SH02 炉跡 北から



8区 SH02 土器出土状況 西から



7区 SH09・12 完掘 東から



8区 SH02 断面 東から



3区 SH02 内 SP08 遺物出土状況 南から



3区 SH01、SK02・03 完掘 南から



3区 SH03 南北断面 東から



3区 SH02 完掘 南から



8区 SH06 完掘 東から



8区 SH07 完掘 北から



8区 SH04 壁際出土炭化材 南西から



8区 SH12 床面検出 北から



8区 SH05 完掘 南から



8区 SH05 床面遺物出土状況 南から



8区 SH04 上層床面完掘 北西から



8区 SH04 炉断面 北から



12区 SH02 (307) 石器出土状況 西から



12区 SH03 完掘 北から



8区 SH19 完掘 南から



12区 SH01 東西土層 北から



12区 SH01 完掘 西から



12区 SH02 完掘 西から



8区 SH13 堆積状況 (北半) 西から



8区 SH18 完掘 東から



12区 SX01 遺物出土状況 北西から



8区 SD02-12区 SD03 完掘 南から



8区 SP59 遺物出土状況 北から



4区南端土器溜り遺物出土状況 東から



10区東 SK01 断面 東から



8区 SK02 断面 南から



12区 SH03SK01 遺物出土状況 西から



10区 SK01 遺物出土状況 北から



1区 SD01 遺物出土状況 東から



1区 SD02 断面 東から



1区 SD01 断面 東から



1区 SD01 遺物出土状況 西から



8区 SP25 遺物出土状況 北から



8区 SD02 遺物出土状況 南から



10区 SD04 遺物出土状況 北から



12区 SD03 遺物出土状況 西から





7区竪穴建物群 西から



7区SD01断面 南から



7区SD01 礫出土状況 南から



7区SH01完掘 南から



5区SD01 遺物出土状況 西から



6区SD04-05 遺物出土状況 南から



6区SD03 ~ 06完掘 北から



4区SH01断面 西から



7区 SH05 完掘 (SH09 ~ 12) 南から



7区 SH06 竈炭化物検出状況 南から



7区 SH06 完掘 南から



7区 SH06 竈完掘 南から



7区 SH01・03 竈検出状況 南から



7区 SH02 竈検出状況 東から



7区 SH01 竈炭化物検出状況 南から



7区 SH02、SD05 断面 北から



8区 SH11 完掘 北から



8区 SH16 完掘 北から



8区 SH08 完掘 北から



8区 SH09・10 完掘 北から



7区 SH04 竈断面 南から



8区 SH03 完掘 西から



7区 SH04 完掘 南から



7区 SH04 竈炭化物検出状況 南から



9区SK02断面 西から



9区SX04遺物出土状況 北から



9区SH02竈完掘 東から



10区SH01煙道完掘 東から



10区SH01完掘 西から



8区SH16竈断面 西から



10区SH01断面 北から



8区SH16竈埋没状況 南から



6区 SK02 遺物出土状況 西から



7区 SK01 遺物出土状況 西から



6区 SB01SP04 ~ 06 断面 南から



8区 SB01 完掘 西から



4区 SB01 完掘 西から



10区東 SH01 断面 東から



6区 SB01 完掘 南から



10区東 SK02 断面 東から



8区SX02完掘 南から



9区SH01完掘 北から



9区SK01中央土器溜り遺物出土状況 東から



3区SX02断面 東から



9区SX06完掘 北から



7区SX03断面 南から

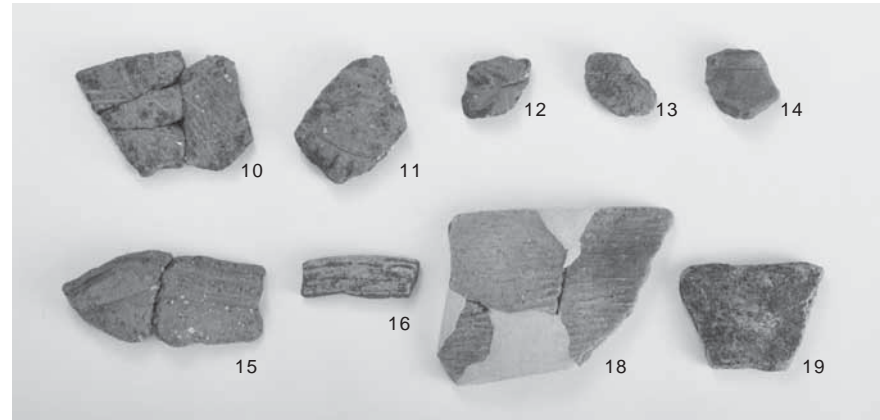
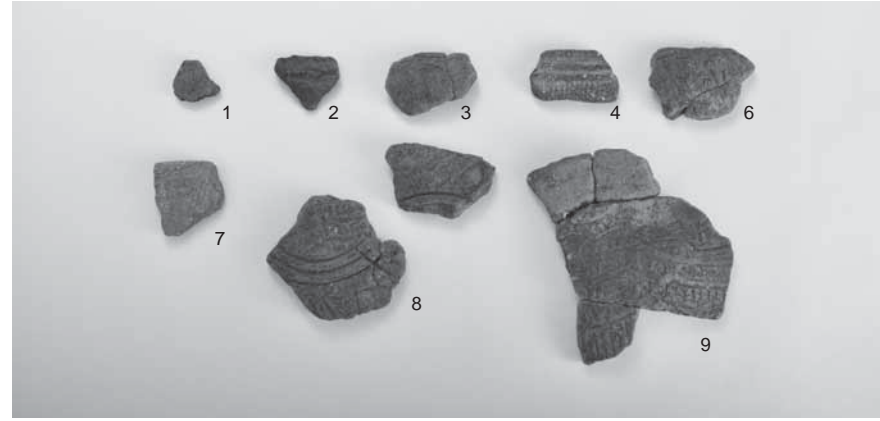


7区SK05断面 西から



9区SK01断面 西から

図版 48 西白方瓦谷遺跡



図版 47 西白方瓦谷遺跡



6区SK05遺物出土状況 南から



2区SK01断面 西から

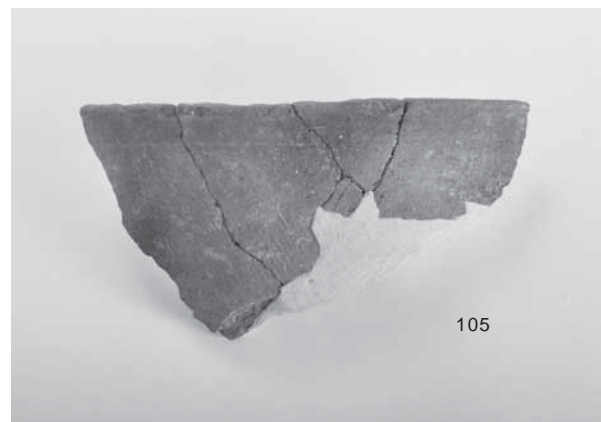
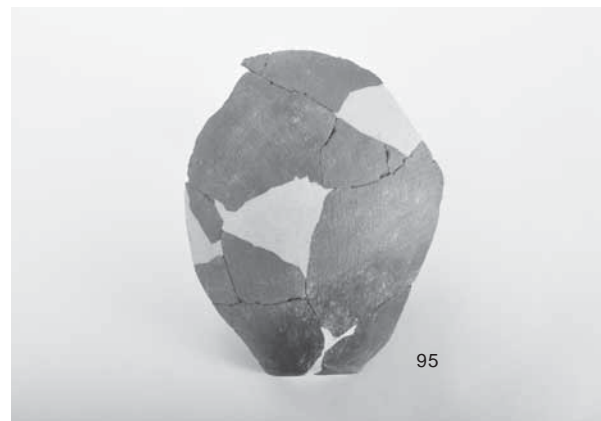
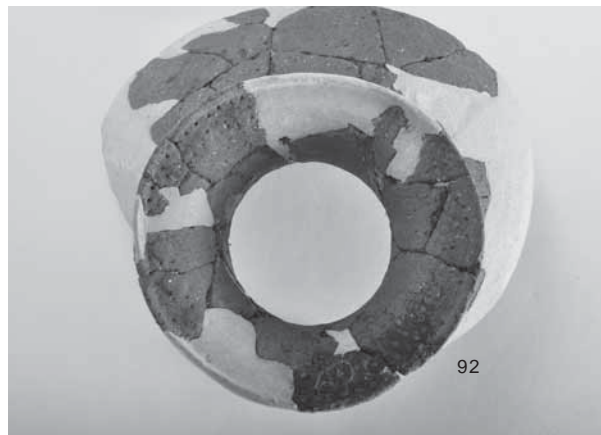


7区南西部土器集中遺構遺物出土状況 東から

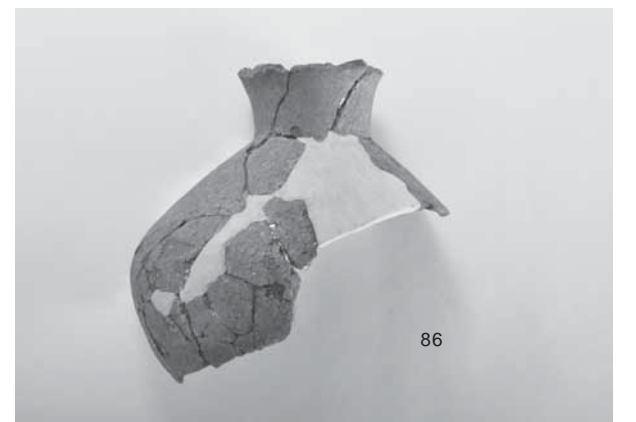
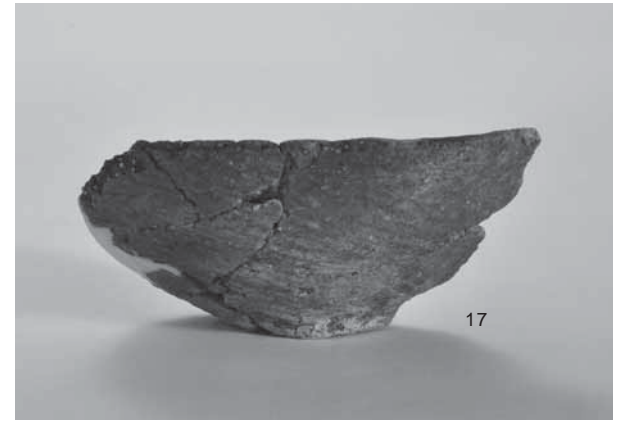


3区SP04遺物出土状況 南から

图版 50 西白方瓦谷遺跡

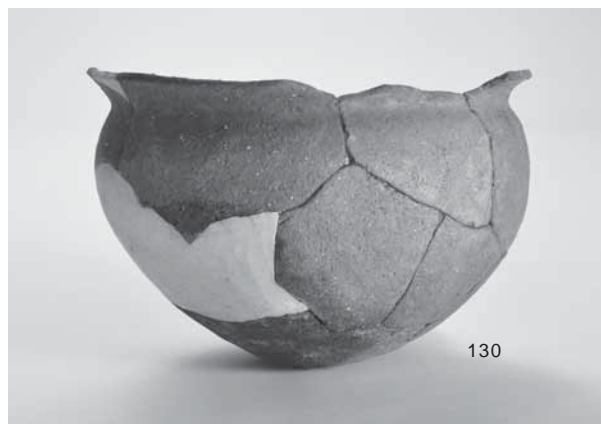
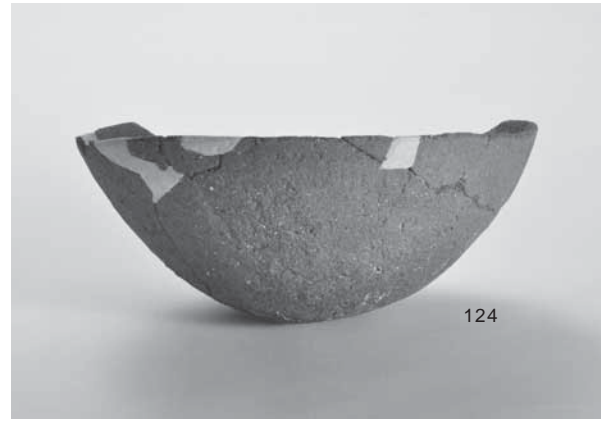
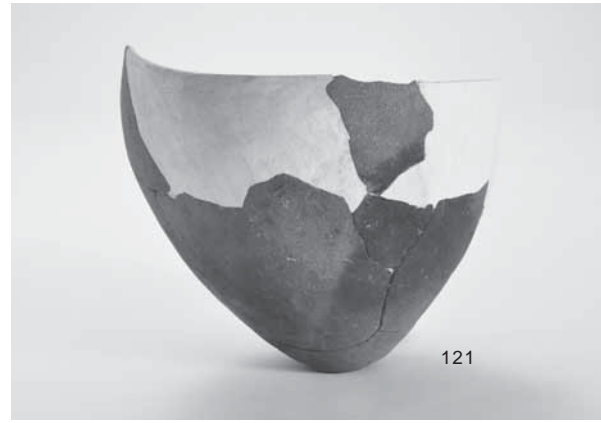


图版 49 西白方瓦谷遺跡

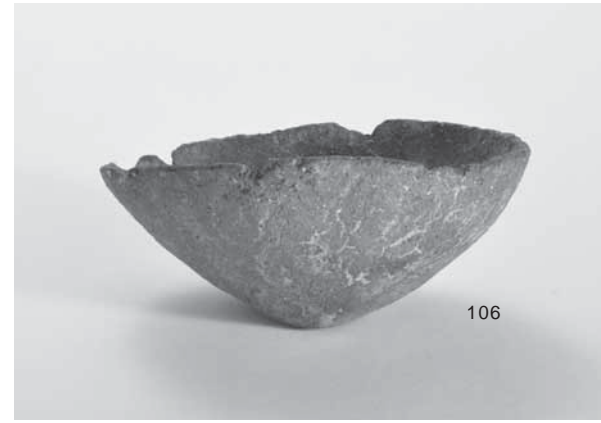




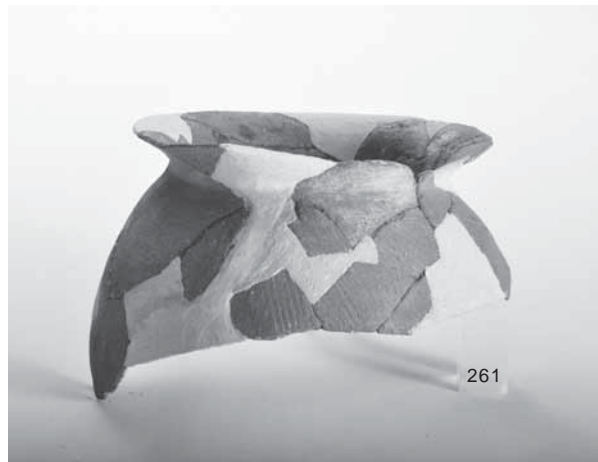
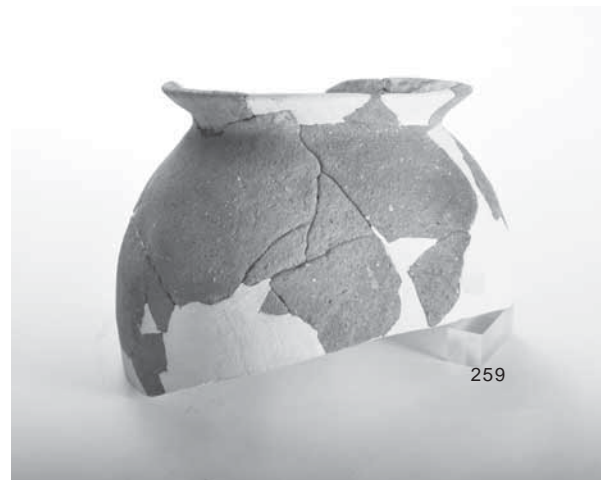
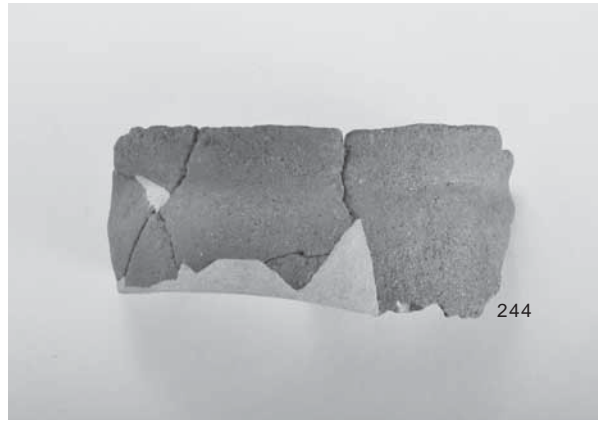
图版 52 西白方瓦谷遺跡



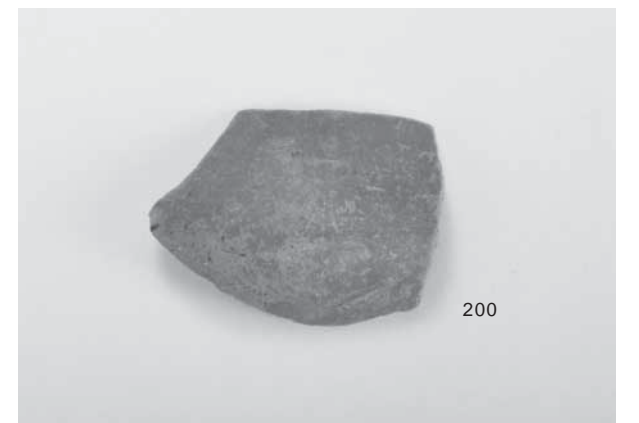
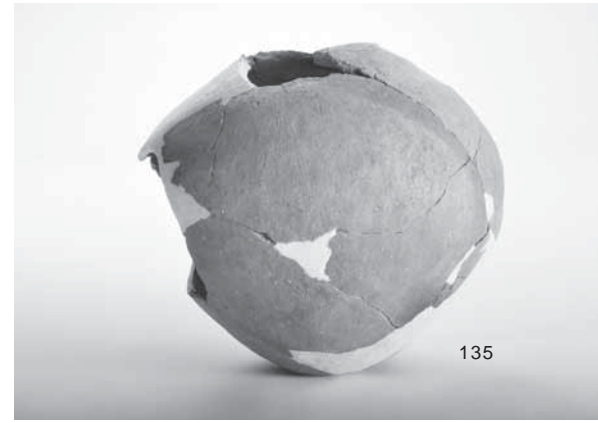
图版 51 西白方瓦谷遺跡



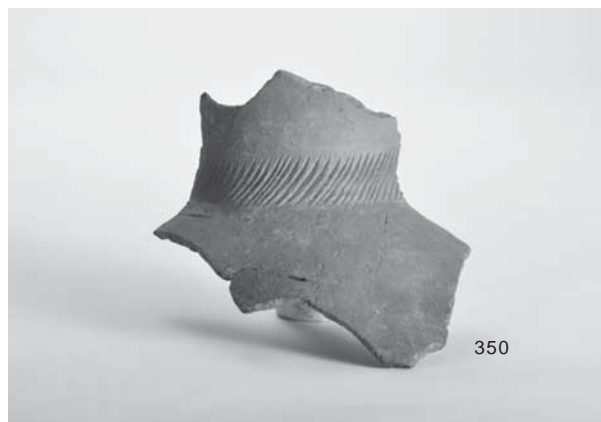
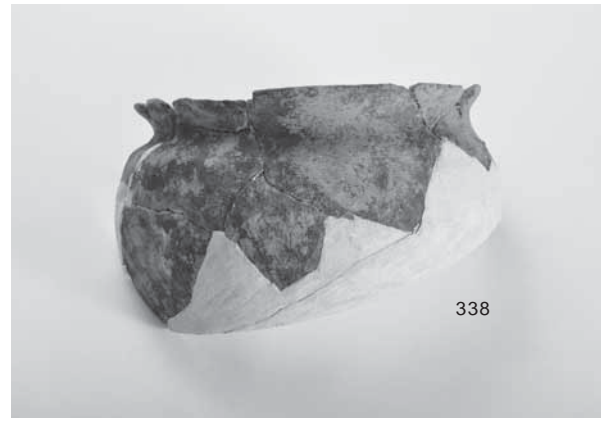
图版 54 西白方瓦谷遺跡



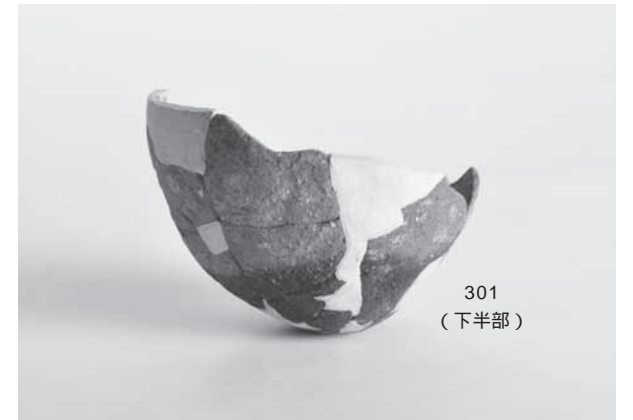
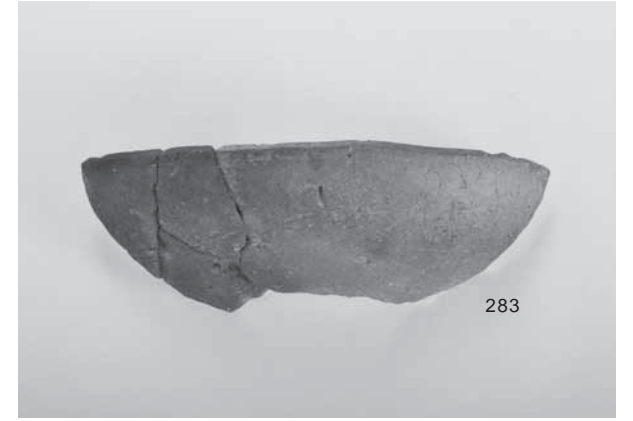
图版 53 西白方瓦谷遺跡



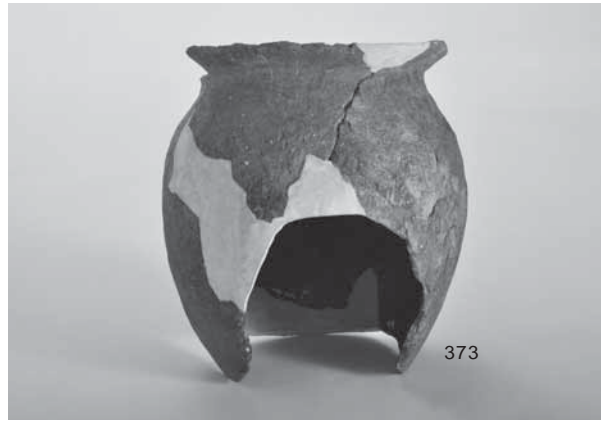
图版 56 西白方瓦谷遺跡



图版 55 西白方瓦谷遺跡



图版 58 西白方瓦谷遺跡



373



374



376



381



382



387



389



393

图版 57 西白方瓦谷遺跡



353



356



358



359



362



365  
(下半部)



369

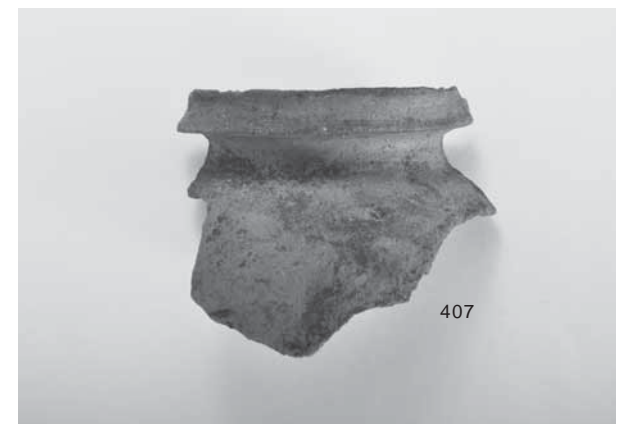


371

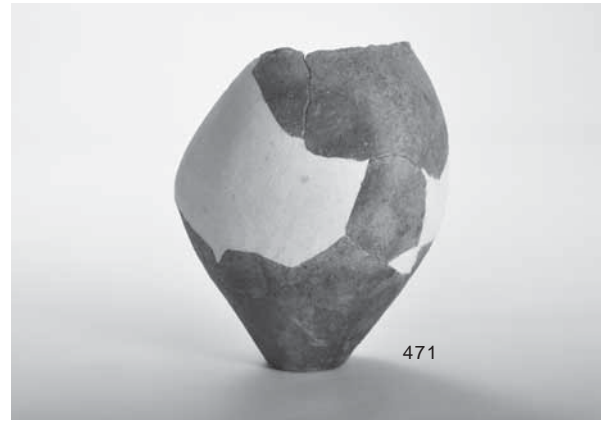
图版 60 西白方瓦谷遺跡



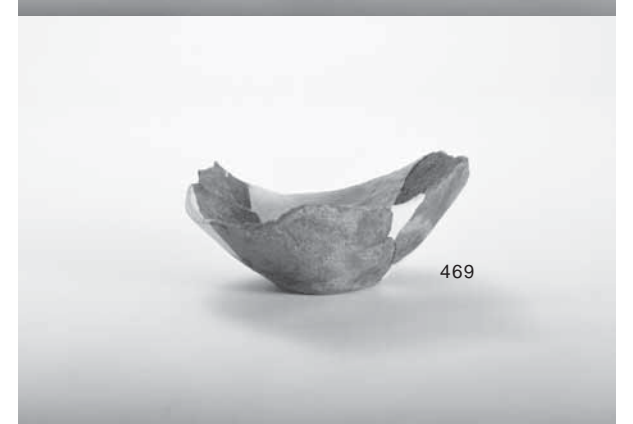
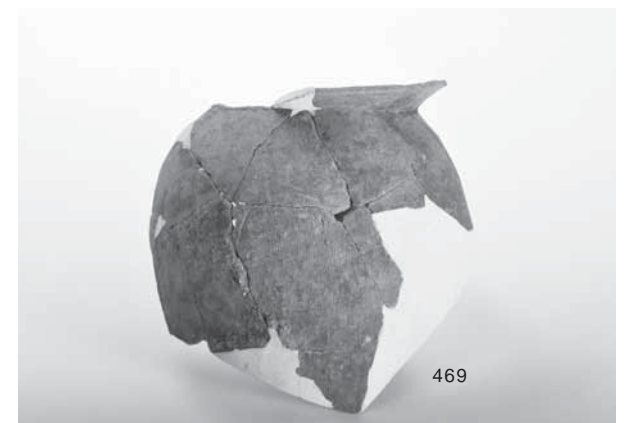
图版 59 西白方瓦谷遺跡



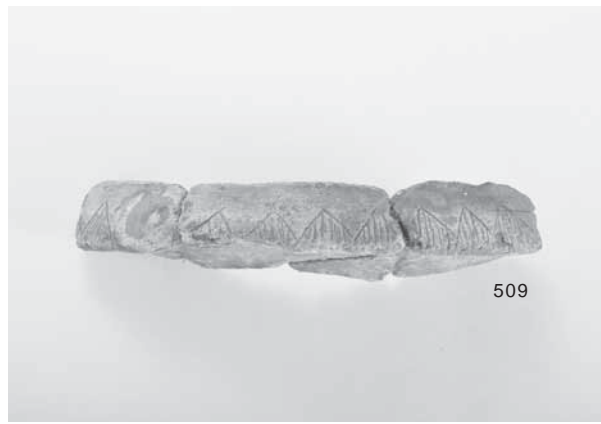
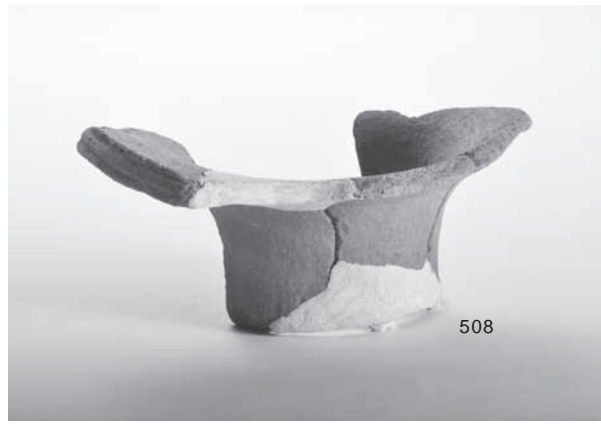
图版 62 西白方瓦谷遺跡



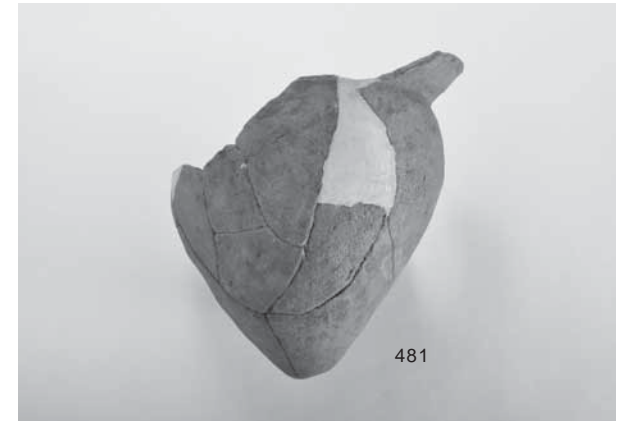
图版 61 西白方瓦谷遺跡



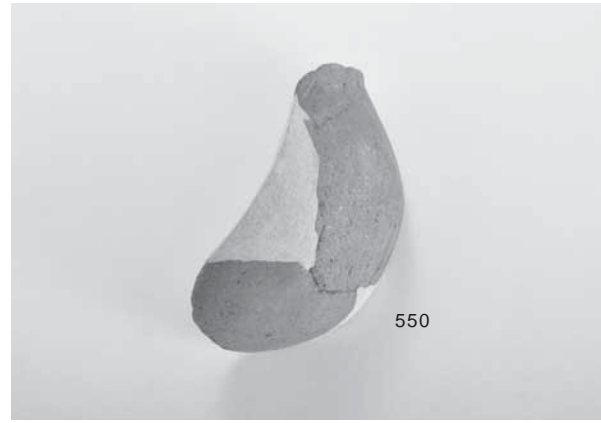
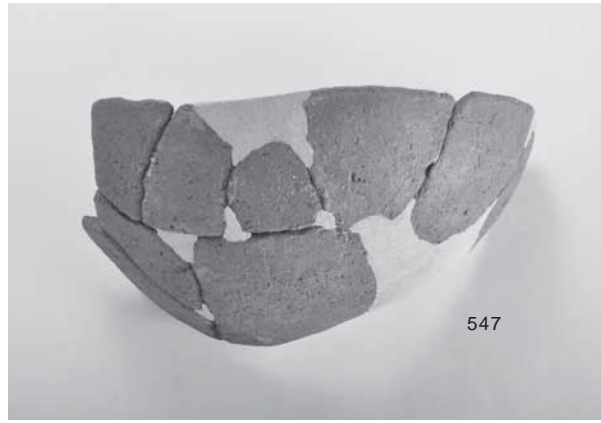
图版 64 西白方瓦谷遺跡



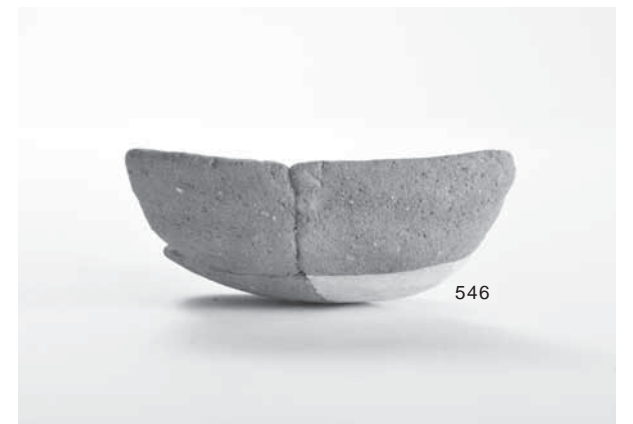
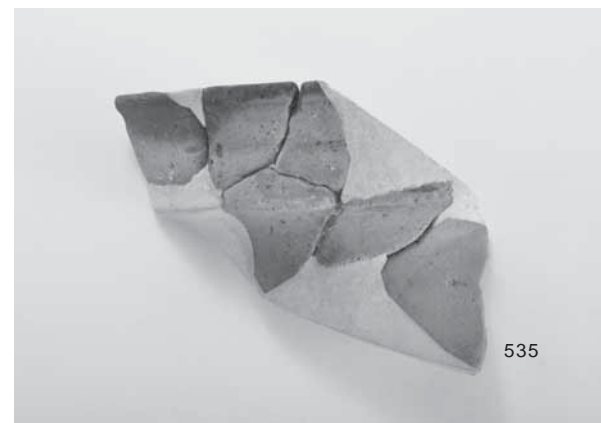
图版 63 西白方瓦谷遺跡



图版 66 西白方瓦谷遺跡

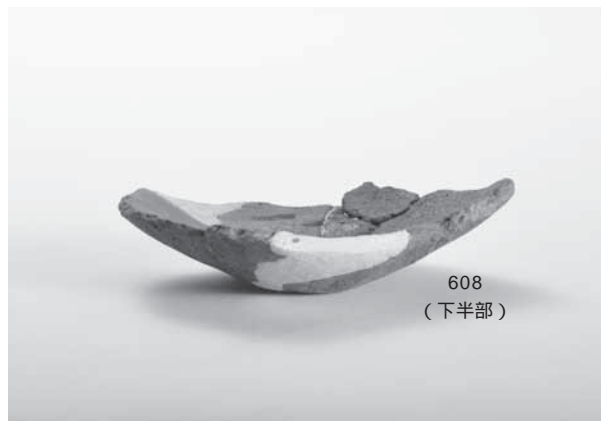
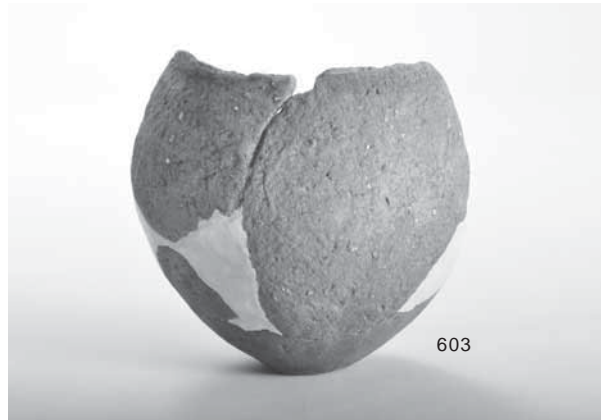


图版 65 西白方瓦谷遺跡

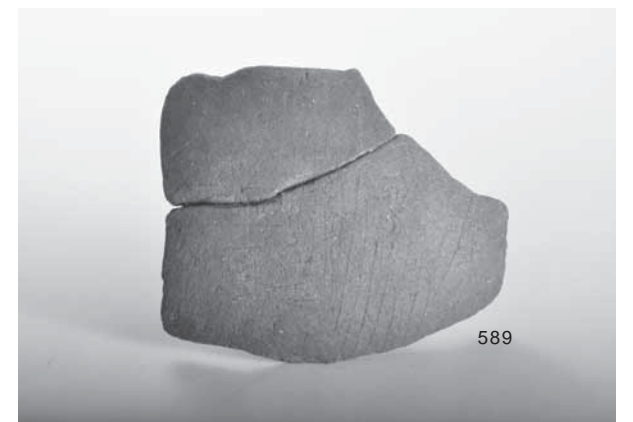
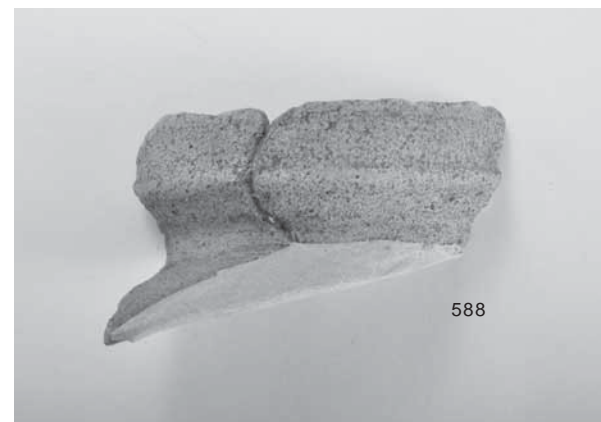
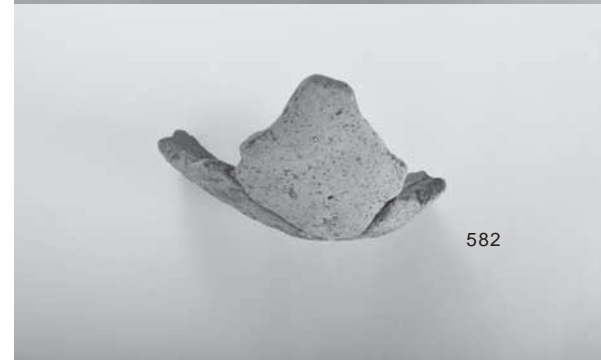
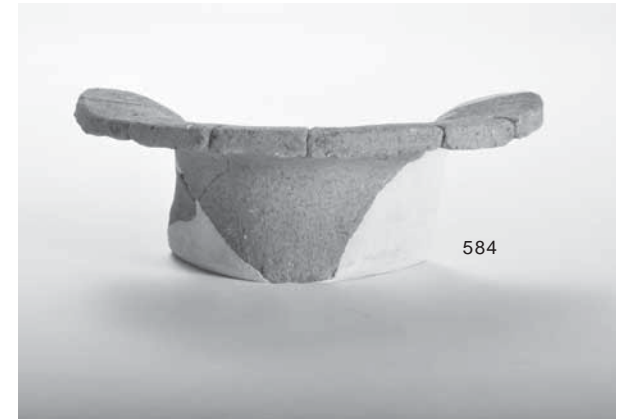
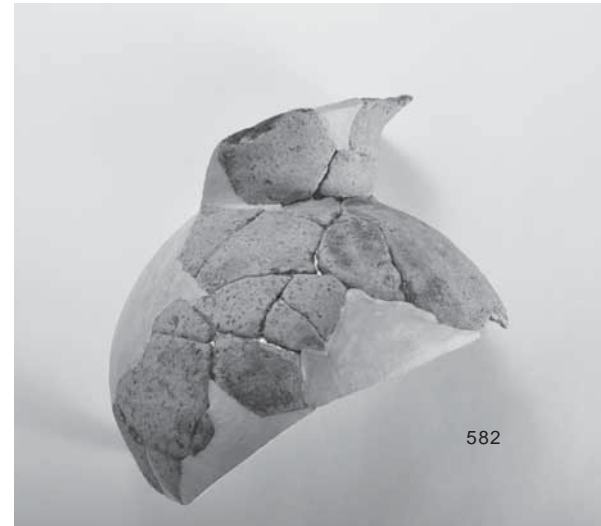
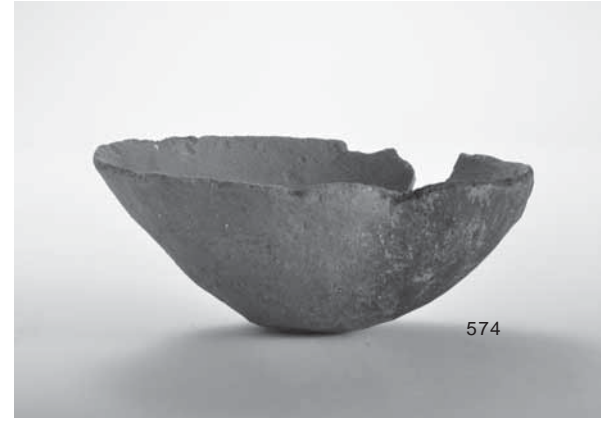




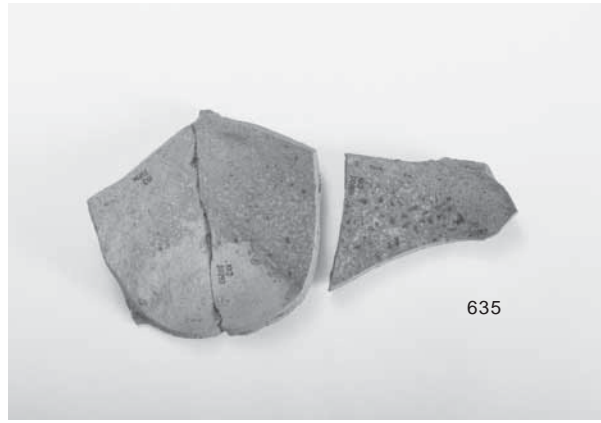
图版 68 西白方瓦谷遺跡



图版 67 西白方瓦谷遺跡



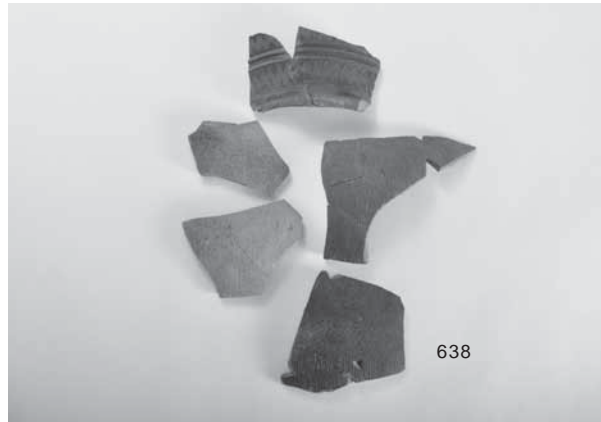
图版 70 西白方瓦谷遺跡



635



637



638



639



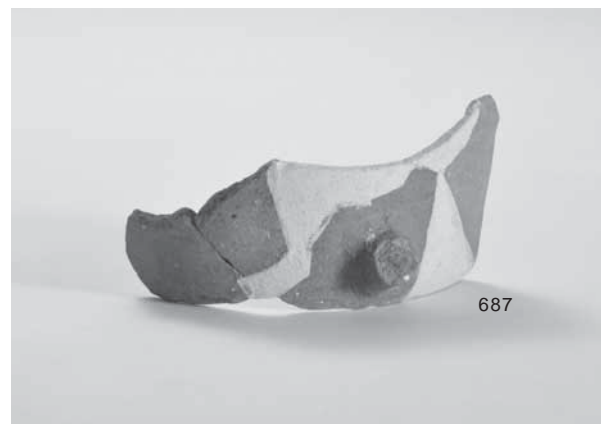
640



656

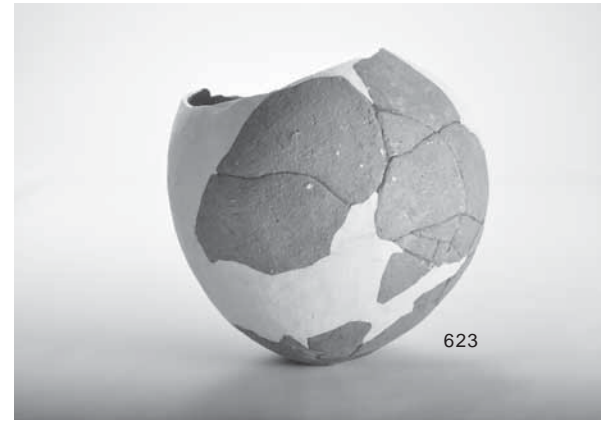


670

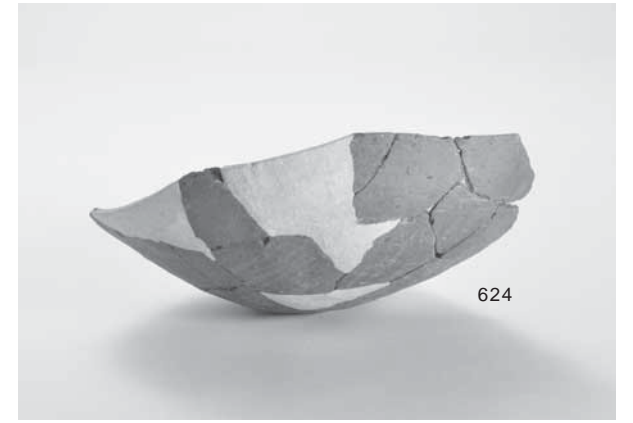


687

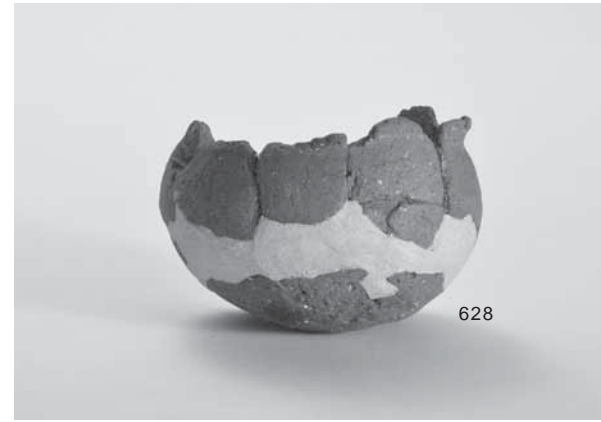
图版 69 西白方瓦谷遺跡



623



624



628



629



631



632

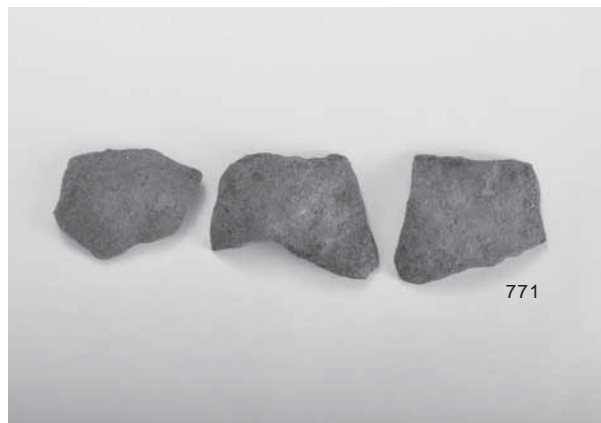
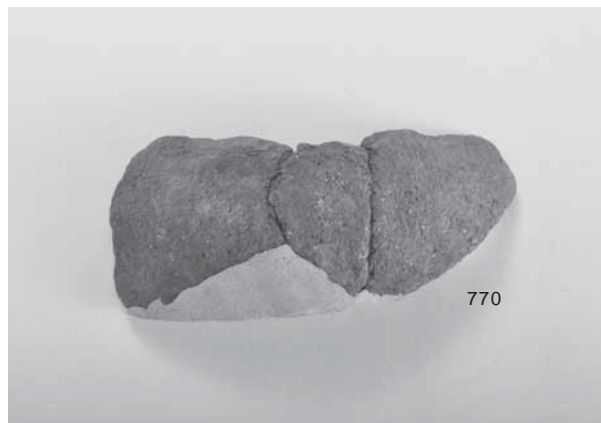


633

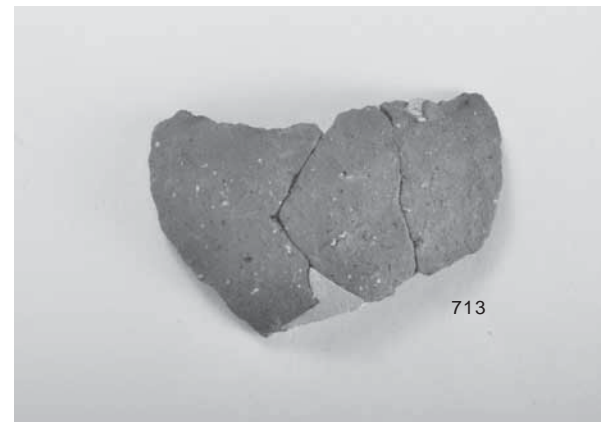


634

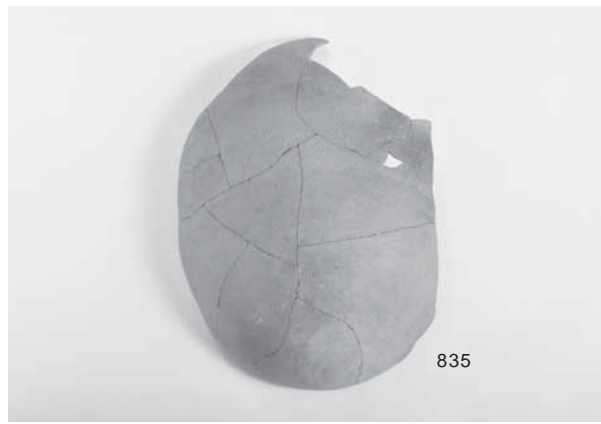
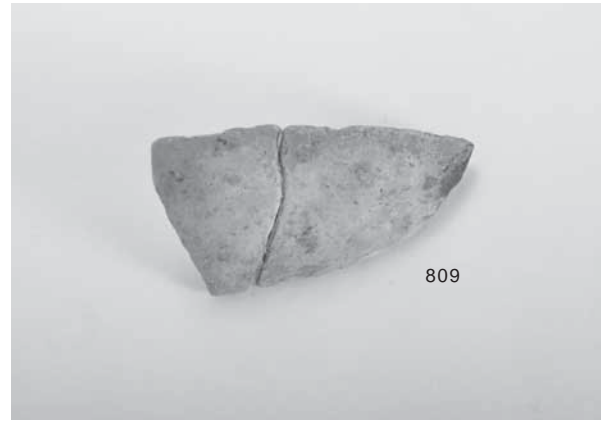
图版 72 西白方瓦谷遺跡



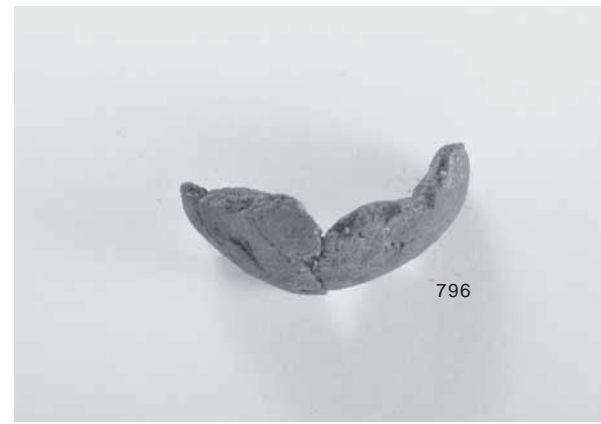
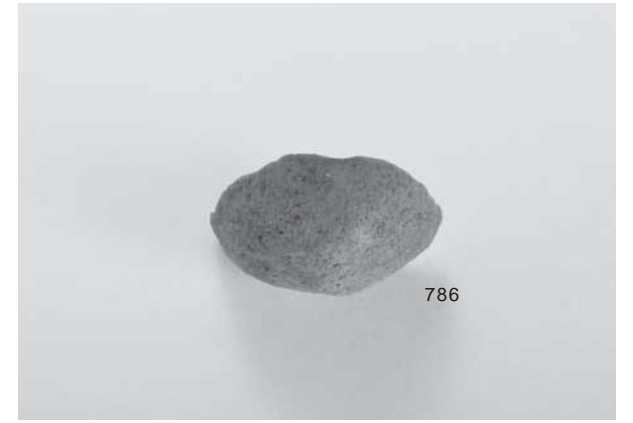
图版 71 西白方瓦谷遺跡



图版 74 西白方瓦谷遺跡



图版 73 西白方瓦谷遺跡



图版 76 西白方瓦谷遺跡



870



881



877



881



904



907



909



912

图版 75 西白方瓦谷遺跡



844



845



855



856



857



859



860



868

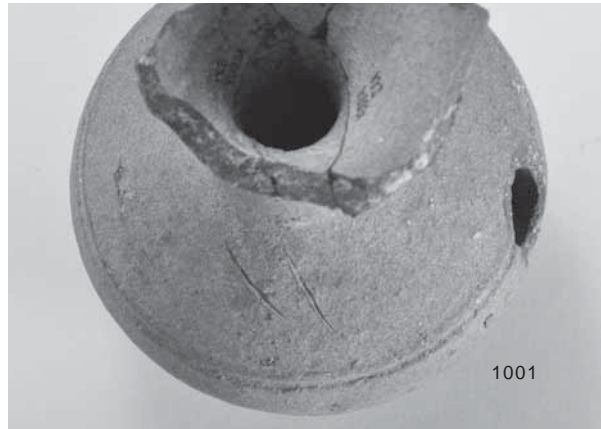
图版 78 西白方瓦谷遺跡



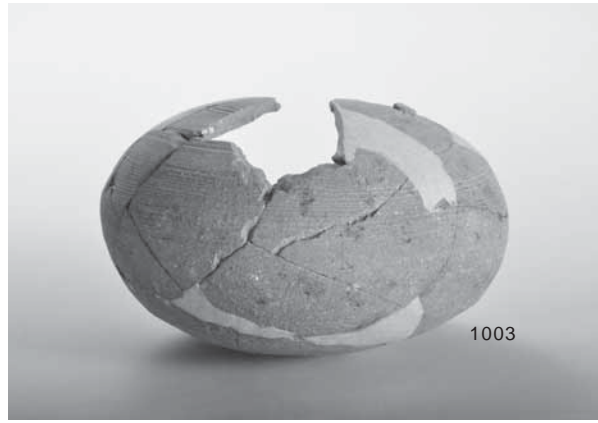
图版 77 西白方瓦谷遺跡



图版 80 西白方瓦谷遺跡



1001



1003



1001



1004



1009



1046



1047



1056

图版 79 西白方瓦谷遺跡



970



971



975



981



984



987

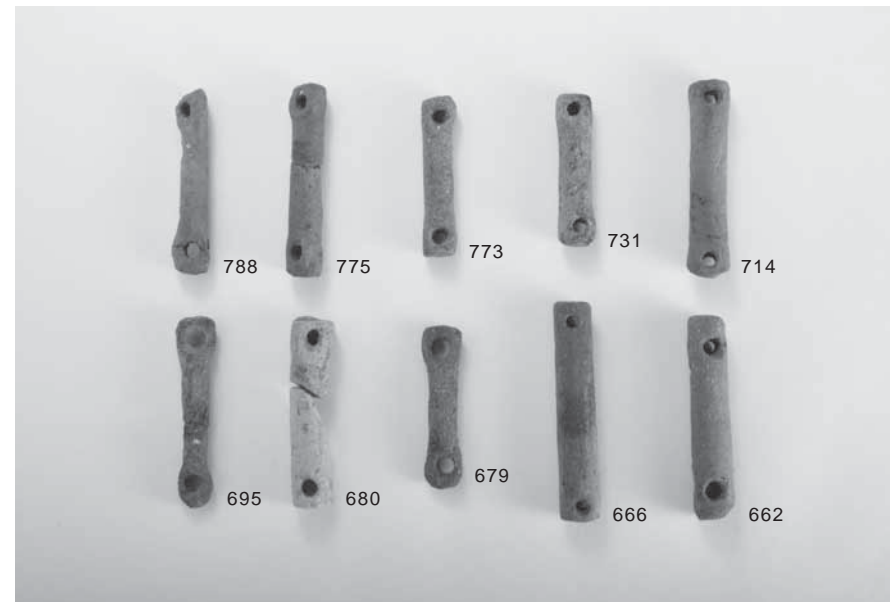
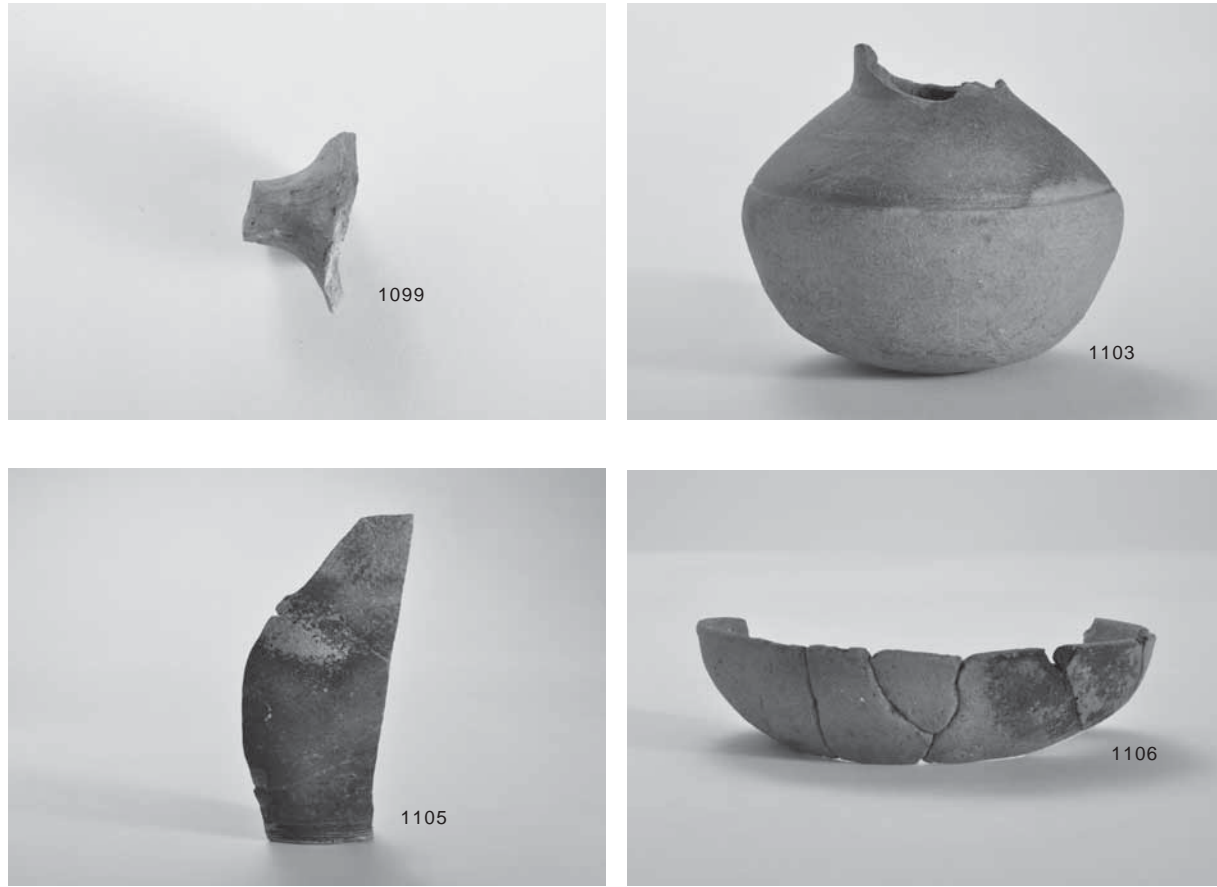


990

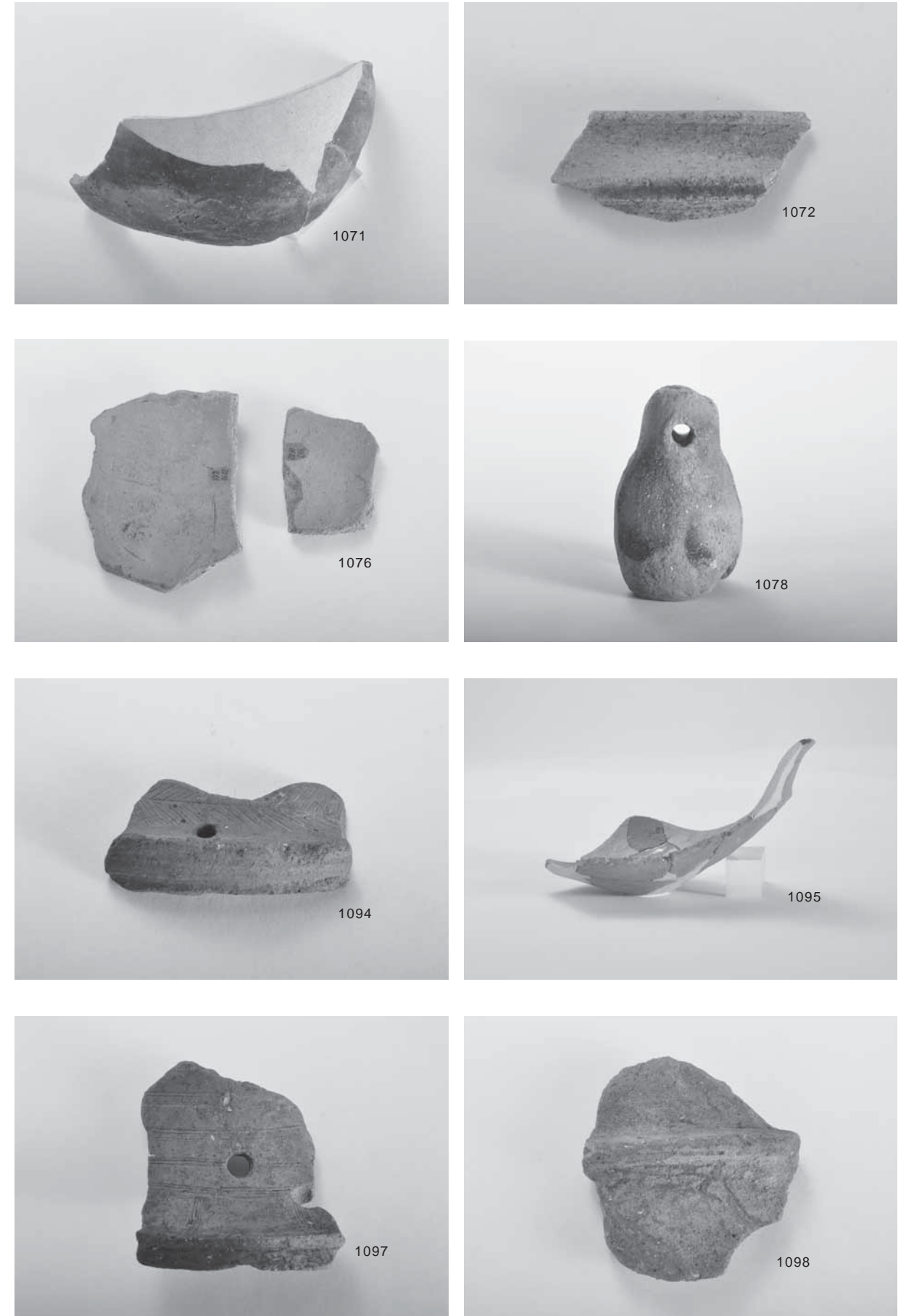


999

图版 82 西白方瓦谷遺跡

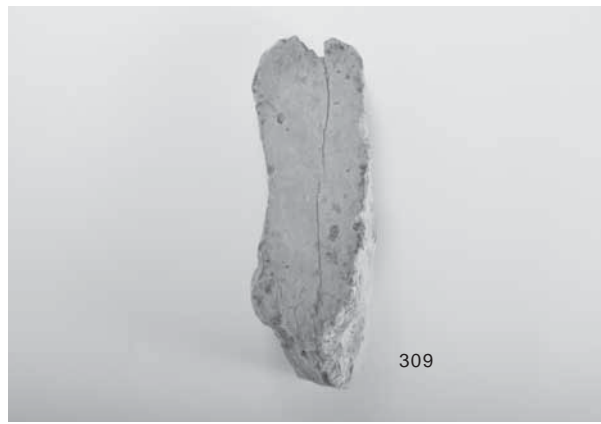


图版 81 西白方瓦谷遺跡

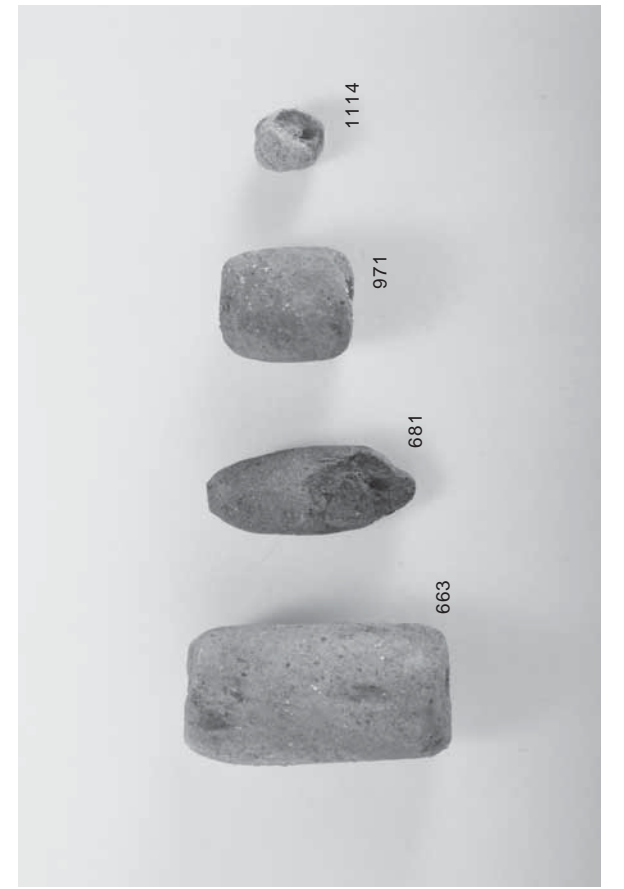
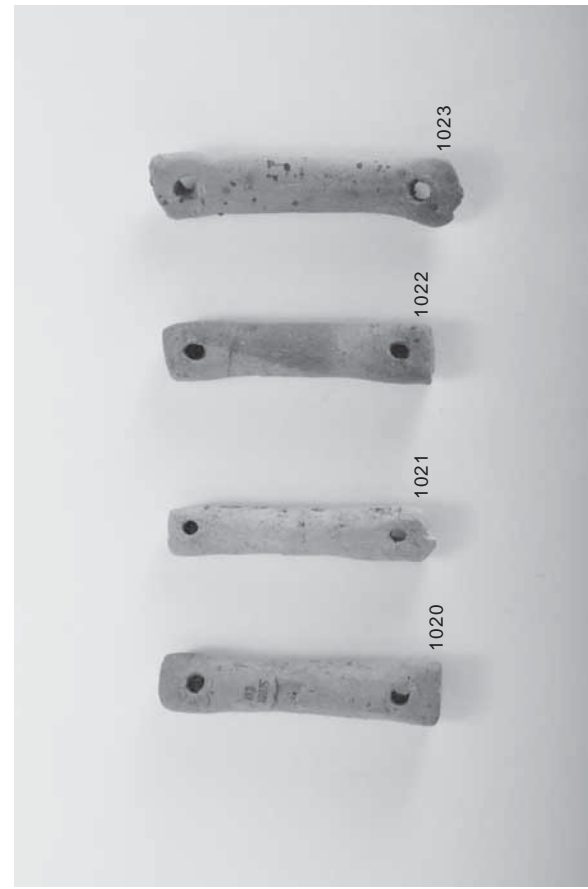
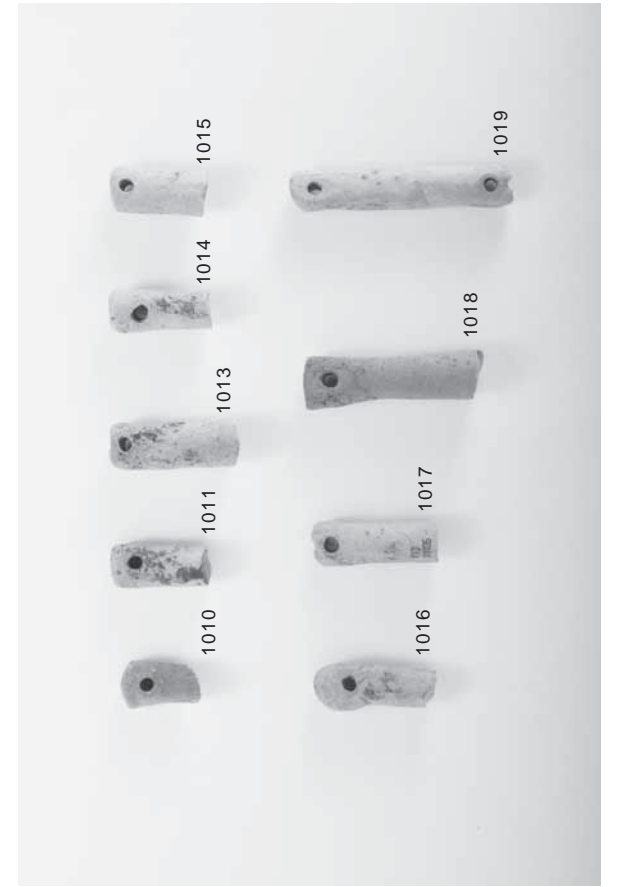
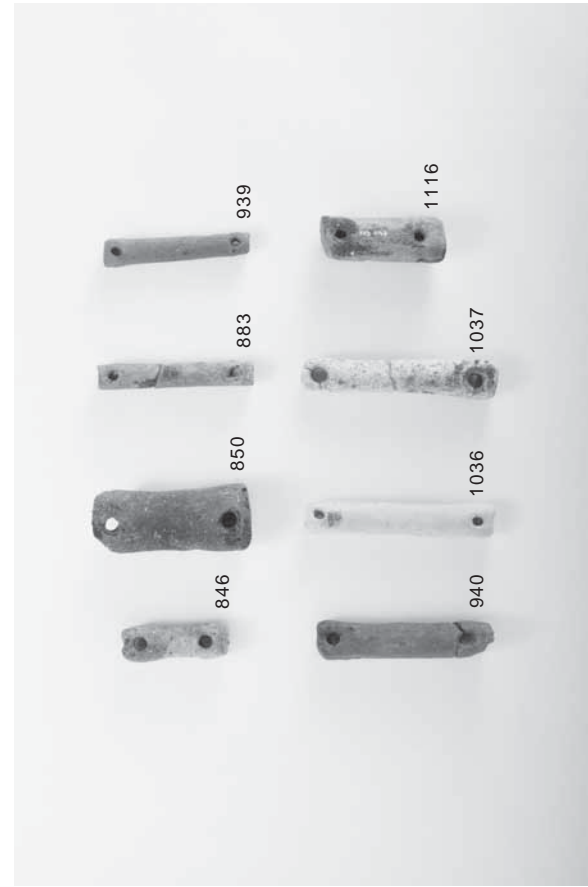




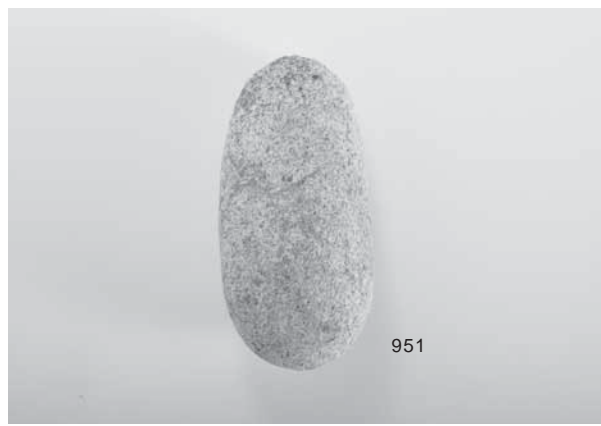
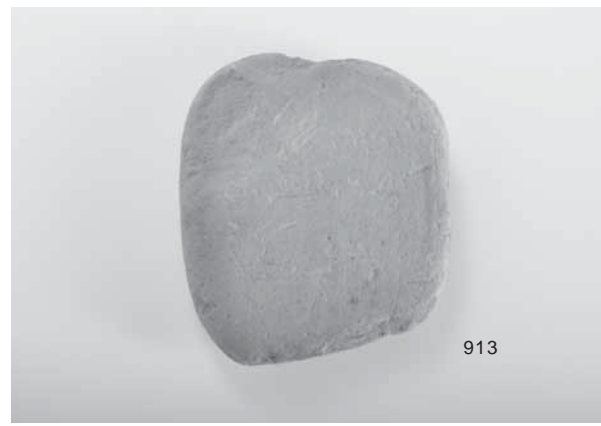
图版 84 西白方瓦谷遺跡



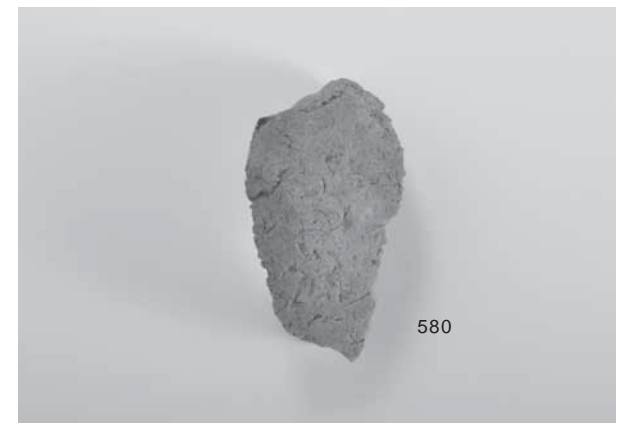
图版 83 西白方瓦谷遺跡



图版 86 西白方瓦谷遺跡



图版 85 西白方瓦谷遺跡



图版 88 西白方瓦谷遺跡



1045



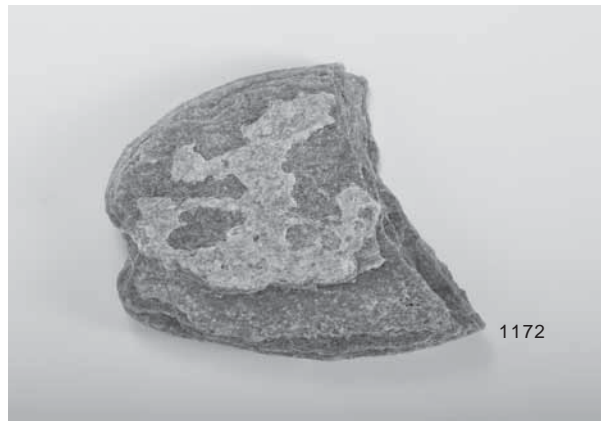
1169



1170



1171



1172



1173



1174



1175

图版 87 西白方瓦谷遺跡



953



1038



1039



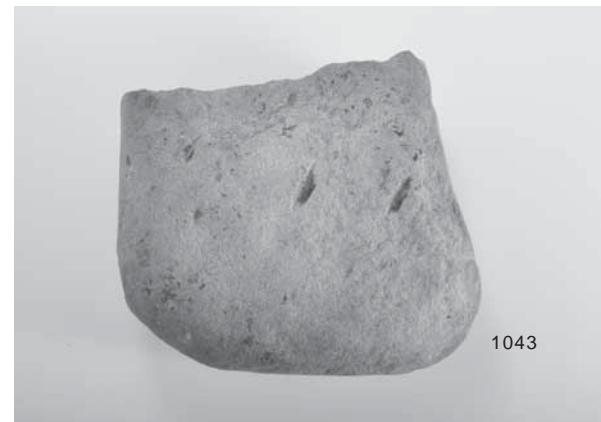
1040



1041



1042

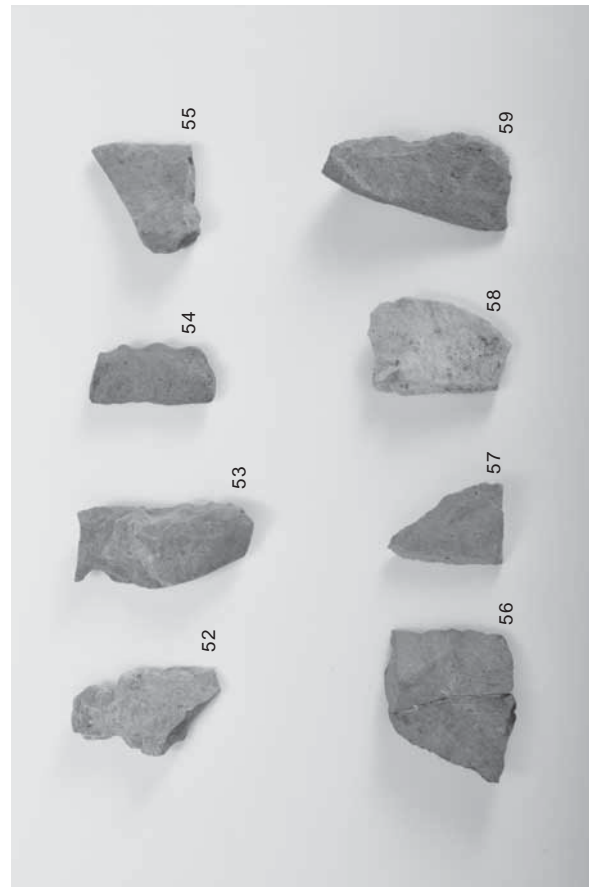
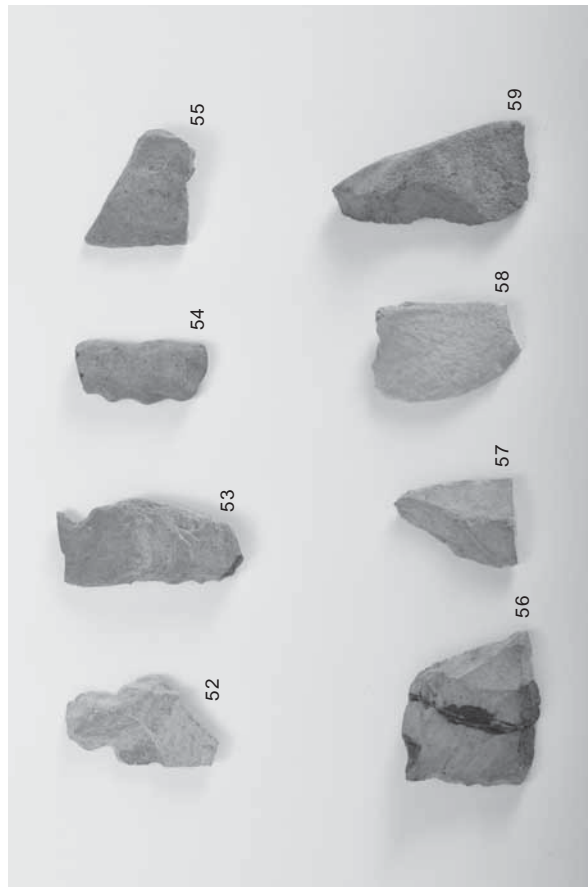
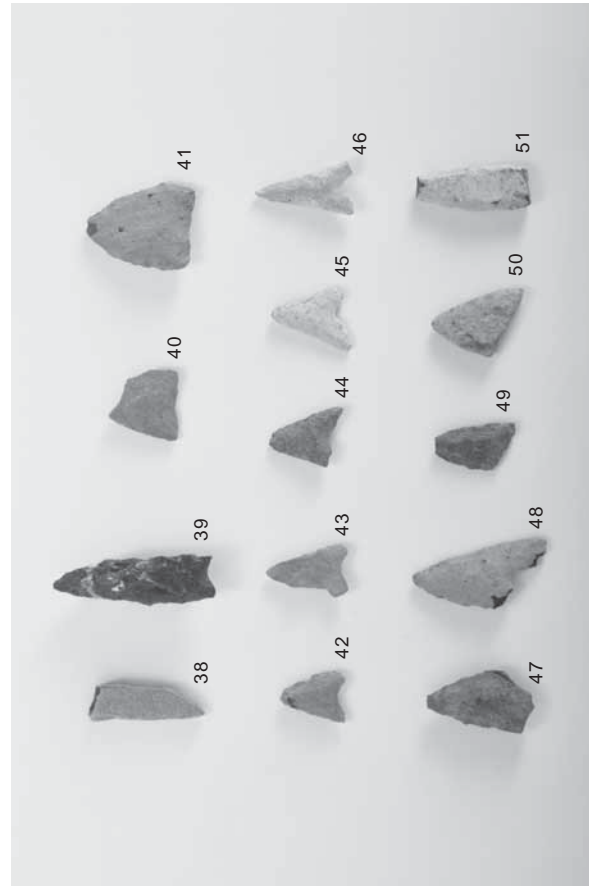
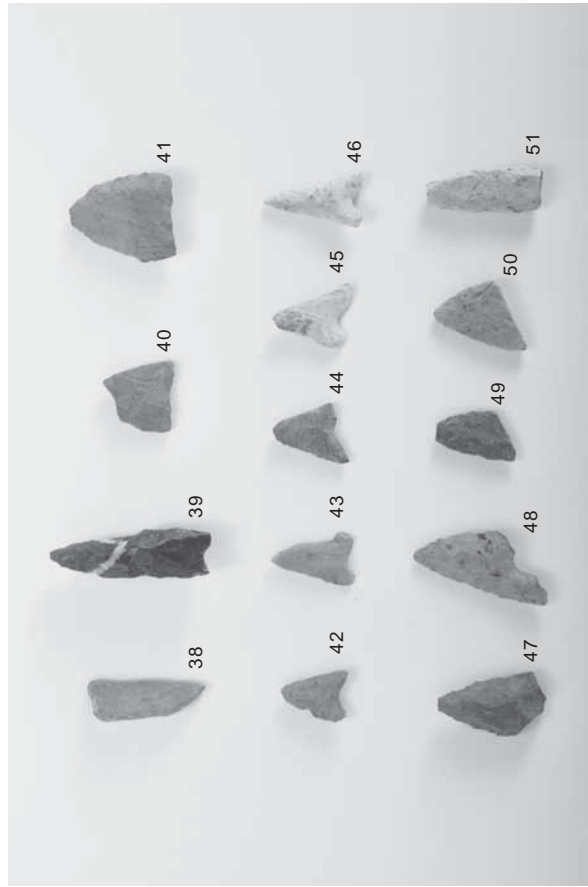


1043

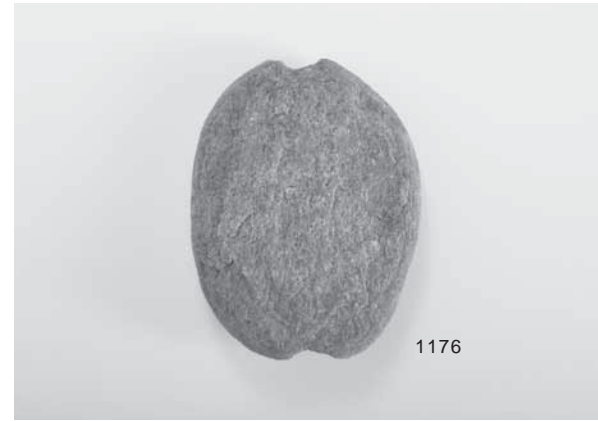


1044

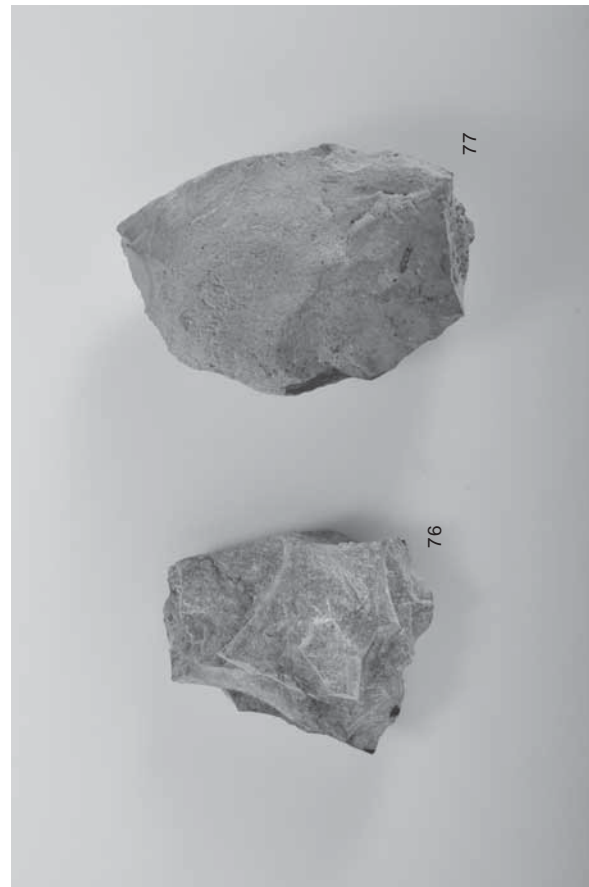
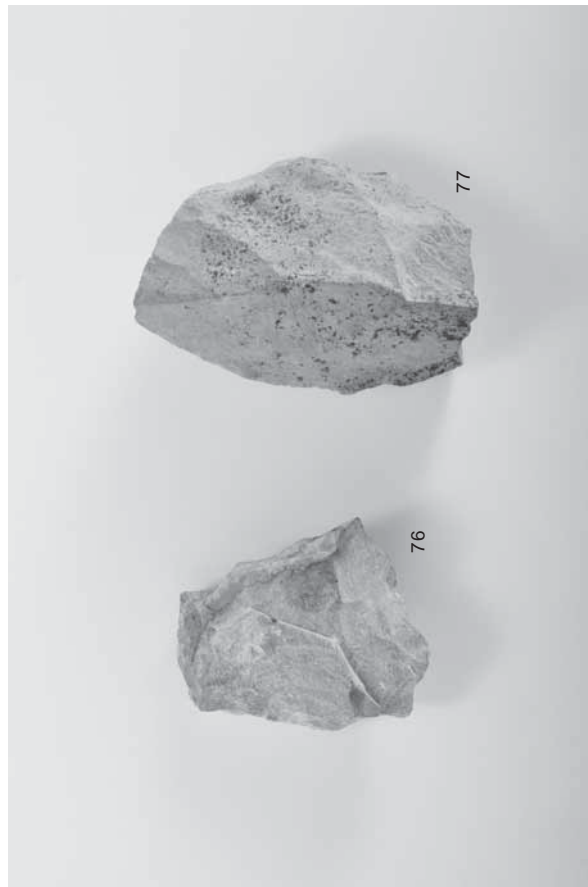
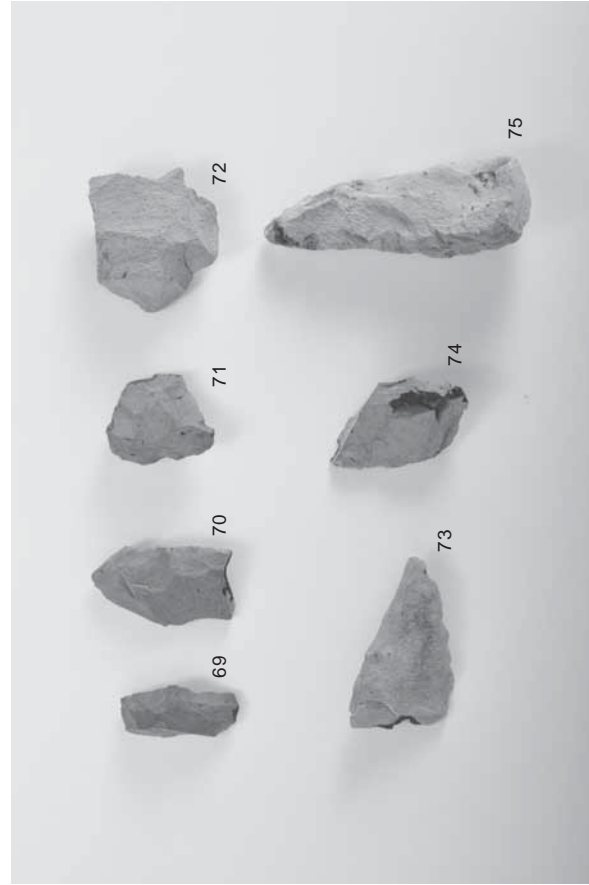
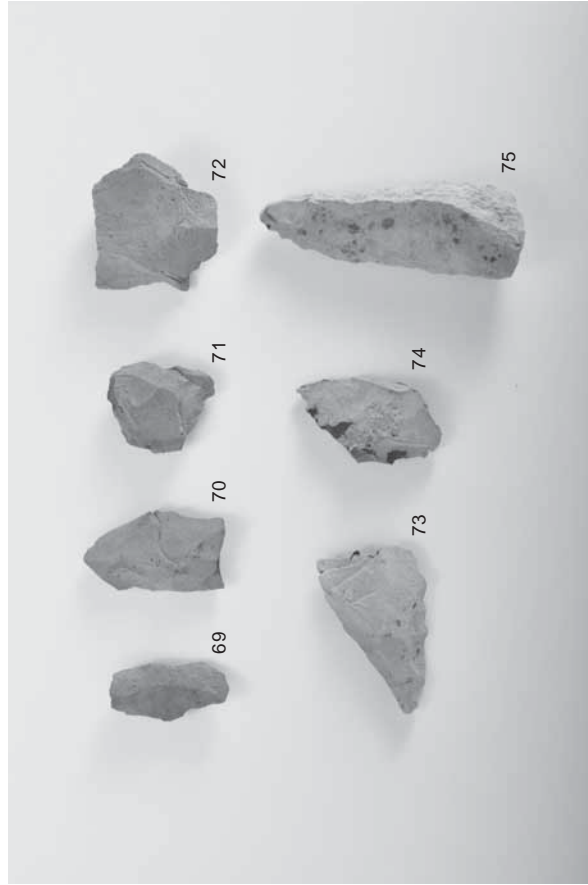
图版 90 西白方瓦谷遺跡



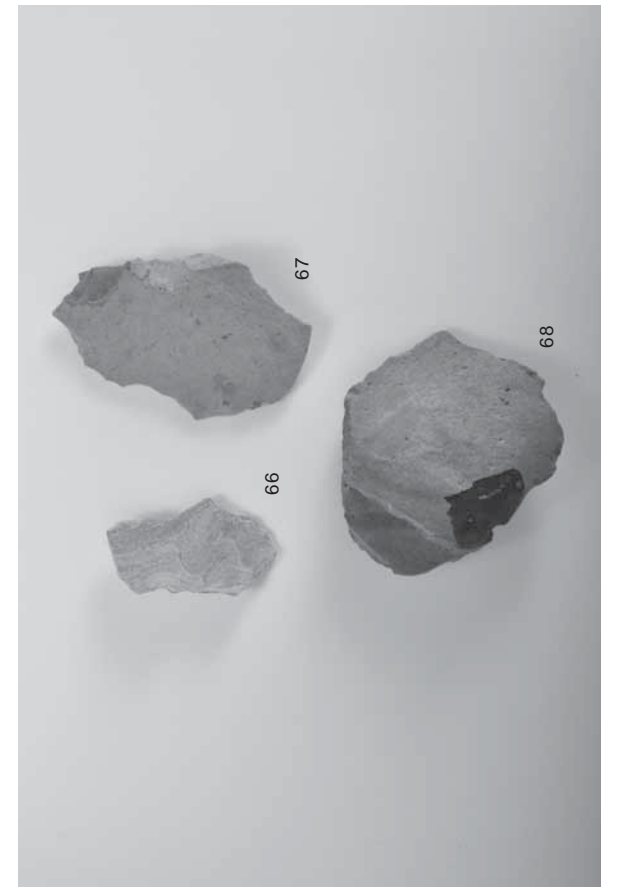
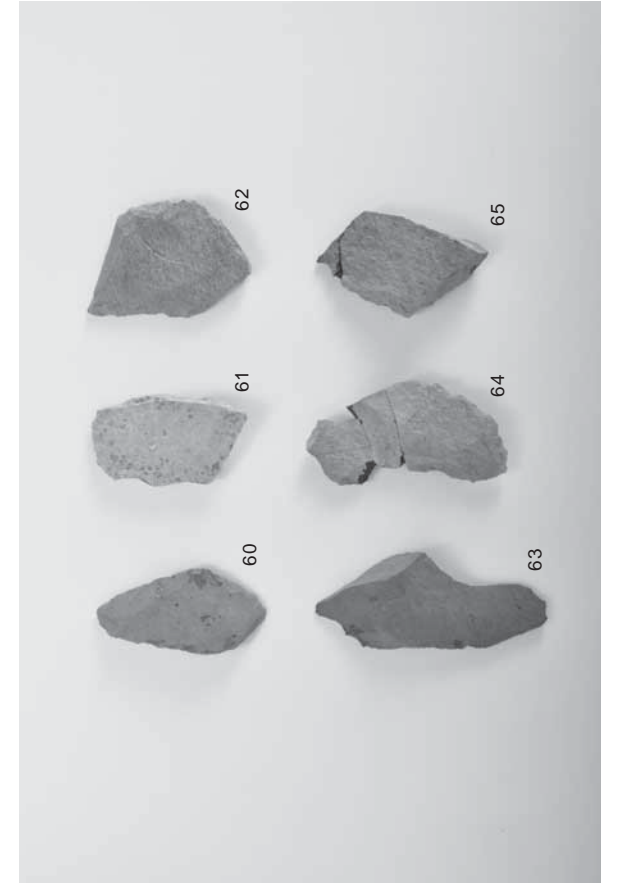
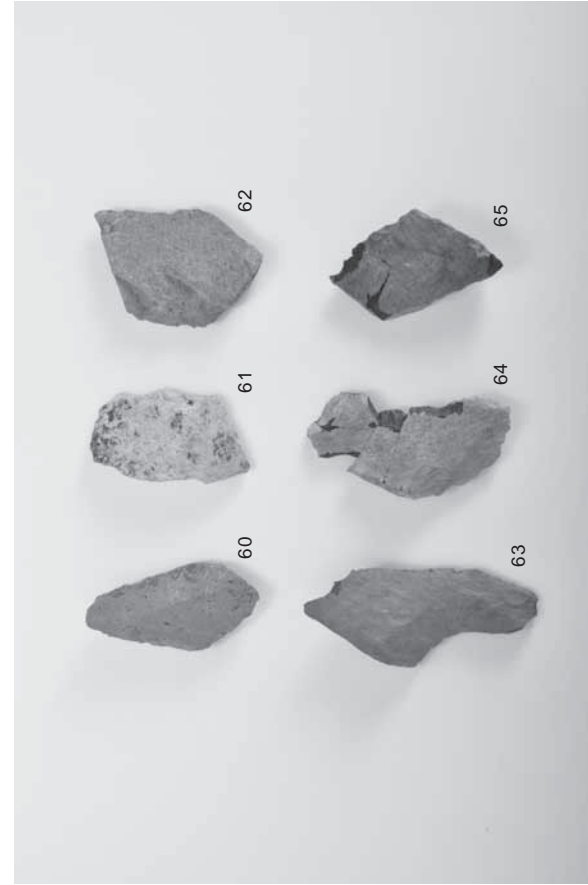
图版 89 西白方瓦谷遺跡



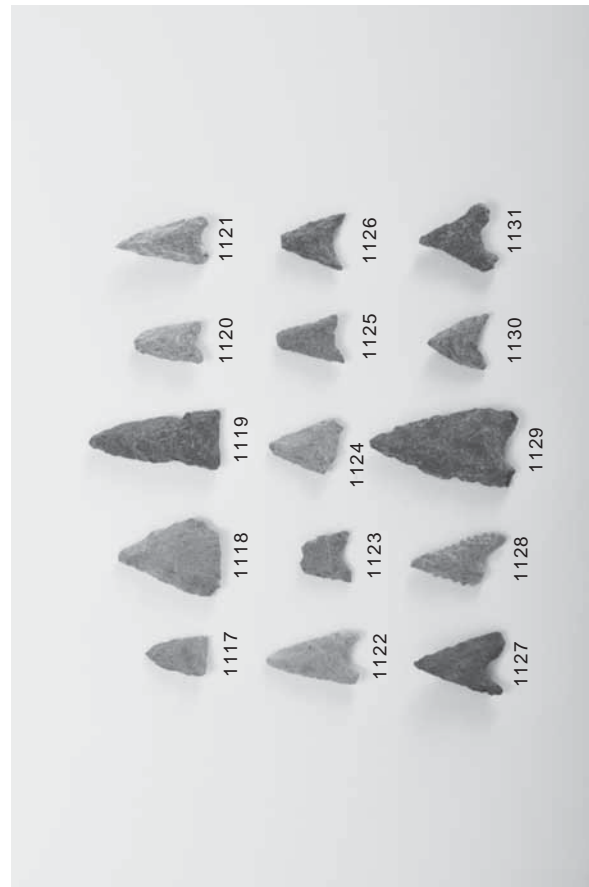
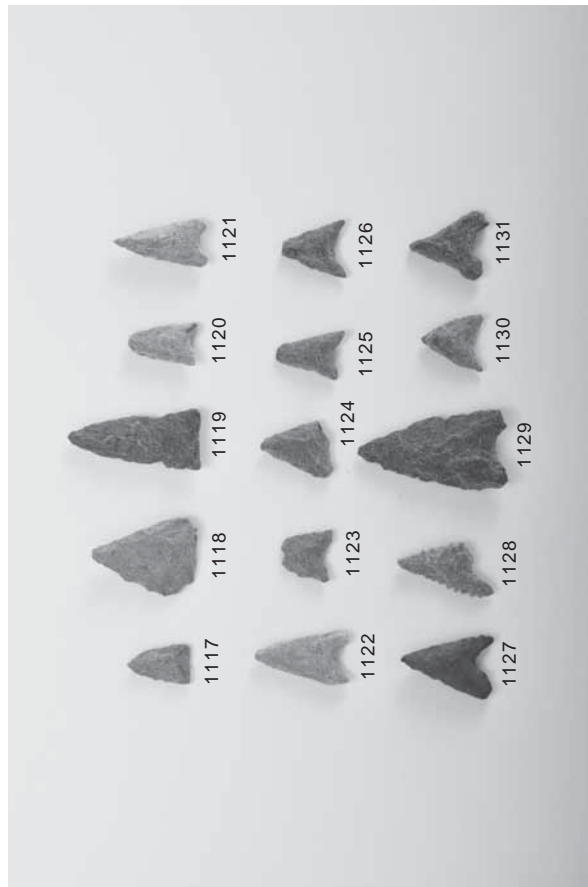
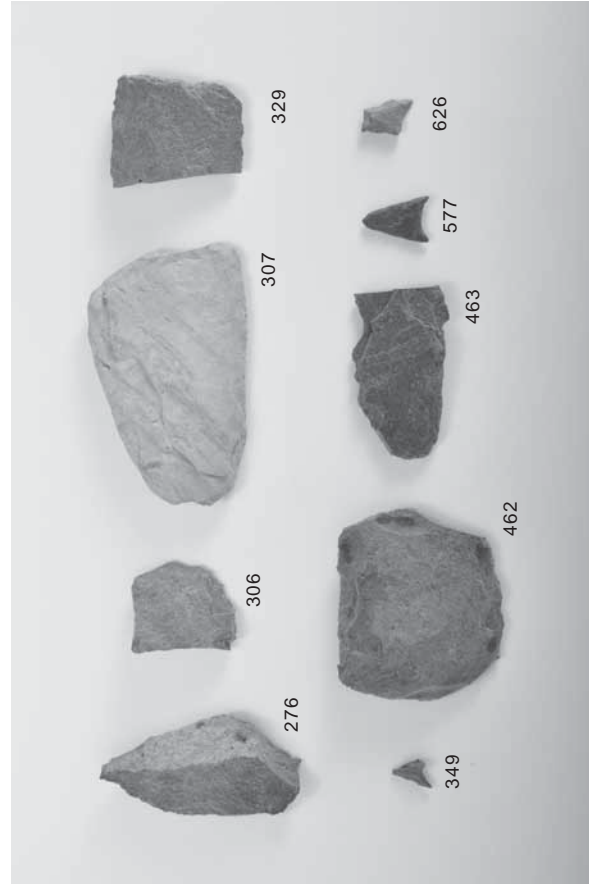
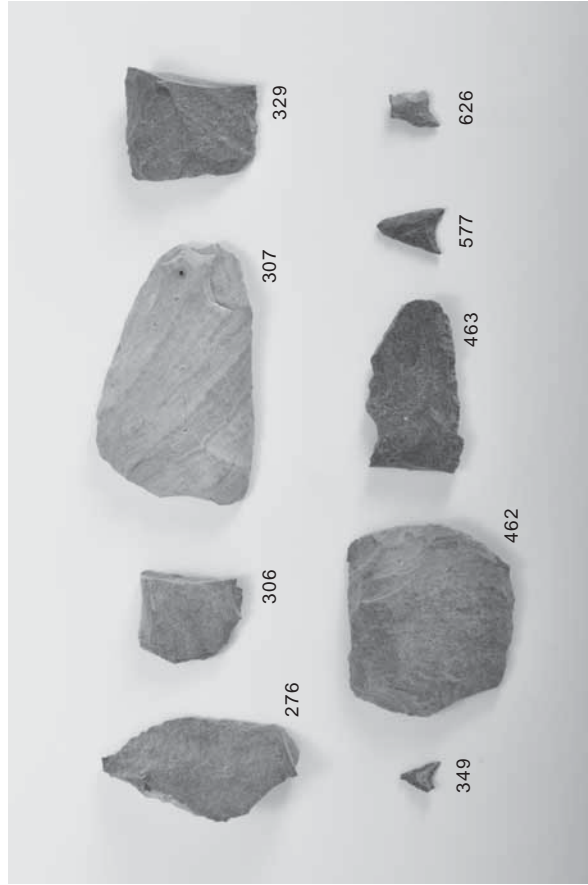
图版 92 西白方瓦谷遺跡



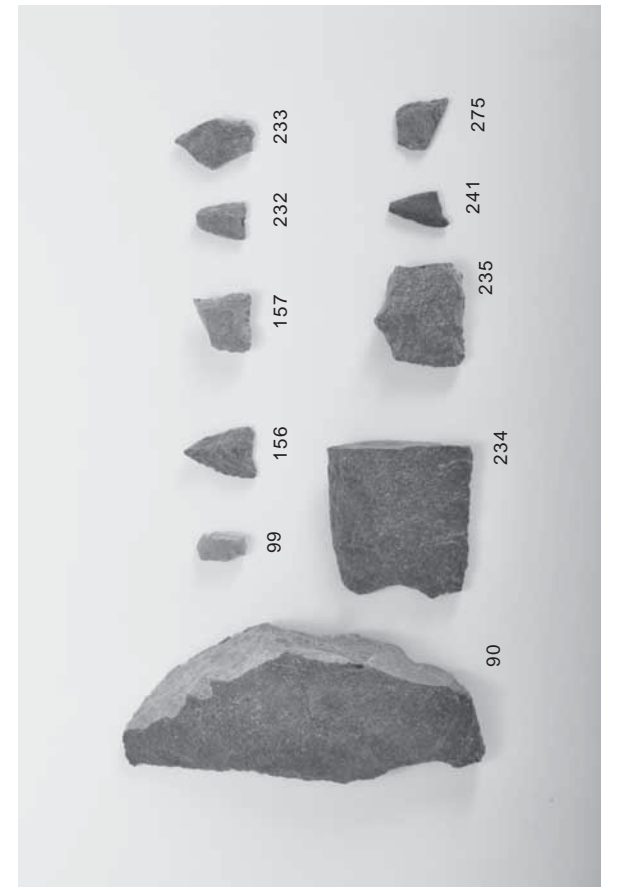
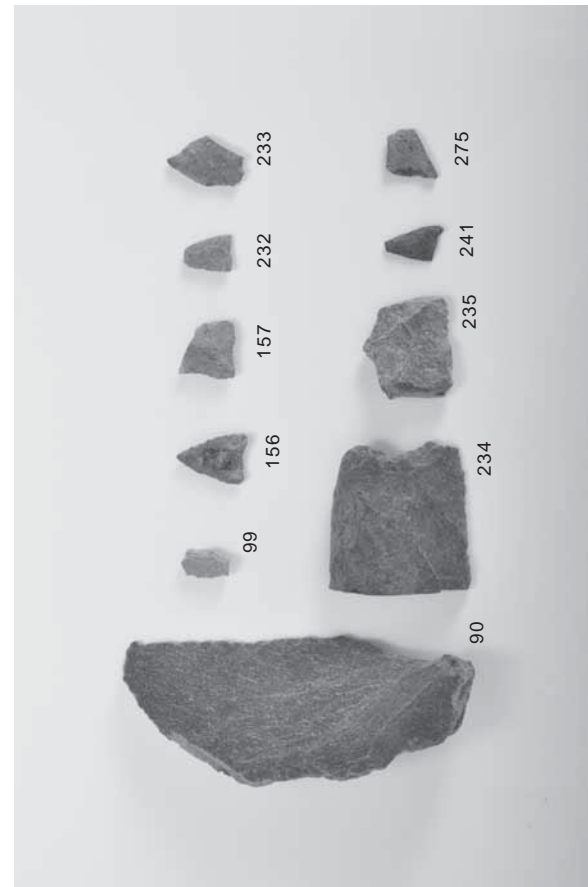
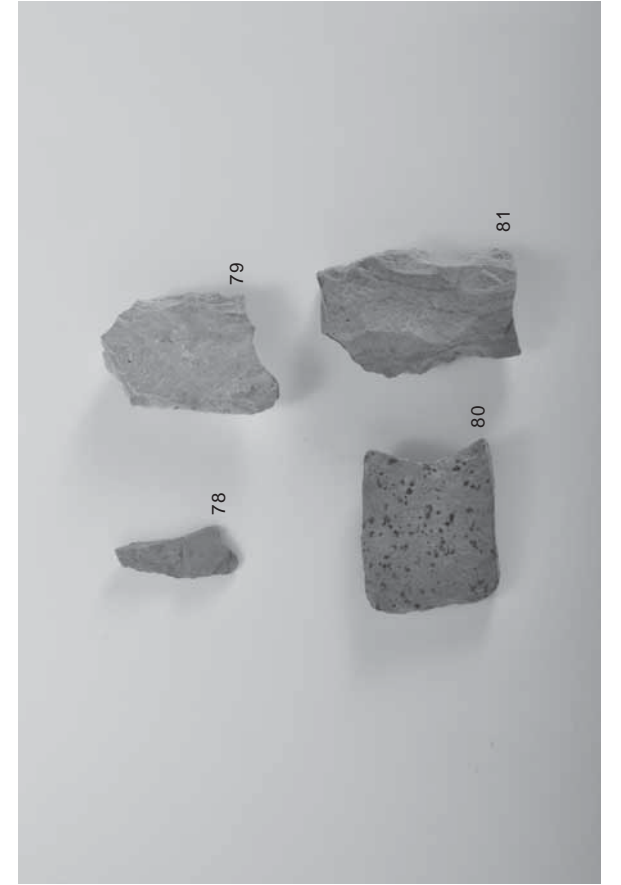
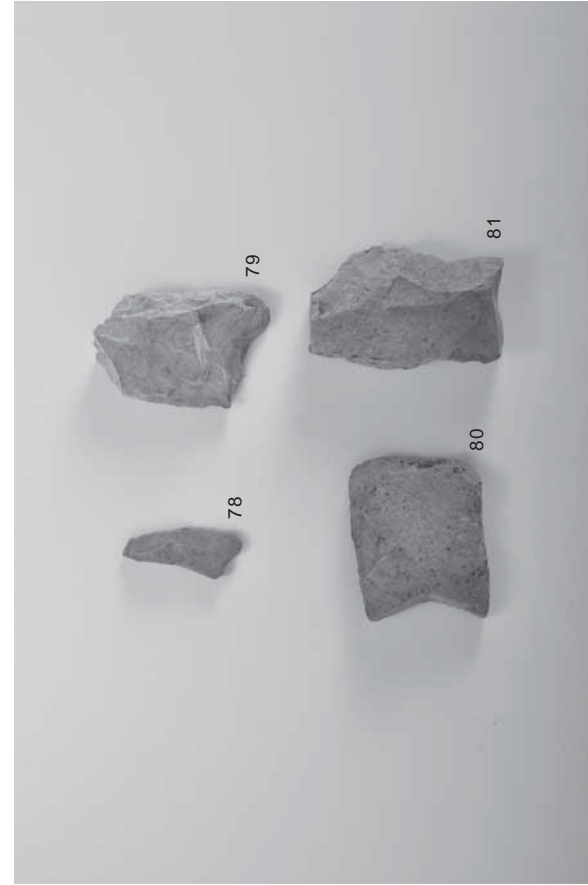
图版 91 西白方瓦谷遺跡



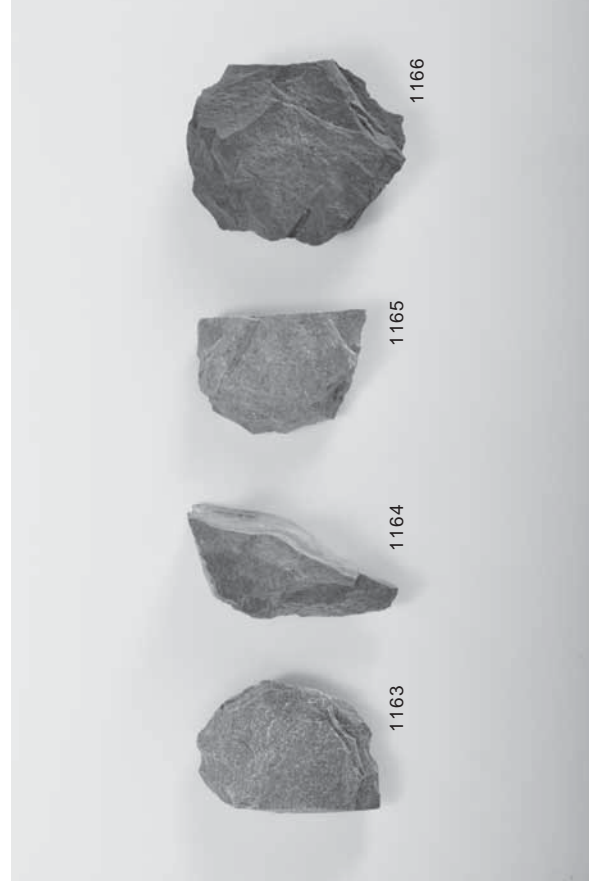
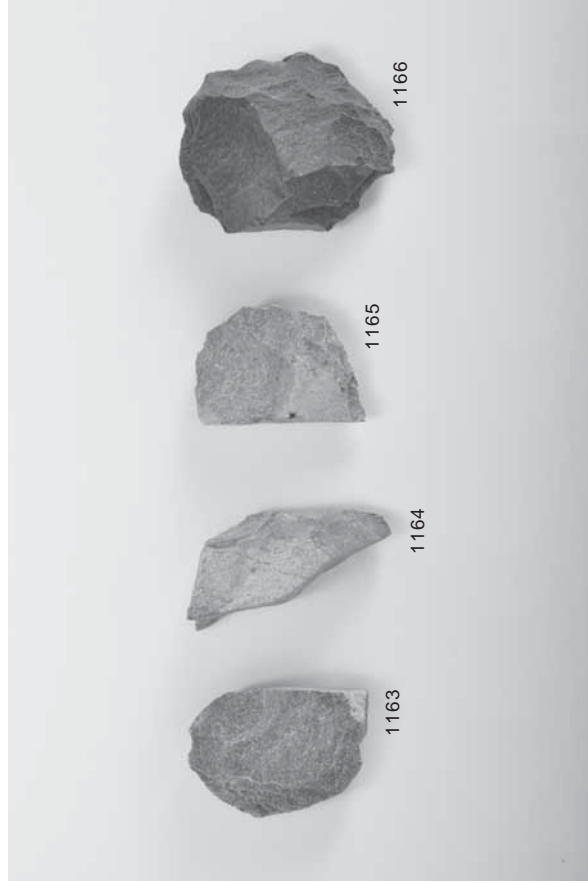
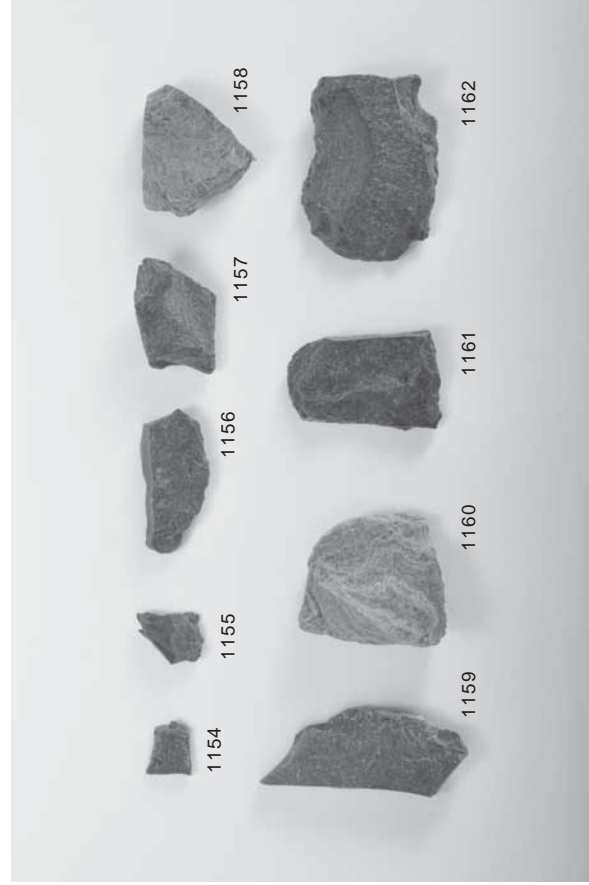
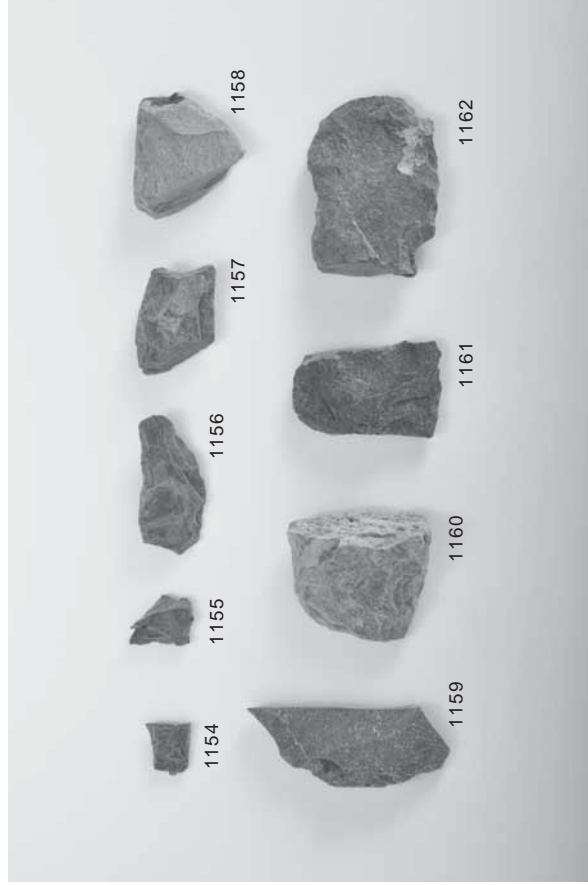
图版 94 西白方瓦谷遺跡



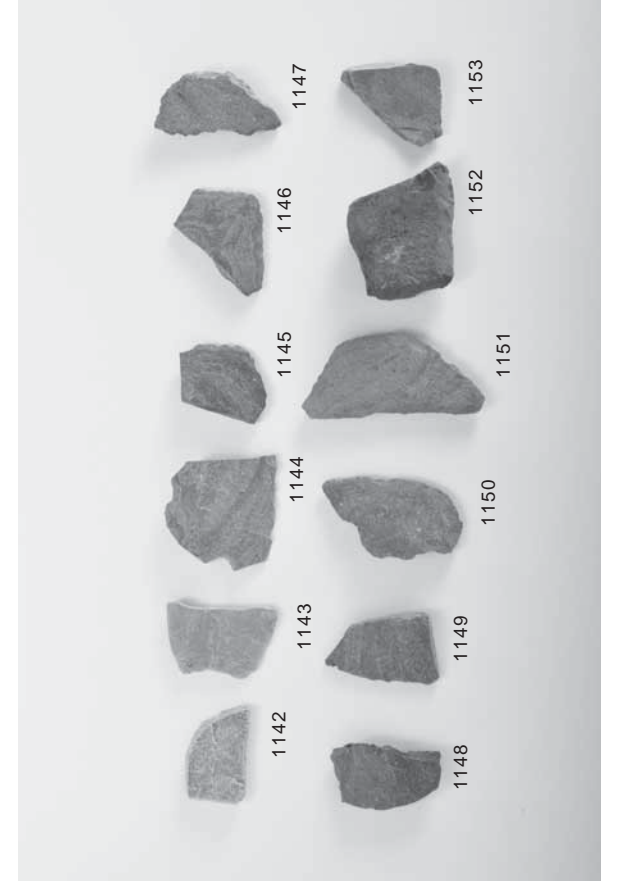
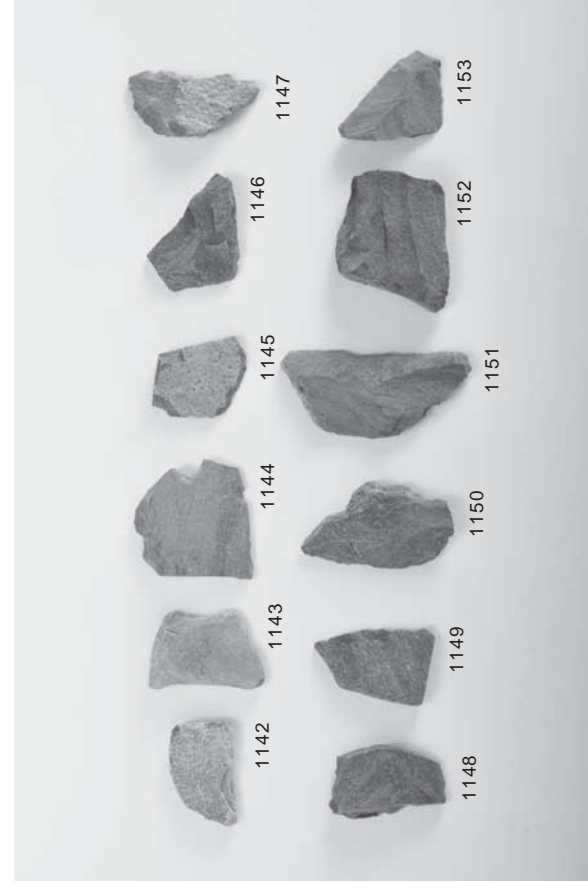
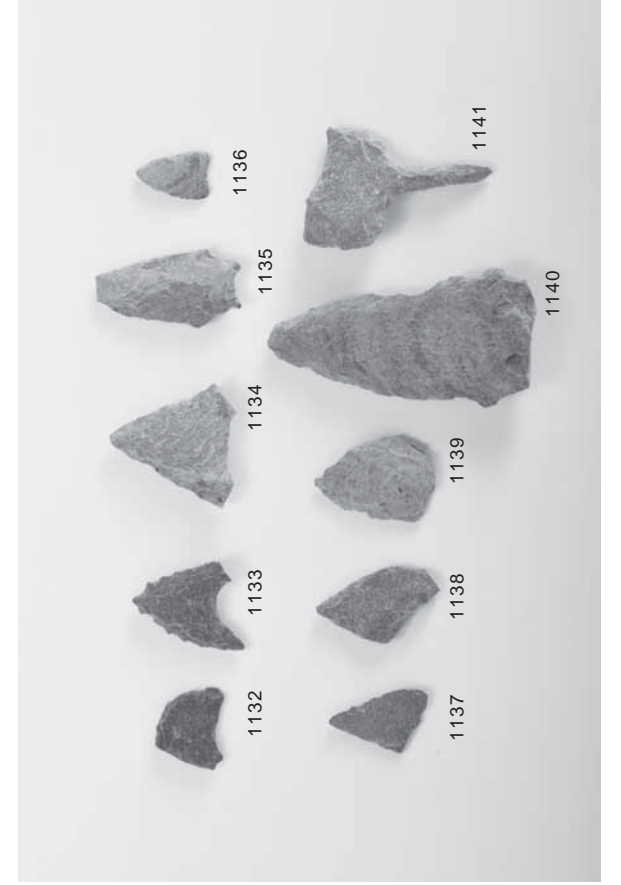
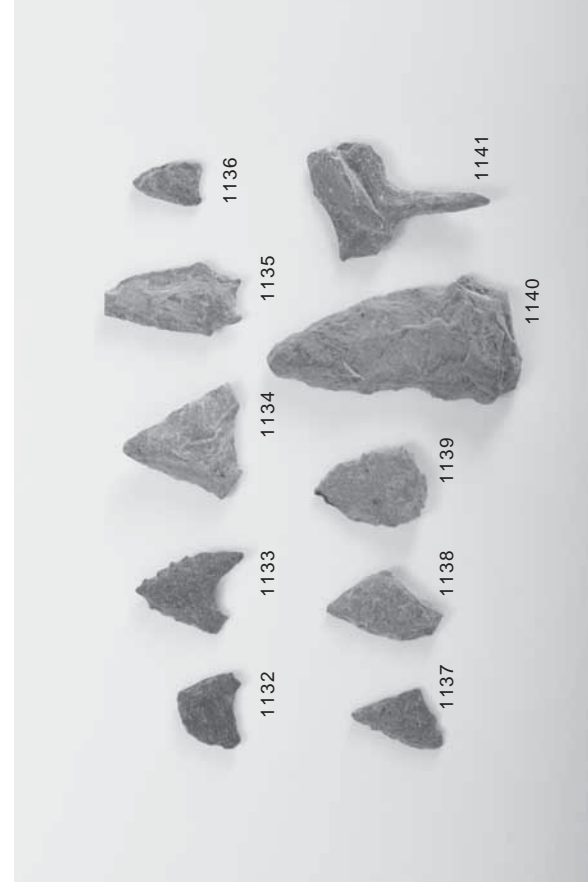
图版 93 西白方瓦谷遺跡



图版 96 西白方瓦谷遺跡



图版 95 西白方瓦谷遺跡







# 報告書抄録

ふりがな	にしらかたかわらだにいせき						
書名	西白方瓦谷遺跡						
副書名	県道丸亀詫間豊浜線（多度津西工区）緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	山下平重						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249						
発行機関	香川県教育委員会						
発行年月日	西暦 2012 年 2 月 29 日						
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
316 頁	23 頁	146 頁	50 頁	97 頁	156 枚	519 枚	1 枚

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡 番号					
にしらかたかわらだにいせき 西白方瓦谷遺跡	かがわけんなかたどぐん 香川県仲多度郡 たどつちょうにしらかた 多度津町西白方	37404		34° 15' 7.3"	133° 43' 31.4"	20070401 ~ 20080131 20091001 ~ 20091130	6,502	県道丸亀詫 間豊浜線（多 度津西工区） 緊急地方道 路整備工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
西白方瓦谷遺跡	集落跡	旧石器時代		ナイフ形石器	前期前半から晩期ま での土器が出土	
		縄文時代		縄文土器 スクレイパー 石核		
		弥生時代中期後葉	竪穴建物 掘立柱建物	弥生土器 スクレイパー 石錐 砥石		
		弥生時代後期後半 古墳時代前期初頭	竪穴建物 掘立柱建物 溝 土坑 土器溜	弥生土器 磨製石庖丁 打製石庖丁 石鏃 楔状石核 製塩土器		岡山、広島県産と考 えられる土器が出土
		古墳時代中期	古墳	須恵器 土師器 円筒埴輪		周溝の一部を検出
		7世紀代	竪穴建物 掘立柱建物 溝 土坑 土器溜	須恵器 土師器 飯蛸壺 須恵質土錘 土師質土錘 製塩土器 砥石 石錘 金銅製耳環	漁撈具が大量に出土	
		奈良時代以降	ピット 土坑	須恵器 黒色土器 吉備系土師器椀 中世土器		

要約	瀬戸内海にすぐ隣接する。弥生時代後期後半から古墳時代前期には瀬戸内海対岸地域の系統の土器が見られ、7世紀代の遺物は、漁撈具が目立つなど、海浜部集落の特徴をよく示している。また、古墳時代中期の古墳は、小規模で、県指定史跡盛土山古墳とほぼ同じ時期と考えられる。
----	--

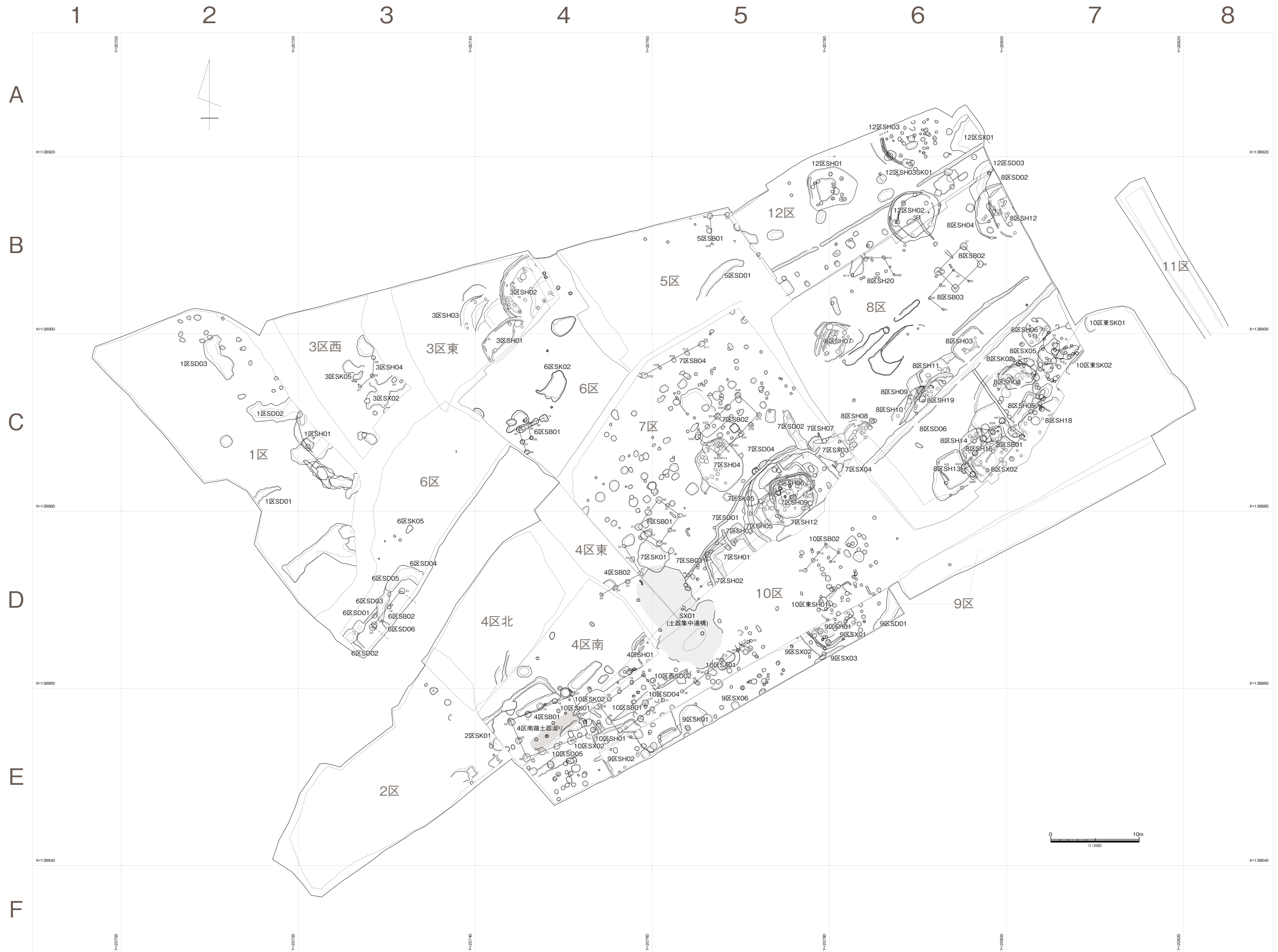
県道丸亀詫間豊浜線（多度津西工区）  
 緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 西白方瓦谷遺跡

2012 年 2 月 29 日

編集 香川県埋蔵文化財センター  
 〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4  
 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会  
 印刷 株式会社 中央印刷所



付図 西白方瓦谷遺跡 遺構配置図(1:200)